
パソコン用アンケート調査入力プログラム
開発支援システム

(課題番号：03459028)

平成8年度～平成9年度科学研究費補助金 基盤研究(B2)

研究成果報告書

平成10年(1998)年3月

研究代表者 吉 岡 亮 衛
国立教育研究所

は し が き

本研究は、平成8～9年度に文部省の科学研究費補助金 基盤研究(B)(2) による研究であり、『パソコン用アンケート調査入力プログラム開発支援システム』の研究テーマのもとで、誰でもが簡単にパソコン用のプログラムの開発ができるような環境を作りだすことを研究目的としてきた。

本研究の成果として開発したシステムは、効率的なアンケートの実施を求める研究者や教育関係者によって広く利用されることを願っている。そのために、本報告書の後半は、開発したシステムの利用手引きとしての操作マニュアルになっている。

多くの方々に利用され、ご意見等がうかがえれば、それをシステムの改良に反映させてさらに使い勝手のよいシステムにすることができればと考える。

なお、システムの利用を希望される方は、P.(9)の利用申込書のコピーに必要事項を記入の上、下記宛に郵送または、電子メールでご連絡ください。

また、本システムに関する情報については、随時下記のURLに追加していく予定にしているので参考にしていただきたい。

平成10年3月

研究代表者 吉岡 亮衛

連絡先

住所：〒153-8681 東京都目黒区下目黒6-5-22

国立教育研究所 教育情報・資料センター

電話：03-5721-5088/5163 FAX：03-3714-0986

E-mail：yoshioka@nier.go.jp

<http://www.nier.go.jp/homepage/jouhou/system/index.html>

【研究組織】

研究代表者 : 吉岡 亮衛 (国立教育研究所・教育情報・資料センター)
研究分担者 : 坂谷内 勝 (国立教育研究所・教育情報・資料センター)
研究分担者 : 清水 克彦 (国立教育研究所・教育指導研究部)
(研究協力者 : 仲村 博 (㈱テムス・第二システム部第二課・課長代理))

【研究経費】

平成8年度	4,700千円
平成9年度	2,100千円
計	6,800千円

【研究発表】

吉岡亮衛, 「パソコン用アンケート調査入力プログラム開発支援システム」,
日本科学教育学会年会論文集20, 1996.7.28-30

目 次

はしがき	
I. パソコン用アンケート調査入力プログラム開発支援システムとは何か	1
II. 研究の概要	2
1. 研究の背景	2
2. 研究目的	2
3. 研究の特色	3
III. システムの概説	4
1. システムの種類	4
2. データ入力様式	4
3. メッセージの設定	5
4. 用語集の設定	5
IV. 調査票入力プログラム	6
1. ファイル形式	6
2. データ形式	6
3. 文字種	6
4. 入力方式	6
5. データ格納形式	6
6. データ回収方法	7
V. 著作権	8
別紙 使用許可願い	9
資料 報告「パソコン用アンケート調査入力プログラム開発支援システム」	10

I. パソコン用アンケート調査入力プログラム開発支援システムとは何か

アンケート調査を実施する者の立場に立って考えると、今日のようにパソコンが普及した状況にあって、各人がパソコンを使ってアンケート調査に回答してくれれば、そしてその回答データを磁気化ベースで回収できればと思うのは必然的な考え方であろう。その理由は、主には入力作業の軽減である。紙で回答を得た場合には、それを入力用の書式に記入し直すかどうかは別として、手作業で集計するのでなければ、コンピュータへの入力作業が伴う。そしてこの作業には、時間がかかる。入力委託という形で外注すれば、時間は節約できるけれどもそのための経費が必要となる。したがって、これまではアンケート調査はしたいけれども時間もかかるし費用もばかにならないと考えていた人が多いのではないかと思う。しかしながら、パソコンを使ってアンケート調査に入力してもらい磁気化したデータを集められれば、先の問題は一気に解決することになる。また、それに伴い、データの回収後に直ちに分析作業に入ることが可能となる。これは急ぎの調査の時には尚更ありがたい。等々、調査をパソコンで実施することの利点は数々あげられる。具体的に箇条書きしてみると次のようなことが挙げられる。

- ・入力経費の削減
- ・入力時間の短縮
- ・データ回収から分析開始までの時間の短縮
- ・紙（森林資源）の使用量の削減
- ・データの再利用

CAI (Computer Assisted Instruction) と言えば、コンピュータを使って学習をさせる授業のことである。これを行うには、コンピュータ（パソコン）とその上で実行されるプログラムが必要となる。それと同様に、パソコンでアンケート調査を行うためには、問いを表示し、回答を蓄えるプログラムが必要となる。今日、インターネットの普及とともに家庭でパソコンを有する人の数は急激に増えている。また、それに伴い人々のコンピュータリテラシーの伸長も目を見張るものがある。しかしながらコンピュータ言語を使ってプログラミングができる人は、残念ながらごく僅かである。また、言語を習得しなくてもパソコン上でシステムを開発することのできる様々なツールも多く出まわっているが、それらを駆使してシステム開発を行う人々も限られた人々に過ぎない。

したがって、だれでもが容易にパソコンを使ったアンケート調査を企画・開発できるようにするためには、コンピュータ言語を習得しなくてもプログラミングが可能であり、紙の上にアンケート項目を記述していくような感覚で、これが達成できるようにすることが求められる。

本研究は、まさしくこの点を考慮に入れて、紙のイメージのアンケート調査がコンピュータ上で可能となるプログラムを生成するシステムの開発を目指した。つまり、これが「パソコン用アンケート調査入力プログラム開発支援システム」である。

II. 研究の概要

1. 研究の背景

国立教育研究所では、毎年全国の教育研究所・センター等（以下地方教育センター等と称する）を対象とした、各種教育情報（文献情報、研修講座情報、自作ソフトウェア情報等）の調査研究を行っている。この調査の他にも、不定期に行われる調査は、かなりの数にのぼる。こういった調査研究は、これまでは配付用の調査用紙が作成され、添付の回答用紙に記入回答する形式が主流である。したがって、調査の準備時にもさることながら、回答の回収時にも相当量の紙を処理しなければならない状況であった。

他方、調査を受ける側では、昨今ではパソコン及びワープロが普及し、手書きよりもワープロ文字で回答用紙を仕上げるケースが多々みられるようになってきた。その場合には、回答用紙に重ねて文字を打つことや、回答用紙そのものをワープロで作成するなどかなりの労作となっている。ただし、文字を入力することに関しては、校正が容易に行えることもあり、ワープロで行う方が便利であること、見た目がきれいであることなど、労力に見合う満足が得られているのであろうと想像する。

しかしながら、これまでのところ調査の回答は、分析処理のためにコンピュータへの入力作業が行われ、一度苦勞してワープロ打ちされたものも、再度入力作業が行われるという二重の手間が生じているのである。したがってもし、調査への回答がパソコンに向かってでき、かつ、データをフロッピーまたはオンラインで回収できれば、調査者と被調査者の両方においてかなりの負担が軽減されることになる。これまで、国立教育研究所では磁気化データによる調査の可能性を研究し（文献1）、実用化の見通しを得ることができた。

2. 研究目的

本研究の目的は、各種調査について、パソコン上で回答入力が可能となる入力画面及びデータ回収プログラムを、それぞれの調査に応じて作成することを支援するシステムを開発することである。それにより、被調査者の回答入力作業を容易にすること、回答を磁気化データにより回収することで調査研究全体のローコスト化を実現することができる。

また、被調査者の誤回答の防止、回答データの統一性の確保が保証され、データの信頼性の向上がはかれることになる。

そのために、①パソコン上で扱うデータおよびデータファイルの形式を定めること、②調査方式の標準化、それに合わせた③データ入力方式の決定を踏まえ、実用的なシステムを開発することが研究の具体的目標となる。

3. 研究の特色

近年の情報関連機器の普及と、個々人の情報リテラシーの伸長に合わせて、必然的に実施が予想されるペーパーレス調査の実施を支援するシステムを外に先駆けて開発することがもっとも大きな特色である。個々の調査毎に画面等を設計するプログラム開発支援ツールはいくつか存在し、それを利用してプログラムを開発することを行う民間請負会社も存在する。しかし、本研究で開発を目指すシステムは、これまでにいくつも開発されてきた個々の調査に対する回答を入力するためのプログラムではなく、それぞれの調査に合わせた調査用実行プログラムを容易に作成可能とするシステムである。CAI (Computer Assisted Instruction) のプログラムに置き換えていうならば、コースデータにあたる調査用紙の質問項目等をコースウェアにあたる調査プログラムに解釈実行するエグゼキュータの役割を果たすものである。したがって、調査の質問項目を指定の記述方式で記述することにより、調査プログラムを生成することが可能となるのである。それゆえ、当初の対象である教育情報調査のみではなく、社会学や心理学を含む様々な分野で広く利用できると予想される。

また、作成された入力用プログラムのインターフェンスは、被調査者にとって入力間違いが皆無となるよう選択肢入力、入力条件による問題のジャンプ、既知データの自動入力等の配慮をしている点も特色である。

Ⅲ. システムの概説

本研究により開発したシステムの特徴については次の通りである。（より詳しくはマニュアル参照）

1. システムの種類

開発したシステムは、富士通のFMRシリーズ上で動作し、MS-DOSパソコン上で利用する調査票入力プログラムを作成するシステムと、DOS/VパソコンのWindows 95上で動作し、MS-DOSパソコンとWindows 95パソコンのそれぞれに対応した調査票入力プログラムを作成するシステムの2種類がある。したがって、後半部分のマニュアルには、それぞれのシステムについて別々の章を設けてあるので、必要な箇所を参照していただきたい。（詳しくはマニュアル参照）

2. データ入力様式

これまでに行われているアンケート調査用紙を見ると、文章で入力させる項目、選択肢を選ばせる項目、数値を入力させる項目の他、例えば項目2に賛成ならば、項目3に回答し、反対ならば4に飛ぶというような回答の仕方を求められることもある。それらの方式を整理し、本システムでは次のデータ入力様式を設定できるようにした。

また、コンピュータの利点を活かして、質問項目に合わせた入力様式を設定した場合に、それ以外の様式での入力を拒否する。

1) 単一選択入力

複数個の選択肢からただ一つの回答を選択して入力する場合

2) 複数選択入力

複数個の選択肢の中からただ複数個の回答を選択して入力する場合

3) 文字列入力

30～40字程度までの文字列を入力させる場合で、文字数の制限等を行う場合

4) 文章入力

かなり長い文章の入力を求める場合

5) 数値入力

数字のみを入力させる場合で、数字以外の文字は入力できない

6) 環境変数参照入力

事前に環境ファイルに設定した値を参照して代入させる場合

7) レコード番号参照

複数レコードの回答を求める調査（マルチレコードタイプと呼んでいる）において、レコード番号を自動で入力させる場合

8) 入力なし

項目に入力を受付ない場合

また、項目に条件設定ができるようになっており、その条件に合わせて次の質問項目へ自動的に飛ぶようになっている。

3. メッセージの設定

アンケート調査の項目には、単に質問があるだけでなく、その質問についての説明及び回答方法の指示がなされている場合がある。本システムでは、次のような場合にメッセージを表示できる機能を持っている。

1) ガイダンスメッセージ

個々の質問項目についての説明と回答方法に関するメッセージをそれぞれの質問項目について設定できる。

2) オンラインヘルプ

例えば、調査の趣旨についてなど全体的な説明と、キーの操作説明などを設定しておき、随時呼び出すことが可能となる。

4. 用語集の設定

例えば、キーワードなど、回答として統制のとれたことばの中から選んで入力してもらった場合に、数十、数百のことばを一度に表示することは不可能であり、また、たとえ表示できたとしてもその中から選ぶことは大変である。そのため、本システムでは、用語集ファイルを別途用意しておき、質問項目の設定によって用語集の検索画面を開いて選択が可能ないようにした。

IV. 調査票入力プログラム

調査票入力プログラム作成支援システムにより、調査票入力プログラムが作成される。次に、調査票入力プログラムの特徴とファイル及びデータ形式について述べる。

1. ファイル形式

データファイルはいわゆるMS-DOSのテキスト形式である。したがって、データの管理が簡単で、処理ソフトウェアの開発も容易である。

2. データ形式

データは、タグファイル形式により格納される。タグファイル形式とは、各質問項目の先頭に#XX#(XXは2桁の順番を示す数字)が位置し、それに続けて質問項目への回答が続き、行末に改行コードを置く形式である。したがって各行の先頭には必ずタグが来ることになる。レコードが複数ある場合には、最初のタグから最後のタグまでが繰り返されることになり、レコードをカウントする通番のタグが置かれる。なお、文字コードは、英数字であっても2バイトの漢字コードを使用し、半角文字は使用しない。

したがって、各種表計算ソフトやデータベースソフトへの入力形式にするためのプログラムを書く際に、データの形式に左右されずに加工できる。また、CSV形式のファイルに変換するツールを持っている。

3. 文字種

文字コードは、2バイトの漢字コードを使用する。文字種は必要に応じて、平仮名、片仮名及び漢字、英字、数字の入力が可能である。数字に関しては、質問項目に合わせて数字のみを入力させたい場合には、他の文字との判別をさせることが可能となっている。

4. 入力方式

必要に応じて、環境ファイルに設定されている文字列を自動入力したり、選択肢ファイルや用語ファイルから文字列を取得入力したり、自由に文章を入力したりすることが可能である。それぞれの質問項目に合わせて、入力方式を決め、それに応じた入力をさせることができる。

5. データ格納形式

先のデータ形式でデータファイルにデータは格納される。また、複数レコードが入力される調査についてはインデックスファイルが同時に作成される。ただしこのファイルはデータファイルとは別に作成される。

6. データ回収方法

データ回収ツールにより、フロッピーに自動的にデータファイルが複写されるようになっており、回答者は操作手順にしたがって行えばよいようになっている。

V. 著作権

「調査票入力プログラム作成支援システム」（以下、本システムと呼ぶ。）の著作権は、国立教育研究所の吉岡亮衛が有するものとし、以下の利用許諾条件に同意したものは、別紙の使用許可願いによって利用申込みを行った上で利用するものとする。

利用許諾条件

1. 使用許可願いを提出し許可された場合にのみ、本システムを使用し調査票入力プログラムを作成することができる。
2. 本システムを使用して作成された調査票入力プログラムは、第三者に自由に配布することができる。
3. 本システムを使用し、調査票入力プログラムを作成した場合には、次の事項について報告する義務を有する。
 - (1)調査の種類・目的
 - (2)調査票入力プログラム配布数
 - (3)調査票入力プログラム作成についての感想及び意見
4. 使用者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - (1)使用許可願いに記入した目的以外の目的に使用しないこと
 - (2)営利を目的とした利用はしないこと
 - (3)第三者に複製等を提供しないこと
 - (4)第三者に不利益等を与える等、その他法律等に反するような利用はしないこと
 - (5)本システムを改ざんしないこと

(別紙)

調査票入力プログラム作成支援システム 使用許可願い

使 用 者	氏名	
	所属	
	所在地	
	電話番号	
	ファクス番号	
	E-mailアドレス	
使用目的		
環 境	パソコン機種名	
	OS名	
国立教育研究所 吉岡 亮衛 殿		
平成 年 月 日		
氏名 _____ 印		

パソコン用アンケート調査入力プログラム 開発支援システム

The Development Support System of Questionnaire Entry Program for Personal Computer

吉岡 亮衛

Ryoei Yoshioka

国立教育研究所

National Institute for Educational Research

【要約】 各種のアンケート調査において、調査回答がパソコン入力可能で、また、磁気化データでの回収が可能であれば、調査者、被調査者双方に利する点が多く、省資源化への協力ともなる。今回は、被調査者の便宜とデータの高度化のために、アンケート調査入力を行うプログラムを開発することを支援するために開発中のシステムについて報告する。

【キーワード】 パソコン、アンケート調査、入力プログラム、開発支援システム、ペーパーレス、磁気化データ、プログラム、プログラム開発

1. はじめに

国立教育研究所教育情報・資料センターでは、毎年全国の教育研究所・センター等を対象とした各種教育情報（文献情報、研修講座情報、自作ソフトウェア情報等）についての調査研究を行っている。これらの調査研究は、従来は調査用紙を作成し、添付の回答用紙に記入回答する方式をとっていた。

近年のパソコン及びワープロとコンピュータリテラシーの伸長に伴い、回答用紙がワープロ等で仕上げられるケースが多々みられる。その場合には、回答用紙に重ねて文字を打つ、あるいは、回答用紙そのものをワープロで作成するなど労作となっている。ただし、文字を入力することに関しては、字句の修正が容易に行える便利さがある。他方、回収された調査回答は、データ処理のためにコンピュータへの入力作業が行われる。そこに一度苦労してワープロ打ちされたものを再度入力するという二度手間が生じることになる。

そこで調査への回答がパソコンに向かってでき、かつ、データをフロッピーまたはオンラインで回収できれば、調査者と被調査者の双方において負担の軽減が期待される。また、それにより調査のペーパーレス化、ローコスト化を実現できることにもなる。

これまで、国立教育研究所では磁気化データによる調査の可能性を研究し¹⁾、1993年度以降磁気

媒体による調査回答の回収を行ってきているところである。平成7年度の調査では、回答381機関の内178機関(46.7%)が、フロッピー等磁気化データにより回答しており、その割合は年々上昇している。

その一方で、データの入力に伴ういくつかの問題点も明らかとなってきた。そこで、パソコンの利点を活かし、かつ、問題点の解決を図るため、調査回答を入力するためのプログラムを配付し、それを利用して入力したデータを回収する方式を考えた。現在、そのような入力プログラムの開発を支援するための汎用的なシステムを開発中であるのでここに報告する。

2. 従来の調査方法の問題点

これまでは、調査用紙と入力例入りのフロッピーを配付し、回答用紙またはフロッピーでの回答を受け付けきた。また、何機関かはパソコン通信でのファイル転送による回答があった。

磁気化データに関しては、入力の書式とファイル形式のみを定め、項目タグ情報も含めたすべての回答情報をワープロまたはエディタで入力する方式をとった。また、入力上の留意点を示し、それを遵守して入力するように求めた。

この方式の回答データには、次に挙げる問題点があった。

①MS-DOSテキスト形式ファイルではない。

②指定されたファイル名（ファイル識別子）ではない。

③項目タグ番号と内容のずれ

④半角文字と全角文字の混在

⑤文字の入力間違い（例えば、— — —）

⑥項目区切りの改行マークの欠落

⑦不要な文章や改行マークの入力

等々、以降のコンピュータ処理上トラブルの原因となる点があり、データの確認やコンピュータによるチェックが必要不可欠であった。

3. アンケート調査入力プログラムの概要

このプログラムを利用しデータ入力する一連の流れは、次のようになる。

①プログラムのインストール

インストールプログラムを実行しガイダンスに従って端末の条件等を設定して、プログラムをハードディスクにインストールする。

②プログラムの起動、メニューの選択

起動コマンドを入力することによりプログラムを起動する。次に、メニューから行う作業を選択する。

③入力処理選択

調査の種類をメニューから選択する。新規入力の場合は、入力画面に移行する。その他の場合、入力済のレコードが一覧されるので、レコードの追加、修正、削除の処理を選択する。

④データ入力

入力画面には前レコードのデータが継承されるので、修正箇所のみ入力することで、新規レコードの入力が行える。

⑤入力の終了

⑥データの回収

回収ツールを実行することにより、データをハードディスクからフロッピーに回収する。

このプログラムは、調査に回答するための入力画面の他に、補助ツールとして、レコードの一覧表示、レコードのソート、印刷、フロッピーへのデータの複写、フロッピーへのデータの回収機能を備えている。

基本的な入力方法は、選択肢選択モード、用語選択モードとテキスト入力モードである。選択肢は、用意された選択肢ファイルから該当する選択肢にマークをつけることで入力フィールドに入力される。用語選択モードでは、用語選択ファイル

が開かれ、該当する用語にカーソルを置いて実行キーを押すことで入力フィールドに入力される。また、テキスト入力の項目では、カーソルを入力項目に置くことで入力可能な状態となる。

このプログラムを利用することにより、被調査者は、調査用紙を参照することなく入力ガイダンスに従うことで入力が行える。ファイル名、項目タグ番号も意識する必要はなく、それらの入力間違いが皆無となる。また、選択肢入力、入力条件による項目のジャンプ、既知データの自動入力等により、誤入力は極力回避できるようになる。

4. 入力プログラム開発支援システム

本システムは、先に説明したアンケート調査入力プログラムの開発を支援するシステムである。つまり、様々な調査について回答をパソコン上で入力可能とするための入力プログラム（上述）を生成するためのシステムである。したがって、アンケート調査の質問及び回答方法、回答のためのガイダンス、入力画面上での質問及び回答欄の配置を指定の記述方式で記述することにより、入力プログラムを作成することができる。特別なプログラム言語は必要とせず、簡単な記述ルールを参照しながら、エディタで編集して、そのファイルをシステムに通すことで、目的とする入力プログラムが生成される。その際、選択肢選択の項目がある場合には、選択肢のファイルを用意しておく必要があるが、これもエディタで文字列を入力しておくだけである。

本システムの開発の当初の目的は、教育情報調査の高度化のためであるが、項目の入替え、選択肢の追加交換等、起こりうる要求に応えられる汎用的な入力プログラム開発支援システムとした。それゆえ、様々な分野の様々な調査についてパソコン上で入力を行うためのプログラムが作れることになり、また、データ入力のためのツールとしての入力プログラムを作ることも可能である。

本研究は、科学研究費補助金No.08459028の補助を得て研究を進めている。

【参考文献】

井上常茂 他「磁気媒体・パソコン通信による全国的規模の教育情報収集の試み」情処研報 Vol. 93, No. 18, pp. 39-44(1993)

調査票入力プログラム作成支援システム
操作マニュアル

1998年3月

目次

第1章 システム概要	1
1. 1 調査票入力プログラム作成支援システムとは	2
1. 2 調査票入力画面の設計からデータ回収までの基本的な流れ	5
第2章 調査票入力プログラム作成支援システムの操作	7
<u>(MS-DOS版)</u>	
2. 1 システム構成	8
2. 2 調査票入力画面作成の考え方	10
2. 3 調査票入力画面作成言語一覧	41
2. 4 調査票入力プログラム作成支援システムの操作方法	45
第3章 調査票入力プログラム作成支援システムの操作	59
<u>(Windows版)</u>	
3. 1 システム構成	60
3. 2 起動方法と終了方法	65
3. 3 プロジェクト管理	67
3. 4 機関情報設定	68
3. 5 調査票入力画面の作成	72
3. 6 配付プログラムフロッピー作成	73
第4章 調査票入力画面エディタ	77
4. 1 プロジェクトの考え方	78
4. 2 起動方法と終了方法	79
4. 3 リソースの作成	81
4. 4 部品の編集	114
4. 5 リソースの削除	115
4. 6 シミュレーション	116
4. 7 プロジェクトの保存	117
4. 8 プロジェクトの読み込み	121
4. 9 プロジェクトの印刷	123
4. 10 実行用コントロールファイルの作成	124

第5章 調査票入力 (MS-DOS版)	125
5.1 動作環境	126
5.2 インストール	127
5.3 起動方法と終了方法	132
5.4 調査票への入力方法	133
5.5 補助ツール	143
5.6 データ回収	154
第6章 調査票入力 (Windows版)	157
6.1 動作環境	158
6.2 インストール	159
6.3 起動方法と終了方法	161
6.4 調査票の入力方法	163
6.5 補助ツール	168
6.6 データ回収	174
索引	175

マニュアルの表記規則

このマニュアルは、次の表記規則に従って記述されています。

ファイル名、コマンドの表記

表記	説明
B I G	大文字で表記されているのは固定文字列です。そのまま使用してください。
<i>small</i>	小文字文字のイタリック体で表記されているのは任意文字列です。それぞれの説明にしたがって使用してください。
[]	[]で囲まれているものは省略可を意味します。
...	記述を繰り返すことを意味します。

その他の表記

表記	説明
⇒	他の章で説明をします。

第1章 システム概要

目次

- 1. 1 調査票入力プログラム作成支援システムとは 2
- 1. 2 調査票入力画面の設計からデータ回収までの基本的な流れ 5

1. 1 調査票入力プログラム作成支援システムとは

アンケート調査を行う場合、先ず作成したアンケート用紙を配布し、回答してもらったアンケート用紙を回収します。次にアンケートの回答内容をパンチ作業によりコンピュータにデータ入力し、その後データを集計するのが一般的な作業の流れです。調査票入力プログラム作成支援システムは、今までの紙のアンケート用紙をやめてコンピュータに直接アンケートへの回答を入力してもらうためのプログラムの作成を支援するシステムです。作成された調査票入力プログラムを使用することにより、環境に優しい調査となる他、データ入力の手間を省くことができ、その後のデータ処理までの時間を短縮することが可能になります。

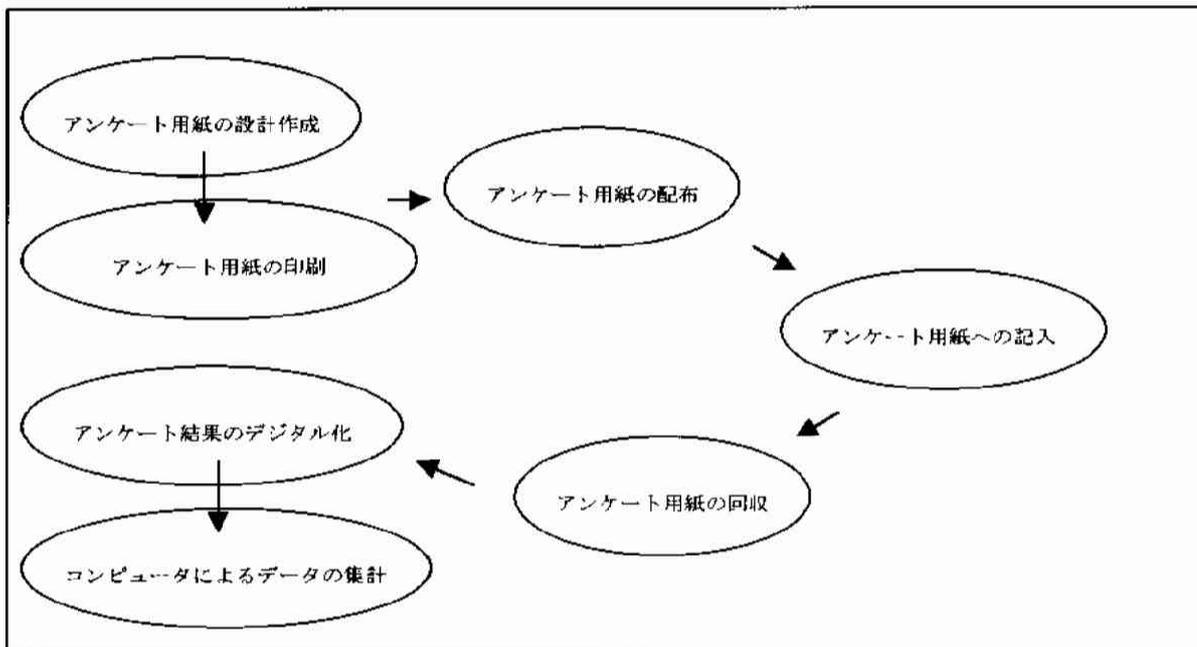


図1-1 アンケート用紙による調査の流れ

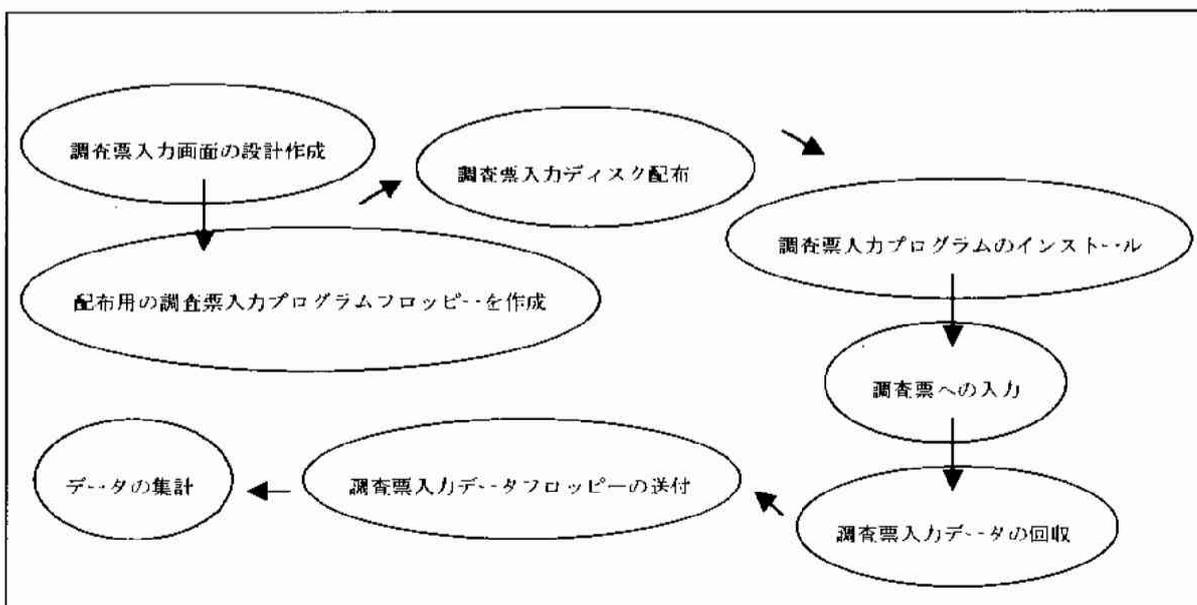


図1-2 調査票入力プログラムによる調査の流れ

図1-1と図1-2を比べるとわかるとおり、基本的な流れは両方とも同じです。

調査票入力プログラムを使用する場合に、調査される側でインストール作業が発生するため、調査される側の負担は多くなりますが、それは今後の課題として無くしていく必要があります。しかしそれ以上に調査のペーパーレス化とデータのデジタル化により、調査する側にも、される側にも多くのメリットがあります。調査側にとっては、データ入力が不要になる点が最も大きなメリットであり、これにより調査費用の軽減と結果を出すまでの時間の短縮が可能となります。調査される側にとっても、手書きの必要がなく、訂正が容易であること、また、繰り返し実施される調査の場合には前回のデータを再利用できるようになります。

特徴

1. MS-DOSとWindows 95の2つのOSに対応している

本システムには、MS-DOS版とWindows版があります。OSがMS-DOSとWindows 95の2つの環境でシステムを利用することができます。

2. アンケート用紙のイメージで調査票入力画面が作成できる

どちらもアンケート用紙のイメージ通りに入力画面を作成できます。文章入力/数値入力はもちろん単一選択や複数選択の定義、回答結果による次質問への自動遷移の定義などの調査項目の性質に応じた入力画面が作成できます。MS-DOS版では、画面イメージに対応するコマンドをテキストファイルに記述していきます。一方、Windows版では実際の画面イメージをパソコン上に描くようにして作成していきます。MS-DOS版で調査票入力画面を作成した場合、その調査票入力プログラムはMS-DOS上でのみ動作します。他方、Windows版で調査票入力画面を作成した場合はMS-DOS上で動作するものとWindows上で動作するものの2種類の調査票入力プログラムを作成できます。

3. ガイダンスメッセージが設定できる

調査票の個々の質問内容を誤解無く理解してもらうために、調査票入力画面上の各質問に対してガイダンスメッセージを設定することができます。

4. 用語集が作成できる

調査項目によっては、予め用意された用語の中から回答してもらいたい場合があります。そのようなときには用語集を作成し、質問と用語集をリンクすることによって用語集からの語句の選択入力が可能になります。

5. オンラインヘルプが作成できる

オンラインヘルプが作成できます。これは操作説明や調査票の目的などを説明するときにご利用できます。

6. 複数の調査票をメニューから選択できる

複数の調査を一度に行うことを考慮して、一度に複数の調査票入力画面を提供できるようになっています。調査票入力プログラムではそれぞれの調査票入力画面をメニュー画面から選択できるようになっています。メニュー画面は、調査票入力画面を作成する際に同時に作成します。

第2章 調査票入力プログラム作成支援システムの操作

(MS-DOS版)

目次

2. 1 システム構成	8
2. 2 調査票入力画面作成の考え方	10
2. 3 調査票入力画面作成言語一覧	41
2. 4 調査票入力プログラム作成支援システムの操作方法	45

2.1 システム構成

調査票入力プログラム作成支援システムは、富士通のパーソナルコンピュータ FM Rシリーズで動作します。MS-DOSはバージョン5.0以上を使用してください。ハードディスク容量は約2MB、拡張メモリは約2MB（拡張メモリはRAMドライブとして使用）を必要とします。

起動前の準備

(1) 環境変数の設定

調査票入力プログラム作成支援システムを起動する前に、先ずAUTOEXEC.BATに以下の環境変数を設定します。

```
SET RAMPATH=RAMドライブのパス
```

例) SET RAMPATH=G:Y

(2) 調査票入力プログラム作成支援システムの実行環境の設定

次に調査票入力プログラム作成支援システムを実行するために、以下の環境を設定します。

調査票入力プログラム作成支援システム (NIERCER.EXE) を任意のディレクトリにコピーします。同じ場所に<KTCSYS>という名前のディレクトリを作成します。そこに調査票入力プログラム入りの配付用フロッピーを作成する際に必要なプログラムやドキュメントを格納します。

```
例) C:\NIERCER .EXE . . . . . 調査票入力プログラム作成支援システム
      C:\KTCSYS
          INSTALL .EXE . . . . . 調査票入力プログラムのインストール用プログラム
          READIST .DOC . . . . . インストール用プログラムのヘルプファイル
          CEM .EXE . . . . . 調査票入力用システムメニュー
          CEA .EXE . . . . . 調査票入力プログラム
          CEA .HLP . . . . . 調査票入力プログラムのヘルプファイル
          CECLCT .EXE . . . . . 調査票入力データの回収ツール
          CETOOL .EXE . . . . . 調査票入力プログラムの補助ツール
          CNVT .EXE . . . . . 調査票入力データのCSVファイルコンバータ
          LHA .EXE . . . . . 圧縮ツール (フリーソフト)
          LHA .DOC . . . . . 圧縮ツールのヘルプファイル (フリーソフト)
```

※圧縮ツールは吉崎榮泰氏作のLHA Ver2.13を使用しています。

(3) 配布先を管理する機関情報ファイルの作成

調査票入力プログラムの配布先を管理するために機関情報ファイルを作成します。機関情報ファイルは、テキスト形式のファイルです。テキストエディタを使用して作成します。ファイル名は **xxxxxxx.INF**(xxxxxxx は任意の名前)とします。ファイルは、任意のディレクトリに配置します。

◆◆◆◆◆ 機関情報ファイルのレイアウト ◆◆◆◆◆

管理番号,配布先名称<改行>	※1つの配布先を1行で記述します。 管理番号は半角数字で4桁固定です。 配布先名称は全角で最大25文字までです。
---	--

例) KIKAN.INF

- 0101, 北海道立教育研究所
- 0102, 札幌市教育研究所
- 0103, 札幌市教育研究協議会
- 0104, 石狩教育研修センター

(4) マスタコントロールファイル, 選択条件ファイル, 用語辞書ファイル, ヘルプファイルの作成

マスタコントロールファイルとは、調査票入力画面をアンケート用紙のイメージに対応させたコマンドにより記述したファイルです。マスタコントロールファイル, 選択条件ファイル, 用語辞書ファイル, ヘルプファイルはテキスト形式のファイルですのでテキストエディタを使用して作成します。

⇒ マスタコントロールファイル, 選択条件ファイル, 用語辞書ファイル, ヘルプファイルの記述については、次の項目「調査票入力画面作成の考え方」で詳しく説明します。

2. 2 調査票入力画面作成の考え方

調査票入力画面は、大きく分けるとメニュー画面と、個々の調査票入力画面で構成されます。ここではメニュー画面および調査票入力画面の作成について、マスタコントロールファイルの記述形式と併せて説明します。このマスタコントロールファイルにアンケート用紙のイメージに対応したコマンドを記述していくことにより、パソコンの画面上での調査票入力が可能になります。マスタコントロールファイルのファイル名は **XXXXXXXX.MCL** (XXXXXXXX は任意の名前) とします。ファイルは、任意の場所に作成できます。

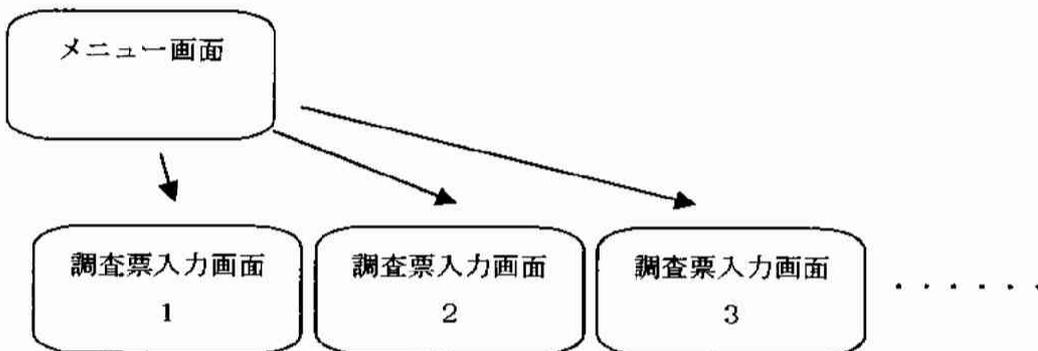


図2-1 調査票入力画面の展開

1) メニュー画面の作成

メニュー画面は1～99画面まで作成することができますが、最低1画面は必ず作成しなければいけません。1番目のメニュー画面をメインメニュー画面と呼び、それ以外のメニュー画面をサブメニュー画面と呼びます。

メニュー画面は、メニュー画面の開始コマンド **\$M, n, S** からメニュー画面の終了コマンド **\$M, n, E** (n はメニュー番号) で記述された範囲で表現されます。この範囲のことをメニュースコープと呼びます。

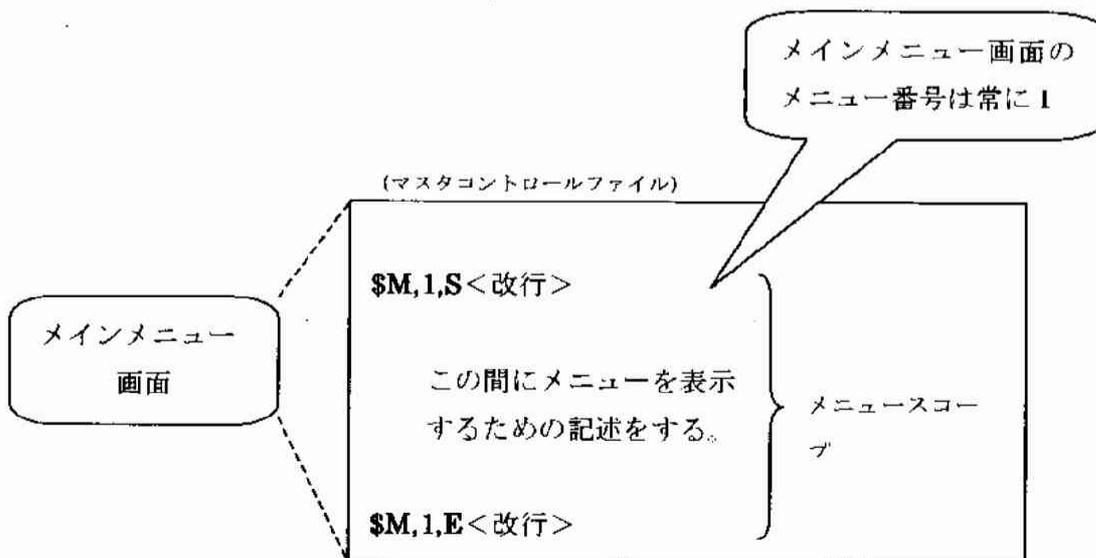


図2-2 メインメニュー画面の表

メインメニュー画面とサブメニュー画面との連結

メニュー画面どうしを連結させるためには、メニュー画面上に次に表示させる項目を定義し、その項目が選択されたら別のメニュー画面を表示するようにします。項目を定義するコマンドは**\$ I**を使用します。項目定義コマンドは、**項目識別子**と項目を表示する画面上の**位置**、**ショートカットキー文字**と表示する**項目文字列**で構成されます。項目識別子は、スコープ内で唯一の定義であることを示すための文字列です。したがって同じ項目識別子はスコープ内では使用できません。ショートカットキー文字は、メニュー画面上に表示されている項目を指定のキーで操作するものです。もしショートカットキー文字に **N** が定義されたならば、**N**を押すことによって指定された項目に対して定義してあるアクションが発生します。メニュー項目は、**TAB**キーを押すことによって次々に選択されますが、ショートカットキー文字を設定することにより、**TAB**キーで選択しなくても指定されたのショートカットキー文字をキーボードから入力することで直接アクションを起こすことが可能となります。

項目定義コマンド

```
$I, str, xx, yy <改行>
n.name <改行>
```

str : 項目識別子 (8文字以内)
xx : 表示列位置 (1~80)
yy : 表示行位置 (1~23)
n : ショートカットキー文字
name: 項目文字列

次に、定義した項目に対してメニュー**遷移アクションコマンド**を定義します。項目定義コマンドの直後に**@M**で記述します。アクション系のコマンドはその項目が選択されることにより実行します。

メニュー遷移アクションコマンド

```
@M, n <改行>
```

n: メニュー番号

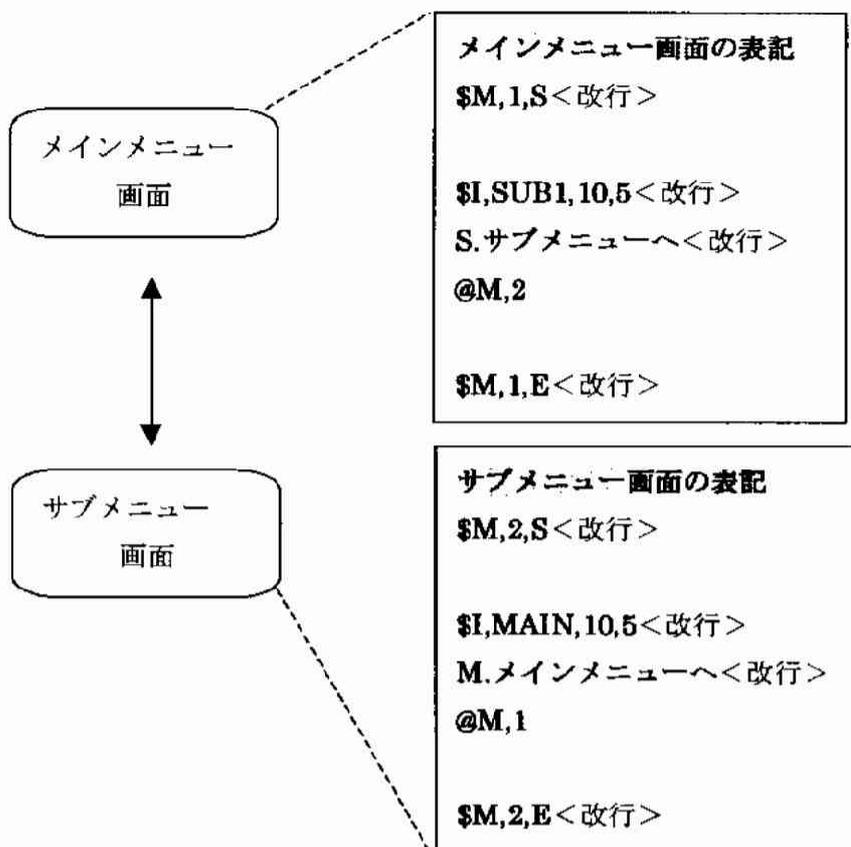


図2-3 メニュー画面のマスターコントロールファイル

2) 調査票入力画面の作成

調査票入力画面は1～99画面まで作成することができます。ただし最低1画面は必ず作成しなければいけません。調査票入力画面は、調査票入力画面の開始コマンド **\$A, n, S** から調査票入力画面の終了コマンド **\$A, n, E** (nは調査票番号) で記述された範囲で表現されます。この範囲のことを処理スコープと呼びます。

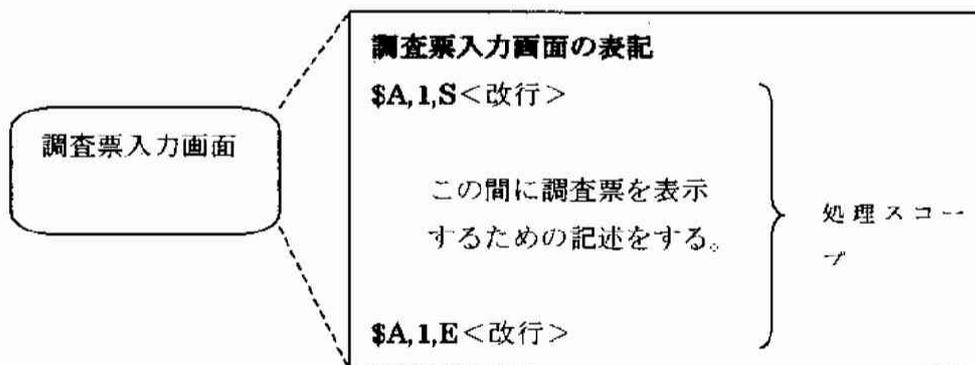


図2-4 調査票入力画面のマスターコントロールファイル

調査票入力画面のページ

調査票入力画面は、ページという単位に分割されます。1つの調査票に対して1～9ページまで作成できます。処理スコープ内ではページ設定を行なう必要があります。ページは、ページの開始コマンド $\$P, n, S$ からページの終了コマンド $\$P, n, E$ (n はページ番号) で記述された範囲で表現されます。この範囲のことをページスコープと呼びます。

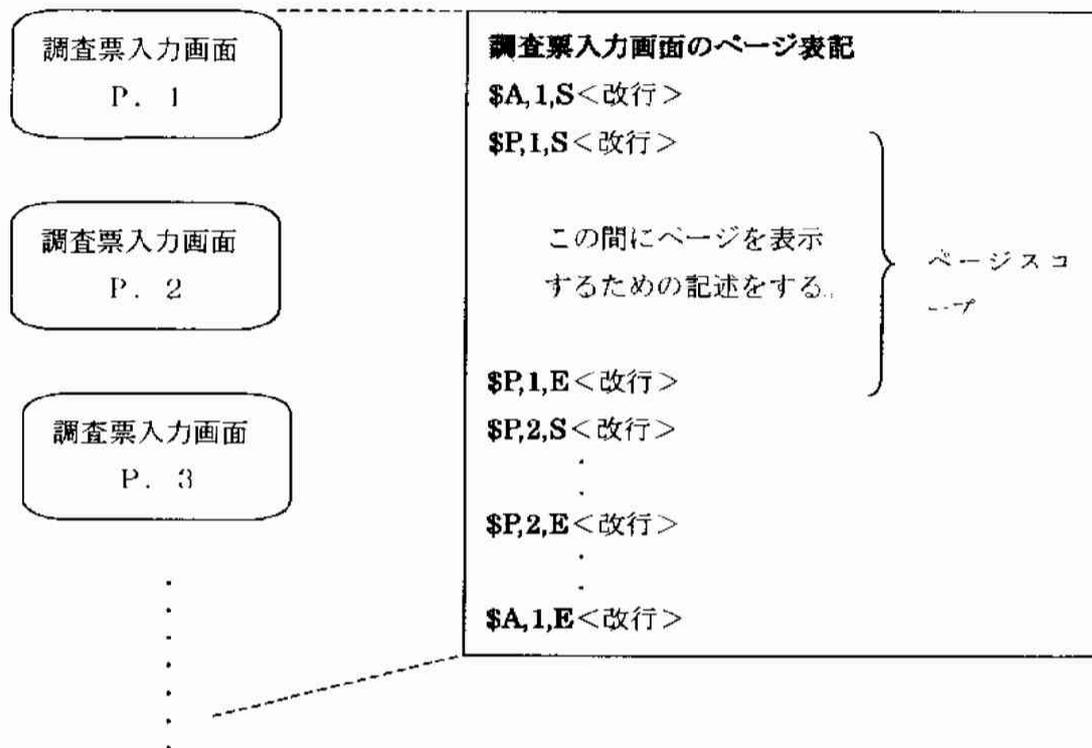


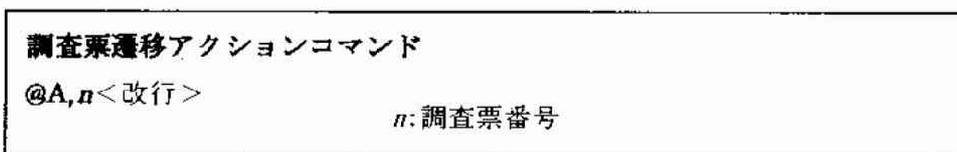
図2-5 調査票入力画面のマスターコントロールファイル

調査票入力画面のページ間連結

ページ間の連結は自動で行われます。ページ番号の順に連結されます。

メニュー画面と調査票入力画面の連結

メニュー画面と調査票入力画面を連結させるためにはメニュー画面どうしの連結同様にメニュー画面上に項目を定義し、その項目が選択されたら調査票入力画面を表示するようにします。そのためには、定義した項目に対して調査票遷移アクションコマンドを定義します。具体的には項目定義コマンドの直後に $@A$ で記述します。



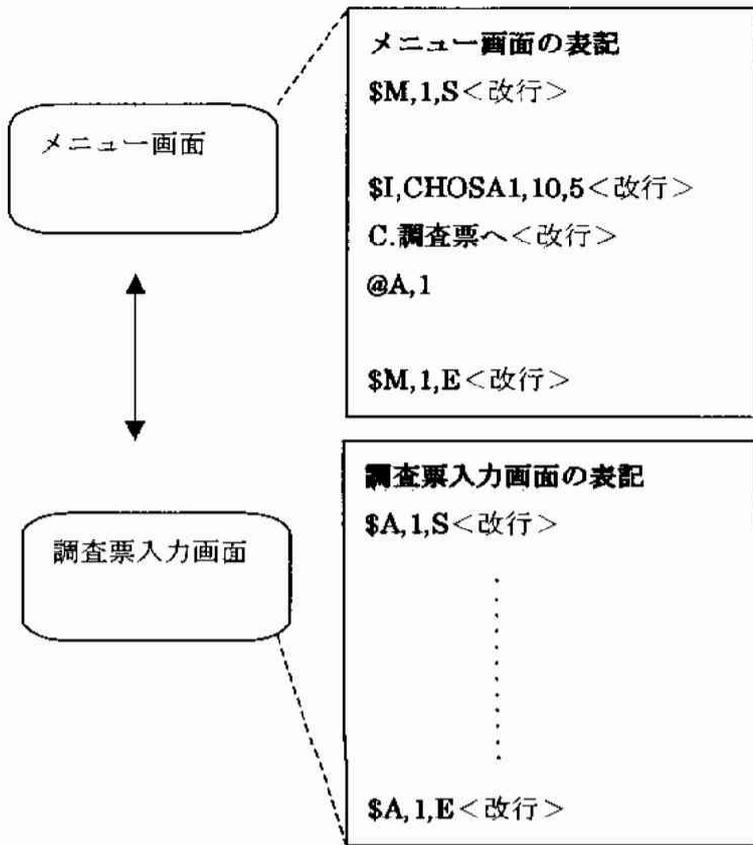


図2-6 メニュー画面と調査票入力画面の連結のマスターコントロールファイル

調査票の入力が終了すると、呼び出されたメニュー画面に戻ります。

3) 画面上への文字の表示

画面に文字を表示させる方法は2つあります。

1つの方法として、画面に文字を表示するには文字列表示コマンド **\$T** を使用します。文字列表示コマンドは、画面上の表示位置と表示する文字列で構成されます。このコマンドはメニュースコープ内あるいはページスコープ内で有効です。

文字列表示コマンド	
\$T,xx,yy<改行>	xx :表示列位置 (1~80)
message<改行>	yy :表示行位置 (1~24)
	message:表示文字列

もう1つの画面に文字を表示する方法として、**ガイダンス**の表示があります。ガイダンスは1度に複数行表示することが可能です。ガイダンスを画面に表示させるには、**ガイダンス表示コマンド** **\$G**を使用します。このコマンドはメニュースコープ内あるいはページスコープ内で有効です。

ガイダンス表示コマンド

\$G,xx,yy[,n]<改行>

message<改行>

message<改行>

message<改行>

xx : 表示列位置 (1~80)
yy : 表示行位置 (1~24)
n : 行数
message: 表示文字列

4) メニュー画面からの調査票入力画面の終了

メニュー画面から調査票入力画面を終了させるためには、終了用の項目を定義します。その項目に対して**調査票入力画面終了アクションコマンド**を定義します。調査票入力画面終了アクションコマンドは**@E**を使用します。

調査票入力画面終了アクションコマンド

@E<改行>

5) メニュー画面の作成例

次に、実際に次のようなメニュー画面のマスタコントロールファイルを作成する場合、リストに示すように記述することで作成できます。

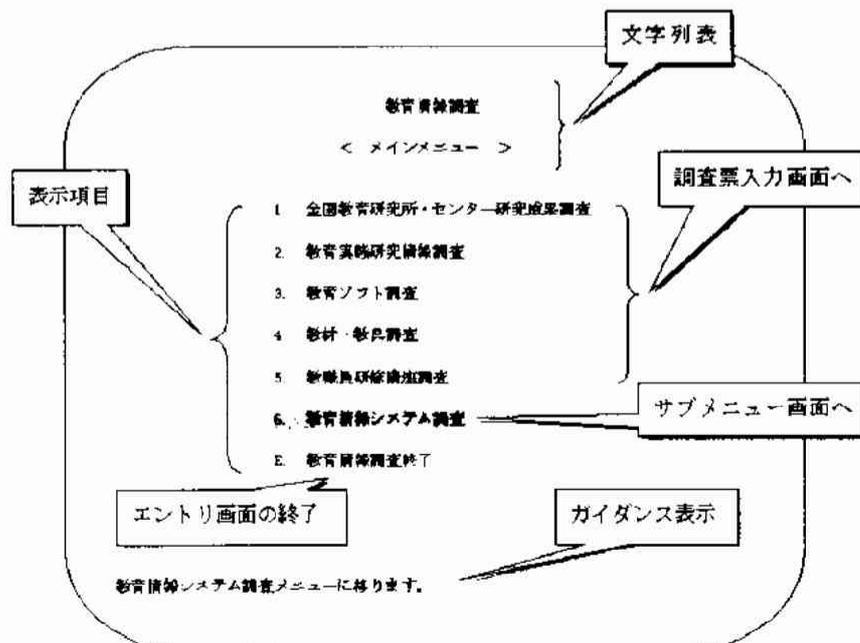


図2-7 メニュー画面のサンプルイメージ

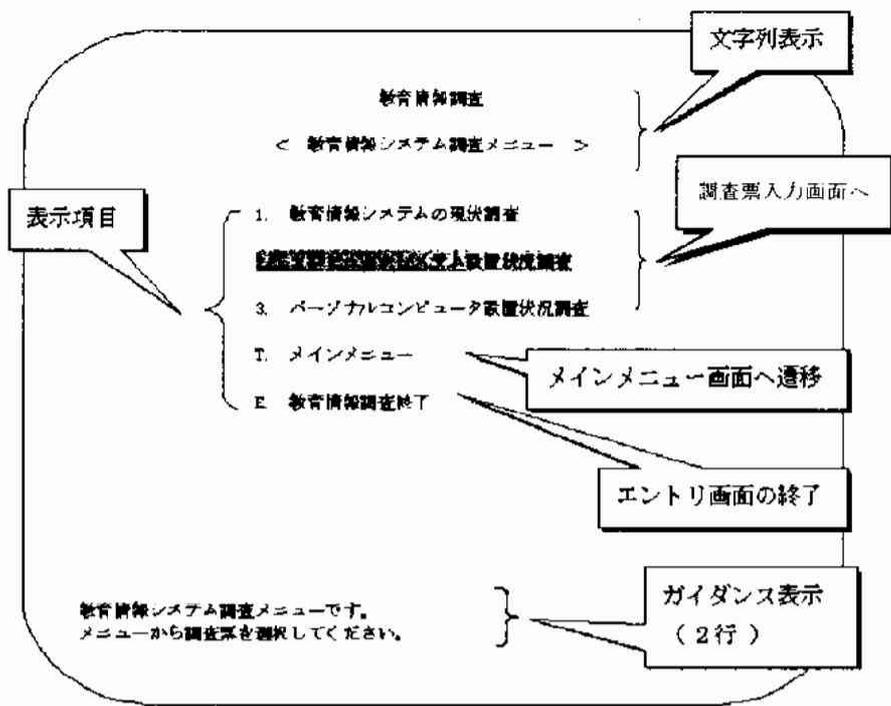


図2-8 サブメニュー画面のサンプル

次にマスターコントロールファイルの具体的な記述例を示します。

```

; サンプル用マスターコントロールファイル
;      - - - メインメニュー画面
$M, 1, S      ;メニュースコープ1 (メインメニュー) 開始

$T, 35, 2    ;調査票入力画面タイトルを表示
教育情報調査

$T, 29, 4    ;メニュータイトルを表示
< メインメニュー >

$I, CHOSA1, 21, 7    ;調査票入力画面1 遷移項目定義
1. 全国教育研究所・センター研究成果調査
@A, 1

$I, CHOSA2, 21, 9    ;調査票入力画面2 遷移項目定義
2. 教育実践研究情報調査
@A, 2

$I, CHOSA3, 21, 11   ;調査票入力画面3 遷移項目定義
3. 教育ソフト調査
@A, 3

$I, CHOSA4, 21, 13   ;調査票入力画面4 遷移項目定義
4. 教材・教具調査
@A, 4

$I, CHOSA5, 21, 15   ;調査票入力画面5 遷移項目定義
5. 教職員研修講座調査
@A, 5
    
```

“;” (セミコロン) から
<改行>まではコメントです。

\$I, SUBI, 21, 17	;サブメニュー画面遷移項目定義
6. 教育情報システム調査	
@M, 2	
\$I, END, 21, 19	;調査票入力画面終了項目定義
E. 教育情報調査終了	
@E	
\$G, 1, 24	;ガイダンス表示
メニューから処理を選択してください。	
\$M, 1, E	;メニュースコープ1 (メインメニュー) 終了
; サブメニュー画面 -----	
\$M, 2, S	;メニュースコープ2 (教育情報システム調査メニュー) 開始
\$T, 35, 2	;調査票入力画面タイトルを表示
教育情報調査	
\$T, 23, 4	;メニュータイトルを表示
< 教育情報システム調査メニュー >	
\$I, CHOSA1, 21, 7	;調査票入力画面6 遷移項目定義
1. 教育情報システム現状調査	
@A, 6	
\$I, CHOSA2, 21, 9	;調査票入力画面7 遷移項目定義
2. コンピュータシステム設置状況調査	
@A, 7	
\$I, CHOSA3, 21, 11	;調査票入力画面8 遷移項目定義
3. パーソナルコンピュータ設置状況調査	
@A, 8	
\$I, MAIN, 21, 13	;メインメニュー画面遷移項目定義
T. メインメニュー	
@M, 1	
\$I, END, 21, 15	;調査票入力画面終了項目定義
E. 教育情報調査終了	
@E	
\$G, 1, 23, 2	;ガイダンス表示
教育情報システム調査メニューです。	
メニューから処理を選択してください。	
\$M, 2, E	;メニュースコープ2 (教育情報システム調査メニュー) 終了
; ----- 調査票入力画面1 -----	
\$A, 1, S	;処理スコープ1 (全国教育研究所・センター研究成果調査) 開始
\$A, 1, E	;処理スコープ1 (全国教育研究所・センター研究成果調査) 終了
; ----- 調査票入力画面2 -----	
\$A, 2, S	;処理スコープ2 (教育実践研究情報調査) 開始
\$A, 2, E	;処理スコープ2 (教育実践研究情報調査) 終了
; ----- 調査票入力画面3 -----	
\$A, 3, S	;処理スコープ3 (教育ソフト調査) 開始
\$A, 3, E	;処理スコープ3 (教育ソフト調査) 終了

```

;----- 調査票入力画面4 -----
$A,4,S ;処理スコープ4 (教材・教具調査) 開始
$A,4,E ;処理スコープ4 (教材・教具調査) 終了

;----- 調査票入力画面5 -----
$A,5,S ;処理スコープ5 (教職員研修講座調査) 開始
$A,5,E ;処理スコープ5 (教職員研修講座調査) 終了

;----- 調査票入力画面6 -----
$A,6,S ;処理スコープ6 (教育情報システム現状調査) 開始
$A,6,E ;処理スコープ6 (教育情報システム現状調査) 終了

;----- 調査票入力画面7 -----
$A,7,S ;処理スコープ7 (コンピュータシステム設置状況調査) 開始
$A,7,E ;処理スコープ7 (コンピュータシステム設置状況調査) 終了

;----- 調査票入力画面8 -----
$A,8,S ;処理スコープ8 (パーソナルコンピュータ設置状況調査) 開始
$A,8,E ;処理スコープ8 (パーソナルコンピュータ設置状況調査) 終了

```

図2-9 マスターコントロールファイルの記述例

6) 入力データ格納ファイルの定義

調査票入力画面ではデータの入力が行われます。その入力データをファイルに格納する必要があります。したがって、調査票入力画面には、データ格納ファイル操作の定義をします。調査票入力画面から出力されるファイルをタグファイルと呼びます。タグファイルにはシングルレコードタイプとマルチレコードタイプの2種類のタイプがあります。シングルレコードタイプとマルチレコードタイプの違いをアンケート用紙の例で説明すると、シングルレコードタイプはアンケート用紙がただ1揃いである場合、マルチレコードタイプは同一様式のアンケート用紙を複数枚回答する場合と考えられます。

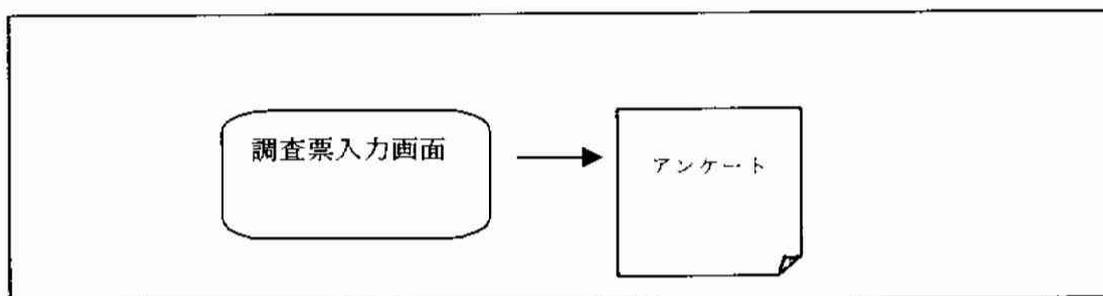


図2-10 シングルレコードタイプ

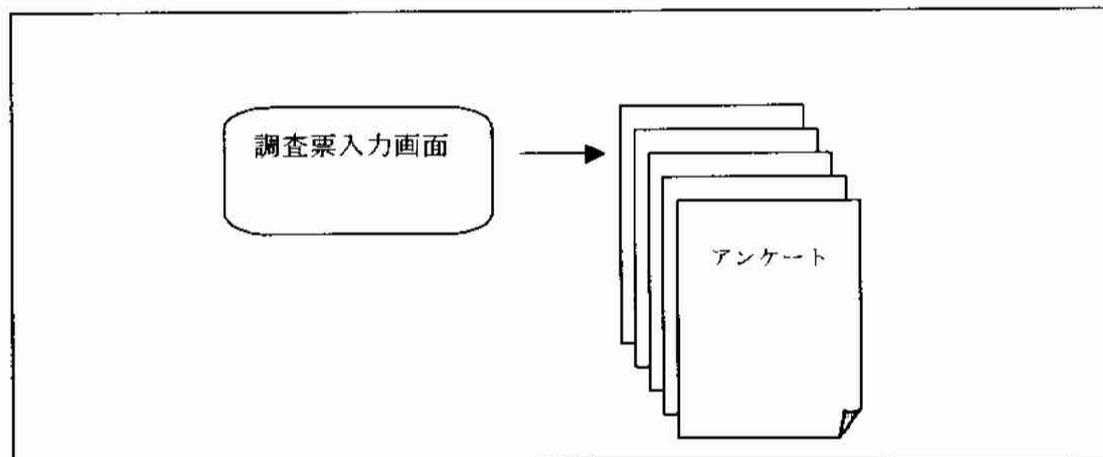


図2-11 マルチレコードタイプ

調査票入力画面にタグファイルに関連付けするにはファイル定義コマンド **\$F** を使用します。ファイル定義コマンドは調査票コープ内で有効です。

ファイル定義コマンド

\$F,File, [,M [,#nn [(n)],...]] <改行>

file:タグファイル名

(yyy. zzz)

マルチレコード時にレコード名を回
答データから生成させる (最大3個

nn :タグ番号

n :文字数

{ Mを指定しない: シングルレコードタイプ
Mを指定する : マルチレコードタイプ

用されます。

レコード名の画面表示

マルチレコードタイプのタグファイルに対する調査票入力画面では、現在入力中のレコード名を画面に表示することができます。これはレコード名表示コマンド **\$R** を使用します。このコマンドはマルチレコードタイプのファイル定義をした処理スコープのページスコープ内で有効です。

レコード名表示コマンド	
\$R,xx,yy <改行>	xx :表示列位置 (1~80) yy :表示行位置 (1~24)

7) 調査票入力画面でのデータ入力様式

調査票入力画面に入力されたデータは、タグファイルに書き込まれます。したがって、調査票入力画面でデータを入力させるためには最低限ファイル定義、項目定義、入力アクション、データ格納アクションの記述をしなければなりません。

項目定義はメニュー画面でも説明していますが、データを入力させるためには、データ入力用のオプションを記述する必要があります。そのオプションとは、入力項目をタグファイルのどのタグ番号のデータに対応させるかの指定です。、 **#nn** をオプションとして項目表示位置の後に記述します。データ入力のための項目定義コマンドは、処理スコープのページスコープ内で有効です。

データ入力のための項目定義コマンド	
\$I, str, xx, yy, #nn <改行>	
name <改行>	str :項目識別子 (8文字以内) xx :表示列位置 (1~80) yy :表示行位置 (1~23) nn :タグ番号 name:項目文字列

次に入力項目に対する入力アクションを指定します。入力アクションは、項目要素、入力方法、表示位置、表示サイズで構成されます。入力アクションを指定するには入力アクションコマンド **@C** を使用します。入力フィールドのデータは、入力項目の要素として扱われます。これを項目要素と呼び ($f1$, $f2$) の2次元配列で表現します。項目要素は、タグファイル中のタグ要素と対応します。入力アクションで指定できる入力方法は、単一選択入力、複数選択入力、文字列入力、文章入力、数値入力、環境変数参照入力、レコード番号参照、入力なしの8種類です。

タグファイルに入力データを書き込むためのデータ格納アクションは、入力アクションコマンドとペアで記述しなければいけません。データ格納アクションを指定するにはデータ格納アクションコマンド@Wを使用します。ただし、入力アクションが入力なしの場合は必要ありません。

入力アクションコマンド

@C [(f1 [,f2])], w, xx, yy [, ww, hh] <改行>

(f1, f2): 項目要素 省略時は(1, 1)

w : データ入力方法

xx : 表示列位置 (1~79)

yy : 表示行位置 (1~23)

ww : 表示幅 (文字数)

hh : 表示高さ (行数)

$xx + ww * 2 < 80$

$yy + hh * 2 < 24$

データ格納アクションコマンド

@W [(f1 [,f2])], ww [, hh] <改行>

(f1, f2): 項目要素 省略時は(1, 1)

ww : 格納幅 (文字数) < 40

hh : 格納高さ (行数) > 0

省略時は 1

(1) 単一選択入力 (入力アクションコマンド)

単一選択入力とは、複数の選択肢の中から1つだけを選択させる入力方法です。選択入力をさせるためには、選択肢を画面に表示する領域を設定します。これには選択肢表示領域定義コマンド\$Sを使用します。このコマンドは処理スコープのページスコープ内で有効です。

選択肢表示領域定義コマンド

\$S, xx1, yy1, xx2, yy2 <改行>

(xx1, yy1)



(xx2, yy2)

単一選択入力の入力方法の記述は S/sfile を使用します。sfileは、選択肢が記述されている**選択肢ファイル名**です。S/[sfile]とするとデータを格納する際にデータを〔 〕で括ります。

(2) 複数選択入力 (入力アクションコマンド)

複数選択入力とは、選択肢の中から複数の選択させる入力方法です。選択入力をさせるための選択肢を画面に表示する領域を設定します。(⇒**単一選択入力参照**)

複数選択入力の入力方法の記述は、S/sfile/nを使用します。選択肢が記述されている**選択肢ファイル名**です。S/[sfile/n]とするとデータを格納する際にデータを〔 〕で括ります。複数選択入力の場合は**選択肢数**と同等の入力フィールドが必要になります。nは複数選択入力をさせる入力フィールドの連続番号で、選択肢が3個あるならば

@C(1),S/sfile1,xx,yy<改行>

@C(2),S/sfile2,xx,yy<改行>

@C(3),S/sfile3,xx,yy<改行>

となります。

(3) 文字列入力 (入力アクションコマンド)

文字列入力とは、1行の文字列を入力させる入力方法です。

文字列入力の入力方法の記述は、Iを使用します。I [とするとデータを格納する際にデータを〔 〕で括ります。

(4) 文章入力 (入力アクションコマンド)

文章入力とは、複数行にわたる文字列を入力させる入力方法です。

文章入力の入力方法の記述は、Tを使用します。

(5) 数値入力 (入力アクションコマンド)

数値入力とは、数字のみを入力させる入力方法です。

数値入力の入力方法の記述は、Vを使用します。V [とするとデータを格納する際にデータを〔 〕で括ります。

(6) 環境変数参照入力 (入力アクションコマンド)

環境変数参照入力とは、環境ファイル中の環境変数に定義付けされた文字列を参照して入力させる入力方法です。

環境変数参照入力の入力方法の記述は、A/kstrを使用します。kstrは**環境変数**です。A/[kstr]とするとデータを格納する際にデータを〔 〕で括ります。この入力方法では、環境変数に定義付けされている文字列を代入するだけで代入した文字列を変更することはできません。環境変数に定義付けされている文字列を代入後に修正入力させたい場合はA/kstr/I あるいは A/[kstr/I を使用します。

(7) レコード番号参照 (入力アクションコマンド)

レコード番号参照では、マルチレコードタイプの調査票入力の際に現在入力中のレコード番号を自動設定して入力させます。

レコード番号参照の入力方法の記述は、Rを使用します。この入力方法はレコード番号を代入するだけで編集入力はできません。

(8) 入力なし (入力アクションコマンド)

項目をタグファイルのデータと関連付けさせない場合に使用します。用途としては、条件遷移で項目遷移の遷移先が強制的に必要な時などに使用します。

入力なしの入力方法の記述は、Nを使用します。

8) 準備ファイル

次のファイルを準備しておく。

(1) 選択肢ファイル

単一選択入力あるいは複数選択入力をさせるためには選択肢ファイルが必要です。選択肢ファイルは、1行に1選択肢という形式で選択肢を記述したテキストファイルです。選択肢ファイルのファイル名は、xxxxxxx.SEL (xxxxxxxは任意の名前) とします。

たとえば、果物の選択肢であれば、次のようになります。

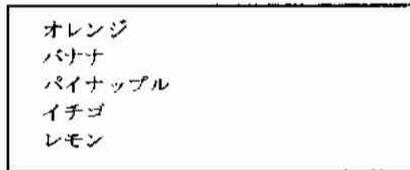


図2-14 選択肢ファイル例

(2) 環境ファイル

環境ファイルは調査票入力プログラムの配付用フロッピーディスクを作成するときに自動的に作成されます。環境ファイルの中に自動設定される環境変数の意味については次のとおりです。

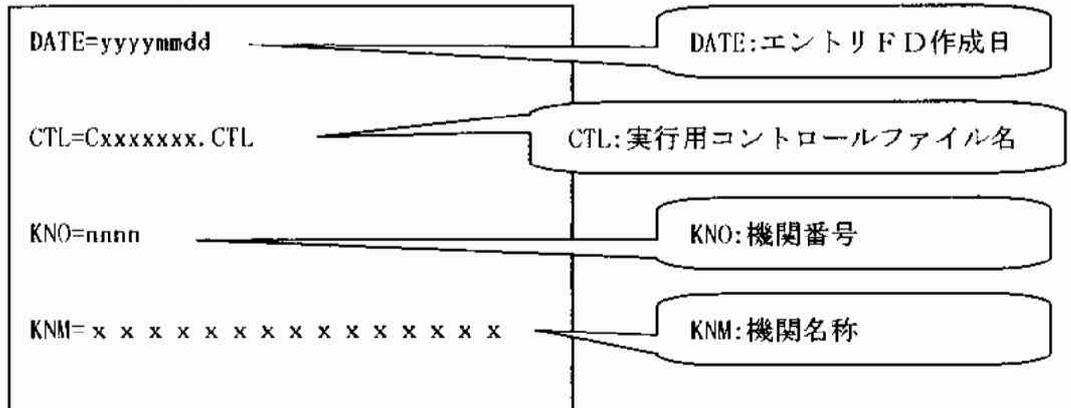


図2-15 環境ファイル例

(3) 用語辞書ファイル

入力する語句を用語辞書として予め用意しておき、データ入力の際に入力する語句をその用語辞書から参照して入力させることができます。これには用語辞書参照アクションコマンド@Dを使用します。

用語辞書参照アクションコマンド
 @D[(f1[,f2]),dfile<改行> (f1,f2):項目要素 省略時は(1,1)
 dfile :用語辞書ファイル名

用語辞書ファイルのファイル名は、xxxxxxx.VOC (xxxxxxx は任意の名前) となります。用語辞書ファイルの内容は、管理ページとセクションページで構成されています。管理ページには先頭セクションページへのアドレスを記述します。これは必ず次のよう記述します。

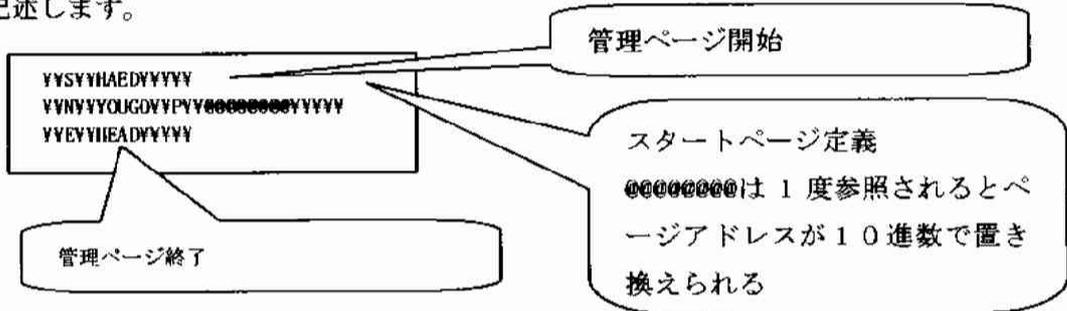


図2-16 管理ページの記述例

セクションページには“YOUGO”という先頭セクションページを先ず作成します。セクションページは、遷移キーワード、参照キーワード、入力用メッセージ、ガイダンスメッセージ、戻りセクションページ、次のセクションページ、説明画面で構成されています。

セクションページ内の記述

YYSYYセクション名YYTYVサブタイトル名YYLVY#####<改行> (セクション名は8文字以内)

YYIIVYタイトル名 YYYYY<改行> (文字色: 0 = 通常 1:)

YYJYYnnnYVVVY遷移キーワードYYCYV文字色YYNVYセクション名YYPY#####<改行>

YYKYVnnnYVVVY参照キーワードYYCYV文字色YYYYY<改行>

YYMYV入力メッセージ YYYYY<改行>

YYGYVガイダンスメッセージ YYYYY<改行>

YYBYV戻りセクション名 YYPY#####<改行>

YYAVY次のセクション名 YYPY#####<改行>

YYDYVYVY<改行>

説明画面

YYEYVセクション名YYYYY<改行>

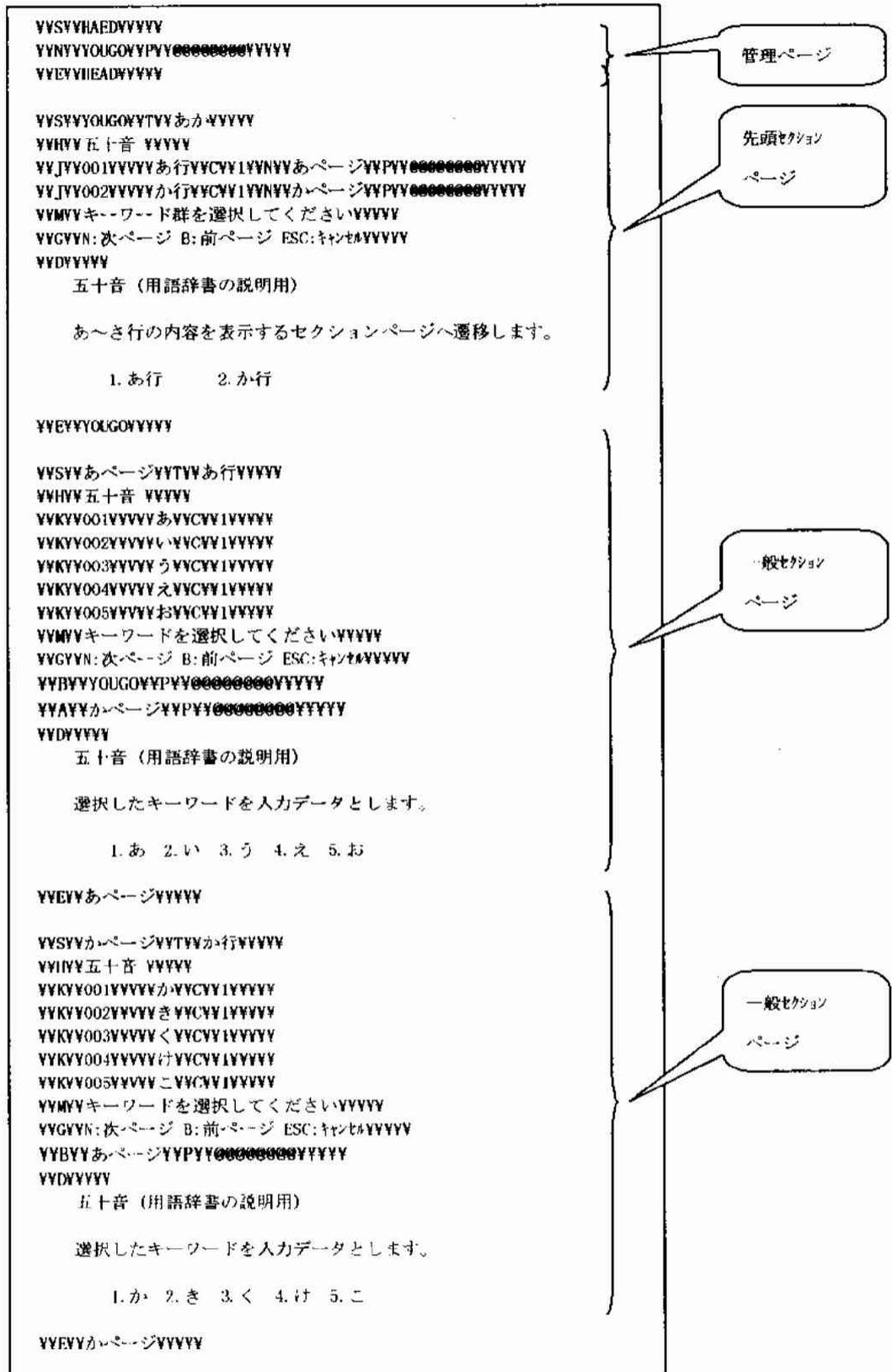


図 2-17 用語辞書ファイル例

9) 入力項目に対するガイダンスメッセージの表示

各入力フィールドそれぞれに対してガイダンスメッセージを設けることができます。これはガイダンスアクションコマンド@Gを使用します。

ガイダンスアクションコマンド

@G [(f1 [, f2])] , xx, yy [, n] <改行>

message <改行>

(f1, f2) : 項目要素 省略時は(1, 1)

message <改行>

xx : 表示列位置 (1~80)

message <改行>

yy : 表示行位置 (1~24)

:

n : 行数

message : 表示文字列

10) 回答内容による質問の分岐

回答内容によって次の質問をかえるために、条件を設定しその条件にあった質問項目へ自動的にジャンプさせることができます。これは、項目条件コマンド?IF~?ENDを使用します。

項目条件コマンド

?IF(cond) <改行>

cond :

[?OR(cond) <改行>]

[?AND(cond) <改行>]

遷移アクションコマンドの記述 (①)

[?ELSE <改行>

遷移アクションコマンドの記述 (②)]

?END <改行>

(f1 [, f2]) TRUE	入力データがある
(f1 [, f2]) FALSE	入力データがない
(f1 [, f2])"文字列"	入力データが比較文字列に等しい
(f1 [, f2])!="文字列"	入力データが比較文字列と等しくない
(f1 [, f2])<"文字列"	入力データが比較文字列より小さい
(f1 [, f2])>"文字列"	入力データが比較文字列より大きい
(f1 [, f2])<="文字列"	入力データが比較文字列より等しいか小さい
(f1 [, f2])>="文字列"	入力データが比較文字列より等しいか大きい

(f1, f2) : 項目要素

"?IF(cond) <改行>" が真の場合①を実行する。
偽の場合②を実行する

"?OR(cond) <改行>" や "?AND(cond) <改行>"
を使用すると "?IF(cond) <改行>" の条件に加えて
複数の項目要素の入力データのと条件を複合する
ことができる

※ ?OR(cond) <改行> : または・・・

次に、質問項目をマスターコントロールファイルに記述するための必要事項をコーディングします。

No.	項目識別子	項目名称	タグ番号	項目要素	入力形式	[]	文字数
1	ITEM1	機関番号	#01#	(1, 1)	環境ファイル参照 環境変数:KNO	×	4
2	ITEM2	メーカー名	#02#	(1, 1)	文字列入力	×	15
3	ITEM3	機種・モデル名	#03#	(1, 1)	文字列入力	×	20
4	ITEM4	セット数	#04#	(1, 1)	数値入力	×	3
5	ITEM5	RAM容量	#05#	(1, 1)	数値入力	×	6
6	ITEM6	ハードディスク容量	#06#	(1, 1)	数値入力	×	5
7	ITEM7	フロッピーディスクドライブ	#07#	(1, 1)	数値入力	×	3
				(1, 2)	数値入力	○	2
				(1, 3)	文字列入力	×	3
				(2, 1)	数値入力	×	3
				(2, 2)	数値入力	○	2
				(2, 3)	文字列入力	×	3
				(3, 1)	数値入力	×	3
				(3, 2)	数値入力	○	2
				(3, 3)	文字列入力	×	3
				項目条件：2次元要素が1の入力がない場合は次の項目へ移る			
8	ITEM8	オペレーティングシステム名	#08#	(1, 1)	文字列入力	×	15
9	ITEM9	プリンタ	#09#	(1, 1)	単一選択入力	×	7
				選択肢ファイル：プリンタ.SEL			
10	ITEM10	ホストコンピュータ端末	#10#	(1, 1)	単一選択入力	×	12
				選択肢ファイル：ホスト端末.SEL			
11	ITEM11	その他の周辺機器	#11#	(1, 1)	文字列入力	×	20
				(2, 1)	文字列入力	×	20
				(3, 1)	文字列入力	×	20
				(4, 1)	文字列入力	×	20
				(5, 1)	文字列入力	×	20
				(6, 2)	文字列入力	×	20
				(7, 3)	文字列入力	×	20
				項目条件：入力が無い場合は次の項目へ移る			
12	ITEM12	適用業務	#12#	(1, 1)	複数選択入力	×	13
				(2, 1)	複数選択入力	×	13
				(3, 1)	複数選択入力	×	13
				(4, 1)	複数選択入力	×	13
				(5, 1)	複数選択入力	×	13
				(6, 1)	複数選択入力	×	13
				(7, 1)	複数選択入力	×	13
				(8, 1)	複数選択入力	×	13
				選択肢ファイル：適用業務.SEL			
				(8, 2)	文字列入力	○	20
				(8, 3)	文字列入力	○	20
				項目条件：(8, 1)の入力が無い場合は(8, 2)、(8, 3)に移らない			

図2-19 調査票コーディング例

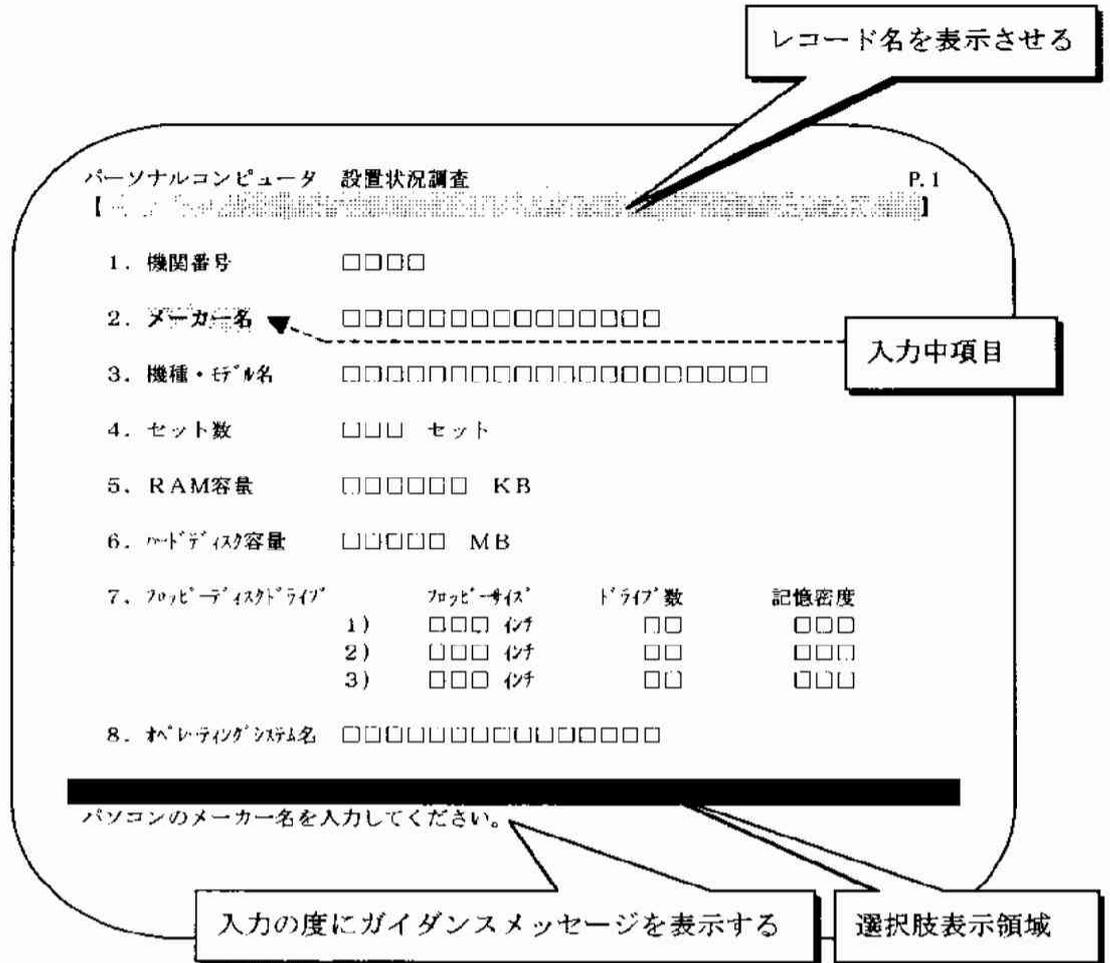


図2-20 調査票入力画面イメージ1

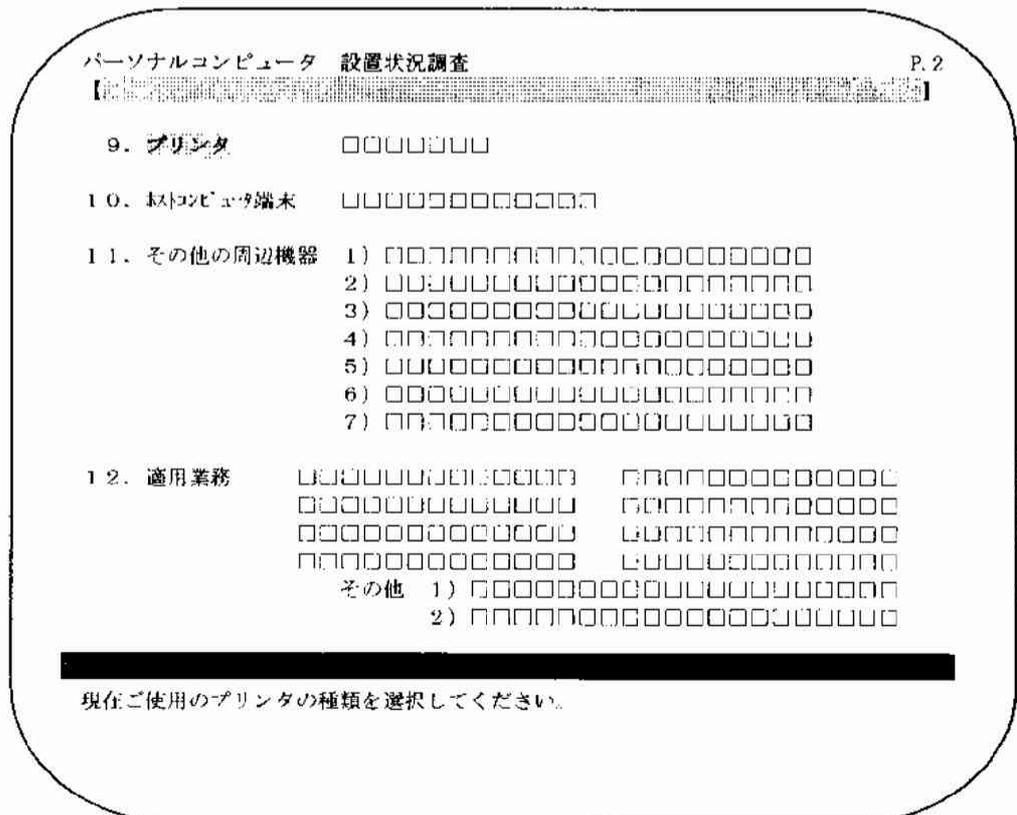


図2-21 調査票入力画面イメージ2

メニュー画面の作成で使用したマスタコントロールファイル“SAMPLE.MCL”のパーソナルコンピュータ設置状況調査（調査票入力画面8）に次の記述を埋め込みます。

(SAMPLE.MCL)

;----- 調査票入力画面 8 -----	
\$A, 8, S	;処理スコープ 8 (パーソナルコンピュータ設置状況調査) 開始
\$F, ABC, PCM, M, #02, #03	;タグファイルの定義 (マルチレコードタイプ)
; . . . P. 1	
\$P, 1, S	;ページスコープ 1 開始
\$T, 1, 1	;調査票名表示
パーソナルコンピュータ 設置状況調査	P. 1
\$R, 1, 2	;レコード名表示
\$S, 1, 23, 80, 23	;選択肢表示領域指定
;<質問 1 >	
\$I, ITEM1, 1, 4, #01	;質問 1 表示
1. 機関番号	
@C, A/KNO, 25, 4	;入力形式: 環境変数 (KNO) 参照
@W, 4	;格納サイズ: 4 文字
;<質問 2 >	
\$I, ITEM2, 1, 6, #02	;質問 2 表示
2. メーカー名	
@C, I, 25, 6	;入力形式: 文字列入力
@W, 15	;格納サイズ: 15 文字
@G, 1, 24	;ガイダンスメッセージ
パソコンのメーカーを入力してください。	
;<質問 3 >	
\$I, ITEM3, 1, 8, #03	;質問 3 表示
3. 機種・モデル名	
@C, I, 25, 8	;入力形式: 文字列入力
@W, 20	;格納サイズ: 20 文字
@G, 1, 24	;ガイダンスメッセージ
パソコンの機種・モデル名を入力してください。	
;<質問 4 >	
\$I, ITEM4, 1, 10, #04	;質問 4 表示
4. セット数	
\$T, 33, 10	;単位表示
セット	
@C, V, 25, 10	;入力形式: 数値入力
@W, 3	;格納サイズ: 3 文字
@G, 1, 24	;ガイダンスメッセージ
上記のパソコンが何セットあるかを入力してください。	

```

;<質問5>
$I, ITEM5, 1, 12, #05           ;質問5表示
  5. RAM容量

$T, 39, 12                     ;単位表示
KB

@C, V, 25, 12                 ;入力形式:数値入力

@W, 6                           ;格納サイズ:6文字

@G, 1, 24                      ;ガイダンスメッセージ
上記のパソコンが搭載しているRAMの容量を入力してください。

;<質問6>
$I, ITEM6, 1, 14, #06         ;質問6表示
  6. ハードディスク容量

$T, 37, 14                     ;単位表示
MB

@C, V, 25, 14                 ;入力形式:数値入力

@W, 5                           ;格納サイズ:5文字

@G, 1, 24                      ;ガイダンスメッセージ
上記のパソコンが搭載しているハードディスクの容量を入力してください。

;<質問7>
$I, ITEM7, 1, 16, #07       ;質問7表示
  7. フロッピーディスクドライブ

$T, 33, 16                     ;項目要素名表示
フロッピーディスクドライブ数 記憶密度

;項目要素 (1, 1)
$T, 25, 17                     ;番号表示
  1)

$T, 40, 17                     ;単位表示
インチ

@C, (1, 1), V, 33, 17         ;入力形式:数値入力

@W, (1, 1), 3                 ;格納サイズ:3文字

@G, (1, 1), 1, 24            ;ガイダンスメッセージ
上記のパソコンで使用しているフロッピーディスクドライブのサイズを入力してください。

?IF((1, 1)FALSE)             ;この項目要素の入力がない場合質問8に移る
@I, ITEM8
?END

;項目要素 (1, 2)
@C, (1, 2), V[, 53, 17       ;入力形式:括弧付き数値入力

@W, (1, 2), 2                 ;格納サイズ:2文字

@G, (1, 2), 1, 24            ;ガイダンスメッセージ
左記のドライブのフロッピーディスクドライブの数を入力してください。

;項目要素 (1, 3)
@C, (1, 3), I, 67, 17        ;入力形式:文字列入力

@W, (1, 3), 3                 ;格納サイズ:3文字

@G, (1, 3), 1, 24            ;ガイダンスメッセージ
左記のドライブのフロッピーディスクドライブの記憶密度を入力してください。

```

;項目要素 (2, 1)	
\$T, 25, 18 2)	;番号表示
;項目要素 (2, 2)	
\$T, 40, 18 ｲﾝﾁ	;単位表示
OC, (2, 1), V, 33, 18	;入力形式: 数値入力
OW, (2, 1), 3	;格納サイズ: 3文字
OG, (2, 1), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
上記のパソコンで使用しているフロッピーディスクドライブのサイズを入力してください。	
?IF((2, 1)FALSE)	;この項目要素の入力がない場合質問8に移る
OI, ITEM8	
?END	
;項目要素 (2, 2)	
OC, (2, 2), VI, 53, 18	;入力形式: 括弧付き数値入力
OW, (2, 2), 2	;格納サイズ: 2文字
OG, (2, 2), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
左記の枚数のフロッピーディスクドライブの数を入力してください。	
;項目要素 (2, 3)	
OC, (2, 3), I, 67, 18	;入力形式: 文字列入力
OW, (2, 3), 3	;格納サイズ: 3文字
OG, (2, 3), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
左記の枚数のフロッピーディスクドライブの記憶密度を入力してください。	
;項目要素 (3, 1)	
\$T, 25, 19 3)	;番号表示
;項目要素 (3, 2)	
\$T, 40, 19 ｲﾝﾁ	;単位表示
OC, (3, 1), V, 33, 19	;入力形式: 数値入力
OW, (3, 1), 3	;格納サイズ: 3文字
OG, (3, 1), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
上記のパソコンで使用しているフロッピーディスクドライブのサイズを入力してください。	
?IF((3, 1)FALSE)	;この項目要素の入力がない場合質問8に移る
OI, ITEM8	
?END	
;項目要素 (3, 2)	
OC, (3, 2), VI, 53, 19	;入力形式: 括弧付き数値入力
OW, (3, 2), 2	;格納サイズ: 2文字
OG, (3, 2), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
左記の枚数のフロッピーディスクドライブの数を入力してください。	
;項目要素 (3, 3)	
OC, (3, 3), I, 67, 19	;入力形式: 文字列入力
OW, (3, 3), 3	;格納サイズ: 3文字
OG, (3, 3), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
左記の枚数のフロッピーディスクドライブの記憶密度を入力してください。	

;<質問8>		
\$I, ITEM8, 1, 21, #08		;質問8表示
8. オペレーティングシステム名		
@C, 1, 25, 21		;入力形式: 文字列入力
@W, 15		;格納サイズ: 15文字
@G, 1, 24		;ガイダンスメッセージ
パソコンのオペレーティングシステム名を入力してください。		
\$P, 1, E		;ページスコープ1終了
; . . . P. 2		
\$P, 2, S		;ページスコープ2開始
\$T, 1, 1		;調査票名表示
パーソナルコンピュータ 設置状況調査		P. 2
\$R, 1, 2		;レコード名表示
\$S, 1, 23, 80, 23		;選択肢表示領域指定
;<質問9>		
\$I, ITEM9, 1, 4, #09		;質問9表示
9. プリンタ		
@C, S/プリンタ. SEL, 25, 4		;入力形式: 単一選択入力
@W, 7		;格納サイズ: 7文字
@G, 1, 24		;ガイダンスメッセージ
現在ご使用のプリンタの種類を選択してください。		
;<質問10>		
\$I, ITEM10, 1, 6, #10		;質問10表示
10. ホストコンピュータ端末		
@C, S/ホスト端末. SEL, 25, 6		;入力形式: 単一選択入力
@W, 12		;格納サイズ: 12文字
@G, 1, 24		;ガイダンスメッセージ
ホスト端末として使用しているかどうかを選択してください。		
;<質問11>		
\$I, ITEM11, 1, 8, #11		;質問11表示
11. その他の周辺機器		
\$T, 25, 8		;番号表示
1)		
@C, (1), 1, 29, 8		;入力形式: 文字列入力
@W, (1), 20		;格納サイズ: 20文字
@G, (1), 1, 24		;ガイダンスメッセージ
その他の周辺機器があれば入力してください。		
?IF (1)FALSE		;この項目要素の入力がない場合質問12に移る
@I, ITEM12		
?END		

\$T, 25, 9 2)	;番号表示
OC, (2), I, 29, 9	;入力形式: 文字列入力
OW, (2), 20	;格納サイズ: 20文字
OG, (2), I, 24 その他の周辺機器があれば入力してください。	;ガイダンスメッセージ
?IF((2)FALSE) @I, ITEM12 ?END	;この項目要素の入力がない場合質問12に移る
\$T, 25, 10 3)	;番号表示
OC, (3), I, 29, 10	;入力形式: 文字列入力
OW, (3), 20	;格納サイズ: 20文字
OG, (3), I, 24 その他の周辺機器があれば入力してください。	;ガイダンスメッセージ
?IF((3)FALSE) @I, ITEM12 ?END	;この項目要素の入力がない場合質問12に移る
\$T, 25, 11 4)	;番号表示
OC, (4), I, 29, 11	;入力形式: 文字列入力
OW, (4), 20	;格納サイズ: 20文字
OG, (4), I, 24 その他の周辺機器があれば入力してください。	;ガイダンスメッセージ
?IF((4)FALSE) @I, ITEM12 ?END	;この項目要素の入力がない場合質問12に移る
\$T, 25, 12 5)	;番号表示
OC, (5), I, 29, 12	;入力形式: 文字列入力
OW, (5), 20	;格納サイズ: 20文字
OG, (5), I, 24 その他の周辺機器があれば入力してください。	;ガイダンスメッセージ
?IF((5)FALSE) @I, ITEM12 ?END	;この項目要素の入力がない場合質問12に移る
\$T, 25, 13 6)	;番号表示
OC, (6), I, 29, 13	;入力形式: 文字列入力
OW, (6), 20	;格納サイズ: 20文字
OG, (6), I, 24 その他の周辺機器があれば入力してください。	;ガイダンスメッセージ

?IF(6)FALSE)	;この項目要素の入力がない場合質問12に移る
@L, ITEM12	
?END	
\$T, 25, 14	;番号表示
7)	
@C, (7), 1, 29, 14	;入力形式:文字列入力
@W, (7), 20	;格納サイズ:20文字
@G, (7), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
その他の周辺機器があれば入力してください。	
<質問12>	
\$I, ITEM11, 1, 16, #12	;質問12表示
12. 適用業務	
@C, (1), S/適用業務.SEL/1, 21, 16	;入力形式:複数選択入力
@W, (1), 13	;格納サイズ:13文字
@G, (1), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
適用業務を選択してください。	
@C, (2), S/適用業務.SEL/2, 51, 16	;入力形式:複数選択入力
@W, (2), 13	;格納サイズ:13文字
@G, (2), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
適用業務を選択してください。	
@C, (3), S/適用業務.SEL/3, 21, 17	;入力形式:複数選択入力
@W, (3), 13	;格納サイズ:13文字
@G, (3), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
適用業務を選択してください。	
@C, (4), S/適用業務.SEL/4, 51, 17	;入力形式:複数選択入力
@W, (4), 13	;格納サイズ:13文字
@G, (4), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
適用業務を選択してください。	
@C, (5), S/適用業務.SEL/5, 21, 18	;入力形式:複数選択入力
@W, (5), 13	;格納サイズ:13文字
@G, (5), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
適用業務を選択してください。	
@C, (6), S/適用業務.SEL/6, 51, 18	;入力形式:複数選択入力
@W, (6), 13	;格納サイズ:13文字
@G, (6), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
適用業務を選択してください。	
@C, (7), S/適用業務.SEL/7, 21, 19	;入力形式:複数選択入力
@W, (7), 13	;格納サイズ:13文字
@G, (7), 1, 24	;ガイダンスメッセージ
適用業務を選択してください。	

①C, (8, 1), S/適用業務.SEL/8, 51, 19 ;	入力形式: 複数選択入力 (その他)
①W, (8, 1), 13	;格納サイズ: 13文字
①G, (8, 1), 1, 24 適用業務を選択してください。	;ガイダンスメッセージ
?(IF(8, 1)FALSE) ①I, ITEM END ?END	;この項目要素の入力がない場合終了する
\$T, 25, 20 その他 1)	;番号表示
①C, (8, 2), 1, 37, 20	;入力形式: 文字列入力 (その他1)
①W, (8, 2), 20	;格納サイズ: 13文字
①G, (8, 2), 1, 24 その他の適用業務を入力してください。	;ガイダンスメッセージ
\$T, 25, 21 2)	;番号表示
①C, (8, 3), 1, 37, 21	;入力形式: 文字列入力 (その他2)
①W, (8, 3), 20	;格納サイズ: 13文字
①G, (8, 3), 1, 24 その他の適用業務を入力してください。	;ガイダンスメッセージ
\$I, ITEM END ①C, N	;入力形式: なし
\$P, 2, E	;ページスコープ2終了
\$A, 8, E	;処理スコープ8 (パーソナルコンピュータ設置状況調査) 終了

図2-22 調査票入力画面マスターコントロールファイル例

<p>(プリンタ.SEL)</p> <p>ドットプリンタ 熱転写プリンタ レーザープリンタ その他</p>	<p>(適用業務.SEL)</p> <p>情報処理教育 (生徒実習) 教育諸調査データ処理 学校へのデータ処理サービス 事務処理 (人事・会計) 教育情報の検索サービス 教材研究 (CAI/CMI) 教職員研修 その他</p>
<p>(端末.SEL)</p> <p>端末として利用 端末として利用していない</p>	

図2-23 選択肢ファイル

1 2) ヘルプ画面の作成

調査票入力プログラムに配布した調査票画面に対応したオンラインヘルプを表示することができます。オンラインヘルプには調査票入力画面では表現できなかった調査の趣旨や回答方法の詳細などを記述しておくと便利です。このオンラインヘルプの表示を可能にするにはCEA.HLP (ファイル名固定) というヘルプファイルをテキストエディタで作成します。作成場所は調査票入力プログラム作成支援システム (NIERCE R. EXE) があるディレクトリの下に作成した<KTCSYS>というディレクトリの中に作成します。(⇒「2. 1 システム構成」を参照してください。)

ヘルプファイルの記述の仕方は用語辞書ファイルと基本的には同じです。用語辞書ファイルと同じように管理ページとセクションページで構成されています。(⇒「用語辞書ファイル」(p. 26) を参照してください。)

ヘルプファイルは調査票入力プログラム内でシステムとして使用しているセクション名が予約されています。そのため管理ページには次のインデックスが予め用意されています。

(CEA.HLP)

```

YYSVYHEADVYVYVY
YNYVYCEMYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYTOOLYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYCLCTYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYTEXTYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYATINPTYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYINPTYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYNUMYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYSELYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYTOLOPEYPYVY@@@@@YVYVY
YNYVYETROPEYPYVY@@@@@YVYVY
YVEVYIHEADVYVYVY

```

図 2-24 ヘルプファイル記述例

<予約セクション名の説明>

- CEM・・・・・・調査票入力用システムメニューで使用
- TOOL・・・・・・調査票入力補助ツールで使用
- CLCT・・・・・・調査票入力データ回収ツールで使用
- TEXT・・・・・・調査票入力プログラム内の文章入力で使用
- ATINP・・・・・・調査票入力プログラム内のデータ入力用キー操作で使用
- INPT・・・・・・調査票入力プログラム内のデータ入力用キー操作で使用
- NUM・・・・・・調査票入力プログラム内のデータ入力用キー操作で使用
- SEL・・・・・・調査票入力プログラム内のデータ入力用キー操作で使用
- ETROPE・・・・調査票入力プログラム内のマルチレコードタイプの管理画面用キー操作で使用
- TOLOPE・・・・補助ツール用キー操作で使用

作成した調査票入力画面に対応したオンラインヘルプを作成するには、マスタコントロールファイルの処理スコープ内で定義したタグファイル名の拡張子と同じセクションをCEA. HLPに追加します。

SAMPLE. MCLを例にとると、処理スコープ8では“ABC. PCM”をタグファイルとして定義しています。ですからセクション名は“PCM”になります。これを管理ページとセクションページに追加します。“PCM”のセクションページにはパーソナルコンピュータ設置状況調査についての説明を記述します。

2.3 調査票入力画面作成言語一覧

コメントの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
コメント	:文字列<改行>	: (セミコロン) 以降は<改行>まで無視される	指定なし

スコープ制御系コマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
メニュースコープの開始	\$M, n, S<改行>	メニュースコープ <i>n</i> の開始 ※ <i>n</i> :1~99	トップレベル
メニュースコープの終了	\$M, n, E<改行>	メニュースコープ <i>n</i> の終了 ※ <i>n</i> :1~99	トップレベル
処理スコープの開始	\$A, n, S<改行>	処理スコープ <i>n</i> の開始 ※ <i>n</i> :1~99	トップレベル
処理スコープの終了	\$A, n, E<改行>	処理スコープ <i>n</i> の終了 ※ <i>n</i> :1~99	トップレベル
ページスコープの開始	\$P, n, S<改行>	ページスコープ <i>n</i> の開始 ※ <i>n</i> :1~99	処理スコープ
ページスコープの終了	\$P, n, E<改行>	ページスコープ <i>n</i> の終了 ※ <i>n</i> :1~99	処理スコープ

文字列表示系コマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
文字列表示	\$T, xx, yy<改行> message<改行>	message を画面の (<i>x x</i> 桁、 <i>y y</i> 行) の位置に表示する ※ <i>xx</i> :1~80 ※ <i>yy</i> :1~24 message: 表示文字列	メニュースコープ ページスコープ
タグ名表示	\$G, xx, yy [, <i>n</i>] <改行> message<改行> . . .	Message を画面の (<i>x x</i> 桁、 <i>y y</i> 行) の位置に <i>n</i> 行で表示する ※ <i>xx</i> :1~80 ※ <i>yy</i> :1~24 message: 表示文字列 <i>n</i> を省略時: 1 行	メニュースコープ ページスコープ
コード名表示	\$R, xx, yy<改行>	調査票がマルチレコードタイプの場合のレコード名を画面の (<i>x x</i> 桁、 <i>y y</i> 行) の位置に表示する ※ <i>xx</i> :1~80 ※ <i>yy</i> :1~24	処理スコープ

ファイル定義コマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
ファイル定義	\$F, file [, M [, #nn [(<i>n</i>)], ...]] <改行> ※ [, #nn [(<i>n</i>)], ...] は最大 3 個	調査票の入力データを格納するタグファイル名を定義する ※file : <i>yyy.zzz</i> で構成される ※ <i>yyy.zzz</i> : 任意 タグファイル名は Cxxxxyyf.zzz となる ※ <i>xxxx</i> : 機関番号 (自動付加) ※ <i>M</i> を指定するとマルチレコードタイプになり、レコード名を回答データから生成させるためにタグファイル中のタグ番号を # <i>n n</i> で指定できる # <i>n n</i> のデータを表示する文字数の指定を <i>n</i> で指定する (省略時は、全文字数)	処理スコープ

項目定義コマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
項目定義	\$I, str [, xx, yy] [, #nn] <改行> [[n.] name] <改行>	<p>項目識別子 <i>str</i> としてメニュースコープ <i>n</i> あるいは処理スコープ <i>n</i> に登録する</p> <p>※<i>str</i> は、8文字以内の任意の文字列でメニュースコープ <i>n</i> 内あるいは処理スコープ <i>n</i> 内で唯一でなければならない</p> <p>※<i>xx, yy</i> は <i>name</i> (項目文字列) がある場合のみ有効で、<i>xx</i> 桁、<i>yy</i> 行に <i>name</i> を表示する</p> <p style="text-align: center;"><i>xx</i>: 1~80 <i>yy</i>: 1~24</p> <p>※<i>nn</i> はタグ番号を意味する この指定があるとタグファイルへのデータ入力項目と判断し、入力アクションコマンドを記述することができる <i>nn</i> は必ず番号の小さい順でかつ連続に記述しなければならない <i>nn</i> は 1~99 (ページスコープのみ)</p> <p>※項目文字列の <i>n</i>、メニュースコープ内の項目時に、項目選択で入力可能な文字を示す。但し、<i>n</i> はメニュースコープ内で唯一でなければならない (メニュースコープのみ)</p> <p>※次の\$制御文字が現れるまで項目識別子 <i>str</i> に対してアクションコマンドあるいは項目条件コマンドを記述することができる (項目条件コマンド定義はページスコープのみ)</p> <p>※項目数はスコープ内で最大99個 項目識別子 <i>str</i> は、遷移アクションコマンドが存在しない限り上から順に実行される</p>	メニュースコープ ページスコープ

選択肢表示領域定義コマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
選択肢表示領域定義	\$S, xx1, yy1, xx2, yy2 <改行>	<p>調査票入力画面において、選択入力用の選択肢を表示するための表示領域を定義する (<i>xx1, yy1</i>)</p> <div style="text-align: center;">  <p>(<i>xx2, yy2</i>)</p> </div>	ページスコープ

遷移アクション系コマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
メニュー遷移	EM, n <改行>	メニュースコープ <i>n</i> へ遷移する	メニュースコープ ページスコープ
調査票遷移	EA, n <改行>	処理スコープ <i>n</i> へ遷移する	メニュースコープ ページスコープ
ページ遷移	EP, n <改行>	ページスコープ <i>n</i> へ遷移する	ページスコープ
項目遷移	EI, str <改行>	項目識別子 <i>str</i> へ遷移する	メニュースコープ ページスコープ
調査票入力画面終了	EF <改行>	調査票入力画面を終了する	メニュースコープ ページスコープ
項目要素遷移	EJ, (f1 [, f2]) <改行>	項目要素 <i>f1, f2</i> へ遷移する	ページスコープ

入力アクションコマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	記述位置
データ入力	@C [(f1 [, f2])] , # [, xx, yy [, ww, hh]] <改行>	ページスコープ

意味

項目 *str* の入力方法と入力データの表示位置および表示領域を指定する

※ *f1, f2*: 項目要素でそれぞれ 1~99 (項目要素は 2 次元配列になっていて省略時は (1, 1) を現す)

: 項目要素の入力方法

S/ <i>sfile</i>	<i>sfile</i> (選択条件ファイル) の選択肢から単一選択入力させる
S/[<i>sfile</i>	<i>sfile</i> (選択条件ファイル) の選択肢から単一選択入力させる 選択されたデータに [] を付ける
S/ <i>sfile</i> / <i>n</i>	<i>sfile</i> (選択条件ファイル) の選択肢から複数選択入力させる <i>n</i> は複数選択入力のシーケンス番号 (1~)
S/[<i>sfile</i> / <i>n</i>	<i>sfile</i> (選択条件ファイル) の選択肢から複数選択入力させる <i>n</i> は複数選択入力のシーケンス番号 (1~) 選択されたデータに [] を付ける
I	文字列入力をさせる
I[文字列入力をさせる 入力されたデータに [] を付ける
V	数値入力をさせる
V[数値入力をさせる 入力されたデータに [] を付ける
A/ <i>kstr</i>	環境ファイルから <i>kstr</i> (環境変数) に対応する文字列を取り出して入力データとする 入力は禁止される
A/[<i>kstr</i>	環境ファイルから <i>kstr</i> (環境変数) に対応する文字列を取り出して入力データとする 入力は禁止される 環境ファイルから取り出したデータに [] を付ける
A/ <i>kstr</i> /I	環境ファイルから <i>kstr</i> (環境変数) に対応する文字列を取り出して入力データとし、 そのデータに対して編集入力ができる
A/[<i>kstr</i> /I	環境ファイルから <i>kstr</i> (環境変数) に対応する文字列を取り出して入力データとし、 そのデータに対して編集入力ができる 入力されたデータに [] を付ける
T	文章として入力させる (複数行の入力)
N	入力させない
R	レコードの現在のシーケンス番号をデータとして自動設定する 入力は禁止される

xx, yy: *xx* 桁、*yy* 行に入力されたデータを表示する

xx: 1~79

yy: 1~23

ww, hh: 文章入力時に指定するパラメータで、*ww* は表示幅 (文字数) を、*hh* は表示高さ (行数) を指定する
省略時はデータ格納アクションコマンドの *ww, hh* と同等の値になる

$xx + ww * 2 < 80$

$yy + hh < 24$

データ格納アクションコマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
データ格納	@W [(f1 [, f2])] , ## [, hh] <改行>	入力されたデータをタグファイルに書き込む文字数を指定する ※ ##: 格納幅 (文字数) hh: 格納高さ (行数) (文章入力時に指定する) ## < 40 hh > 0 (省略時は 1) f1, f2: 入力アクションの項目要素に対応する	ページスコープ

用語辞書参照アクションコマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
用語辞書参照	@D [(f1 [, f2])] , dfile <改行>	データ入力時に <i>dfile</i> (用語辞書ファイル) の参照を有効にする ※ <i>f1, f2</i> : 入力アクションの項目要素に対応する	ページスコープ

ガイダンスアクションコマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置
ガイダンス	<pre> @G [(f1 [, f2])] , xx, yy , n] <改行> message <改行> . . . </pre>	<p>Messageを画面の(x x桁、y y行)の位置にn行で表示する</p> <p>※xx:1~80 yy:1~24 message:表示文字列 f1, f2:入力アクションの項目要素に対応する nを省略時:1行</p>	ページスコア

項目条件コマンドの記述

コマンド名称	コマンド形式	意味	記述位置																
項目条件	<pre> ?IF(cond) <改行> [?OR(cond) <改行>] [?AND(cond) <改行>] 遷移アクションコマンド*の記述 [?ELSE <改行> 遷移アクションコマンド*の記述] ?END <改行> </pre>	<p>入力条件による遷移を行う</p> <p>※“?IF(cond) <改行>”から“?END <改行>”の間で入力項目による条件遷移を行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <pre> ?IF(cond) <改行> 遷移アクションコマンドの記述 </pre> </div> <p>で cond の内容が真の場合の遷移アクションコマンドを実行する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <pre> ?ELSE <改行> 遷移アクションコマンドの記述 </pre> </div> <p>で cond の内容が偽の場合の遷移アクションコマンドを実行する</p> <p>“?OR(cond) <改行>”や“?AND(cond) <改行>”を使用すると“?IF(cond) <改行>”の条件に加えて複数の項目要素の入力データのと条件を複合することができる</p> <p>※ ?OR(cond) <改行> : または・・・ ?AND(cond) <改行> : かつ・・・</p> <p>※ cond の形式</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>(f1 [, f2]) TRUE</td> <td>入力データがある</td> </tr> <tr> <td>(f1 [, f2]) FALSE</td> <td>入力データがない</td> </tr> <tr> <td>(f1 [, f2]) ="文字列"</td> <td>入力データが比較文字列に等しい</td> </tr> <tr> <td>(f1 [, f2]) !="文字列"</td> <td>入力データが比較文字列と等しくない</td> </tr> <tr> <td>(f1 [, f2]) <"文字列"</td> <td>入力データが比較文字列より小さい</td> </tr> <tr> <td>(f1 [, f2]) >"文字列"</td> <td>入力データが比較文字列より大きい</td> </tr> <tr> <td>(f1 [, f2]) <="文字列"</td> <td>入力データが比較文字列より等しいか小さい</td> </tr> <tr> <td>(f1 [, f2]) >="文字列"</td> <td>入力データが比較文字列より等しいか大きい</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ "文字列":最大30文字(全角) f1, f2 :入力アクションの項目要素に対応する</p>	(f1 [, f2]) TRUE	入力データがある	(f1 [, f2]) FALSE	入力データがない	(f1 [, f2]) ="文字列"	入力データが比較文字列に等しい	(f1 [, f2]) !="文字列"	入力データが比較文字列と等しくない	(f1 [, f2]) <"文字列"	入力データが比較文字列より小さい	(f1 [, f2]) >"文字列"	入力データが比較文字列より大きい	(f1 [, f2]) <="文字列"	入力データが比較文字列より等しいか小さい	(f1 [, f2]) >="文字列"	入力データが比較文字列より等しいか大きい	ページスコア
(f1 [, f2]) TRUE	入力データがある																		
(f1 [, f2]) FALSE	入力データがない																		
(f1 [, f2]) ="文字列"	入力データが比較文字列に等しい																		
(f1 [, f2]) !="文字列"	入力データが比較文字列と等しくない																		
(f1 [, f2]) <"文字列"	入力データが比較文字列より小さい																		
(f1 [, f2]) >"文字列"	入力データが比較文字列より大きい																		
(f1 [, f2]) <="文字列"	入力データが比較文字列より等しいか小さい																		
(f1 [, f2]) >="文字列"	入力データが比較文字列より等しいか大きい																		

2. 4 調査票入力プログラム作成支援システムの操作方法

ここでは、調査票入力プログラムを作成し、さらに配布するためのフロッピーディスク (FD) を作成するまでの操作方法について説明します。

1) 調査票入力プログラム作成支援システムの起動

準備

テキストエディタを使用し、**調査票入力プログラム作成支援システム起動用バッチファイル** XXXXXXXX.BAT (XXXXXXXXは任意の名称です。) を作成します。

具体的には、調査票入力プログラム作成支援システム起動用バッチファイルの内容は、調査票入力プログラム作成支援システム (NIERCER.EXE) が存在するドライブとディレクトリに変更してから調査票入力プログラム作成支援システムを実行するように作成してください。

例) 調査票入力プログラム作成支援システムの格納されているカレントドライブがDドライブでカレントディレクトリがKTCの場合、

D :	※-Cを付けるとカラーモードで表示
CD¥KTC	します
NIERCER [-C]	

図2-25 調査票入力プログラム作成支援システム起動用バッチファイル

1. 作成した**調査票入力プログラム作成支援システム起動用バッチファイル**を起動します。
2. **調査票入力プログラム作成支援システム初期画面**が表示されます。

注) 調査票入力プログラム作成支援システムでは幾つかのファイル (マスタコントロールファイル, 機関情報ファイル, 選択条件ファイル, 用語辞書ファイル, ヘルプファイル) を予めテキストエディタで作成してから実行します。ファイル管理しやすいようにそれぞれのディレクトリを設けることをお勧めします。

例)

```

C : ¥
├── KTC (実行ファイル等の本システムを格納するディレクトリ)
│   ├── MCL (マスターコントロールファイルを格納するディレクトリ)
│   ├── INF (機関情報ファイルを格納するディレクトリ)
│   ├── SEL (選択条件及び用語辞書ファイルを格納するディレクトリ)
│   └── KTCSYS (⇒ 「2.1 システム構成」を参照してください。)
    
```

※選択条件ファイルと用語辞書ファイルは同じディレクトリで管理してください。

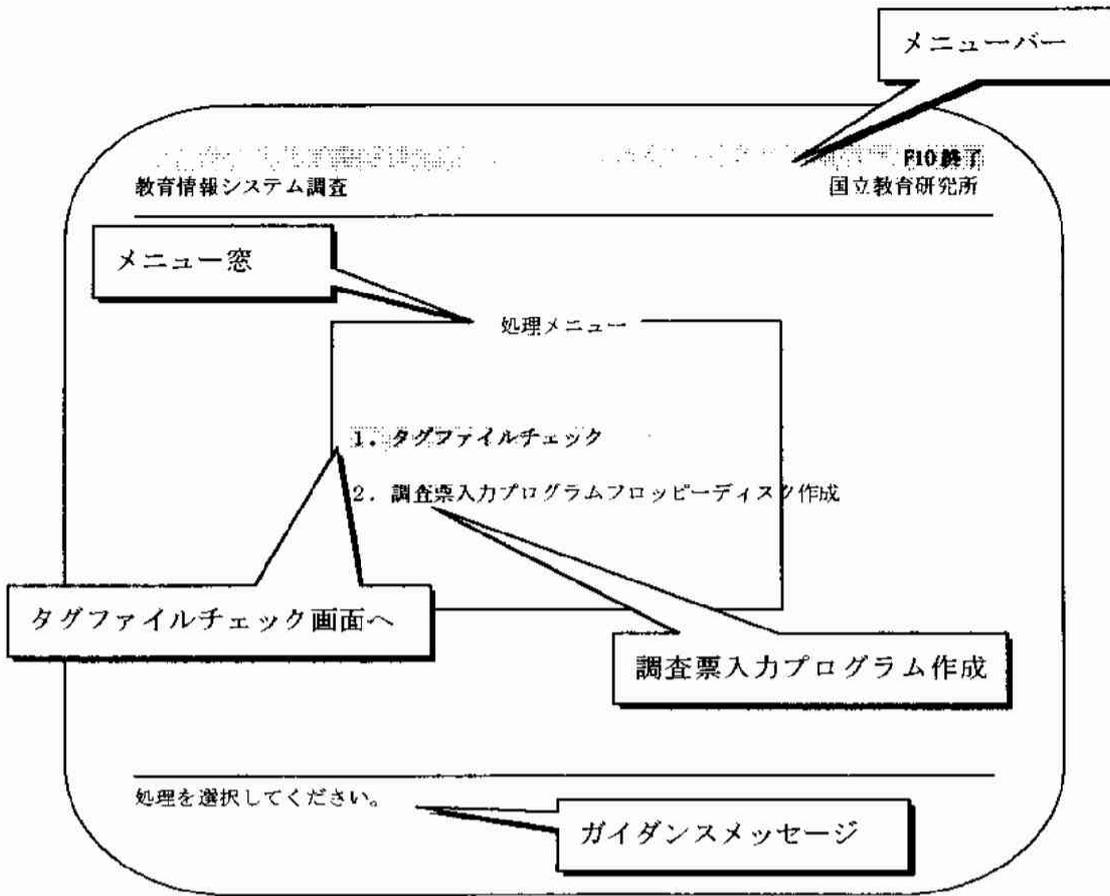


図2-26 調査票入力プログラム作成支援システム初期画面

初期画面には、1. タグファイルチェックと2. 調査票入力プログラムフロッピーディスク作成が表示されます。カーソル移動キーで選択し、実行キーを押すとそれぞれのプログラムが実行されます。

タグファイルチェックは、調査票回答データの内容に対して、タグファイル形式に合っているかどうかの文法チェックを行う機能です。(ただし、今回のシステムでは目的外ですのでこれ以上の説明は省略します。)

次に、カーソル移動キーで2. 調査票入力プログラムフロッピーディスク作成を選択し、実行キーを押すと調査票入力プログラム作成画面が表示されます。

2) 調査票入力プログラム作成画面

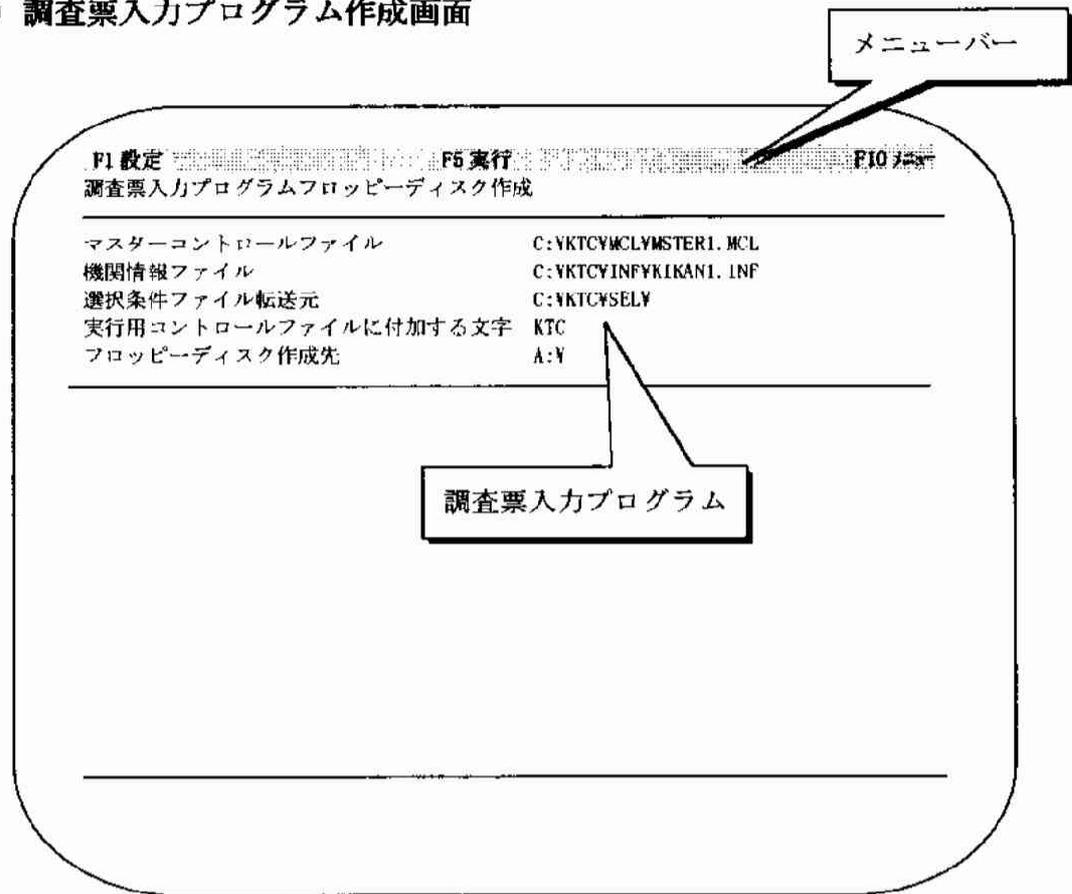


図2-27 調査票入力プログラム作成画面

3) 調査票入力プログラム作成環境の設定

ここでは、調査票入力プログラム作成するにあたり、必要とされる環境（マスターコントロールファイル、機関情報ファイル、選択条件ファイル転送元、実行用コントロールファイルに付加する文字、調査票入力プログラム作成先）の設定を行います。

設定方法

調査票入力プログラム作成画面から F1 キーを押すと、調査票入力プログラム作成環境設定モードに切り替わります。

カーソル移動キーで設定する項目を選択してリターンキーを押すと選択された項目の変更ができます。

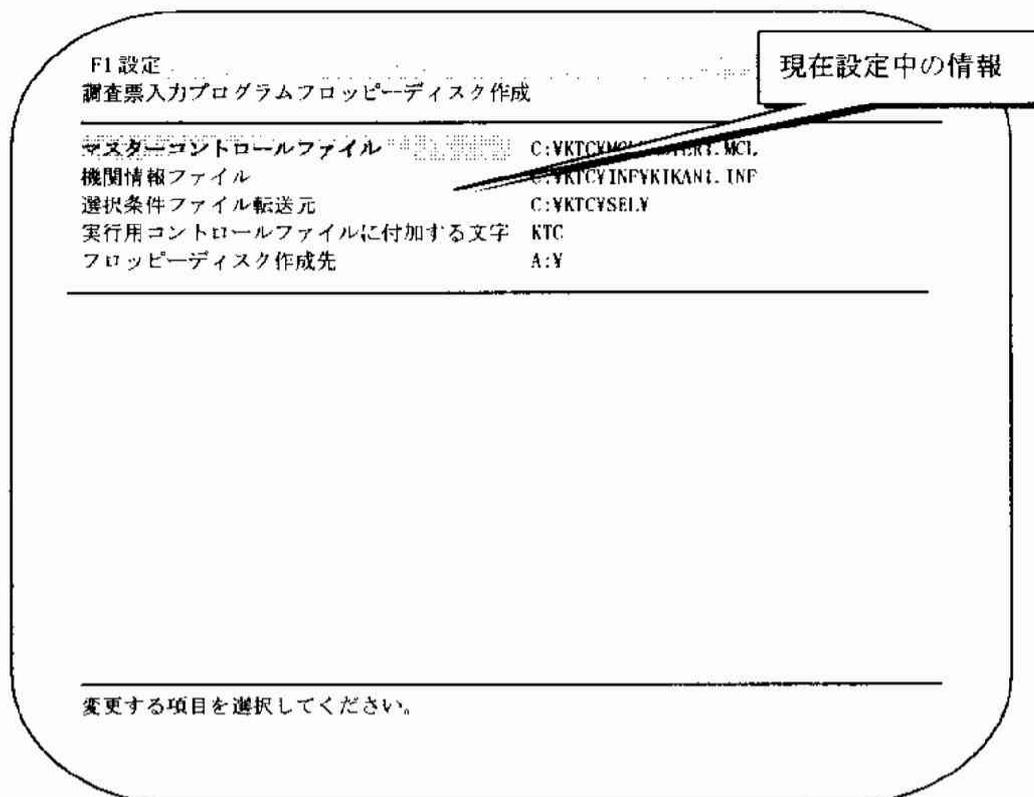


図2-28 調査票入力プログラム作成環境設定

マスターコントロールファイルの設定

調査票入力プログラム作成環境設定画面からカーソル移動キーでマスターコントロールファイルの項目を選択します。この時、選択されている項目は反転表示されます。リターンキーを押すと、表示されているディレクトリ内に存在する対象ファイル（拡張子がMCLのファイル）を検索して一覧表示します。一覧表示された内容から使用するマスタコントロールファイルを選択しリターンキーを押すとパス入力モードに切り替わりパスの変更が行えます。内容に問題が無い場合、リターンキーを再度押すと入力が完了します。

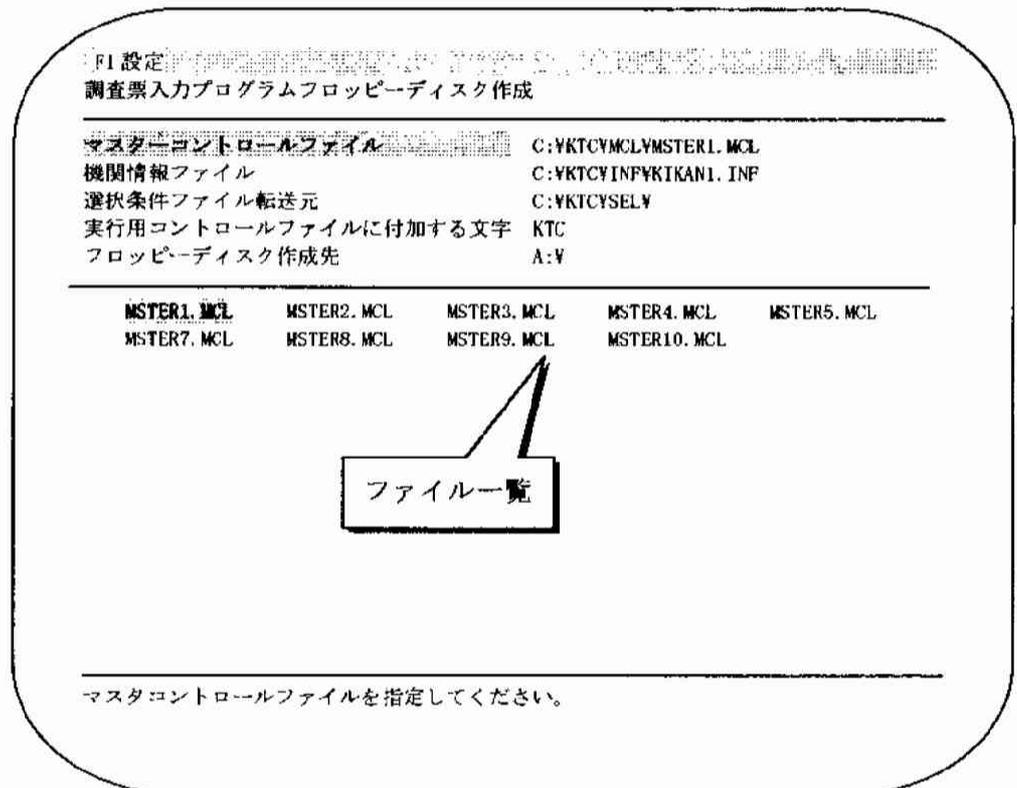


図2-29 マスタコントロールファイルの設定画面

機関情報ファイルの設定

調査票入力プログラム作成環境設定画面からカーソル移動キーで機関情報ファイルの項目を選択します。この時、選択されている項目は反転表示されます。リターンキーを押すと、表示されているディレクトリ内に存在する対象ファイル（拡張子がINFのファイル）を検索して一覧表示します。一覧表示された内容から使用する機関上情報ファイルを選択しリターンキーを押すとパス入力モードに切り替わりパスの変更が行えます。内容に問題が無い場合、リターンキーを再度押すと入力 completed します。

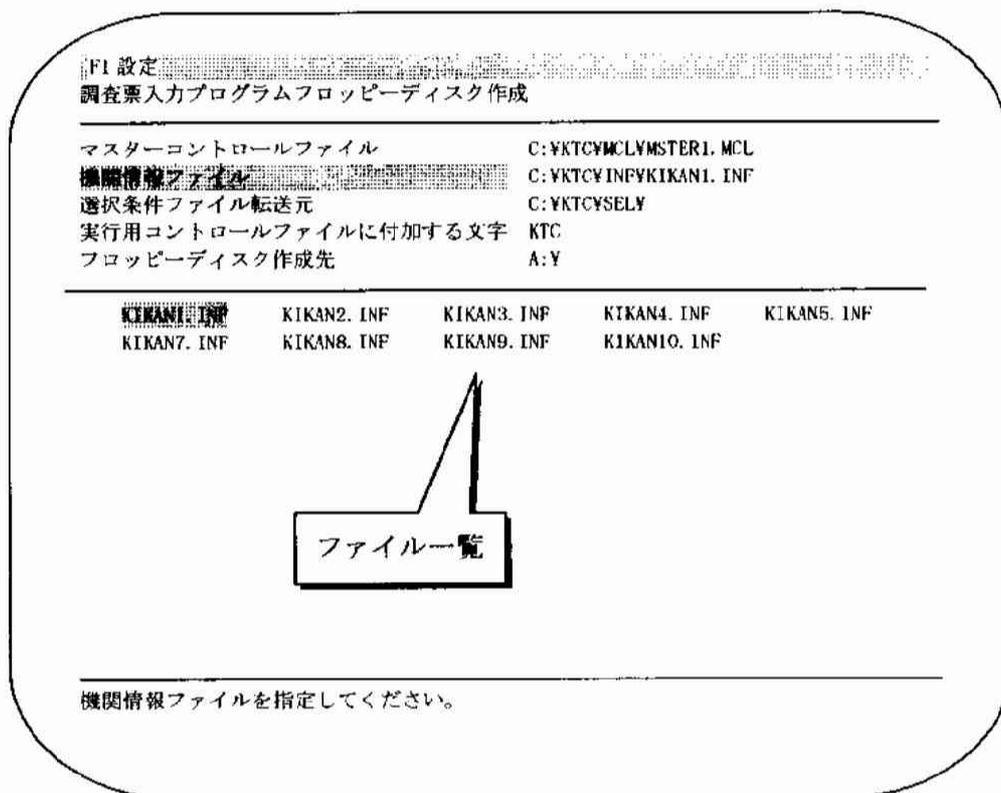


図2-30 機関情報ファイルの設定画面

選択条件ファイル転送元の設定

調査票入力プログラム作成環境設定画面からカーソル移動キーで選択条件ファイル転送元の項目を選択します。この時、選択されている項目は反転表示されます。リターンキーを押すと、表示されているディレクトリ内に存在する対象ファイル(拡張子がS.F.Lのファイル)を検索して一覧表示します。一覧表示された内容の選択条件ファイルをどれでもよいので選択しリターンキーを押すとパス入力モードに切り替わりパスの変更が行えます。内容に問題が無い場合、リターンキーを再度押すと入力完了します。ここでは選択条件ファイルそのものを設定するのではなく、選択条件ファイルと用語辞書の格納されているディレクトリを設定します。

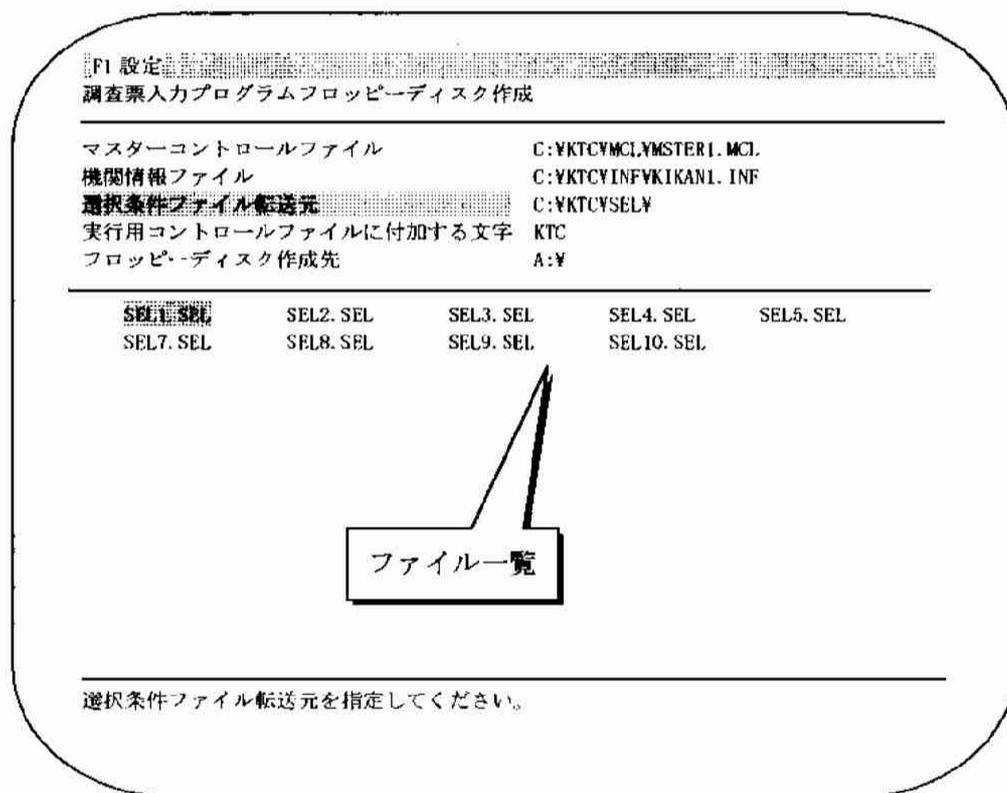


図2-31 調査票入力プログラム作成環境設定一覧選択画面

実行用コントロールファイルに付加する文字の設定

調査票入力プログラム作成環境設定画面からカーソル移動キーで実行用コントロールファイルに付加する文字の項目を選択します。リターンキーを押すと入力モードに切り替わり実行用コントロールファイルに付加する文字の設定ができます。この時の入力可能文字数は3文字です。内容に問題が無い場合、リターンキーを再度押すと入力が完了します。

実行用コントロールファイルとは、マスタコントロールファイルを解析した結果、作成されるファイルです。

例)

画面で設定した内容 : A B C

実行用このコントロールファイル名 : C x x x x A B C . CTL

x x x xは機関番号です。

ここに反映されます。

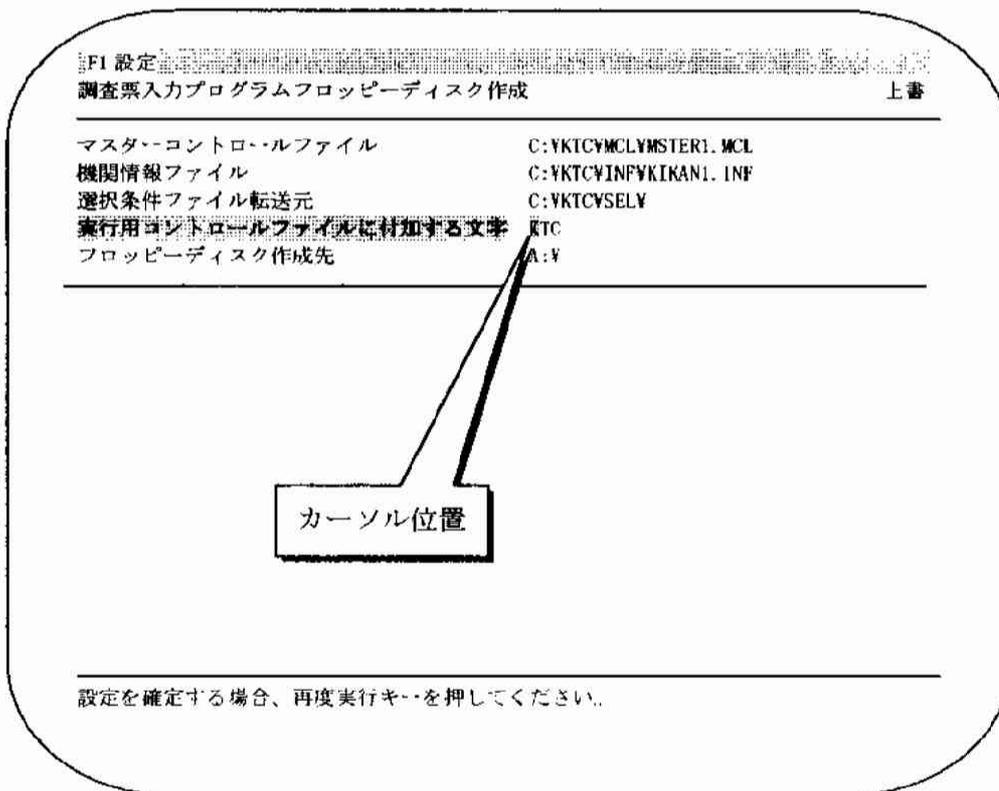


図2-32 実行用コントロールファイルに付加する文字の設定画面

調査票入力プログラム作成先の設定

調査票入力プログラム作成環境設定画面からカーソル移動キーでフロッピーディスク作成先の項目を選択します。リターンキーを押すと入力モードに切り替わりフロッピーディスクドライブの設定を行うことができます。内容に問題が無い場合、リターンキーを再度押すと入力完了します。

注) 調査票入力プログラム作成先を設定する場合、必ずフロッピーディスクドライブ (3.5インチまたは5インチのディスクドライブ) を設定してください。他のディスクドライブを入力しますとエラーメッセージが表示されます。

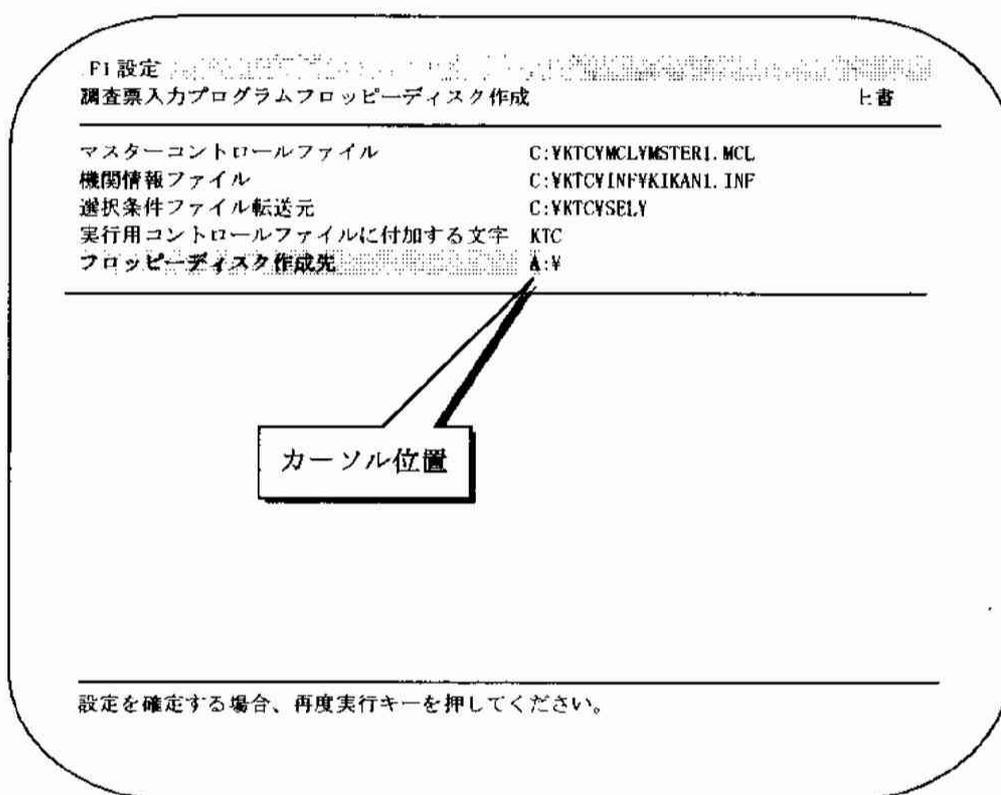


図2-33 調査票入力プログラム作成先の設定画面

調査票入力プログラム作成環境設定の終了

ESCキーを押すことによって調査票入力プログラム作成環境の設定モードを終了します。

4) マスタコントロールファイルの解析

マスタコントロールファイルは調査票入力プログラム作成画面でF5キーを押すことによって先ずマスタコントロールファイルの解析が行われます。解析終了後、調査票入力プログラムに実行用コントロールファイルとして格納されます。

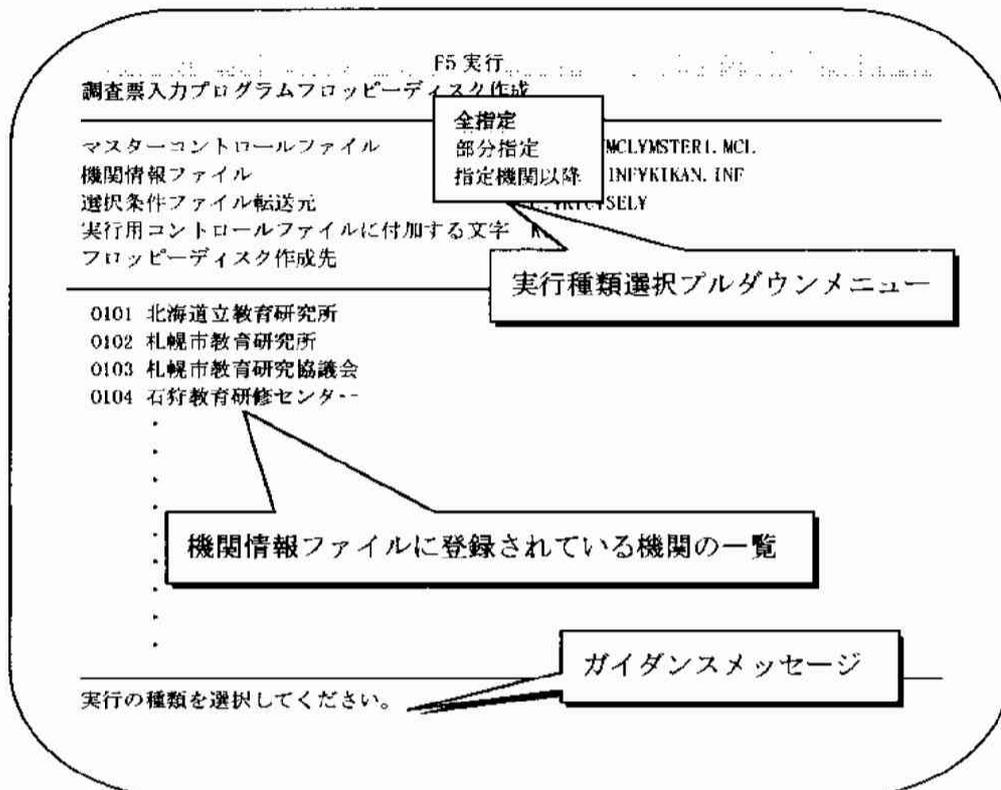


図2-34 調査票入力プログラム作成実行画面

(1) 全指定で調査票入力プログラム作成を実行

調査票入力プログラム作成実行画面から F5 実行を選択します。(この場合、F5 キーを押します。) 実行種類選択プルダウンメニューが表示され、カーソル移動キーで全指定を選択します。リターンキーを押すと、機関情報ファイルに登録されている機関の一覧の全機関にアスタリスク (*) が表示され、マスタコントロールファイルの解析が行われます。解析が完了すると調査票入力プログラムの作成を行います。(⇒調査票入力プログラム作成については、次の項目「5) 調査票入力プログラムの作成手順」をお読みください。)

(2) 部分指定で調査票入力プログラム作成を実行

調査票入力プログラム作成実行画面から F5 実行を選択します。(この場合、F5 キーを押します。) 実行種類選択プルダウンメニューが表示され、カーソル移動キーで部分指定を選択します。リターンキーを押すと、機関情報ファイルに登録されている機関の一覧の選択を行いますのでカーソル移動キーで対象となる機関を選択し、リターンキーを押してください。選択された機関にアスタリスク (*) が表示されます。選択が完了したら再度 F5 キーを押下しますとマスタコントロールファイルの解析が行われます。解析が完了すると調査票入力プログラムの作成を行います。(⇒調査票入力プログラム作成については、次の項目「5) 調査票入力プログラムの作成手順」をお読みください。)

(3) 指定機関以降で調査票入力プログラム作成を実行する。

調査票入力プログラム作成実行画面から F5 実行を選択します。(この場合、F5 キーを押します。) 実行種類選択プルダウンメニューが表示され、カーソル移動キーで指定機関以降を選択します。リターンキーを押すと、機関情報ファイルに登録されている機関の一覧の選択を行いますのでカーソル移動キーで対象となる機関を選択し、リターンキーを押してください。選択された機関の以降にアスタリスク (*) が表示され、マスタコントロールファイルの解析が行われます。解析が完了すると調査票入力プログラムの作成を行います。(⇒調査票入力プログラム作成については、次の項目「5) 調査票入力プログラムの作成手順」をお読みください。)

(4) 調査票入力プログラム作成の中断

調査票入力プログラム作成実行中にESCキーを押すと調査票入力プログラム作成処理を中止します。この時、中止の有無を聞いてきますので中止する場合はYキーを、中止しない場合はNキーを押してください。

マスタコントロールファイル解析エラー

マスタコントロールファイルの解析中のエラーが発生した場合、ガイドンスメッセージにエラー情報が表示されます。エラー内容を確認し、マスタコントロールファイルを修正してください。(⇒マスタコントロールファイルの修正については、「2. 2 調査票入力画面作成の考え方」をお読みください。) また、マスタコントロールファイル解析エラーについては以下の一覧に記載します。

文法エラー！ x x x x x
選択条件ファイルがありません！ x x x x x
用語ファイルがありません！ x x x x x
スコープの指定に異常があります！ x x x x x
条件の指定に異常があります！ x x x x x
メニュースコープが1つもありません！ x x x x x
メニュースコープに指定されていない処理スコープが存在します！ x x x x x
処理スコープが1つもありません！ x x x x x
タグファイルの指定がありません！ x x x x x
項目の指定がありません！ x x x x x
入力クラスの指定がありません！ x x x x x
格納長の指定がありません！ x x x x x
遷移先のメニュースコープがありません！ x x x x x
遷移先の処理スコープがありません！ x x x x x
遷移先のページスコープがありません！ x x x x x
遷移先の項目がありません！ x x x x x
スコープが重複しています！ x x x x x
項目が重複しています！ x x x x x
タグファイルの指定が重複しています！ x x x x x
入力クラスの指定が重複しています！ x x x x x
格納長の指定が重複しています！ x x x x x
タグファイルがシングルレコードです！ x x x x x
タグ番号重複しています！ x x x x x
タグ番号が連続していません！ x x x x x
記述できないスコープです！ x x x x x
レコードタイトルの指定が重複しています！ x x x x x
選択肢表示領域の指定が重複しています！ x x x x x
スコープ内の項目が多過ぎます！ x x x x x
用語ファイルの指定が重複しています！ x x x x x
遷移先の要素がありません！ x x x x x

注) x x x x xの箇所にはエラー情報 (スコープ情報、項目識別子、行番号) が表示されます。

5) 調査票入力プログラムの作成手順

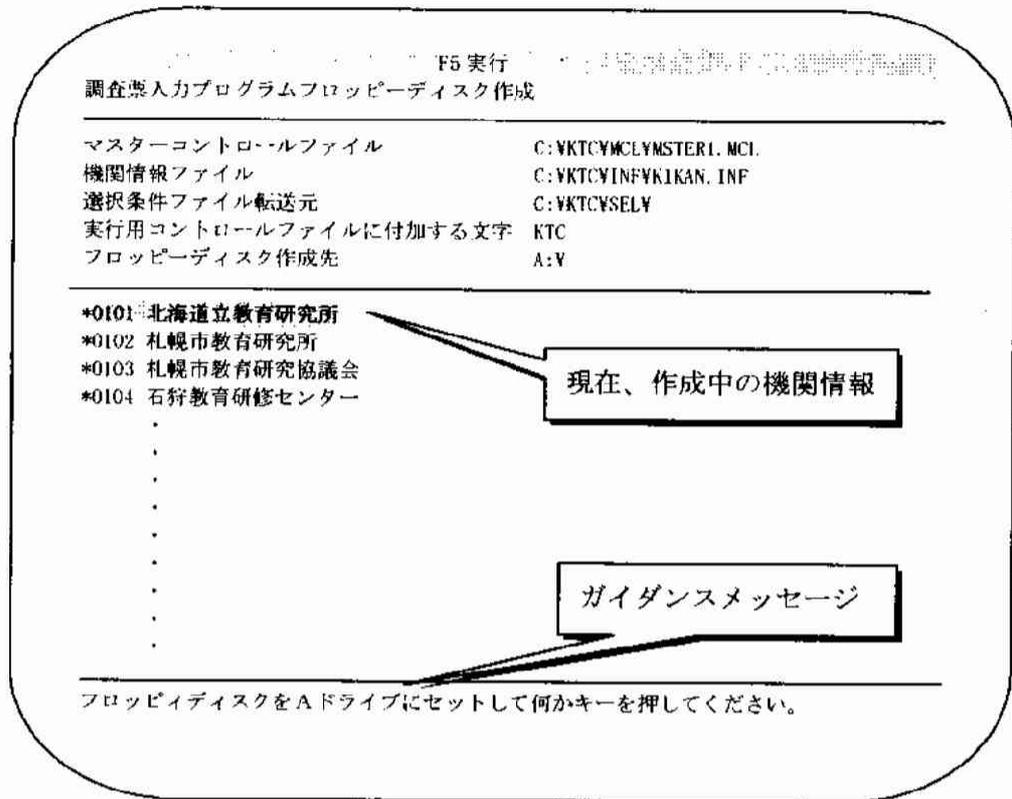


図2-35 調査票入力プログラム作成実行画面

作成用のfloppyディスクをディスクドライブに挿入する

調査票入力プログラム作成先に表示されているディスクドライブに空のfloppyディスクを挿入してください。挿入後、何かキーを押しますとfloppyディスクに必要な情報を設定していきます。この時、作成対象の機関情報は反転表示されます。設定完了後、次に設定する機関情報が存在する場合、次のfloppyディスクを要求するメッセージが表示されます。次に調査票入力プログラムを作成する機関が存在しない場合、調査票入力プログラムの作成の実行を終了します。

既に作成済の調査票入力プログラムを挿入した場合

既に作成済の調査票入力プログラムを挿入した場合、作成済のメッセージがガイダンスメッセージに表示されますので、別のfloppyディスクと交換してください。

フォーマット形式の異なるfloppyディスクを挿入した場合

フォーマット形式の異なるfloppyディスクを挿入した場合、フォーマットを行うか聞いてきますのでフォーマットする場合はYキー、フォーマットしないで別のfloppyディスクを挿入する場合はNキーを押してください。フォーマット完了後、調

調査票入力プログラムの作成を行います。

作成後の注意

調査票入力プログラムが作成できたら必ずラベルを貼り、調査内容、配布先、作成日等を記入してください。

6) 終了方法

F10 終了を選択します。(この場合、F10キーを押します。) 調査票入力プログラム作成支援システム初期画面が終了し、MS-DOSコマンドの画面に戻ります。

第3章 調査票入力プログラム作成支援システムの操作

(Windows版)

目次

3. 1 システム構成	6 0
3. 2 起動方法と終了方法	6 5
3. 3 プロジェクト管理	6 7
3. 4 機関情報設定	6 8
3. 5 調査票入力画面の作成	7 2
3. 6 配付プログラムフロッピー作成	7 3

3. 1 システム構成

調査票入力プログラム作成支援システム (Windows版:以下調査票入力プログラム作成支援システムと呼ぶ) は、Microsoft 社のOS、Windows95 上で動作します。

1) 起動前の準備

(1) 調査票入力プログラム作成支援システムの実行環境の設定

調査票入力プログラム作成支援システムを実行するために、以下の環境を設定します。

以下のプログラムを任意の位置 (ディレクトリ) に配置します。(但し、同一のフォルダ)

- 1) TesEf. exe.....調査票入力プログラム作成支援システム
- 2) TesGe. exe.....調査票入力画面エディタ
- 3) TesWdMgr. exe.....リソースコントローラ
- 4) TesComm. dll.....調査票入力プログラム作成支援システム用共通DLL
- 5) TesExMkr. dll.....実行用コントロールファイル作成DLL
- 6) TesSetMkr. dll.....リソース作成DLL
- 7) TesPpMgr. dll.....リソースプロパティ管理DLL
- 8) TesRCC32. EXE.....リソースコントロールDLL
- 9) TesFLC32. dll.....ファイル制御DLL
- 10) Entryfd. hlp.....調査票入力プログラム作成支援システム用ヘルプファイル
- 11) TesGe. hlp.....調査票入力画面エディタ用ヘルプファイル
- 12) OrgHlp. ini.....MS-DOS版基本ヘルプ用初期化ファイル
- 13) TesEf. ini.....調査票入力プログラム作成支援システム用初期化ファイル
- 14) TesGe. ini.....調査票入力画面エディタ用初期化ファイル
- 15) Lha. exe.....圧縮ツール(フリーソフト)

※圧縮ツールは吉崎榮泰氏作のLHA Ver2.13を使用しています。

上記のプログラムのあるフォルダの下に次のフォルダを作成し、必要なプログラムを格納します。

1. <InfData>

- 1) xxxxxxxx. inf...機関情報ファイル

※xxxxxxxは任意の名前

2. <WinAp>

- 1) Setup. exe.....Windows版調査票入力プログラムのインストール用プログラム
- 2) Setup. hlp.....Windows版調査票入力プログラムのインストール用プログラムのヘルプファイル

- 3) Nier.exe.....Windows版調査票入力プログラム
- 4) TesSub.exe.....Windows版調査票入力補助ツール
- 5) TesSub.hlp.....Windows版調査票入力補助ツールのヘルプファイル
- 6) Nierback.exe...Windows版調査票入力データ回収ツール
- 7) TesRCC16.dll...リソースコントロールDLL
- 8) TesFLC16.dll...ファイル制御DLL

3. <DosAp>

- 1) Install.exe.....MS-DOS版調査票入力プログラムのインストール用プログラム
- 2) Readist.doc.....MS-DOS版調査票入力プログラムのインストール用プログラムのヘルプファイル
- 3) Cem.exe.....MS-DOS版調査票入力用システムメニュー
- 4) Cea.exe.....MS-DOS版調査票入力プログラム
- 5) Cea.hlp.....MS-DOS版調査票入力プログラムのヘルプファイル
- 6) Ceclct.exe.....MS-DOS版調査票入力データ回収ツール
- 7) CNVT.exe.....MS-DOS版調査票入力データのCSVファイルコンバータ
- 8) Lha.exe.....圧縮ツール (フリーソフト)
- 9) Lha.doc.....圧縮ツールのヘルプファイル (フリーソフト)

※圧縮ツールは吉崎栄泰氏作のLHA Ver2.13を使用しています。

4. <TagData>

ここに以前の調査票データを格納しておく、調査票入力プログラムフロッピー作成時に以前の調査票データを配付プログラムフロッピー内に格納します。

5. <Temp>

配付プログラムフロッピーを作成する時に使用するワーク領域です。

(2) 調査票入力プログラム作成支援システム用初期化ファイルの内容変更

次に、調査票入力プログラム作成支援システムを実行させるために作成した環境に合わせて、調査票入力プログラム作成支援システム用初期化ファイル (TesEf.ini) の内容を変更します。

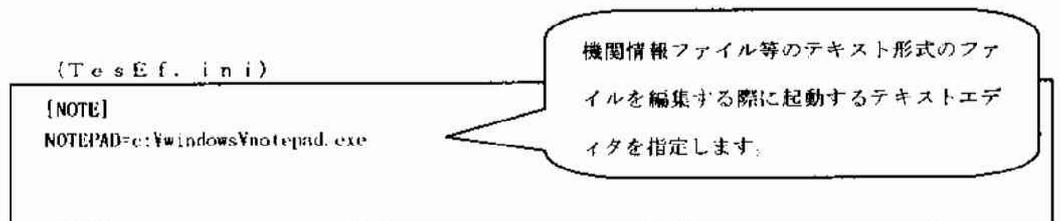


図3-1 システムの初期化ファイル (つづく)

```
[WIN]
;---旧タグファイル格納パス
TAGPATH= X:\XXXXXXXX TagData\

;---調査票入力プログラム
ENTRY= X:\XXXXXXXX\WinAp\Nier.exe

;---インストール用プログラム
SETUP= X:\XXXXXXXX WinAp\setup.exe

;---インストール用プログラムのヘルプファイル
SETUPHELP= X:\XXXXXXXX WinAp\setup.hlp

;---調査票入力データ回収ツール
RECOVERY=X:\XXXXXXXX WinAp\NierBack.exe

;---調査票入力補助ツール
ASSISTANCE= X:\XXXXXXXX WinAp\TesSub.exe

;---調査票入力補助ツールのヘルプファイル
ASSHELP= X:\XXXXXXXX WinAp\TesSub.Hlp

;---リソースコントロールDLL
RCC= X:\XXXXXXXX WinAp\TesRCC16.Dll

;---ファイル制御DLL
FLC= X:\XXXXXXXX WinAp\TesFLC16.Dll
```

Windows版調査票入力プログラムフロッピーを作成する際に使用するプログラムやドキュメントを指定します。
※ X:\XXXXXXXX は、ドライブとフォルダです。

```
[DOS]
;---旧タグファイル格納パス
TAGPATH= X:\XXXXXXXX \TagData\

;---調査票入力用システムメニュー
SYSTEM= X:\XXXXXXXX \DosAp\CEM.EXE

;---調査票入力プログラム
ENTRY= X:\XXXXXXXX \DosAp\VEA.EXE

;---インストール用プログラム
SETUP= X:\XXXXXXXX \DosAp\install.exe

;---インストール用プログラムのヘルプファイル
SETUPHELP= X:\XXXXXXXX \DosAp\readist.doc

;---調査票入力データCSVファイルコンバータ
MACHINE= X:\XXXXXXXX \DosAp\Cvt.exe

;---調査票入力データ回収ツール
RECOVERY= X:\XXXXXXXX \DosAp\Cec1ct.exe

;---調査票入力補助ツール
ASSISTANCE= X:\XXXXXXXX \DosAp\Cetool.exe

;---圧縮ツール
LHA= X:\XXXXXXXX \DosAp\lha.exe
LHADOC= X:\XXXXXXXX \DosAp\lha.doc
```

MS-DOS版調査票入力プログラムフロッピーを作成する際に使用するプログラムやドキュメントを指定します。
※ X:\XXXXXXXX は、ドライブとフォルダです。

```
[TEMP]
;<テンポラリー>
;---ワーク領域のパス
TEMPPATH= X:\XXXXXXXX YTEMPY
```

調査票入力プログラムフロッピーを作成する際に使用するワーク領域を指定します。
※ X:\XXXXXXXX は、ドライブとフォルダです。

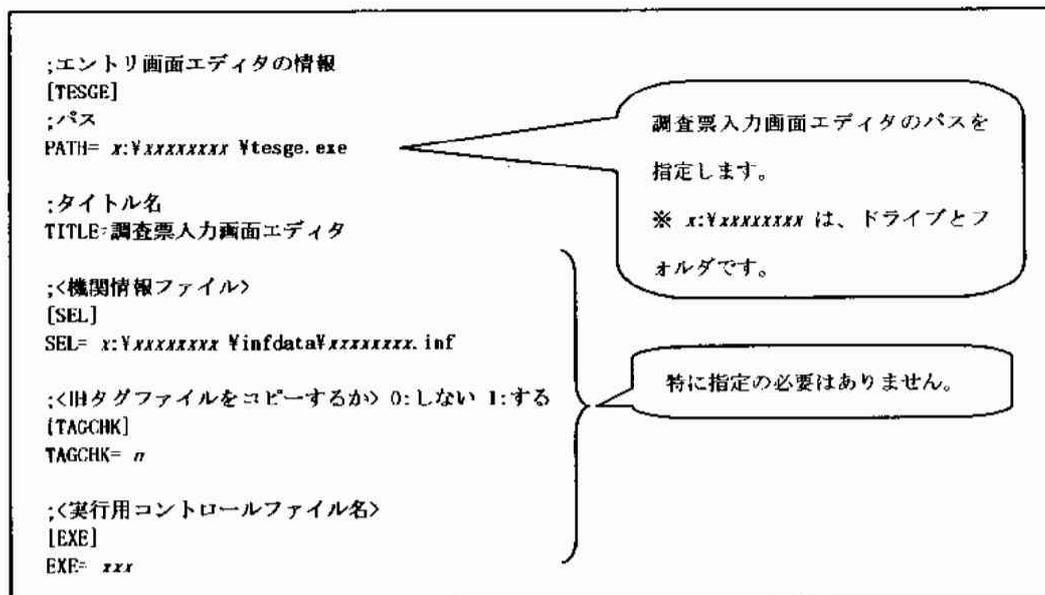


図3-1 システムの初期化ファイル

(3) 調査票入力画面エディタ用初期化ファイルの内容変更

次に、調査票入力画面エディタ用初期化ファイル (TesGe.ini) の内容を、調査票入力プログラム作成支援システムを実行させるために作成した環境に合わせて変更します。

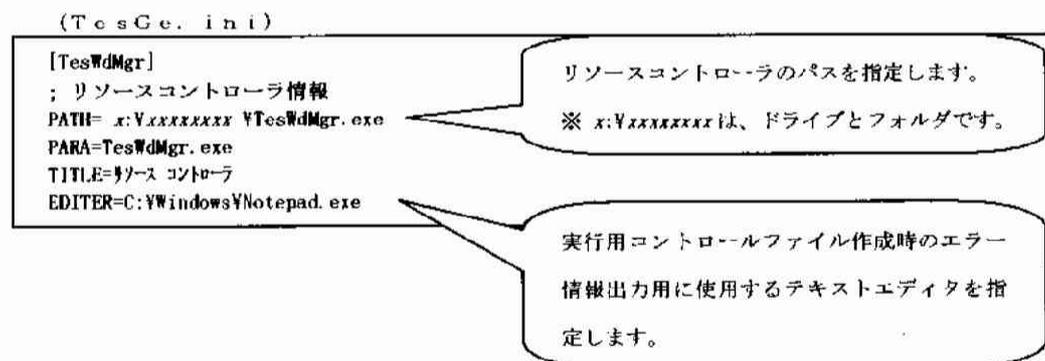


図3-2 調査票入力画面エディタ用初期化ファイル

2) 調査票入力プログラム作成支援システムのショートカットの作成

調査票入力プログラム作成支援システムの起動前の準備ができましたら、調査票入力プログラム作成支援システムのショートカットの作成を行います。

調査票入力プログラム作成支援システムのショートカットの作成は次の手順で行います。

1. Windows 95の「スタート」ボタンを右クリックします。次に「エクスプローラ」を左クリックしてエクスプローラを起動します。

2. エクスプローラから調査票入力プログラム作成支援システム (T e s E 「. e x e) を選択してエクスプローラのメニューバーの「編集」を左クリックし、プルダウンメニューの中の「コピー」を左クリックします。
3. エクスプローラから以下のフォルダを開きます。
C : \ W i n d o w s \ S t a r t M e n u \ P r o g r a m
4. エクスプローラのメニューバーの「編集」を左クリックし、プルダウンメニューの中の「ショートカットの貼り付け」を左クリックします。

3. 2 起動方法と終了方法

1) 起動方法

Windows版調査票入力プログラム作成支援システムを起動するにはWindows 95の「スタート」ボタンを左クリックし、「スタート」メニューを表示します。「スタート」メニュー中の「プログラム」をポイントしすると「プログラム」の一覧が表示されるので、その中にある「TesEf.exeへのショートカット」を左クリックします。

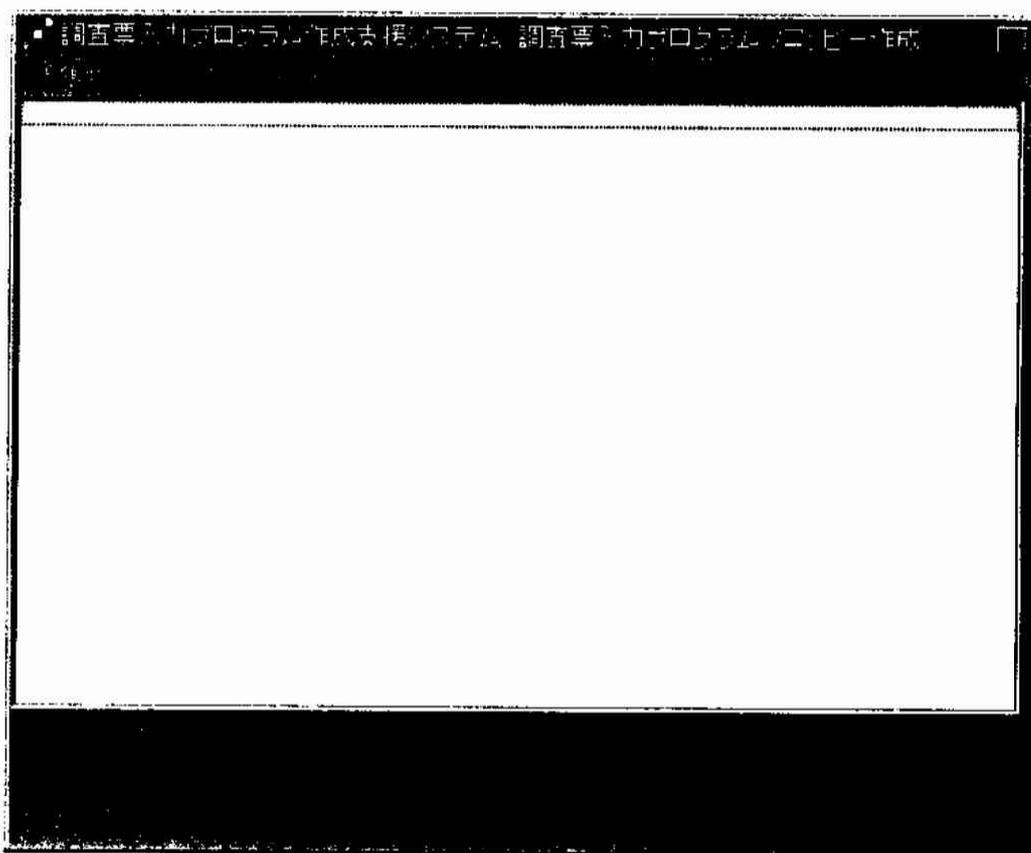


図3-3 Windows版調査票入力プログラム作成支援システム初期画面

2) 終了方法

Windows版調査票入力プログラム作成支援システムを終了するには調査票入力プログラム作成支援システムのメニューバーから「ファイル」を左クリックしてプルダウンメニューの中の「終了」を左クリックします。調査票入力プログラム作成支援システムを終了する際に調査票入力画面エディタが起動中の場合は終了しませんので調査票入力画面エディタを終了させてから調査票入力プログラム作成支援システムを終了するようにしてください。



図3-4 Windows版調査票入力プログラム作成支援システムの終了

3.3 プロジェクト管理

Windows版調査票入力プログラム作成支援システムではプロジェクトという考えをもっています。プロジェクトとは1回の調査票入力プログラムの作成でフロッピーディスクに格納される調査票群を意味します。プロジェクトとして調査票群を管理することによってアンケートの目的別に調査票入力プログラムを作成することができます。例えば、「旅行に関するアンケート」とか「医療に関するアンケート」というように大きな枠のなかでそれに関係する個々の調査票を作成していくことができます。

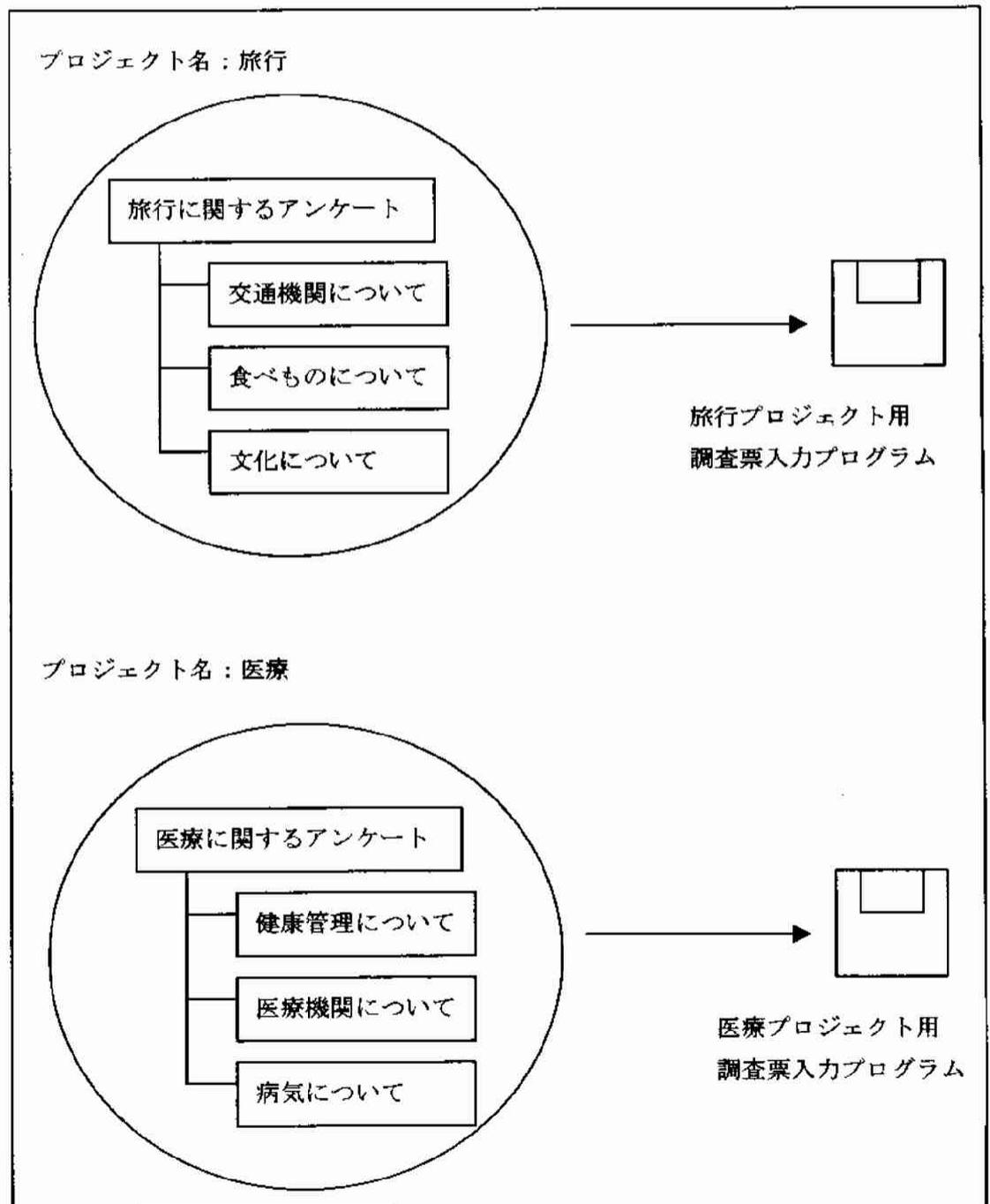


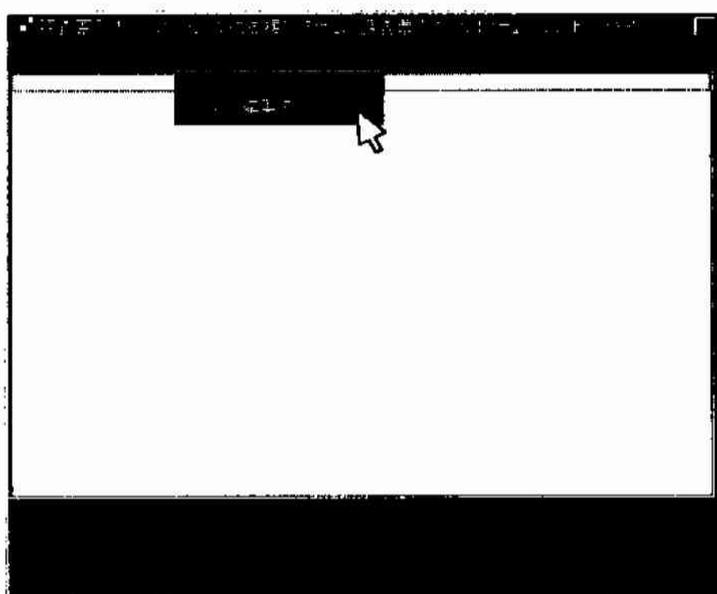
図3-5 プロジェクト

3.4 機関情報設定

機関情報ファイルとは配布先を管理するファイルです。

1) 機関情報ファイルの作成

機関情報ファイルの作成を行うためには先ずテキストエディタを起動します。調査票入力プログラム作成画面のメニューバーから「Tool」を左クリックしてプルダウンメニューの中の「ファイル編集」を左クリックします。すると調査票入力プログラム作成支援システム用初期化ファイル (T e s E f . i n i) で指定したテキストエディタが起動されます。ここではテキストエディタとしてメモ帳 (n o t e p a d . e x e) を例に説明します。



(起動されたメモ帳)

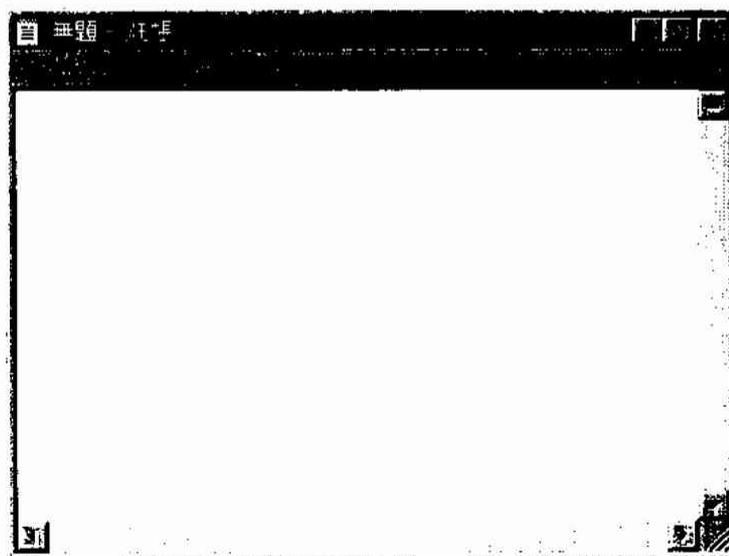


図3-6 テキストエディタの起動

機関情報ファイルの内容は管理番号と配布先名称で構成されますので例の様にメモ帳に入力します。

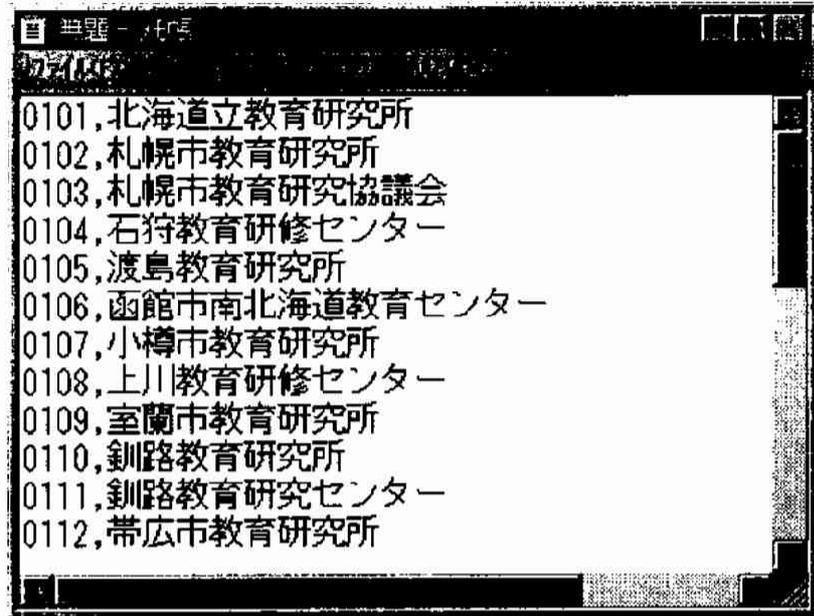


図3-7 機関情報ファイルの例

※1つの配布先を1行で入力します。管理番号は半角数字で4桁固定です。

配布先名称は全角で最大25文字までです。

配布先の入力が終わりましたらメモ帳のメニューバーの「ファイル」を左クリックしてプルダウンメニューの中の「名前を付けて保存」を左クリックします。そうすると保存先のフォルダとファイル名を指定するウィンドウが表示されるので `InfData` というフォルダを開いてその中にファイル名を指定して「保存」ボタンを左クリックします。機関情報ファイルのファイル名は `xxxxxxx.INF` (`xxxxxxx` は任意の名前) とします。

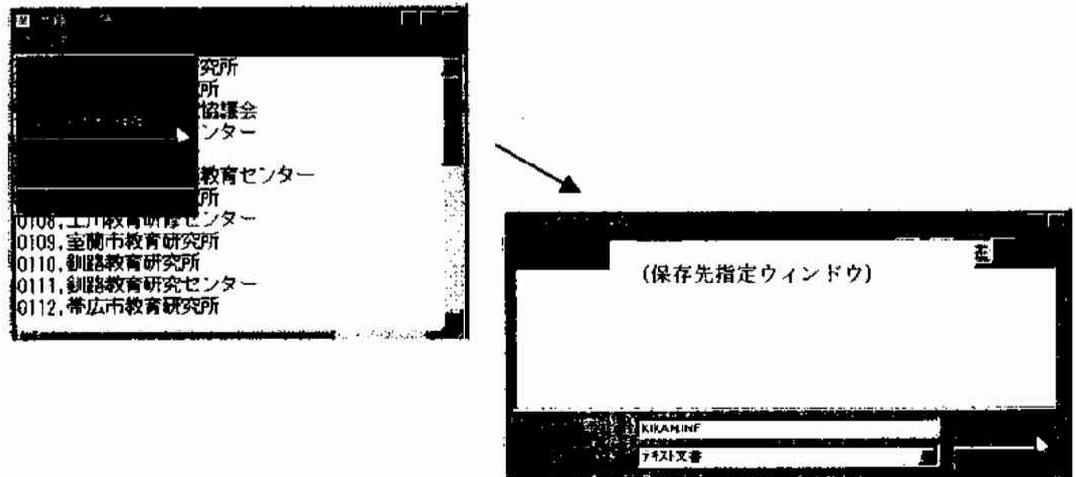


図3-8 機関情報ファイルの保存

機関情報ファイルの保存が終了しましたらメモ帳を終了します。終了方法は、メモ帳のメニューバーの「ファイル」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「メモ帳の終了」を左クリックします。

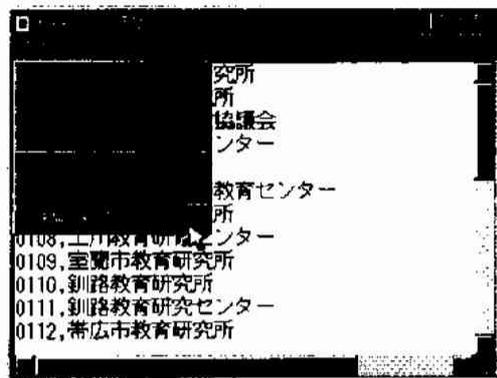


図3-9 メモ帳の終了

2) 機関情報ファイルを調査票入力プログラム作成支援システムに読み込ませる

作成した機関情報ファイルを調査票入力プログラム作成支援システムに読み込ませることによって配布先に対する調査票入力プログラムを作成することができます。

調査票入力プログラム作成画面のメニューバーから「ファイル」を左クリックしてプルダウンメニューの中の「機関情報」を左クリックします。すると読み込み先のフォルダとファイル名を指定する機関情報選択ウィンドウが表示されるので `InfData` というフォルダを開いてその中にファイル名を指定して「OK」ボタンを左クリックします。

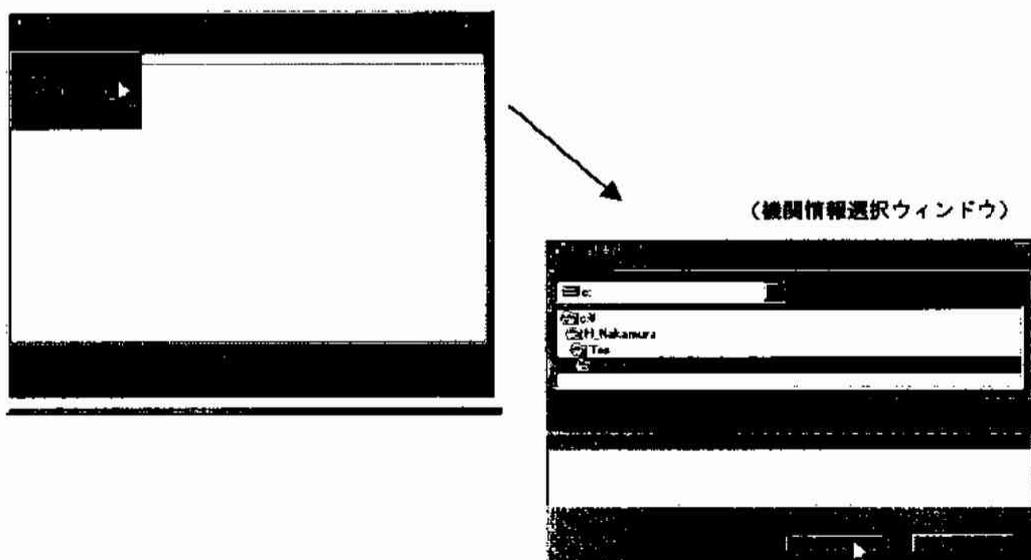


図3-10 機関情報ファイルの読み込み

機関情報ファイルが読み込まれると、読み込んだ機関情報の内容が表示されます。

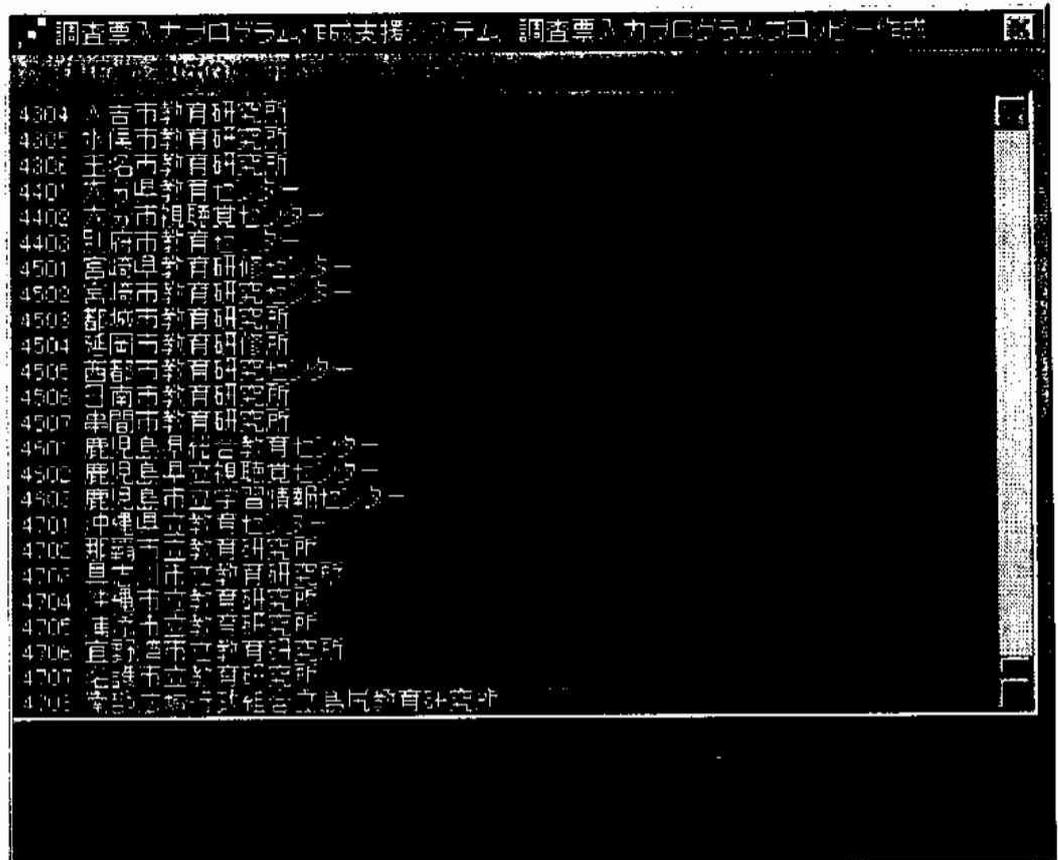


図3-11 機関情報ファイルの内容表示

3.5 調査票入力画面の作成

次は、調査票入力画面の作成になります。調査票入力画面の作成は、調査票入力画面エディタで作成します。

具体的な調査票入力画面の作成方法については「第4章 調査票入力画面エディタ」をお読みください。

作業の流れは、以下のようになります。

1) 調査票入力画面エディタの起動

⇒ 調査票入力画面エディタの起動方法については、「4.2 起動方法と終了方法」をお読みください。

2) 調査票入力画面の作成

調査票の入力画面を作成します。

⇒ 作成方法については、「4.3 リソースの作成」をお読みください。

3) 調査票入力画面のシミュレート

作成した調査票入力画面をシミュレートとしてみます。エラーがある場合には、修正が必要になります。

⇒ シミュレーションの仕方については、「4.6 シミュレーション」を、修正作業については、「4.4 部品の編集」及び「4.5 リソースの削除」をお読みください。

4) 調査票入力画面の保存

完成した調査票入力画面を保存します。

⇒ 保存については、「4.7 プロジェクトの保存」をお読みください。

5) 実行用コントロールファイルの作成

配付用の調査票プログラムを作成します。

⇒ 保存については、「4.10 実行用コントロールファイルの作成」をお読みください。

6) 調査票入力画面エディタの終了

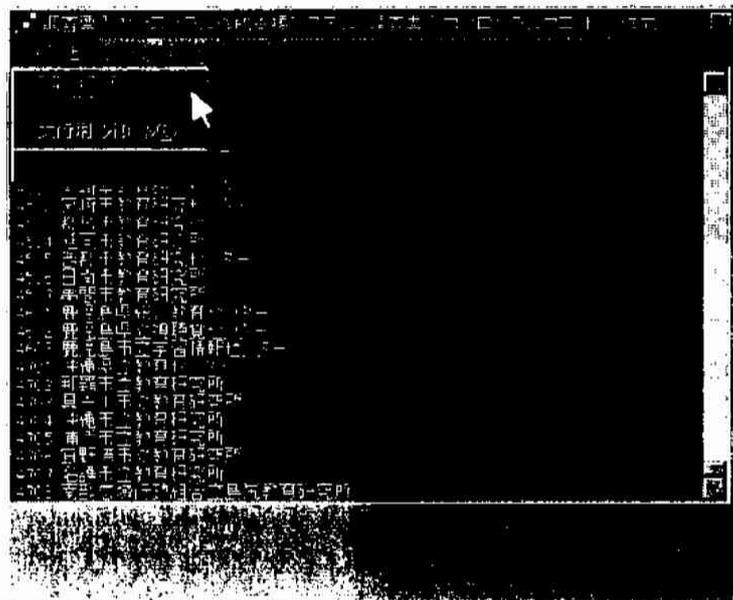
⇒ 調査票入力画面エディタの終了方法については、「4.2 起動方法と終了方法」をお読みください。

3.6 調査票入力プログラム作成

ここでは調査票入力画面エディタで作成で作成したプロジェクトを調査票入力プログラムに書き込む作業を説明します。

1) プロジェクトの選択

先ずプロジェクトの選択を行います。調査票入力プログラム作成支援システムのメニューバーから「ファイル」を左クリックしてプルダウンメニューの中の「プロジェクト」を左クリックします。するとプロジェクト選択ウィンドウが表示されるので調査票入力プログラムに書き込むプロジェクトを選択して「OK」ボタンを左クリックします。



(プロジェクト選択ウィンドウ)

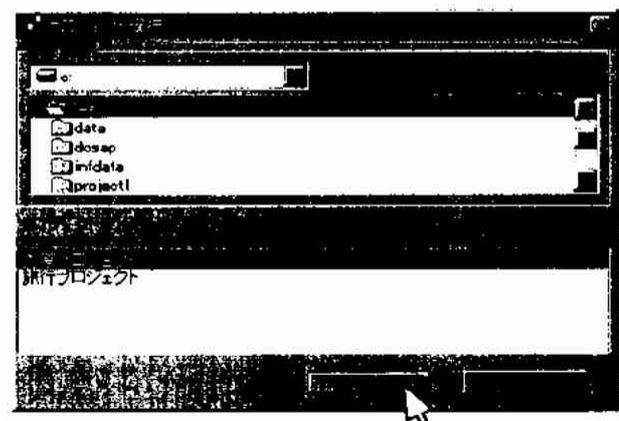
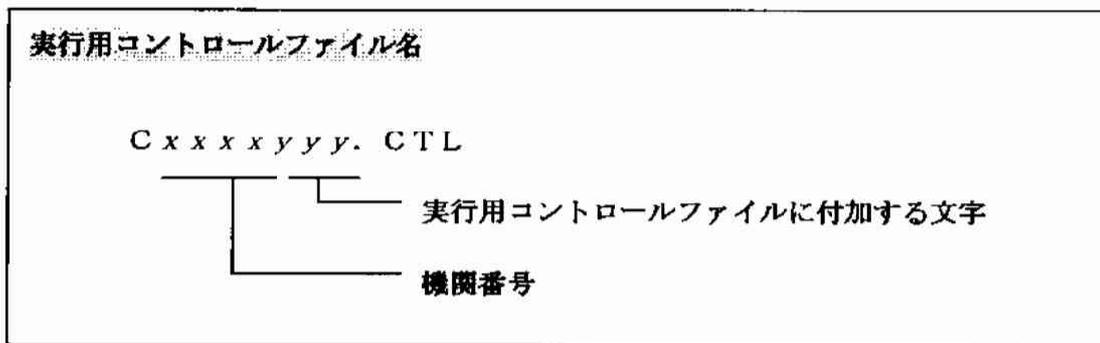


図3-12 プロジェクトの選択

2) 実行用コントロールファイルに付加する文字の設定

実行用コントロールファイルとは、調査票入力画面エディタで作成した調査票入力画面を配布先で実行させるためのファイルです。ファイル名は「Cxxxxyyy. CTL」となっています。xxxxは配布先を管理する機関番号です。ここでいう実行用コントロールファイルに付加する文字とはyyyを指します。



設定方法は、調査票入力プログラム作成支援システムのメニューバーから「ファイル」を左クリックしてプルダウンメニューの中の「実行用コントロール」を左クリックします。すると実行用コントロールファイルに付加する文字の入力ウィンドウが表示されます。3文字以内の文字列を入力して「OK」ボタンを左クリックします。



(実行用コントロールファイルに付加する文字の入力ウィンドウ)

実行用コントロールファイルに付加
する文字を入力する



図3-13 実行用コントロールファイルに付加する文字の設定

3) 配布先の選択

表示されている配布先の中から調査票入力プログラムを作成する配布先を選択します。反転表示されている配布先が調査票入力プログラムを作成する対象となります。調査票入力プログラム作成支援システム起動直後および機関情報ファイル選択直後はすべての機関が配布先の対象となっています。

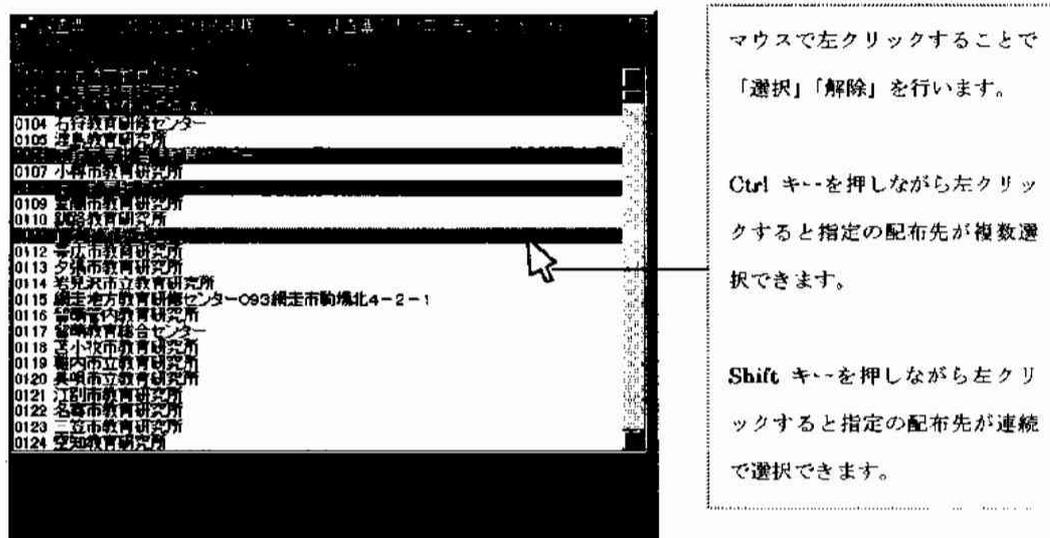


図3-14 配布先の選択

4) 調査票入力プログラムの作成実行

プロジェクトと配布先が決まったら、調査票入力プログラム作成支援システムのメニューバーから「実行」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「WindowsAP」か「DosAP」を左クリックします。Windows版調査票入力プログラム作成ではWindows95版とMS-DOS版の調査票入力プログラムを作成することができます。なお前回の調査票入力データを調査票入力プログラムに添付したい場合は、「旧データファイルをコピー」をマウスの左クリックで予めチェックします。

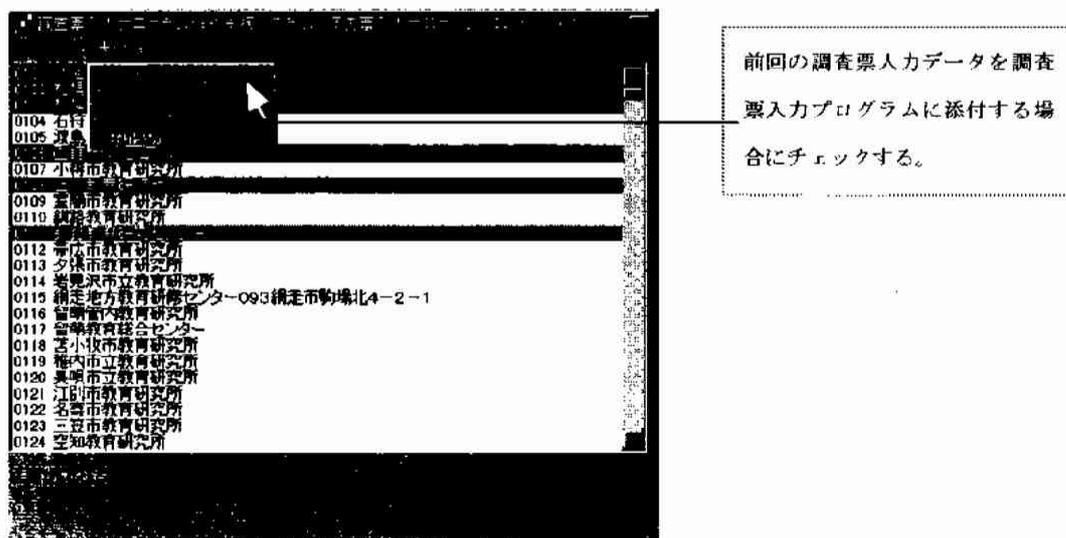


図3-15 調査票入力プログラム作成の実行

「WindowsAP」か「DosAP」かどちらかの調査票入力プログラム作成の実行を行うと調査票入力プログラムを作成するドライブを設定するウィンドウが表示されます。そこでフロッピーディスクドライブを指定して「OK」ボタンを左クリックします。すると確認のメッセージボックスが表示されますので、「OK」で調査票入力プログラムの作成を続行します。「キャンセル」で調査票入力プログラムの作成を中止します。

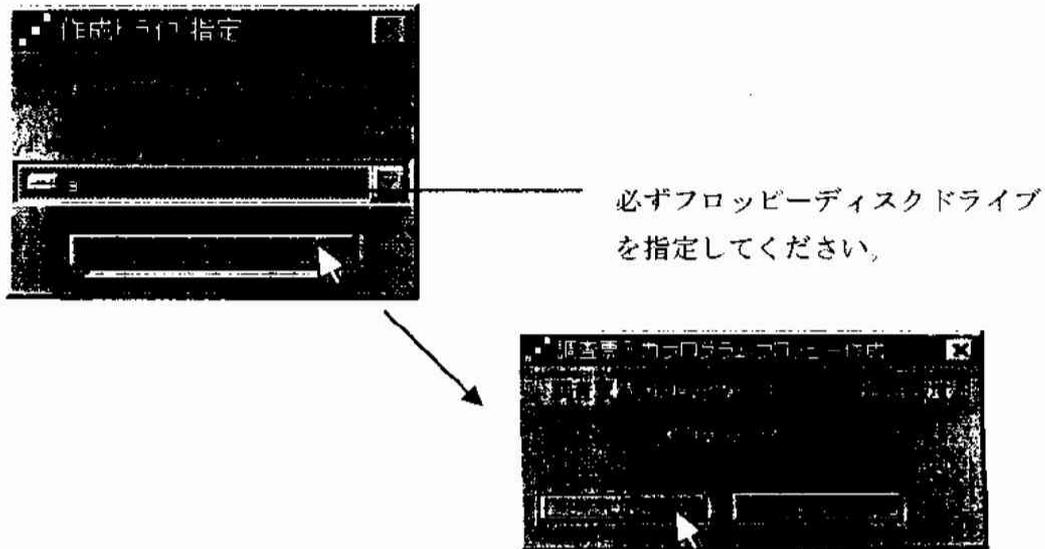


図3-16 調査票入力プログラムの作成ドライブの設定

1 機関分の調査票入力プログラムの作成が終了しますと次の機関の調査票入力プログラムを作成するためにフロッピーディスクの交換を要求するメッセージが表示されますのでフロッピーディスクを交換し、「OK」で調査票入力プログラムの作成を続行します。「キャンセル」で調査票入力プログラムの作成を中止します。

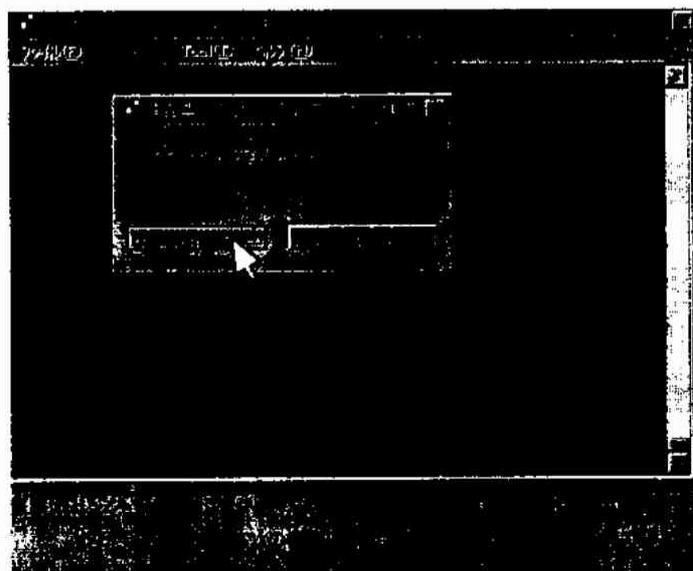


図3-17 フロッピーディスク交換要求

第4章 調査票入力画面エディタ

目次

4. 1	プロジェクトの考え方	78
4. 2	起動方法と終了方法	79
4. 3	リソースの作成	81
4. 4	部品の編集	114
4. 5	リソースの削除	115
4. 6	シミュレーション	116
4. 7	プロジェクトの保存	117
4. 8	プロジェクトの読み込み	121
4. 9	プロジェクトの印刷	123
4. 10	実行用コントロールファイルの作成	124

4.1 プロジェクトの考え方

調査票入力画面エディタではプロジェクトという枠のなかで調査票入力画面を管理しています。プロジェクトの中には次のようなリソース（調査票入力画面を構成する資源）があります。

1. メニューリソース メニュー画面
2. 調査票入力画面リソース 調査票入力画面
3. 選択条件リソース 調査票入力画面の選択入力に使用する選択枝情報
4. 用語辞書リソース 調査票入力画面の参照入力に使用する用語集情報
5. ヘルプリソース メニュー画面および調査票入力画面の説明情報

調査票入力画面を作成するという事はリソースを作成し、各リソースを関連付けすることによって行われます。

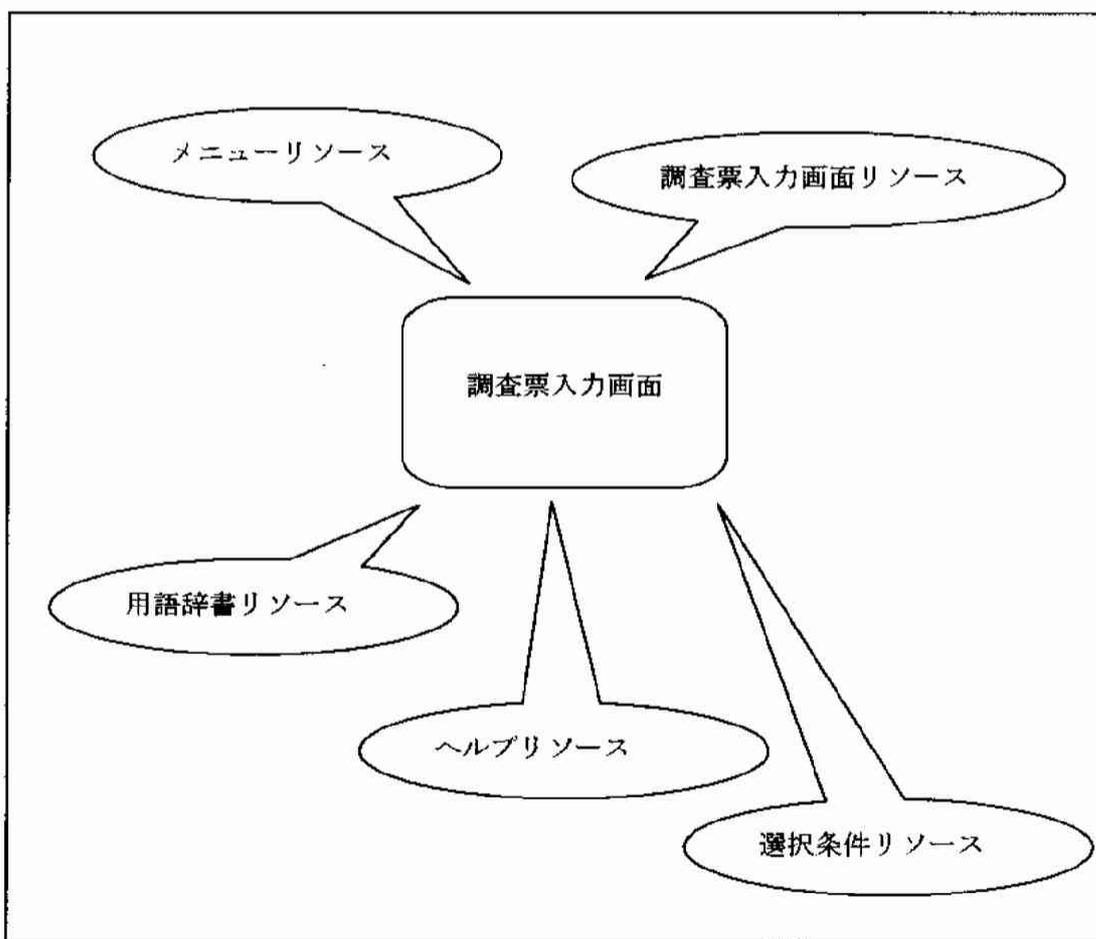


図4-1 プロジェクトを構成するリソース

4. 2 起動方法と終了方法

ここでは調査票入力画面エディタの起動方法と終了方法を説明します。

1) 調査票入力画面エディタの起動方法

調査票入力画面エディタを起動するには、調査票入力プログラム作成支援システムのメニューバーから「Tool」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「調査票入力画面エディタ」を左クリックします。

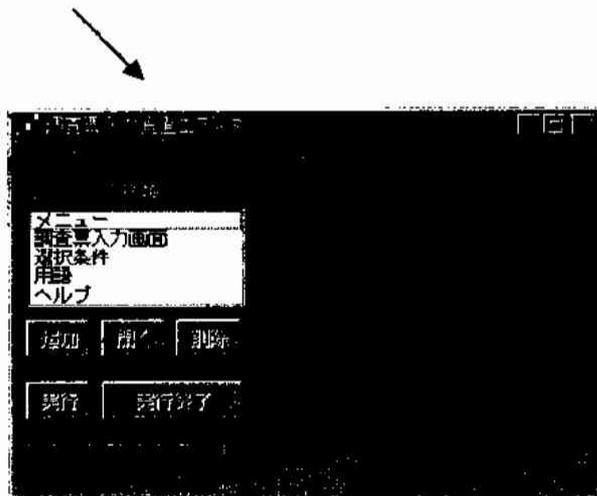
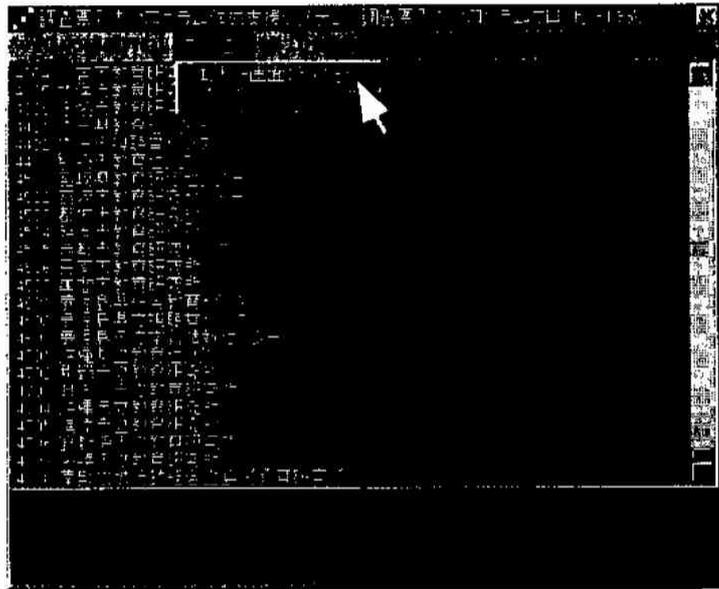


図4-2 調査票入力画面エディタの起動

2) 調査票入力画面エディタの終了方法

調査票入力画面エディタを終了するには、調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「ファイル」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「終了」を左クリックすると調査票入力画面エディタを終了します。

終了の際にプロジェクトが保存されていない場合は、保存確認ウィンドウが表示されます。「はい」ボタンを左クリックすると保存を行ってから終了します。「いいえ」ボタンを左クリックすると保存をせずに終了します。「キャンセル」ボタンを左クリックすると調査票入力画面エディタの終了を取り消します。



プロジェクトが保存されていない場合

(保存確認ウィンドウ)



図4-3 調査票入力画面エディタの終了

4.3 リソースの作成

ここでは、各リソースの作成の仕方について説明します。

1) メニューリソースの作成

メニューリソースは調査票入力画面を呼び出すためのメニュー画面の情報です。

新規のメニューリソースを作成するには、調査票入力画面エディタ画面中に表示されているリソースの種類から「メニュー」を選択します。次に「追加」ボタンを左クリックします。するとメニューリソースの追加ウィンドウが表示されるので「新規」をチェックして「OK」ボタンを左クリックします。

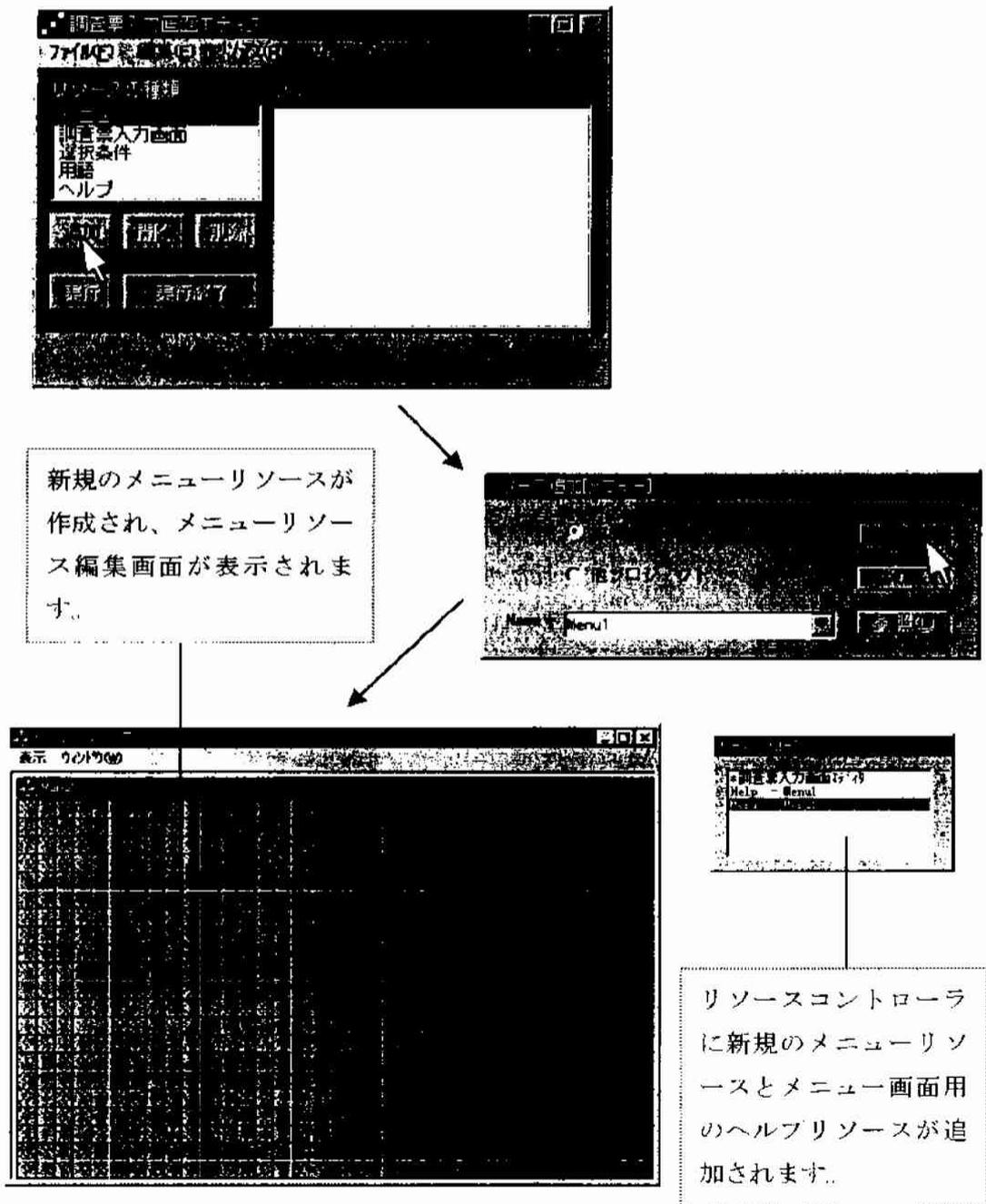


図4-4 新規メニューリソースの作成

メニュー画面の編集

メニューリソースは次の部品で構成されます。

1. フォーム・・・メニュー画面のフレームです。ここにラベルやボタンを貼り付けます。
2. ラベル・・・メニュー画面のフレームに文字列を表示するのに使用します。
3. ボタン・・・メニュー画面から他のメニュー画面や調査票入力画面に遷移させるために使用します。

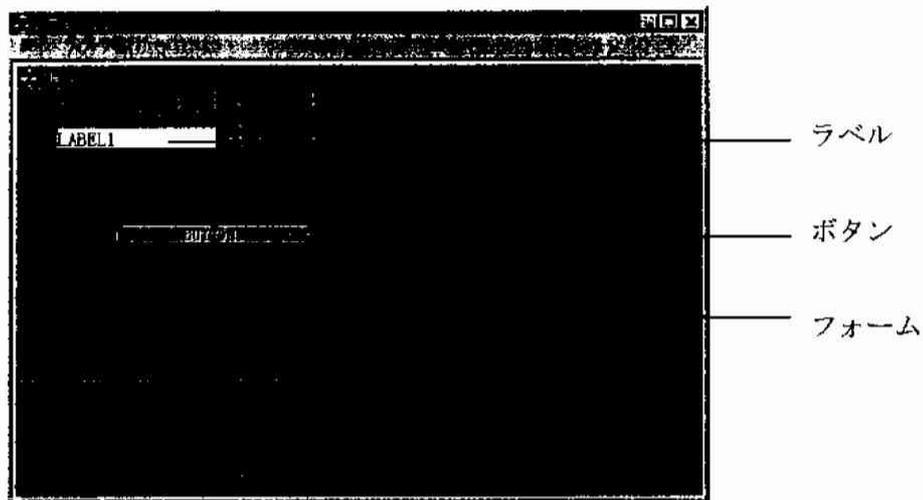
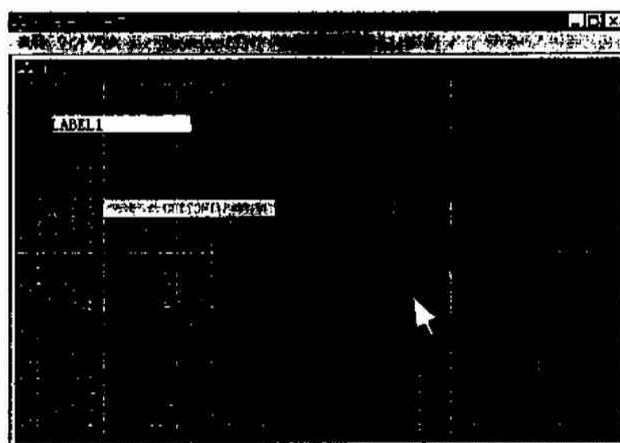


図4-5 メニューリソースを構成する部品

編集画面上で右クリックするとメニューリソースのプロパティが表示されます。プロパティとはリソースを構成する部品の固有の情報です。フォームを左クリックで選択した後で右クリックするとフォームのプロパティを、ラベルを左クリックで選択した後で右クリックすると選択されたラベルのプロパティを、ボタンを左クリックで選択した後で右クリックすると選択されたボタンのプロパティが表示されます。



ここを左クリックした後で右クリックするとフォームのプロパティを表示します。

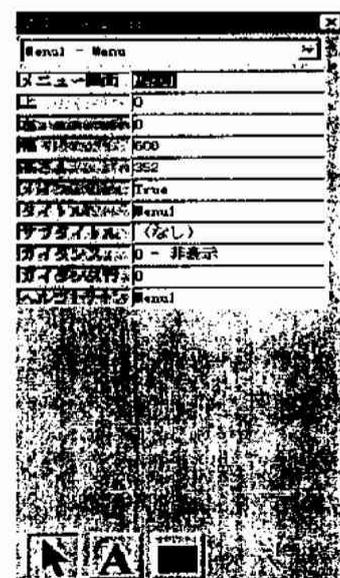


図4-6 フォームのプロパティ表示

リソースのプロパティ

メニューリソースのフォームのプロパティについて説明します。

Menu - Menu	メニューリソース名
0	フォームの上位置
0	フォームの左位置
608	フォームの幅
352	フォームの高さ
True	True:メインメニュー false:サブメニュー
Menu	メニュー画面に表示するタイトル
(なし)	メニュー画面に表示するサブタイトル
0 - 非表示	0:ガイダンスを表示しない 1: ガイダンスを表示する
0	表示するガイダンスの行 (4行まで)
Menu	対応するヘルプリソースのキーワード (作成されているヘルプリソースのキーワードの中から選択)

ボタンの作成 (ここを左クリックするとボタンが作成できます)

ラベルの作成 (ここを左クリックするとラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-7 フォームのプロパティ

メニューリソースのラベルのプロパティについて説明します。

プロパティ:

LABEL1 - Label

LABEL1	ラベル名
32	ラベルの上位置
32	ラベルの左位置
128	ラベルの幅
16	ラベルの高さ
LABEL1	ラベルに表示する文字列
0 - 左揃え	0:左揃え 1:右揃え 2:中央揃え
16777215	色の設定ウィンドウより選択
1 - 不透明	0:透明 1:不透明
0 - 実線なし	0:実線なし (枠なし) 1:実線あり (枠あり)
0	色の設定ウィンドウより選択

(色の設定ウィンドウ)

ボタンの作成 (ここを左クリックするとボタンが作成できます)

ラベルの作成 (ここを左クリックするとラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-8 ラベルのプロパティ

メニューリソースのボタンのプロパティについて説明します。

ボタン名	BUTTON1
ボタンの上位置	112
ボタンの左位置	80
ボタンの幅	160
ボタンの高さ	16
ボタンに表示する文字列	BUTTON1
ボタンが選択された時、ガイダンスに表示する文字列	(なし)
タブキーが押された時に選択される順番	0
True:表示する False:表示しない	True
(なし) /メニュー遷移/処理遷移/終了のどれか	(なし)
メニュー遷移/処理遷移の時の遷移先	

(作成されているメニューリソースあるいはエントリ
画面リソースの中から選択)

ボタンの作成 (ここを左クリックするとボタンが作成できます)

ラベルの作成 (ここを左クリックするとラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品
が選択できます)

図4-9 ボタンのプロパティ

2) 調査票入力画面リソースの作成

調査票入力画面リソースは調査票入力画面の情報です。

新規の調査票入力画面リソースを作成するには、調査票入力画面エディタ画面中に表示されているリソースの種類から「調査票入力画面」を選択します。次に「追加」ボタンを左クリックします。そうしますと調査票入力画面リソースの追加ウィンドウが表示されますので「新規」をチェックして「OK」ボタンを左クリックします。

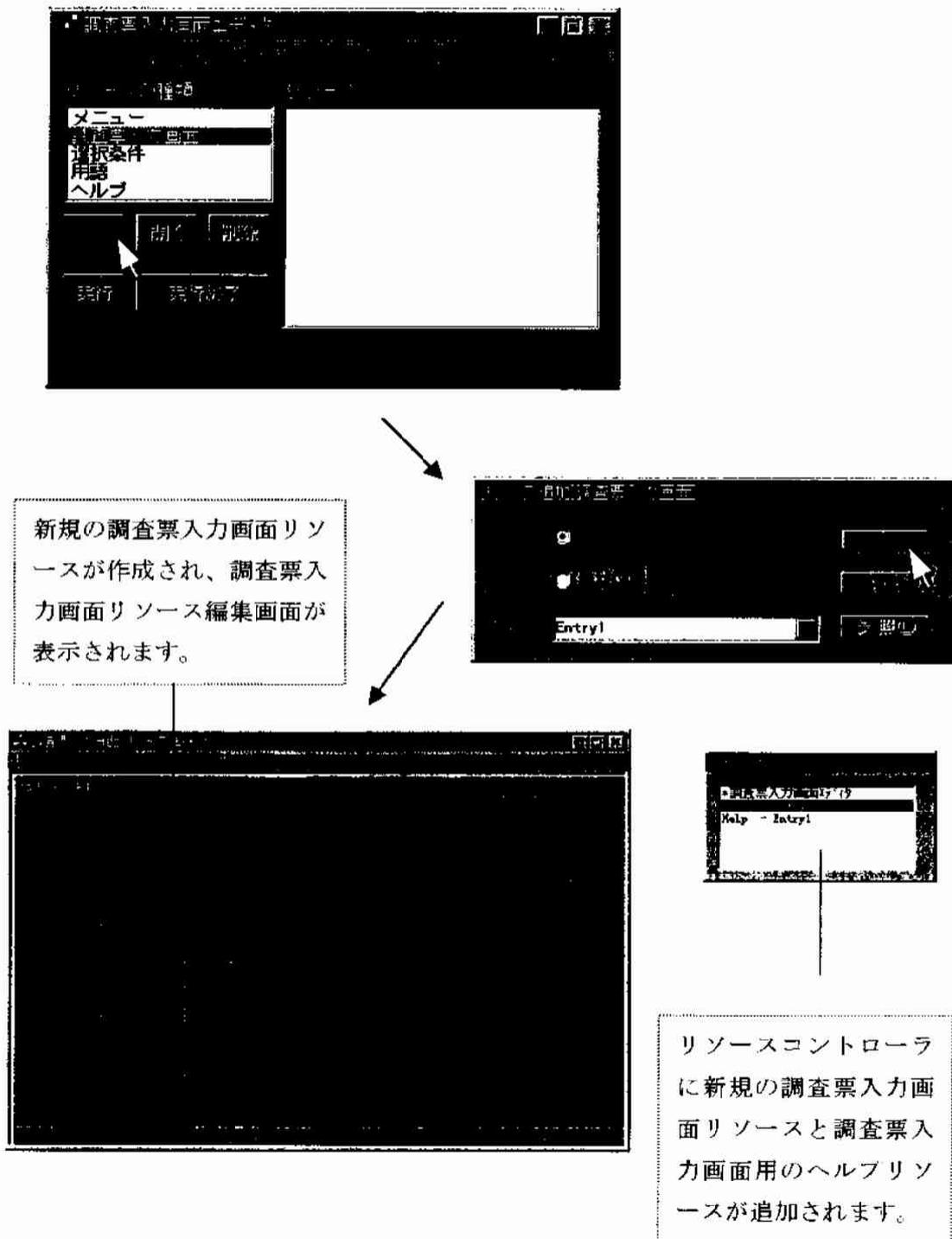


図4-10 新規の調査票入力画面リソースの作成

調査票入力画面の編集

調査票入力画面リソースは次の部品で構成されます。

1. フォーム・・・・・・・・調査票入力画面のフレームです。ここにラベル、ボタン、入力ボックスを貼り付けます。
1フォームは1ページ分なので1つの調査票入力画面リソース内で複数のフォームを作成することができます。
2. ラベル・・・・・・・・調査票入力画面のフレームに文字列を表示するのに使われます。
また、ラベルは調査票入力画面では質問のタグ番号を設定するために必要となります。
3. ボタン・・・・・・・・調査票入力画面からメニュー画面や他の調査票入力画面に遷移させるために使われます。
4. 入力ボックス・・・・・・・・調査票入力画面からデータを入力させるために使われます。

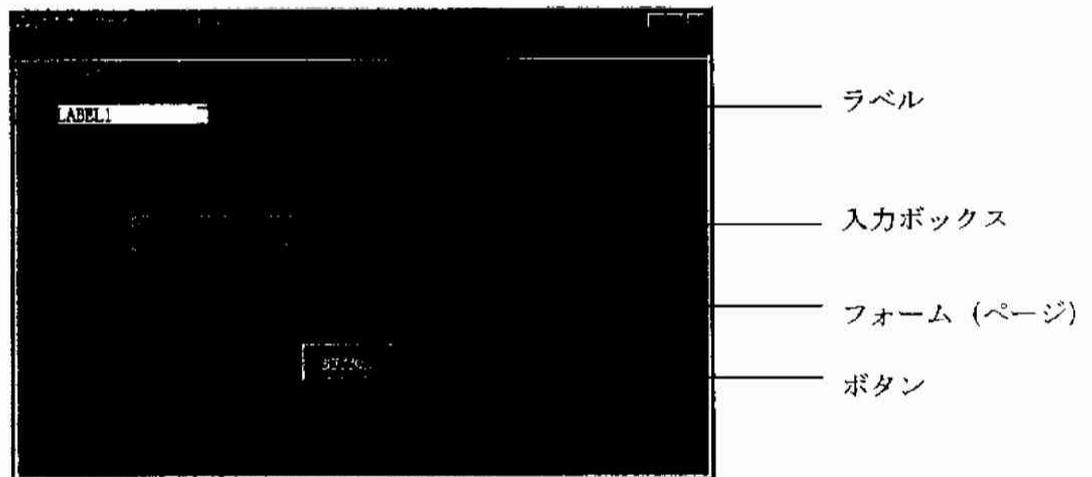
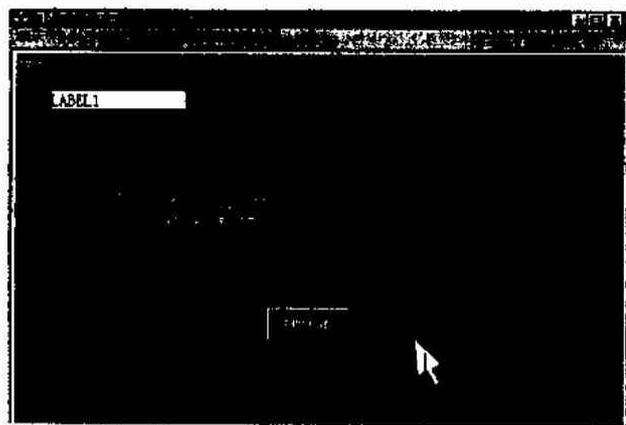


図4-11 調査票入力画面リソースを構成する部品

リソースのプロパティ

編集画面上で右クリックすると調査票入力画面リソースのプロパティが表示されます。プロパティとはリソースを構成する部品の固有の情報です。フォームを左クリックで選択した後で右クリックするとフォームのプロパティを、ラベルを左クリックで選択した後で右クリックすると選択されたラベルのプロパティを、入力ボックスを左クリックで選択した後で右クリックすると選択された入力ボックスのプロパティを、ボタンを左クリックで選択した後で右クリックすると選択されたボタンのプロパティが表示されます。



ここを左クリックした後で右クリックするとフォームのプロパティを表示します。

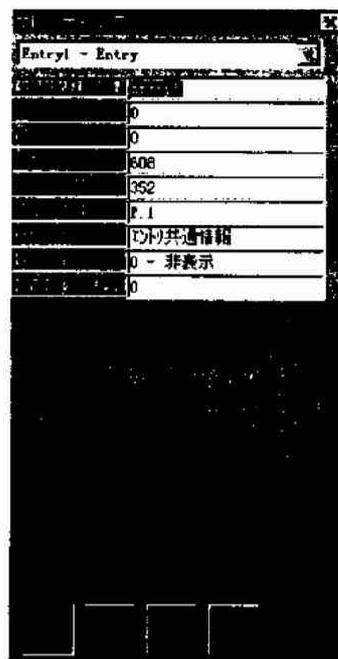


図4-12 フォームのプロパティ表示



ここを左クリックした後で右クリックすると入力ボックスのプロパティを表示します。

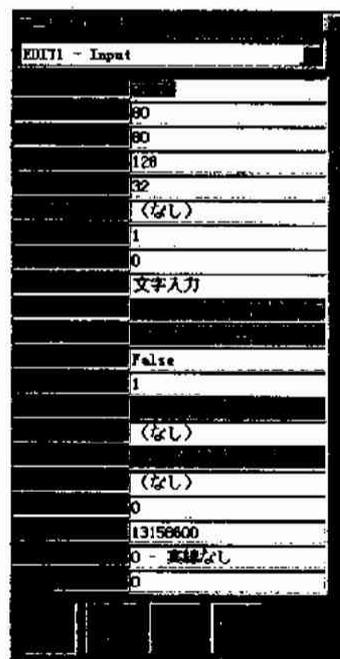


図4-13 ボックスのプロパティ表示

調査票入力画面リソースのフォームのプロパティについて説明します。

調査票入力画面リソース名

フォームの上位置

フォームの左位置

フォームの幅

フォームの高さ

ページ番号

0: ガイダンスを表示しない 1: ガイダンスを表示する

表示するガイダンスの行 (4行まで)

(各ページ共通情報)

調査票入力画面に表示するタイトル

調査票入力画面に表示するサブタイトル

入力データを保存するファイル名(Cxxxxxjyzy.zzz)

シングル or マルチレコードタイプ

対応するヘルプリソースのキーワード
(作成されているヘルプリソースのキーワードの中から選択)

入力ボックスの作成 (ここを左クリックすると入力ボックスが作成できます)

ボタンの作成 (ここを左クリックするとボタンが作成できます)

ラベルの作成 (ここを左クリックするとラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

マルチレコード時のレコード名の生成方式を指定します。
「AUTO」にするとデータの入力日時がレコード名になります。
「MANUAL」にすると指定されたタグ番号の項目 (文字数指定可) の組み合わせでレコード名を生成します。

図4-14 フォームのプロパティ

調査票入力画面リソースのラベルのプロパティについて説明します。

ラベル名	LABEL1
ラベルの上位置	48
ラベルの左位置	128
ラベルの幅	64
ラベルの高さ	32
ラベルに表示する文字列	LABEL1
0:左揃え 1:右揃え 2:中央揃え	0 - 左揃え
色の設定ウィンドウより選択	16777215
0:透明 1:不透明	1 - 不透明
0:実線なし (枠なし) 1:実線あり (枠あり)	0 - 実線なし
色の設定ウィンドウより選択	0
タグ番号を指定すると質問用のラベルになります	(なし)

(色の設定ウィンドウ)

入力ボックスの作成 (ここを左クリックすると入力ボックスが作成できます)

ボタンの作成 (ここを左クリックするとボタンが作成できます)

ラベルの作成 (ここを左クリックするとラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-15 ラベルのプロパティ

調査票入力画面リソースの入力ボックスのプロパティについて説明します。

プロパティエディタ: EDIT1 - Input

入力ボックス名	EDIT1
入力ボックスの上位置	128
入力ボックスの左位置	336
入力ボックスの幅	48
入力ボックスの高さ	32
1次元要素番号	(なし)
2次元要素番号	(なし)
文字入力/数値入力/文章入力/単一選択/複数選択/レコード番号自動設定/環境参照文字 (入力有・無)	1
複数選択時のその他の数	0
選択入力時の選択条件リソース	文字入力
False: [] 付けない True: [] 付ける	False
入力データの最大文字数	False
入力データの最大行数 (文章入力時)	1
用語辞書からの参照入力用の用語辞書のキーワード	(なし)
入力後の遷移条件プロパティで設定	(なし)
入力時、ガイダンスに表示する文字列	(なし)
タブキーが押された時に選択される順番	0
色の設定ウィンドウより選択	13158600
0:実線なし (枠なし) 1:実線あり (枠あり)	0 - 実線なし
色の設定ウィンドウより選択	0

(色の設定ウィンドウ)

入力ボックスの作成 (ここを左クリックすると入力ボックスが作成できます)

ボタンの作成 (ここを左クリックするとボタンが作成できます)

ラベルの作成 (ここを左クリックするとラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-16 入力ボックスのプロパティ

入力後の遷移条件プロパティについて説明します。このプロパティは入力ボックスの遷移条件を左クリックすると表示されます。

1個の遷移条件に5個までの入力条件を設定できます

10個まで遷移条件を設定できます

対象の入力ボックスに対して条件を設定します

演算子 TRUE (入力がある)

FALSE (入力がない)

= (等しい)

!= (等しくない)

< (小さい)

> (大きい)

<= (以下)

>= (以上)

TRUE :条件が真の時の遷移先

FALSE:条件が偽の時の遷移先

※遷移先には、メニュー遷移/処理遷移(他の調査票入力画面への遷移)/ページ遷移/項目遷移/要素遷移/終了があります。

図4-17 遷移条件プロパティ

調査票入力画面リソースのボタンのプロパティについて説明します。

ボタン名	BUTTON1
ボタンの上位置	208
ボタンの左位置	336
ボタンの幅	48
ボタンの高さ	32
ボタンに表示する文字列	BUTTON1
ボタンが選択された時、ガイダンスに表示する文字列	(なし)
タブキーが押された時に選択される順番	1
True: 表示する False: 表示しない	True
(なし) / メニュー遷移 / 処理遷移 / ページ遷移 / レコード遷移 / 項目遷移 / 終了のどれか	(なし)
遷移先	

※ページ遷移 / 項目遷移の場合は、ページの指定が必要です。

入力ボックスの作成 (ここを左クリックすると入力ボックスが作成できます)

ボタンの作成 (ここを左クリックするとボタンが作成できます)

ラベルの作成 (ここを左クリックするとラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-18 ボタンのプロパティ

リソースのページ管理

調査票入力画面リソースのページについて説明します。調査票入力画面リソースのフレームにあるメニューバーの中から「オプション」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「ページ管理」を左クリックします。そうしますとページ管理ウィンドウが表示されます。そこでページの追加/開く/削除/整理などができます。(ここでの整理とはページが連続になっていない場合に連番にする機能です。)

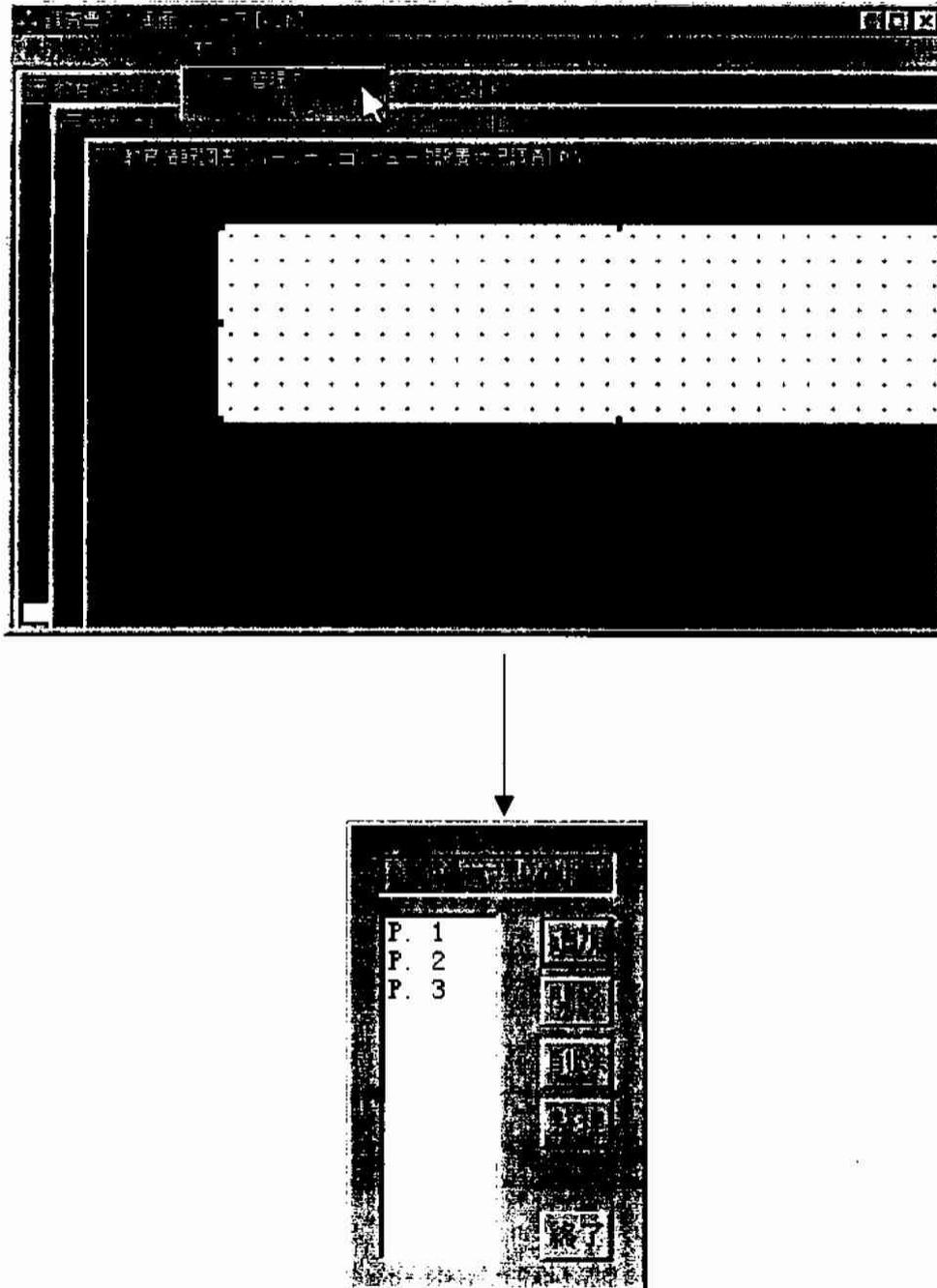


図4-19 ページ管理ウィンドウ

調査票入力画面リソースは1つのフレームの中に複数のページが作成されるため複数のページを一度に開いている場合に編集したいページフォームをマウスでクリックしてアクティブにするのは少しやっかいです。そこで編集したいページフォームをアクティブにするには次の方法で行います。調査票入力画面リソースのフレームにあるメニューバーの中から「ウインドリ」を左クリックして、プルダウンメニューの中に表示されているページフォームの一覧が表示されるのでアクティブにしたいページフォームを左クリックします。指定のページフォームがアクティブになります。

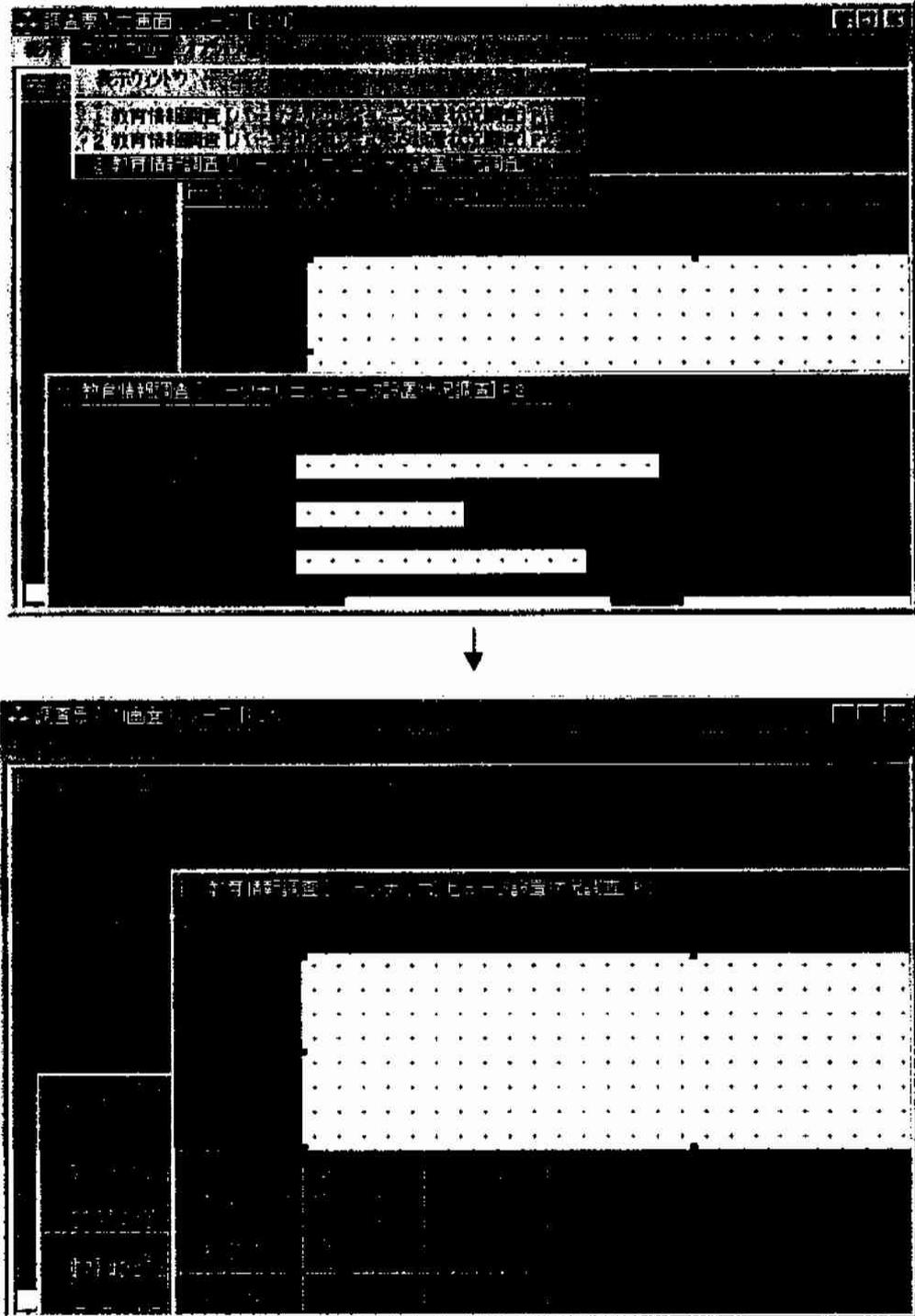


図4-20 ページフォームのアクティブ化

3) 選択条件リソースの作成

選択条件リソースは、調査票入力画面中の単一選択入力および複数選択入力時の選択肢の情報です。

新規の選択条件リソースを作成するには、調査票入力画面エディタ画面中に表示されているリソースの種類から「選択条件」を選択します。次に「追加」ボタンを左クリックします。すると選択条件リソースの追加ウィンドウが表示されますので「新規」をチェックして「OK」ボタンを左クリックします。

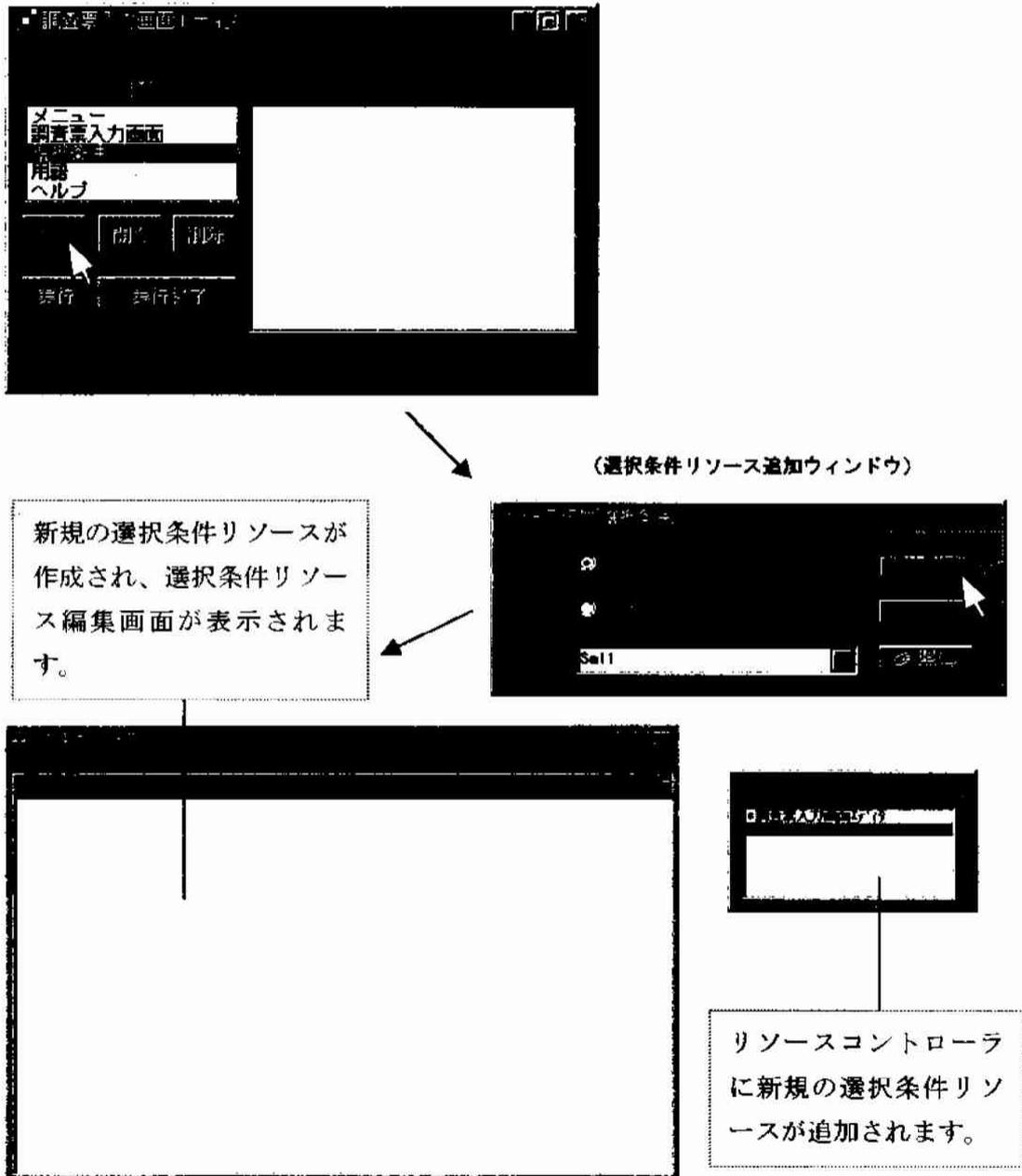


図4-21 新規の選択条件リソースの作成

選択条件リソースの編集

選択条件リソースは次の部品で構成されます。

1. フォーム・・・ここに選択肢を1行1選択肢ずつ記述します。

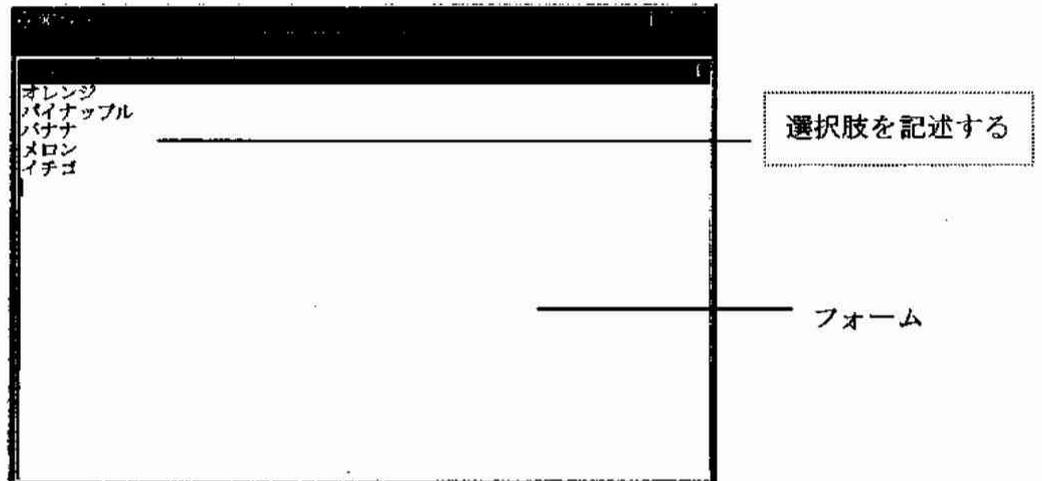


図4-22 選択条件リソースを構成する部品

リソースのプロパティ

編集画面上で右クリックすると選択条件リソースのプロパティが表示されます。プロパティとはリソースを構成する部品の固有の情報です。フォームを左クリックで選択した後で右クリックするとフォームのプロパティが表示されます。

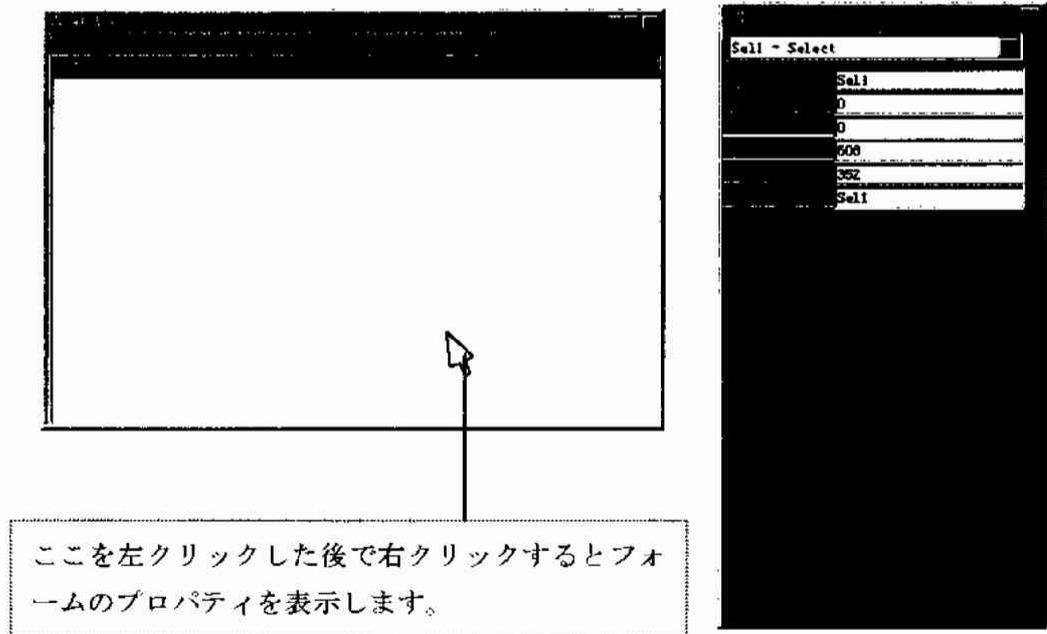


図4-23 フォームのプロパティの表示

選択条件リソースのフォームのプロパティについて説明します。

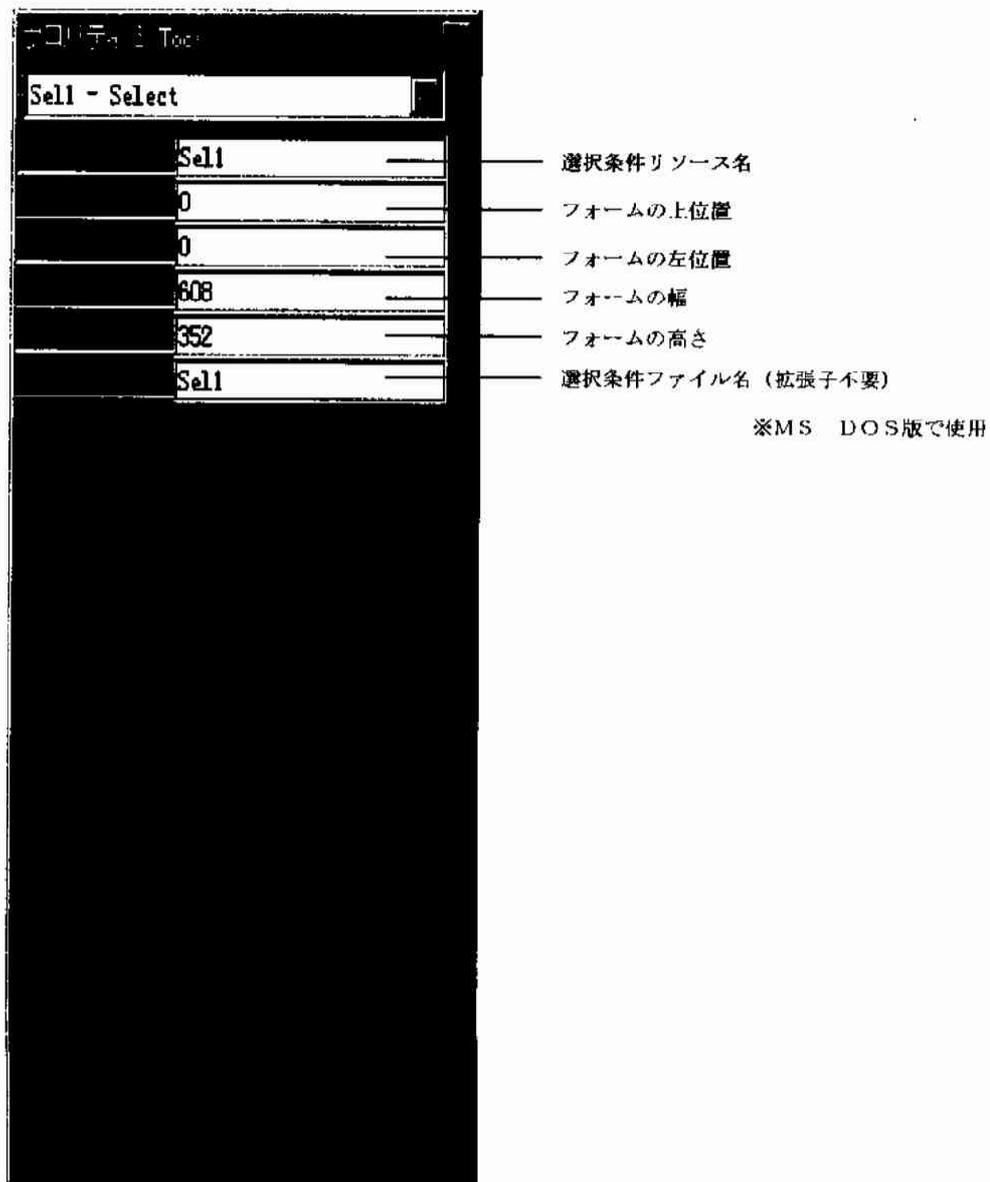


図4-24 フォームのプロパティ

選択条件リソースの管理

選択条件リソースは1つのフレームの中に作成されるため、複数の選択条件リソースを一度に開いている場合に、編集したい選択条件リソースをマウスでクリックしてアクティブにするのは少しやっかいとなります。そこで編集したい選択条件リソースをアクティブにするには次の方法で行います。選択条件リソースのフレームのメニューバーの中から「ウィンドウ」を左クリックして、プルダウンメニューの中に表示されている選択条件リソースの一覧からアクティブにしたい選択条件リソースを左クリックします。それにより指定の選択条件リソースがアクティブになります。また表示の並びを変えることによっても見やすくすることもできます。

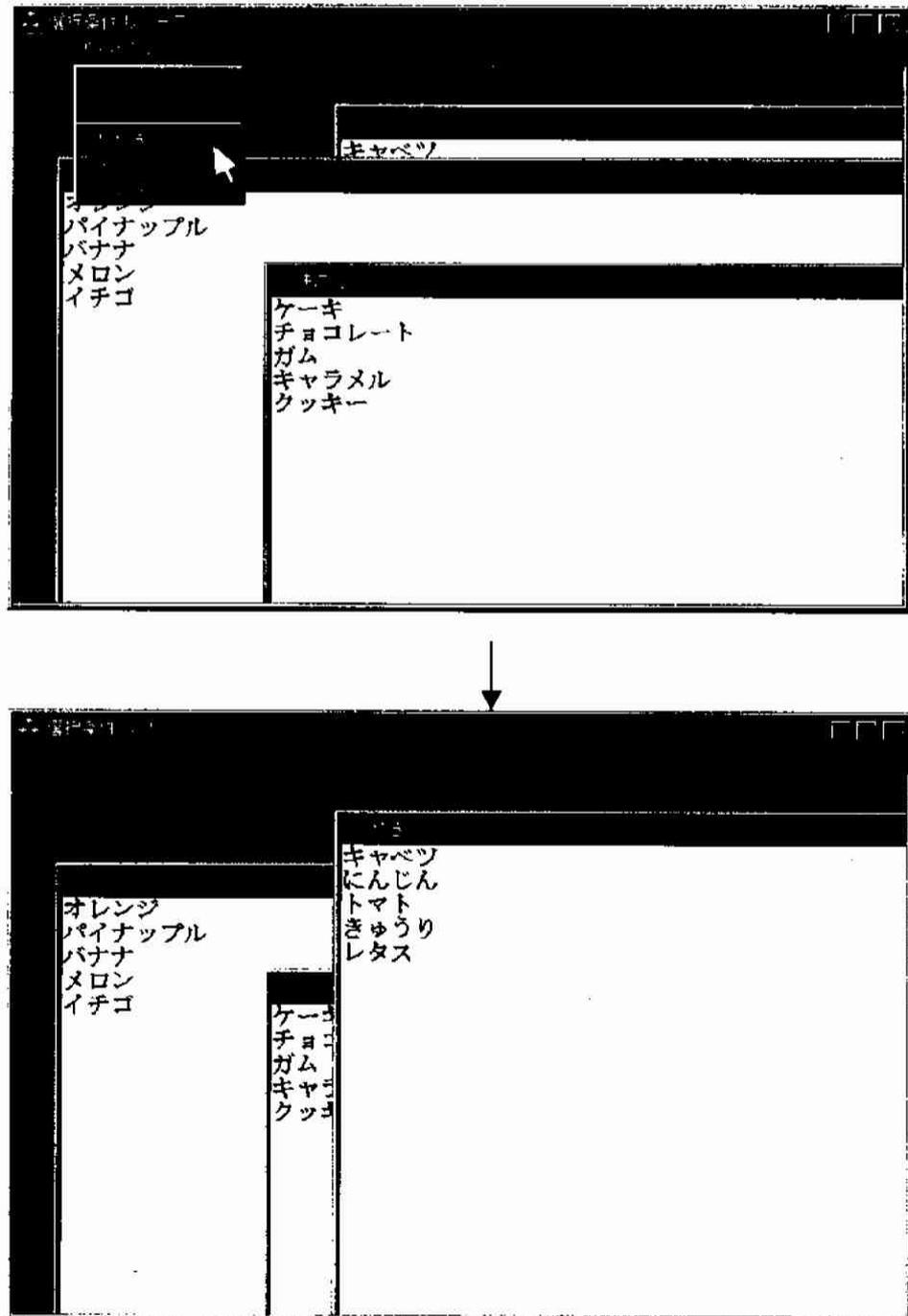


図4-25 選択条件リソースのアクティブ化

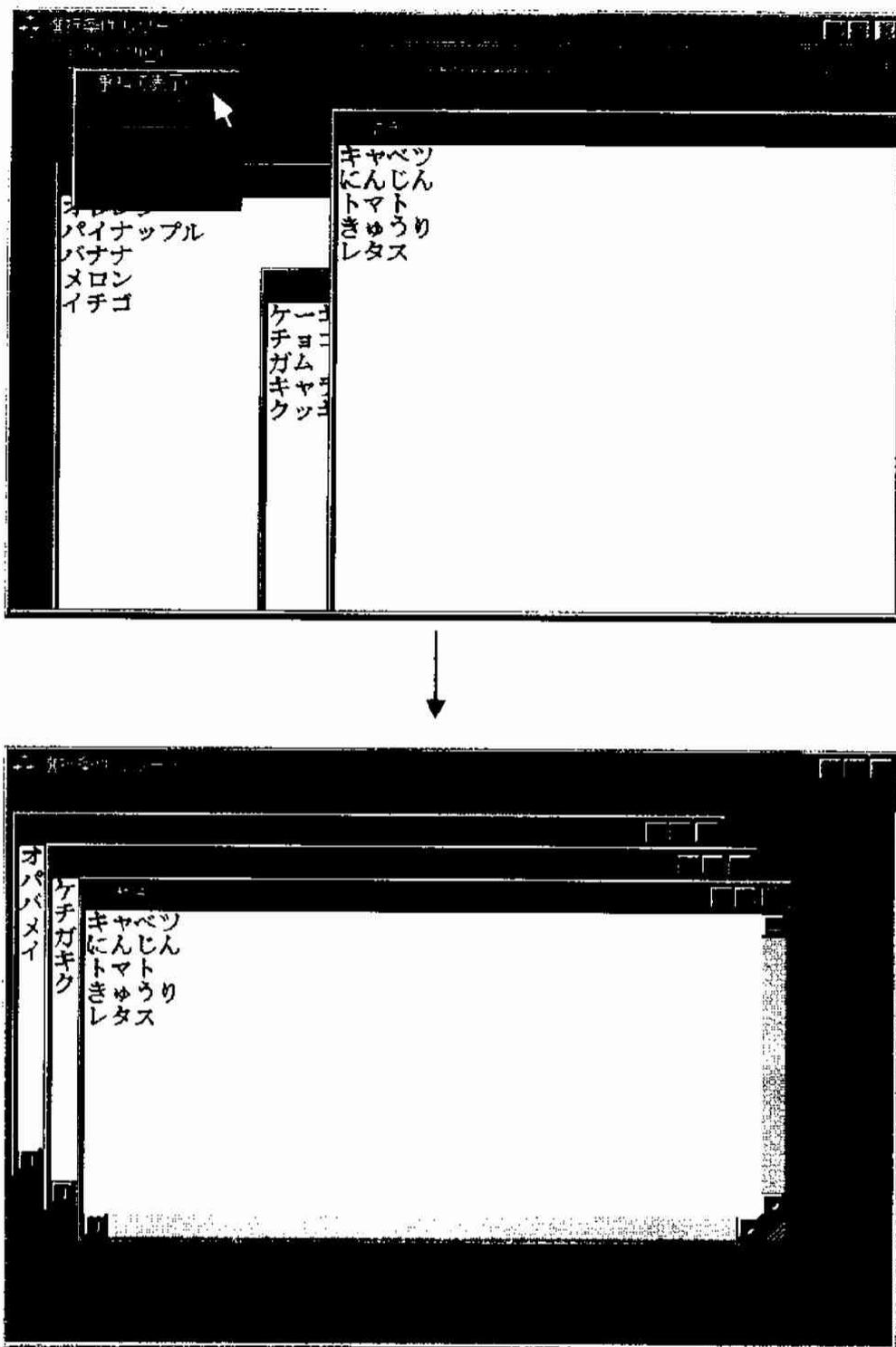


図4-26 表示の並べ替え（重ねて表示）

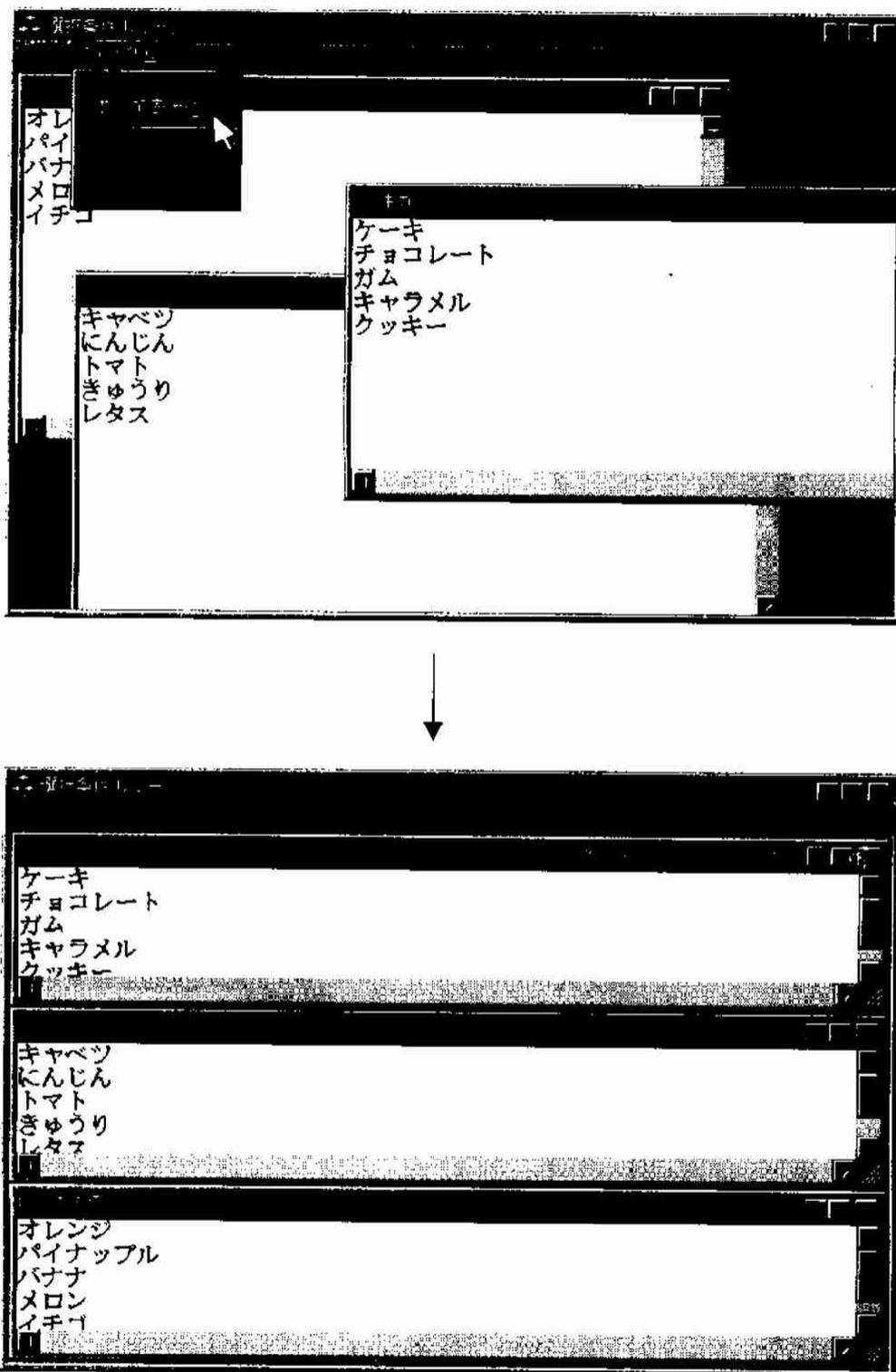


図4-27 表示の並べ替え（並べて表示）

4) 用語辞書リソースの作成

用語辞書リソースは調査票入力画面中の入力時に参照できる用語辞書の情報です。

新規の用語辞書リソースを作成するには、調査票入力画面エディタ画面中表示されているリソースの種類から「用語」を選択します。次に「追加」ボタンを左クリックします。すると用語辞書リソースの追加ウィンドウが表示されますので「新規」をチェックして「OK」ボタンを左クリックします。

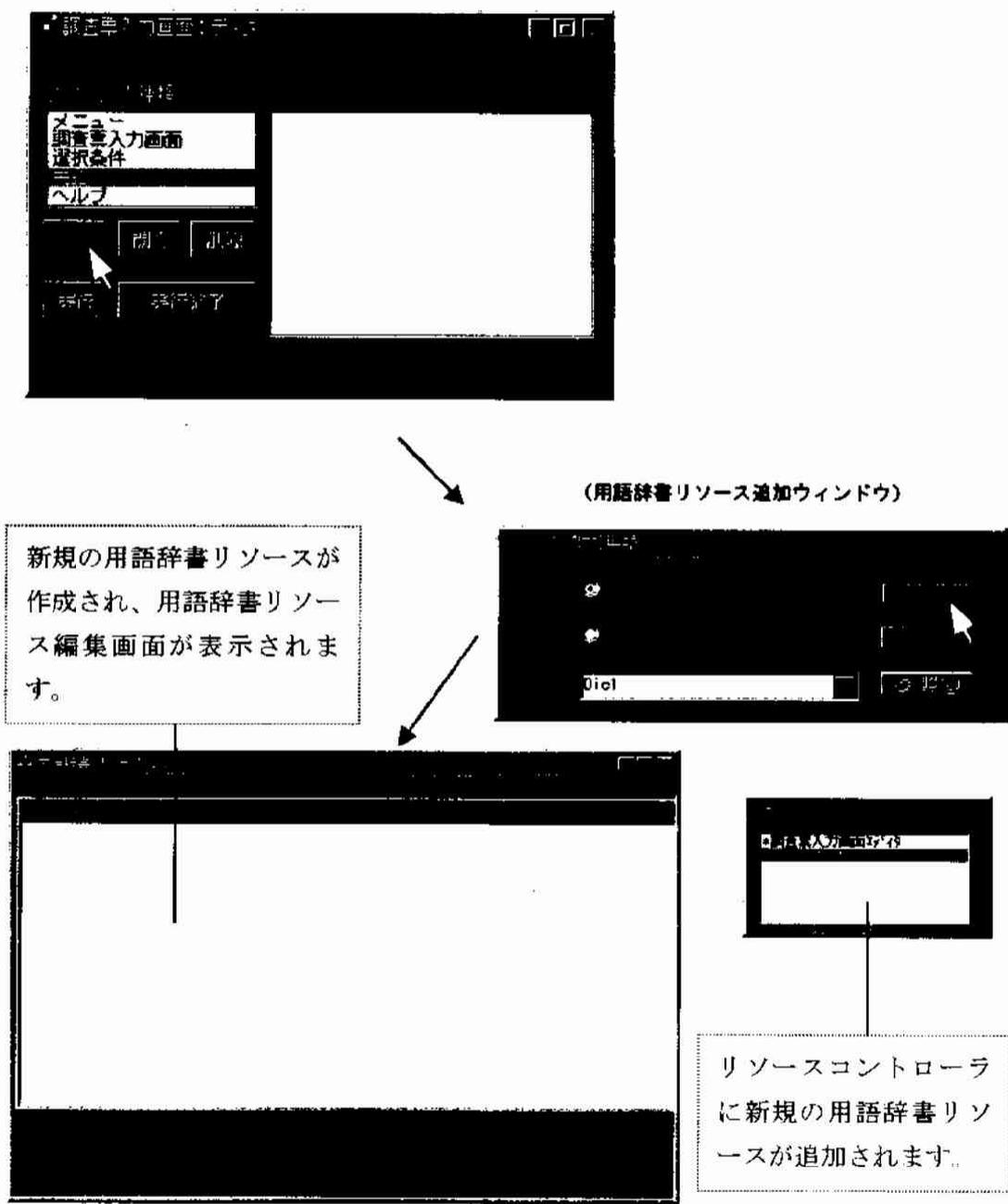


図4-28 新規の用語辞書リソースの作成

用語辞書リソースの編集

用語辞書リソースは次の部品で構成されます。

1. フォーム・・・説明文を記述します。
2. 参照ラベル・・・参照用の文字列を表示するのに使用します。また、他の用語辞書リソースに遷移させる場合にも使用します。

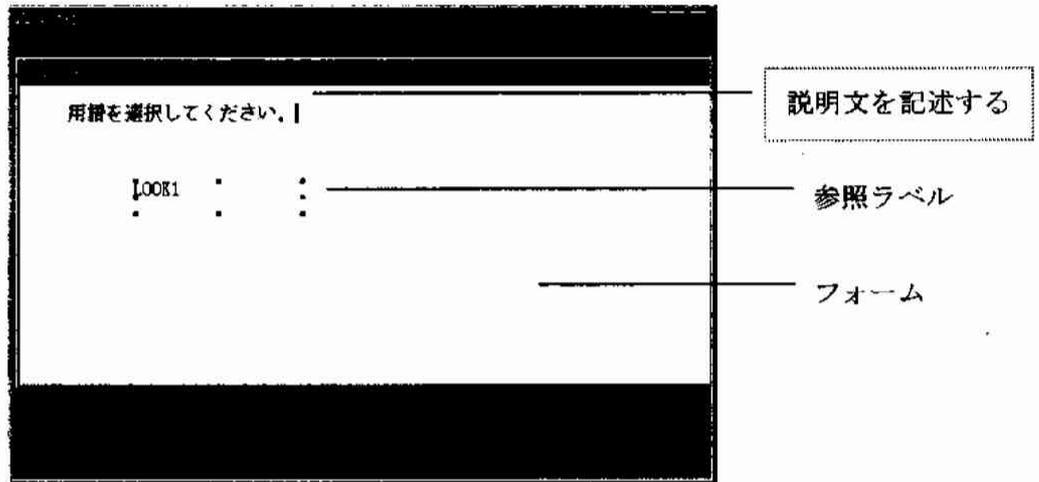


図4-29 用語辞書リソースを構成する部品

リソースのプロパティ

編集画面上で右クリックすると用語辞書リソースのプロパティが表示されます。プロパティとはリソースを構成する部品の固有の情報です。フォームを左クリックで選択した後で右クリックするとフォームのプロパティが、参照ラベルを左クリックで選択した後で右クリックすると参照ラベルのプロパティが表示されます。

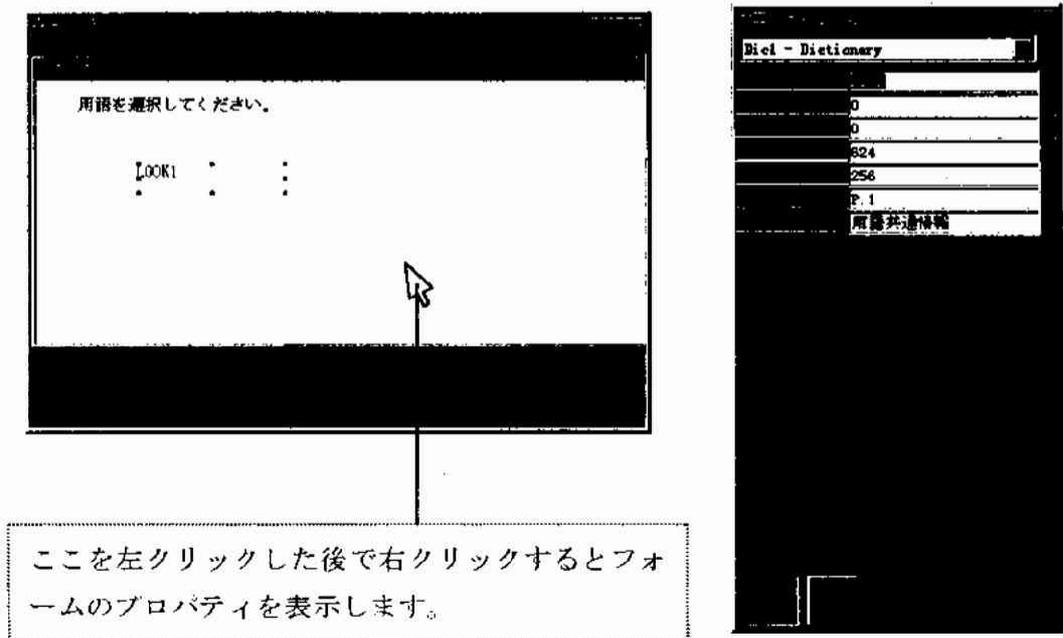


図4-30 プロパティの表示

用語辞書リソースのフォームのプロパティについて説明します。

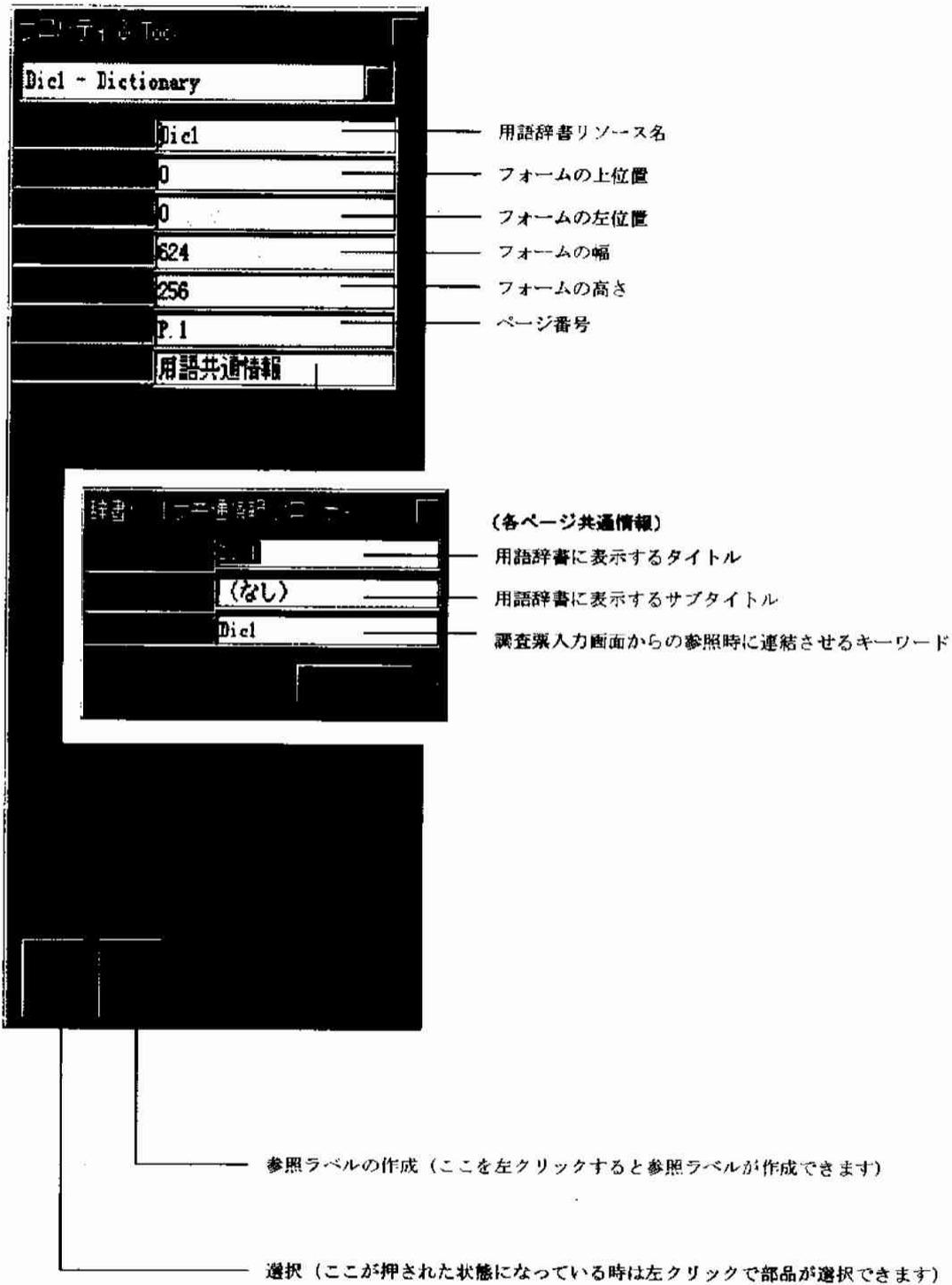


図4-31 フォームのプロパティ

用語辞書リソースの参照ラベルのプロパティについて説明します。

LOOK1	参照ラベルリソース名
80	参照ラベルの上位置
86	参照ラベルの左位置
144	参照ラベルの幅
32	参照ラベルの高さ
LOOK1	参照ラベルに表示する文字列
0 - 左揃え	0:左揃え 1:右揃え 2:中央揃え
16777215	色の設定ウィンドウより選択
0 - 透明	0:透明 1:不透明
0 - 実線なし	0:実線なし(枠なし) 1:実線あり(枠あり)
32768	色の設定ウィンドウより選択
(なし)	他の用語辞書に遷移する場合の遷移先の用語辞書リソースのキーワード
0	※ここが(なし)の時に参照用語として扱われ、入力ボックスに反映されます。
	タブキーが押された時に選択される順番

(色の設定ウィンドウ)

参照ラベルの作成 (ここを左クリックすると参照ラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-32 参照ラベルのプロパティ

リソースのページ管理

用語辞書リソースのページについて説明します。用語辞書リソースのフレームにあるメニューバーの中から「オプション」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「ページ管理」を左クリックします。するとページ管理ウィンドウが表示されます。そこでページの追加／開く／削除／整理などができます。（ここでの整理とはページが連続になっていない場合に連番にする機能です。）

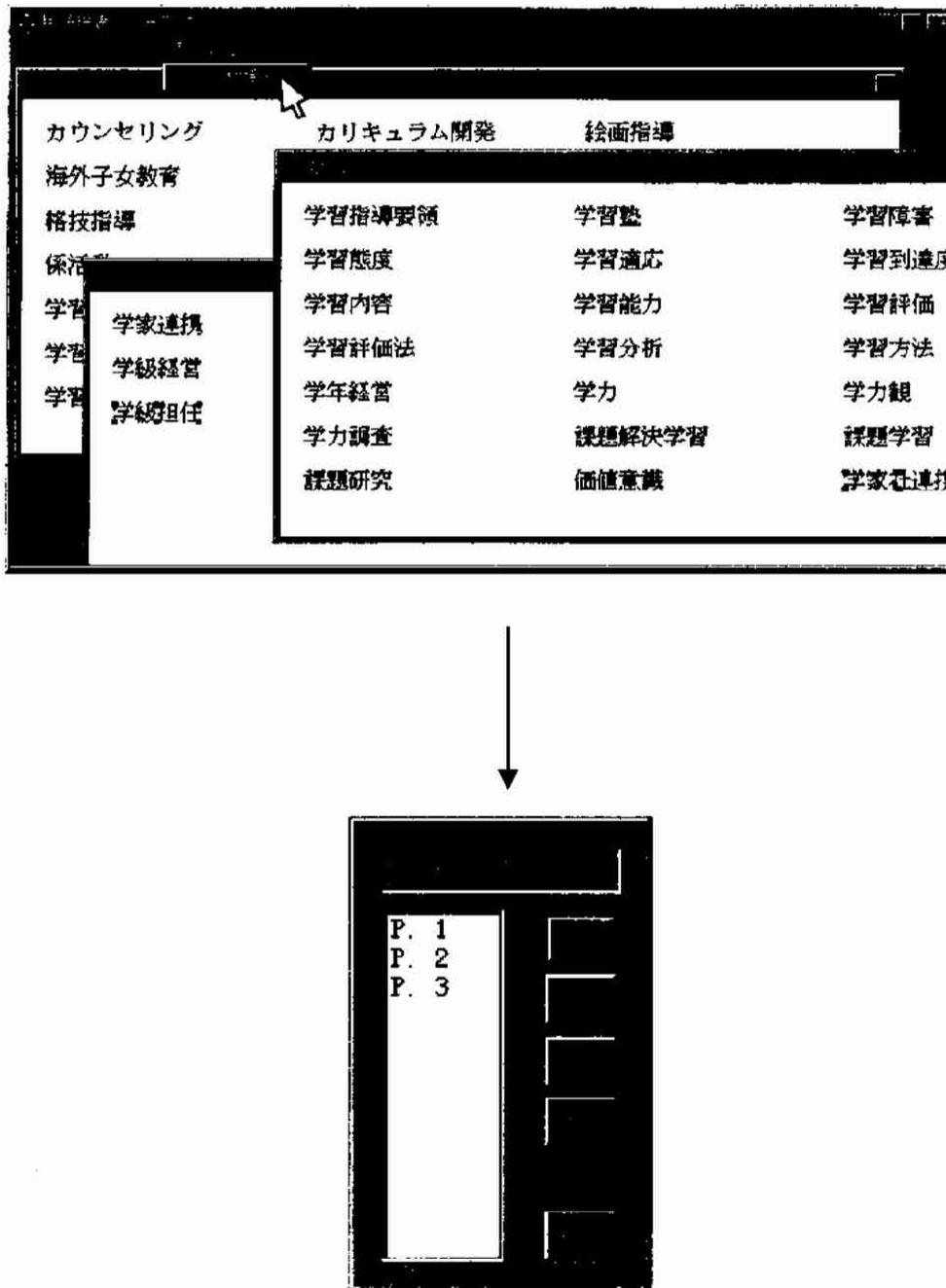


図4-33 用語辞書リソースのページ管理

用語辞書リソースは1つのフレームの中に複数のページが作成されます。そのため複数のページを一度に開いている場合に、編集したいページフォームをマウスでクリックしてアクティブにするのが少し困難となります。そこで編集したいページフォームをアクティブにするには次の方法で行います。用語辞書リソースのフレームにあるメニューバーの中から「ウインドウ」を左クリックして、プルダウンメニューの中に表示されているページフォームの一覧からアクティブにしたいページフォームを左クリックします。指定のページフォームがアクティブになります。

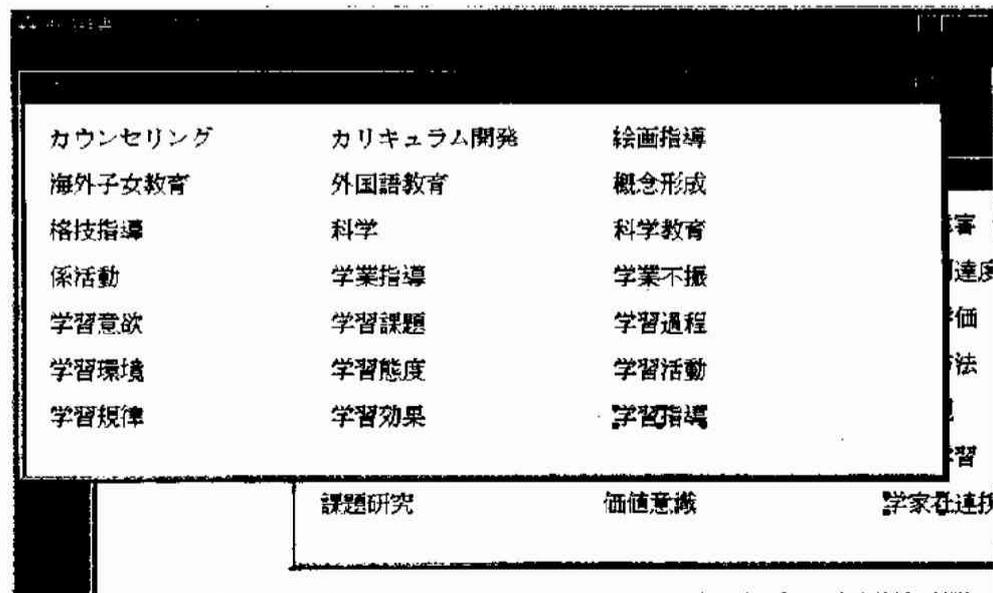
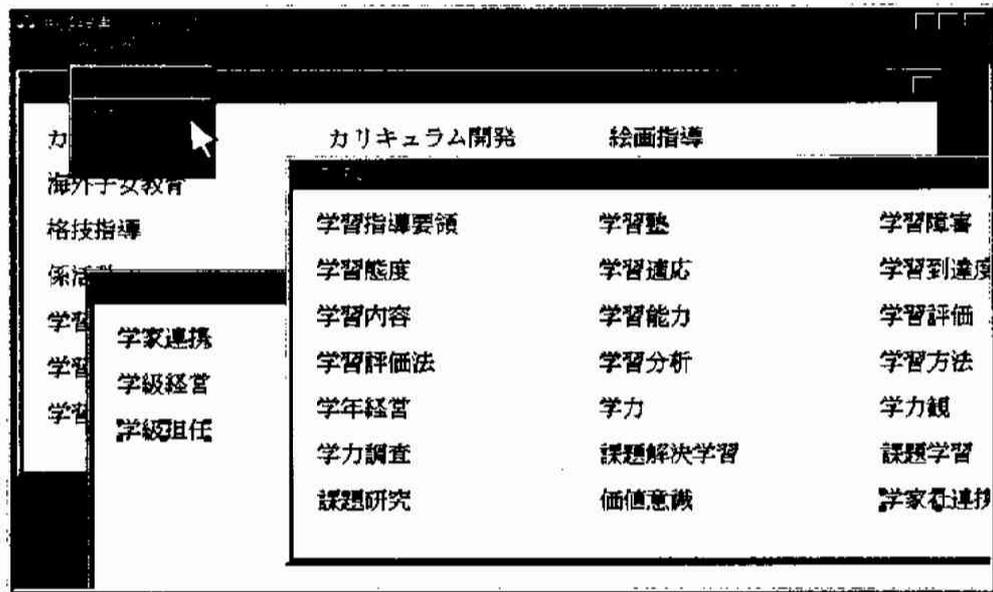


図4-34 ページのアクティブ化

5) ヘルプリソースの作成

ヘルプリソースはメニュー画面および調査票入力画面の説明情報です。それぞれ作成したメニュー画面および調査票入力画面に対しての説明を記述します。

新規のヘルプリソースを作成するには、調査票入力画面エディタ画面中に表示されているリソースの種類から「ヘルプ」を選択します。次に「追加」ボタンを左クリックします。するとヘルプリソースの追加ウィンドウが表示されますので「新規」をチェックして「OK」ボタンを左クリックします。

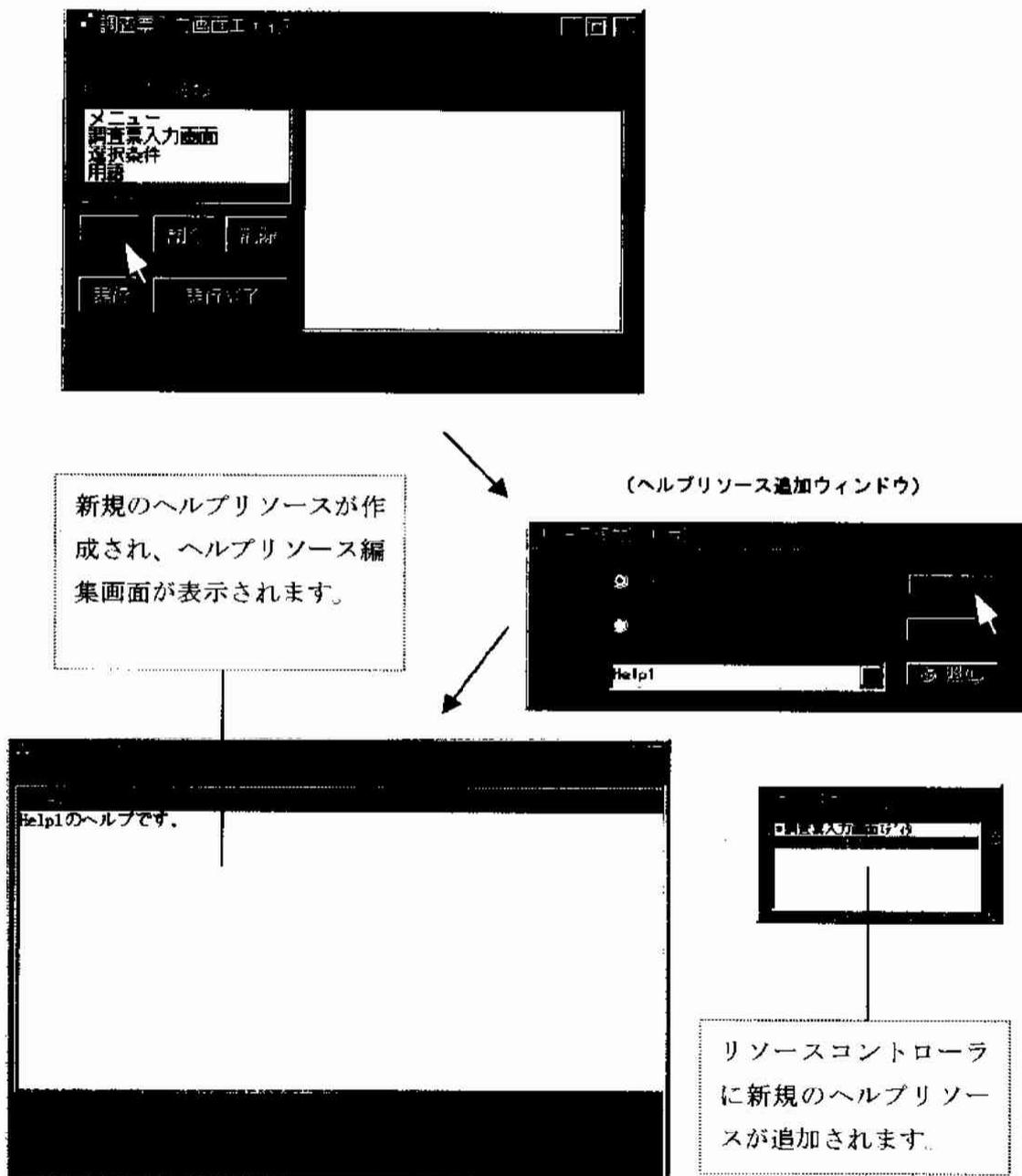


図4-35 新規のヘルプリソースの作成

ヘルプリソースの編集

ヘルプリソースは次の部品で構成されます。

4. フォーム・・・説明文を記述します。
5. 参照ラベル・・・他のヘルプリソースに遷移させる場合に使用します。

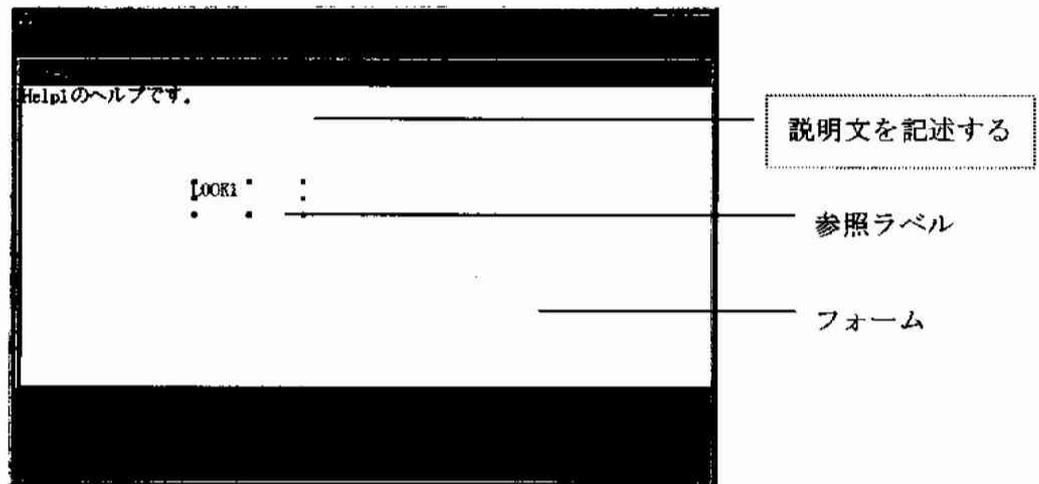


図4-36 ヘルプリソースを構成する部品

リソースのプロパティ

編集画面上で右クリックするとヘルプリソースのプロパティが表示されます。プロパティとはリソースを構成する部品の固有の情報です。フォームを左クリックで選択した後で右クリックするとフォームのプロパティが、参照ラベルを左クリックで選択した後で右クリックすると参照ラベルのプロパティが表示されます。



図4-37 プロパティの表示

ヘルプリソースのフォームのプロパティについて説明します。

ヘルプリソース名

フォームの上位置

フォームの左位置

フォームの幅

フォームの高さ

ページ番号

(各ページ共通情報)

ヘルプに表示するタイトル

ヘルプに表示するサブタイトル

メニュー画面および調査票入力画面からの参照時に連結させるキーワード

参照ラベルの作成 (ここを左クリックすると参照ラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-38 フォームのプロパティ

ヘルプリソースの参照ラベルのプロパティについて説明します。

LOOK1 - Look

LOOK1	参照ラベルリソース名
60	参照ラベルの上位置
144	参照ラベルの左位置
96	参照ラベルの幅
32	参照ラベルの高さ
LOOK1	参照ラベルに表示する文字列
0 - 左揃え	0:左揃え 1:右揃え 2:中央揃え
16777215	色の設定ウィンドウより選択
0 - 透明	0:透明 1:不透明
0 - 実線なし	0:実線なし(枠なし) 1:実線あり(枠あり)
32768	色の設定ウィンドウより選択
(なし)	他のヘルプに遷移する場合の遷移先のヘルプリソースのキーワード
0	タブキーが押された時に選択される順番

(色の設定ウィンドウ)

参照ラベルの作成 (ここを左クリックすると参照ラベルが作成できます)

選択 (ここが押された状態になっている時は左クリックで部品が選択できます)

図4-39 参照ラベルのプロパティ

ヘルプリソースのページ管理

ヘルプリソースのページについて説明します。ヘルプリソースのフレームにあるメニューの中から「オプション」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「ページ管理」を左クリックします。そうしますとページ管理ウィンドウが表示されます。そこでページの追加/開く/削除/整理などができます。(ここでの整理とはページが連続になっていない場合に連番にする機能です。)

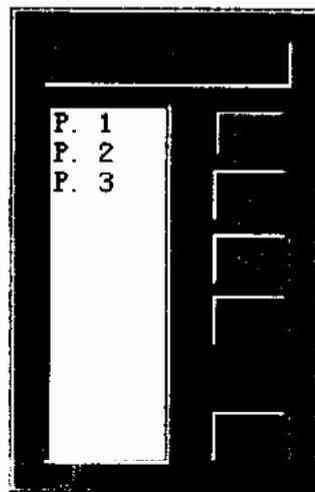
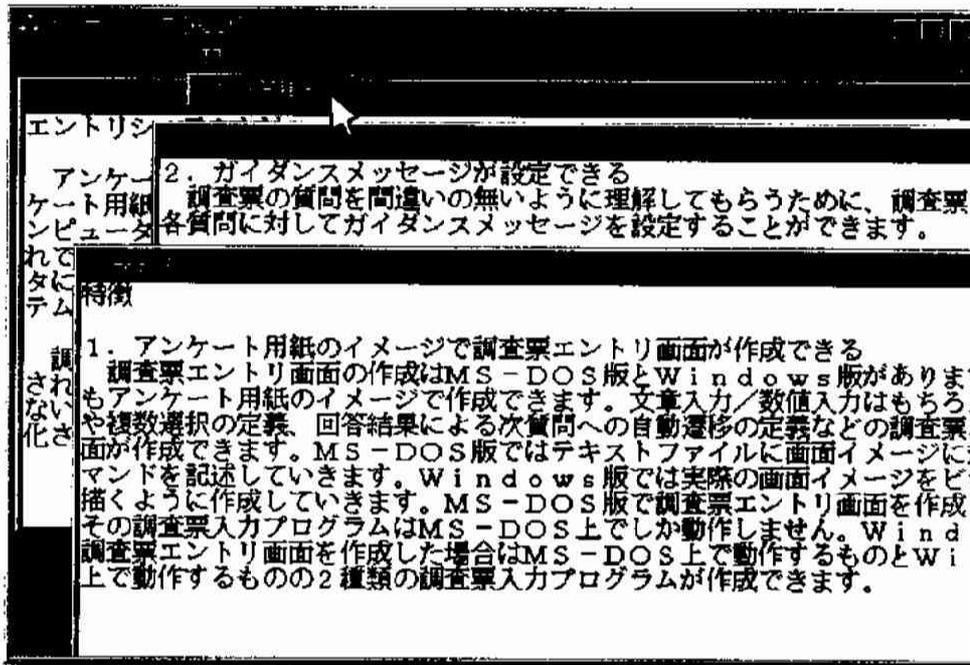


図4-40 ヘルプリソースのページ管理

ヘルプリソースは1つのフレームの中に複数のページが作成されます。そのため複数のページを一度に開いている場合に、編集したいページフォームをマウスでクリックしてアクティブにするのが困難なことがあります。その場合編集したいページフォームをアクティブにするには次の方法で行います。ヘルプリソースのフレームにあるメニューバーの中から「ウィンドウ」を左クリックして、プルダウンメニューの中に表示されているページフォームの一覧からアクティブにしたいページフォームを左クリックします。指定のページフォームがアクティブになります。

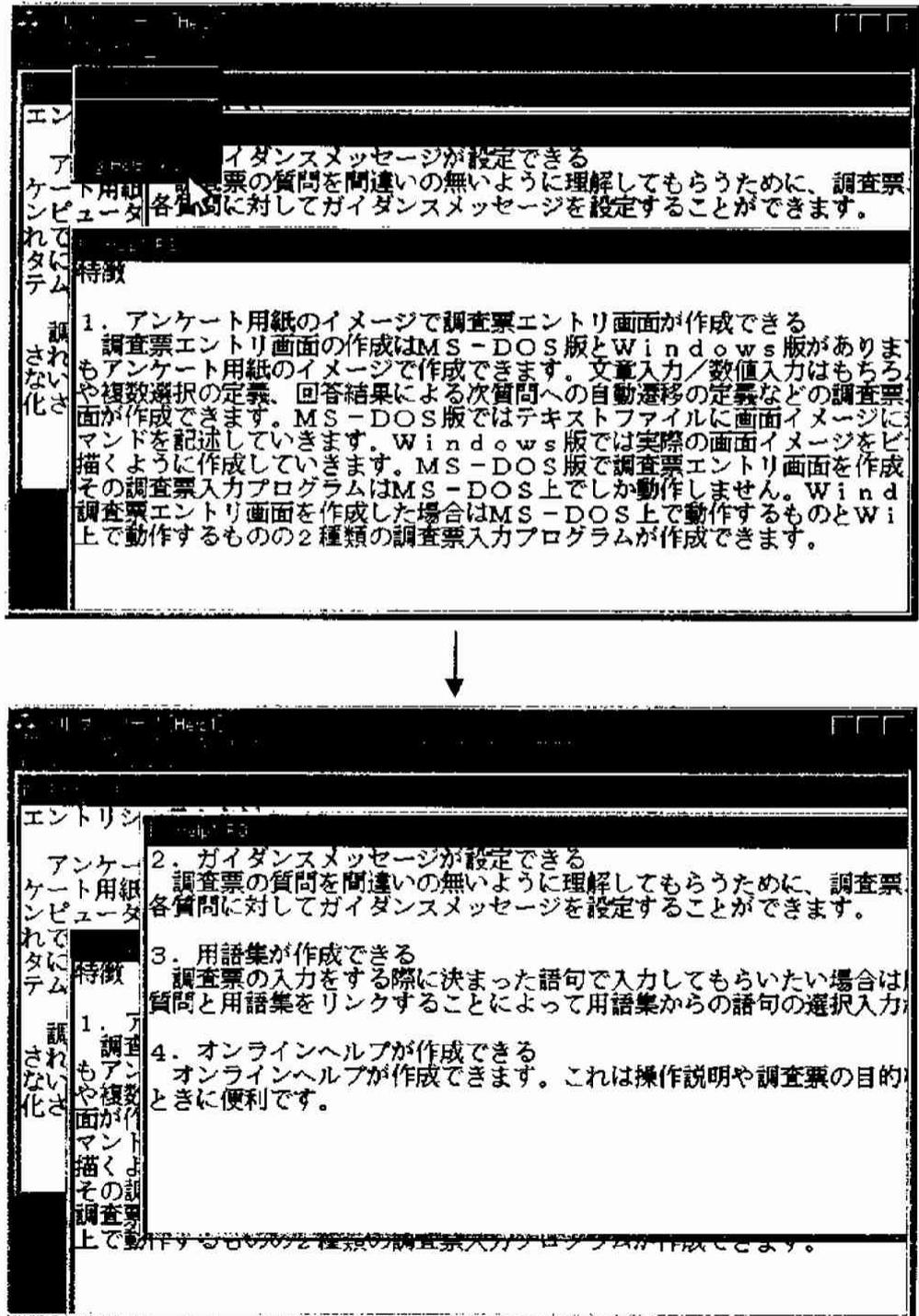


図4-41 ページフォームのアクティブ化

4.4 部品の編集

フォームに貼り付けた部品の編集について説明します。フォームに貼り付ける部品はリソースによってこととなります。各リソースの部品は次のとおりです。

- 1) メニューリソース
 - ・ラベル ・ボタン
- 2) 調査票入力画面リソース
 - ・ラベル ・入力ボックス ・ボタン
- 3) 選択条件リソース なし
- 4) 用語辞書リソース
 - ・参照ラベル
- 5) ヘルプリソース
 - ・参照ラベル

編集機能

部品の編集機能は次のとおりです。

- 1) アンドゥ・・・前回削除した部品を元に戻す
対象リソースのフォームをアクティブにして「C t r l キー + Z」キーを押す
- 2) リドゥ・・・アンドゥで復帰した部品を削除する
対象リソースのフォームをアクティブにして「C t r l キー + A」キーを押す
- 3) 切り取り・・・部品を削除する（張り付け可）
切り取る部品を選択して「C t r l キー + X」キーを押す
- 4) コピー・・・部品を張り付け可能にする
コピーする部品を選択して「C t r l キー + C」キーを押す
- 5) 張り付け・・・「切り取り」あるいは「コピー」した部品をフォームに貼り付ける
※同種のリソース間のみ可能
貼り付けるフォームをアクティブにして「C t r l + V」キーを押す
- 6) 削除・・・部品をフォーム上からはがす
削除する部品を選択して「S h i f t + D e l」キーを押す

4.5 リソースの削除

各リソースの削除は、調査票入力画面エディタ画面から行います。削除したいリソースを調査票入力画面エディタ画面中に表示されているリソースの中から選択します。次に「削除」ボタンを左クリックします。次にリソースの削除確認ウィンドウが表示されます。「はい」ボタンを左クリックすると削除されます。

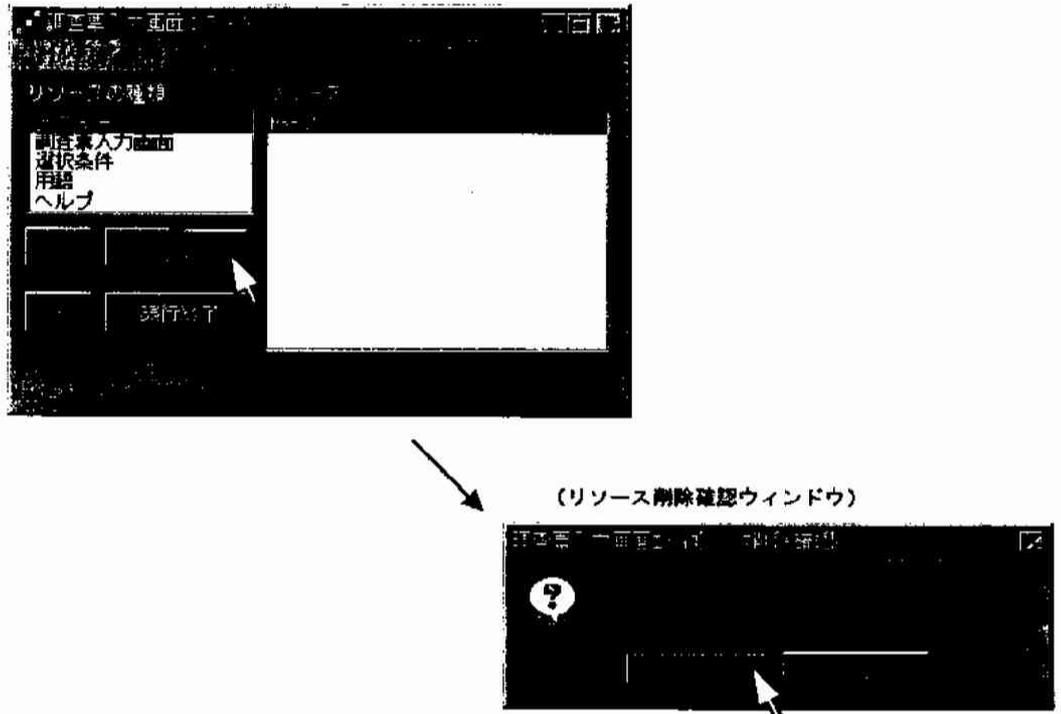


図4-42 リソースの削除

4.6 リソースのシミュレーション

作成したリソースはその場で画面遷移や入力テストを行うことができます。

調査票入力画面エディタ画面中の「実行」ボタンを左クリックすると作成したリソースのシミュレーションを行います。シミュレーションは実行中のメインメニュー画面を終了させることで終了します。調査票入力画面エディタ画面中の「実行終了」ボタンを左クリックするとシミュレーションを強制終了します。

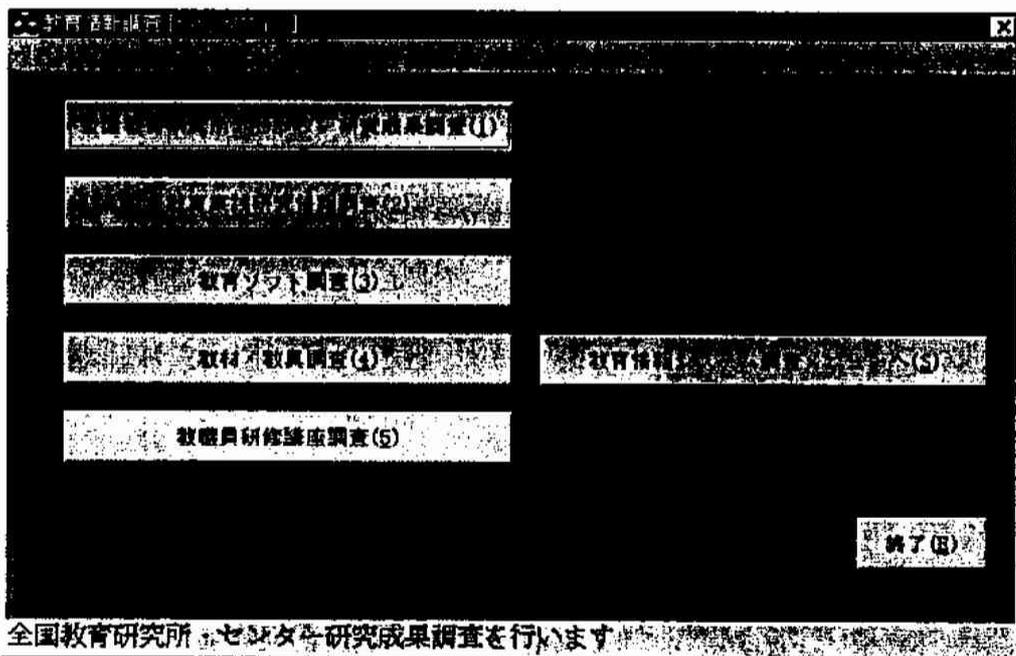
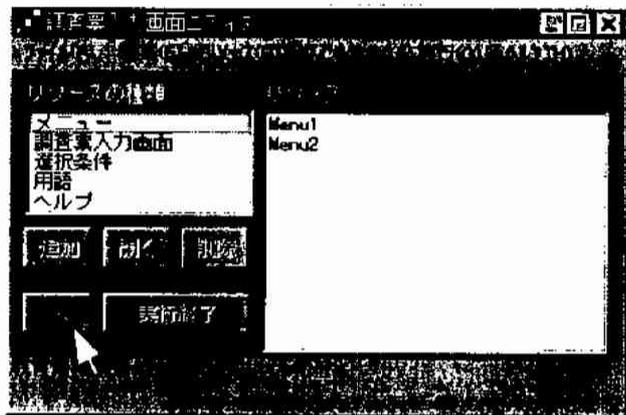


図4-43 リソースのシミュレーション

以下の機能は、シミュレーションでは実際の調査票入力プログラムと異なります。

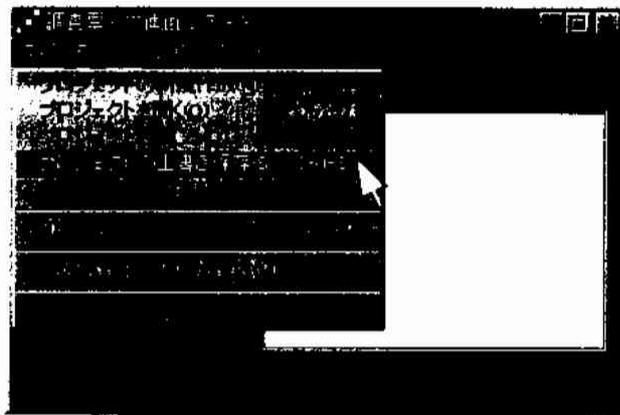
項目	シミュレーション	調査票入力プログラム
画面遷移	左シングルクリック	左ダブルクリック
環境ファイルからの参照入力	できない	できる
補助ツール	使用不可	使用可

4.7 プロジェクトの保存

ここでは作成したリソースの保存について説明します。

1) 新規作成したリソースの保存

調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「ファイル」を左クリックして、プルダウンメニューの中から「プロジェクトの上書き保存」を左クリックする。次にプロジェクト設定ウィンドウが表示されるので、そこにプロジェクト名を入力します。後は格納場所を指定して「OK」ボタンを左クリックするとプロジェクトが保存されます。



(プロジェクト設定ウィンドウ)

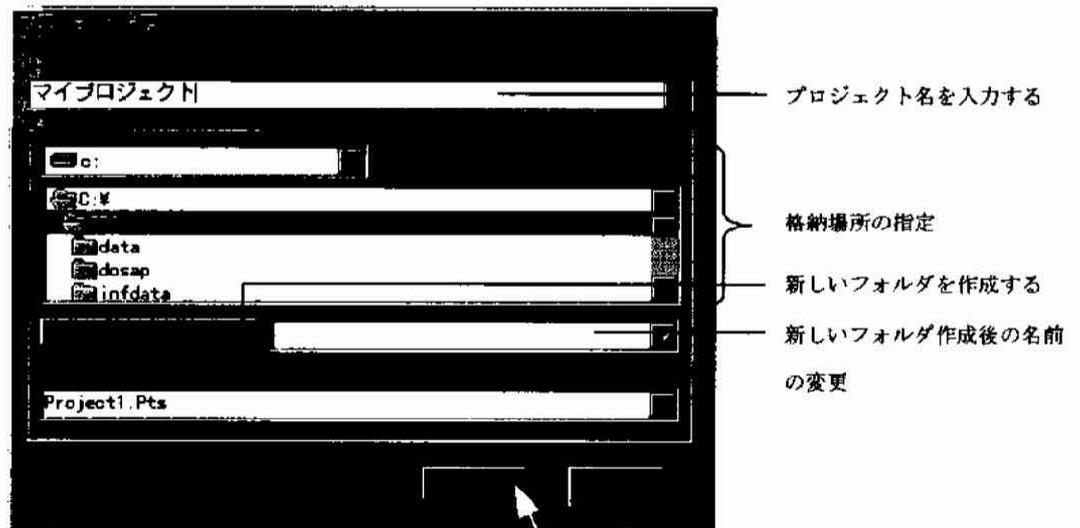


図 4-44 新規プロジェクトの保存

2) 修正したリソースの保存

調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「ファイル」を左クリックして、プルダウンメニューを表示します。リソースが修正されている場合には、プルダウンメニューの中の「プロジェクトの上書き保存」が濃く表示されます。その場合は「プロジェクトの上書き保存」を左クリックするとプロジェクトが保存されます。リソースが修正されていない場合は、「プロジェクトの上書き保存」が薄くなっていてマウスでクリックできません。

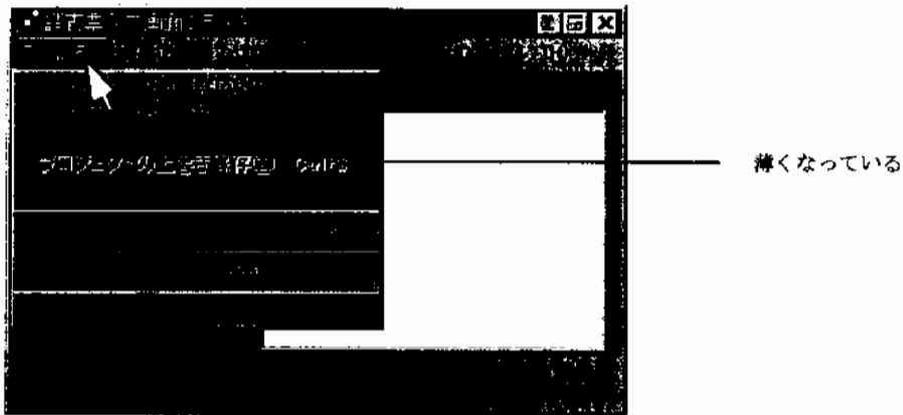


図4-45 リソースが修正されていない場合

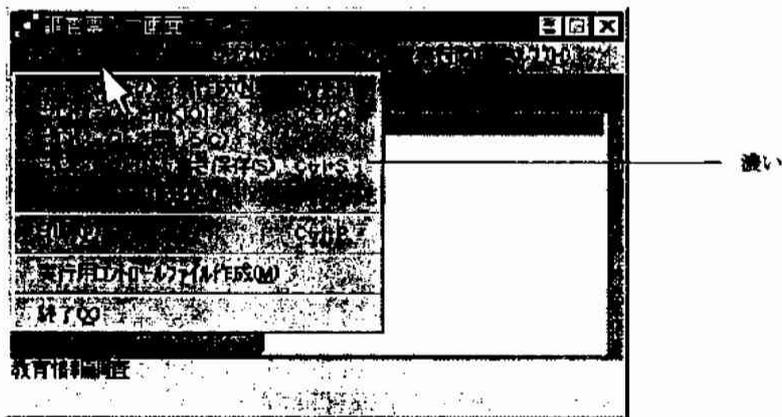
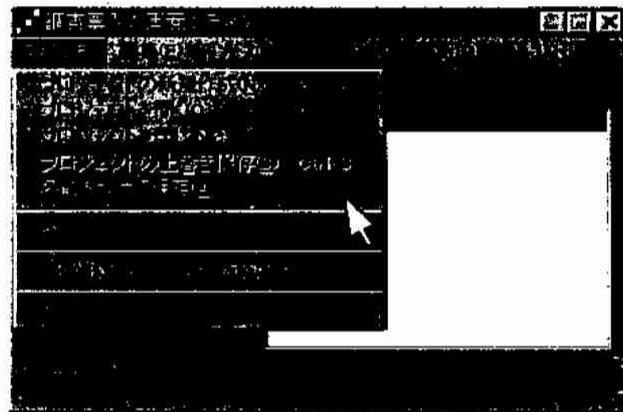


図4-46 リソースが修正されている場合

3) リソースを別のプロジェクトとして保存

プロジェクトを読み込んだ後で別のプロジェクトとして保存したい場合は、調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「ファイル」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「名前をつけて保存」を左クリックします。次にプロジェクト設定ウィンドウが表示されるので、そこにプロジェクト名を入力します。後は格納場所を指定して「OK」ボタンを左クリックすると別のプロジェクトとして保存されます。この場合、前のプロジェクトはそのままで残ります。



(プロジェクト設定ウィンドウ)

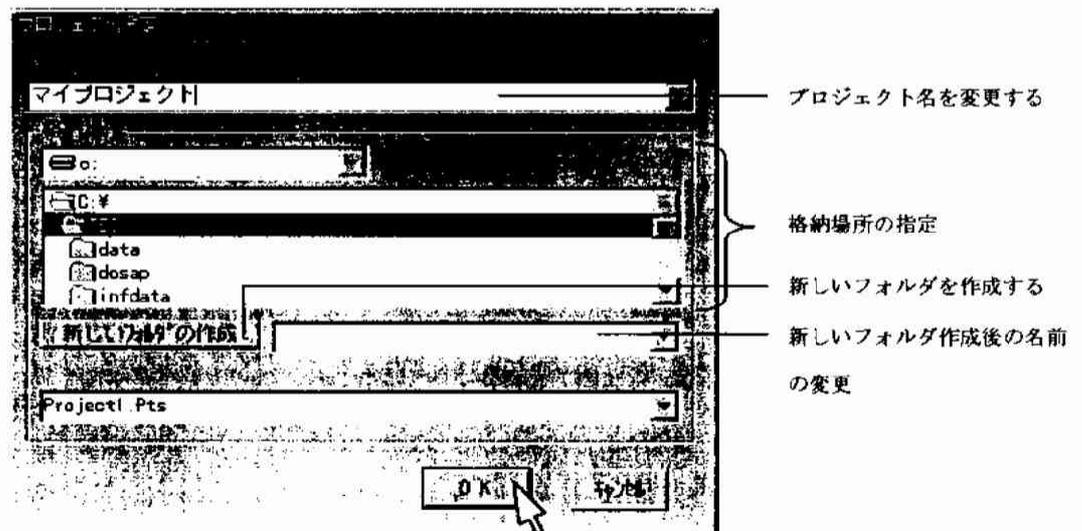


図4-47 別のプロジェクトとして保存

4) プロジェクト名の変更

プロジェクト名を変更したい場合は、調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「リソース」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「プロジェクト名の変更」を左クリックします。するとプロジェクト名変更ウィンドウが表示されるので、そこでプロジェクト名を変更して「OK」ボタンを左クリックするとプロジェクト名が変更されます。

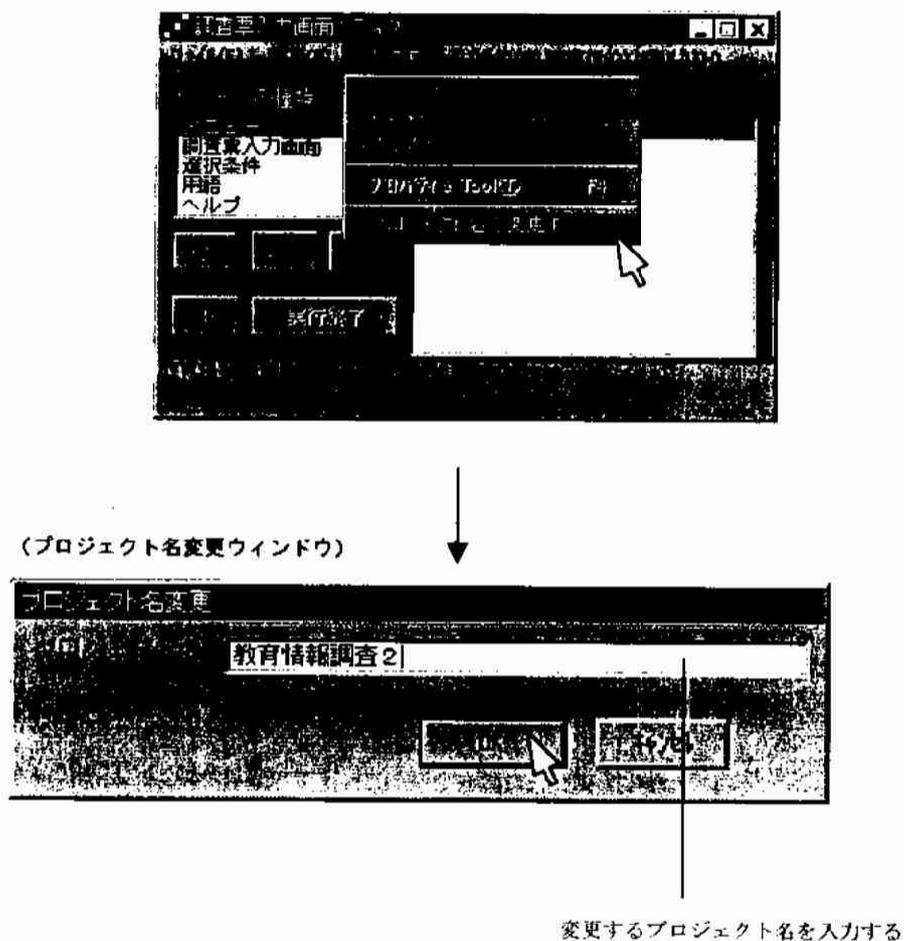
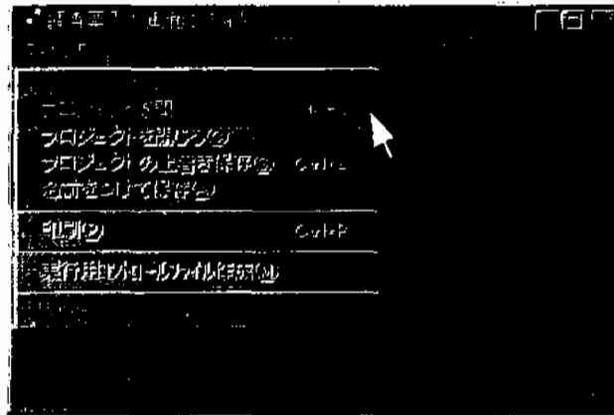


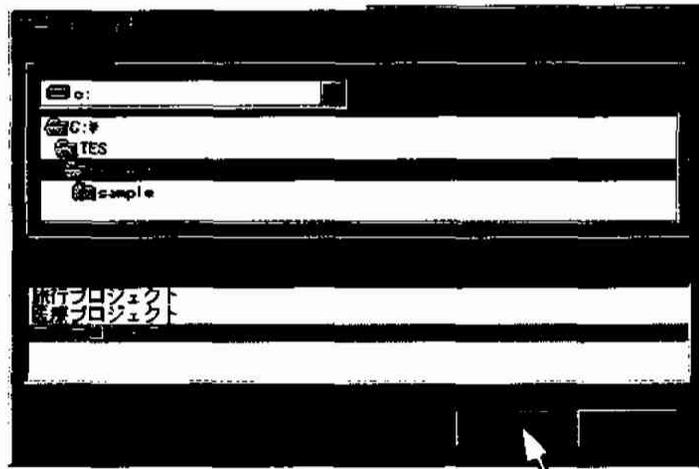
図4-48 プロジェクト名の変更

4.8 プロジェクトの読み込み

既に保存されているプロジェクトを読み込むには、調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「ファイル」を左クリックします。次に、プルダウンメニューの中の「プロジェクトを開く」を左クリックします。するとプロジェクト選択ウィンドウが表示されるので、プロジェクトを選択して「OK」ボタンを左クリックするとプロジェクトが読み込まれます。



(プロジェクト選択ウィンドウ)



同一のフォルダに入っている
プロジェクトが表示される

図4-49 プロジェクトの読み込み

読み込んだリソースを開く

調査票入力画面エディタ画面中に表示されているリソースの中から開きたいリソースを選択します。次に「開く」を左クリックします。

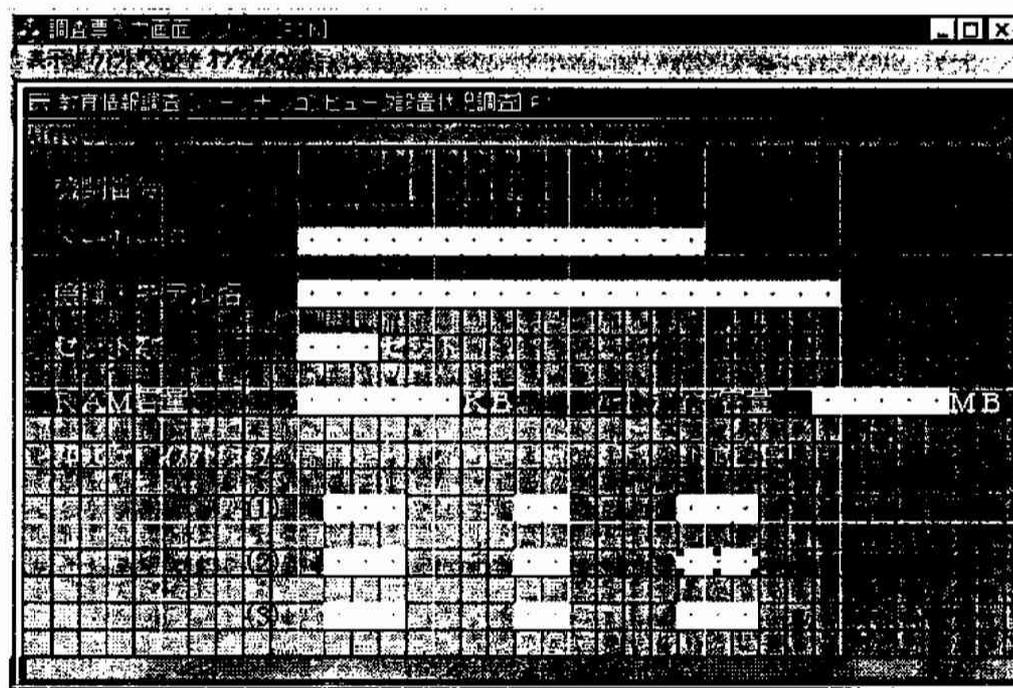
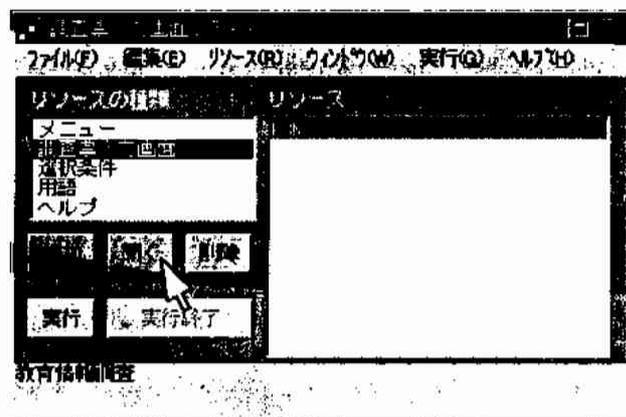
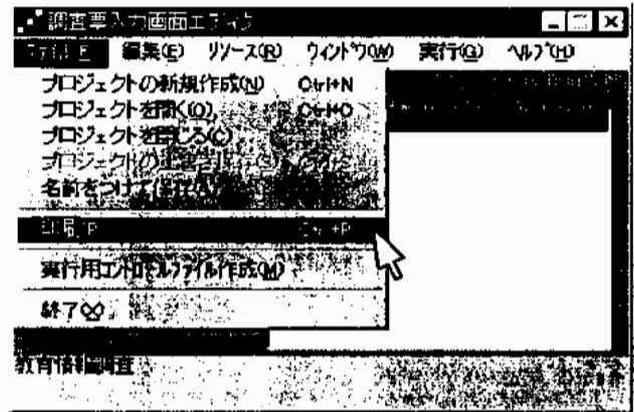


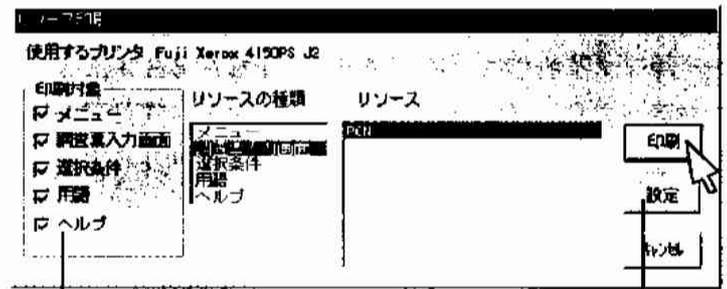
図4-50 リソースを開く

4.9

作成したリソースの内容を印刷するには、調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「ファイル」を左クリックします。次に、プルダウンメニューの中の「印刷」を左クリックするとリソース印刷ウィンドウが表示されます。そこで印刷したいリソースを選択して「印刷」ボタンを左クリックすると印刷が開始します。



(リソース印刷ウィンドウ)



プリンタの設定を行う

チェックを外すと印刷しない

図4-51 プロジェクトの印刷

4.10 実行用コントロールファイルの作成

作成したリソースを調査票入力プログラムで実行させるためには**実行用コントロールファイル**を作成します。調査票入力画面エディタ画面のメニューバーの中から「**ファイル**」を左クリックして、プルダウンメニューの中の「**実行用コントロールファイル作成**」を左クリックすると**実行用コントロールファイル**の作成を開始します。

Windows 版と MS-DOS 版の両方の**実行用コントロールファイル**が同時に作成されます。

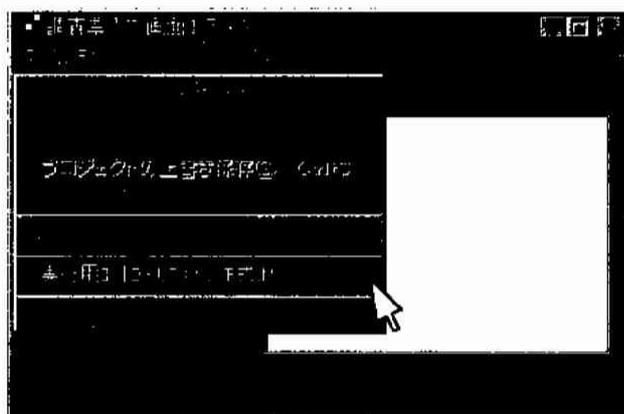


図 4-52 実行用コントロールの作成

実行用コントロールファイル作成中にリソースの矛盾が発生すると、エラー内容をテキストエディタで表示します。エラー個所を修正して再度「**実行用コントロールファイル作成**」を行ってください。

第5章 調査票入力 (MS-DOS版)

目次

5. 1 動作環境	1 2 6
5. 2 インストール	1 2 7
5. 3 起動方法と終了方法	1 3 2
5. 4 調査票への入力方法	1 3 3
5. 5 補助ツール	1 4 3
5. 6 データ回収	1 5 4

5.1 動作環境

調査票入力プログラム (MS-DOS版) は次の環境で動作します。

1. 機種 1) 富士通製品 FMRシリーズ
2) NEC製品 PC98シリーズ
3) 上記互換機種

2. オペレーティングシステム . . . MS-DOS バージョン3.1以上
3. 実行メモリ 540KB使用
4. 作業用ディスク容量 3MB以上

調査票入力をはじめる前に

調査票入力プログラムを用いて調査への回答を入力するためには、先ず上記の動作環境を満たすパソコンを用意します。次にそのパソコンへ調査票入力プログラムが入っているフロッピーディスク (配付フロッピー) を使って、調査票入力プログラムの実行環境を作成します。これをインストール作業といいます。インストール作業が終了した後、調査票入力プログラムを起動すると調査票のメニュー画面が表示されますので入力する調査票を選んで入力します。入力した結果は、調査票データの回収作業を行ってフロッピーディスクへデータを格納します。配付元へはデータの格納されたフロッピーディスクを返送することになります。

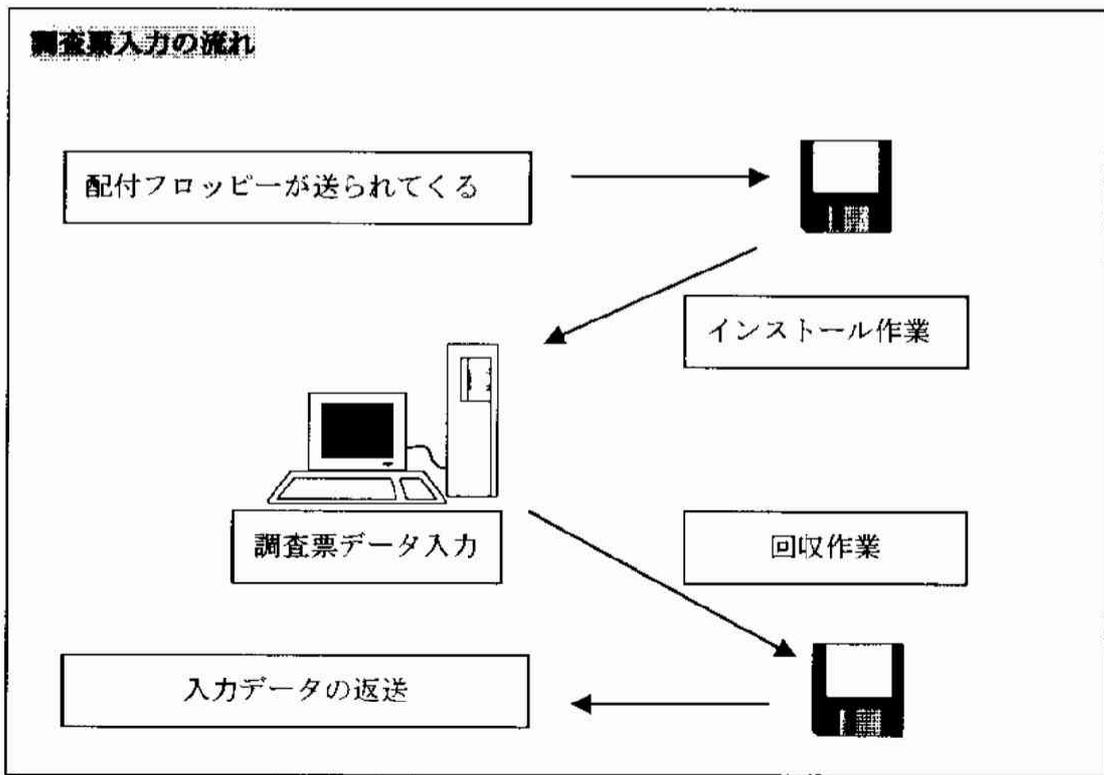


図5-1 調査票入力の流れ

5.2 インストール

ここでは、配布されたフロッピーディスク（調査票入力プログラムが入っているフロッピー）から調査票入力プログラムをインストールする方法について説明します。

1) ファイルの確認

先ずフロッピーディスクをディスクドライブへ挿入し、MS-DOSのコマンドプロンプトからDIRコマンドで以下の6つのファイルが入っていることを確認します。

```

( CXXXXXXXXX .CFG
  KTCLHA     .LZH
  INSTALL    .EXE
  LHA        .DOC
  READIST    .DOC
  LHA        .EXE )
    
```

※XXXXXXXXは調査票作成者が付加する任意の文字列です。

2) インストーラの起動

次にフロッピーディスクのINSTALL.EXEを起動させます。

3) 動作機種の設定

動作機種の設定画面（図5-2）が表示されるので、該当する機種の番号を入力してEnterキーを押します。ESCキーを押すとインストールは中止されます。

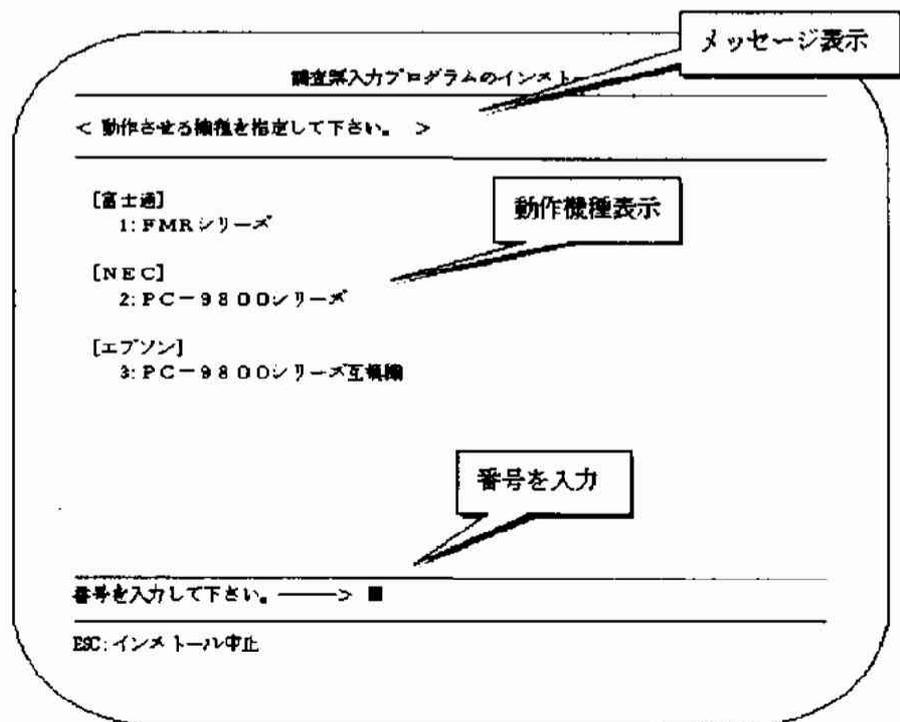


図5-2 動作機種の設定画面

4) インストールの説明画面

3) で **Enter** キーを押すと、インストールの説明画面 (図5-3) になります。ここでは、調査票入力プログラムのインストールについての概要、目的、および手順について記載されています。インストールを続けるには **Enter** を押ししてください。

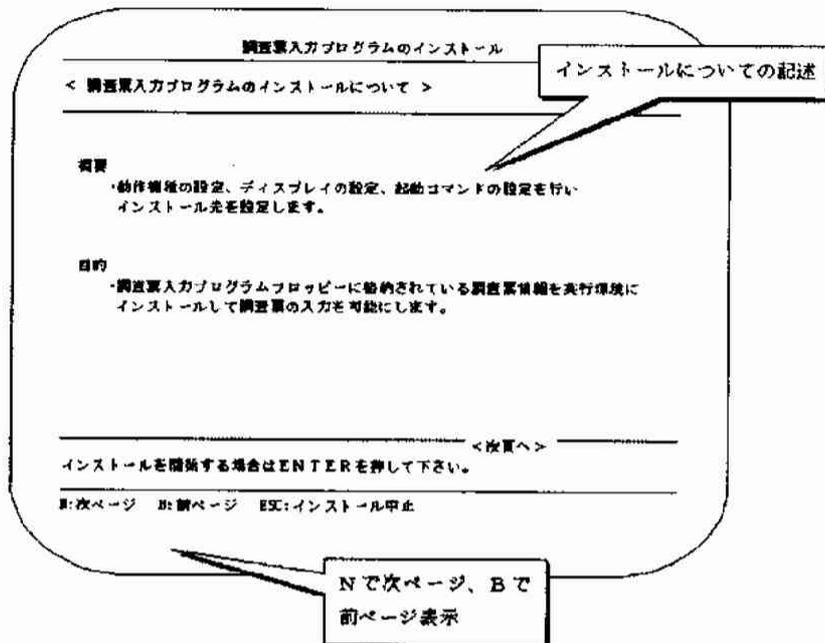


図5-3 インストールの説明画面

5) ディスプレイの設定画面

次に図5-4のディスプレイの設定画面が表示されます。

ディスプレイのカラーモードを一覧から選択し、カラーモードの番号を入力して **Enter** キーを押してください。 **ESC** キーが押されたら、確認メッセージを表示してインストール処理は中止されます。

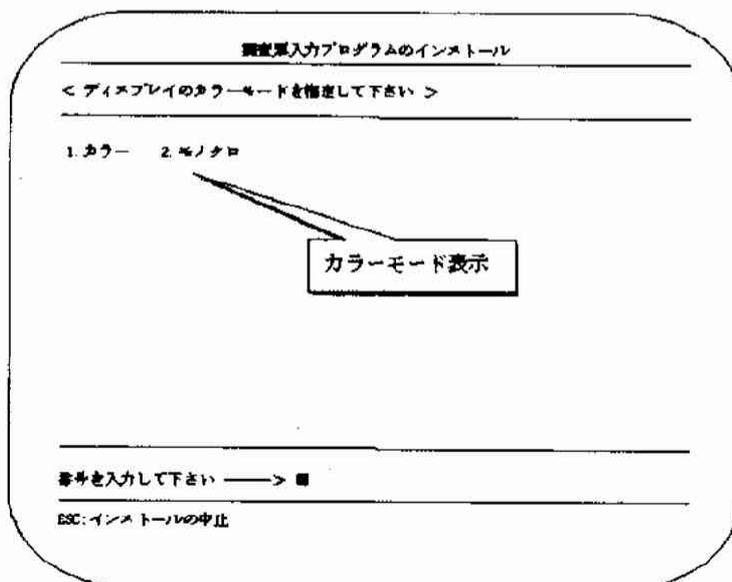


図5-4 ディスプレイの設定画面

6) インストール先の設定画面

次はインストール先の設定です。図5-5の画面で、インストール先のドライブを指定してEnterキーを押すとディレクトリ入力に移ります。インストール先のディレクトリを指定してEnterキーを押すと起動コマンドの設定へ遷移します。タブキーで[ドライブ]と[ディレクトリ]入力を切り替えます。ESCキーが押されたら、確認メッセージを表示してインストール処理は中止されます。

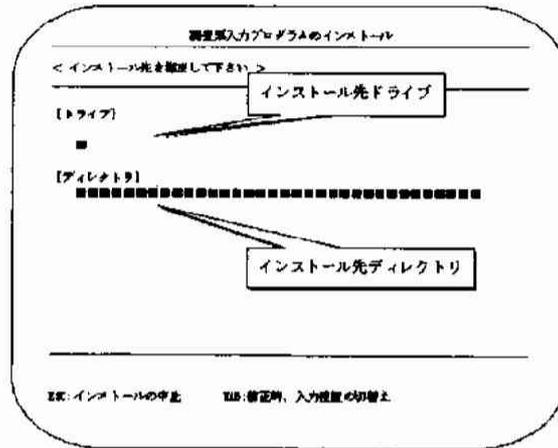


図5-5 インストール先の設定画面

7) 起動コマンドの設定画面

次に図5-6の起動コマンド設定画面で起動コマンドの指定をします。起動コマンドとは、調査票入力プログラムを起動させるためにMS-DOSプロンプトから入力するときのコマンドです。

起動用コマンドを指定してEnterキーを押すとインストールの確認画面へ遷移します。ESCキーが押されると、確認メッセージが表示されてインストールは中止されます。

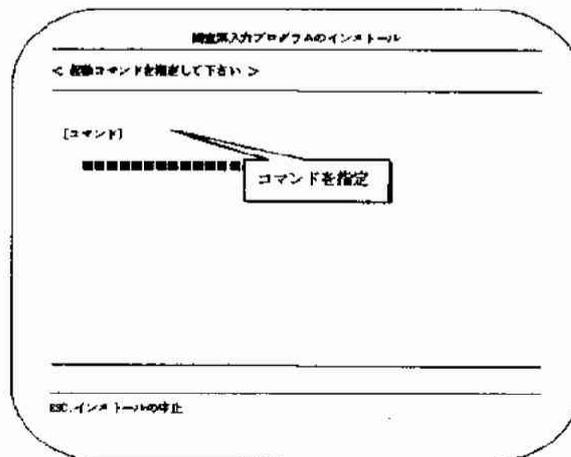


図5-6 起動コマンドの設定画面

8) インストールの確認画面

図5-7のインストールの確認画面では、設定された内容（動作機種から起動コマンドまで）の確認をおこない、インストール開始の確認を行います。

インストールを開始する場合はYを、再設定する場合はNを入力してEnterキーを押します。ESCキーが押されたら、確認メッセージが表示されてインストールが中止されます。

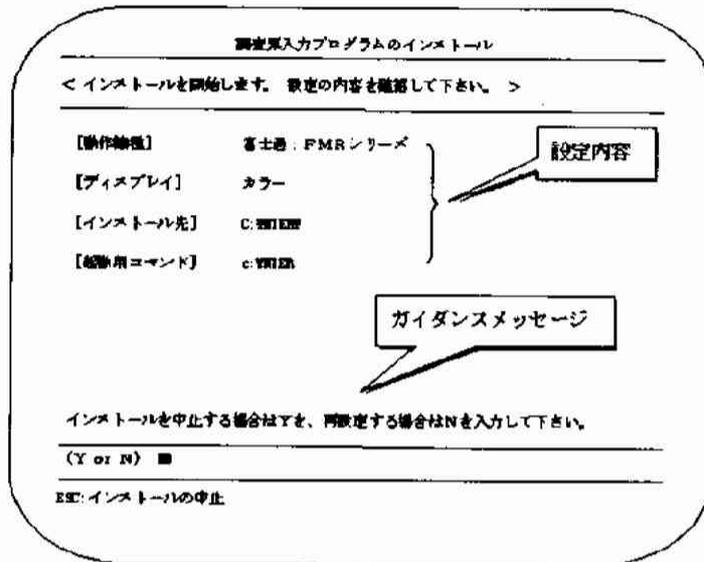


図5-7 インストールの確認画面

9) インストール中画面

インストール中は図5-8の画面が表示されます。インストールを終了したら、起動用バッチファイルを指定の場所に作成してインストール終了画面に移ります。

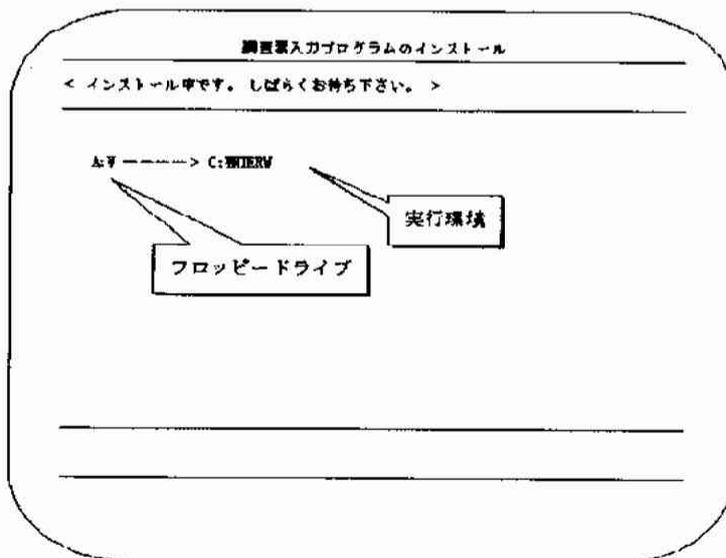


図5-8 インストール中画面

10) インストール終了画面

図5-9は、インストール終了時の画面です。終了メッセージを表示して、MS-DOSのプロンプトへ戻ります。

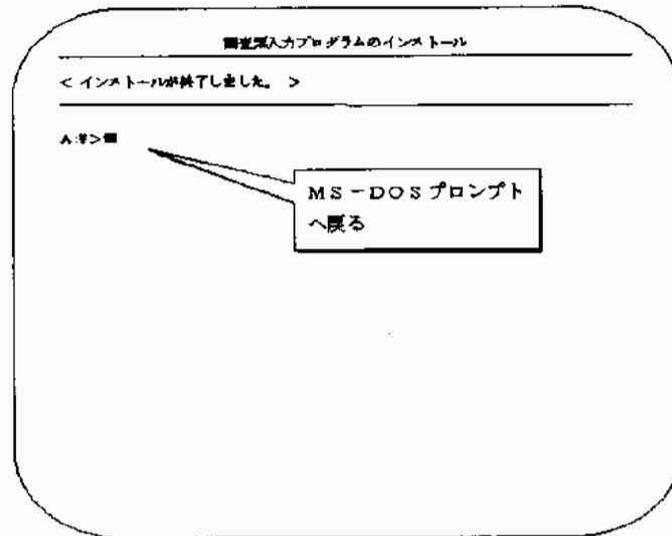


図5-9 インストール終了画面

5.3 起動方法と終了方法

ここではインストールした調査票入力プログラムの起動方法と終了方法について説明します。

1) 起動方法

インストールした調査票入力プログラムの起動は次のようにします。

MS-DOSのプロンプトから起動用コマンドを入力して、**Enter**キーを押します。プログラムが起動されて、調査票入力プログラムのメニュー画面が立ちあがります。

2) 終了方法

調査票入力プログラムの終了方法は次の通りです。

(1) 調査票入力画面を終了する

調査票入力画面中で**ESC**キーを押すことにより終了の確認メッセージが表示されます。ここで**Y**を入力することで調査票入力画面を終了し、メインメニューへ戻ります。

(2) マルチレコードタイプの調査票入力を終了する

マルチレコードタイプの調査票は、最後の回答を入力したら**ESC**キーを押すことで調査票入力画面を終了させます。

また、補助ツール、回収ツール画面中でも**ESC**キーを押すことによってそのプロセスを終了させることができます。

(3) メインメニューを終了する

メインメニューへ戻ったら、**E**キーまたは**ESC**キーを押すことでプログラムは終了し、再びMS-DOSのプロンプトに戻ります。

5.4 調査票への入力方法

ここでは調査票入力画面への入力方法について説明します。

1) メニュー画面からの調査票入力画面の起動

調査票入力プログラムのメニュー画面から上下のカーソル移動キーで調査票入力を選択し、Enterキーを押します。次に調査票を選択するメニュー画面 (メインメニュー) へ遷移します。

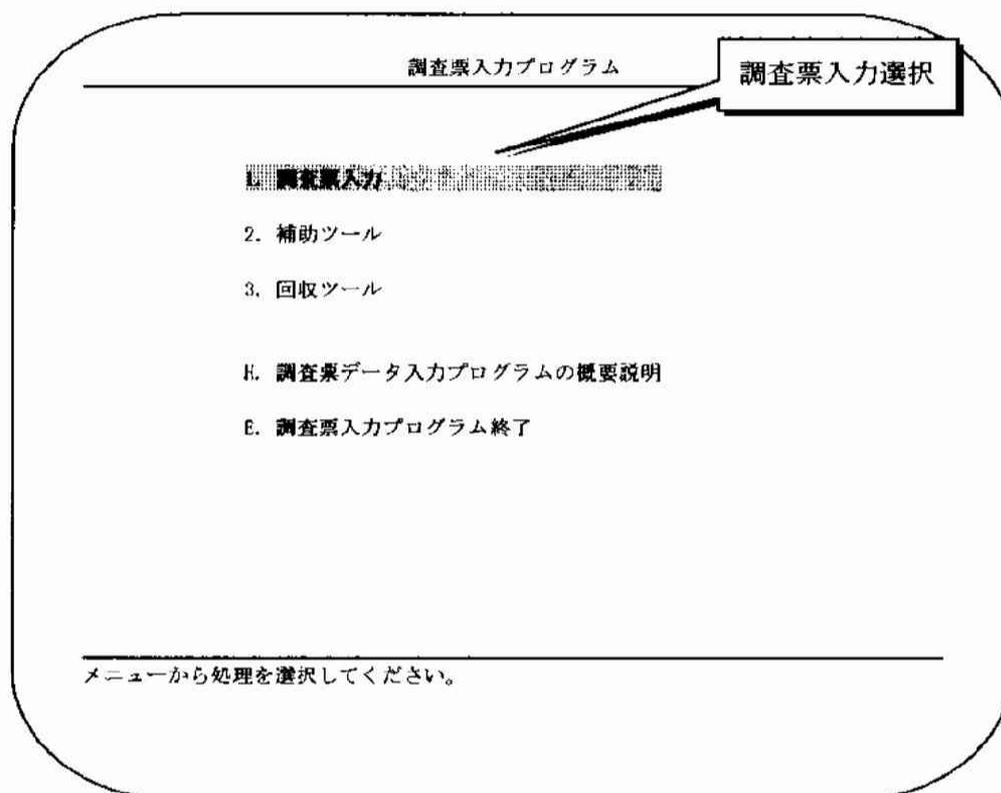


図5-10 調査票入力プログラムのメニュー画面

(1) ヘルプ画面について

アンケート入力画面において f・1 キーを押すことにより反転項目のヘルプ画面を表示させることができます。

(2) 調査票入力キー操作ヘルプ画面について

メニュー画面からアンケートの入力が終了するまでのどの画面でもその時に応じたキー操作のヘルプ画面が f・3 キーを押すことにより表示されます。

2) 回答の入力様式

調査票の質問項目への入力様式について説明します。

(1) 数字、文字列の入力

質問項目の回答入力ボックスに直接数字、文字列を入力します。(調査票作成者により入力文字数が指定されている事もあります。)

調査票作成者によって指定の用語が用語集により用意されている場合には、f・2キーを押すことにより用語集が表示され、そこから入力することができます。

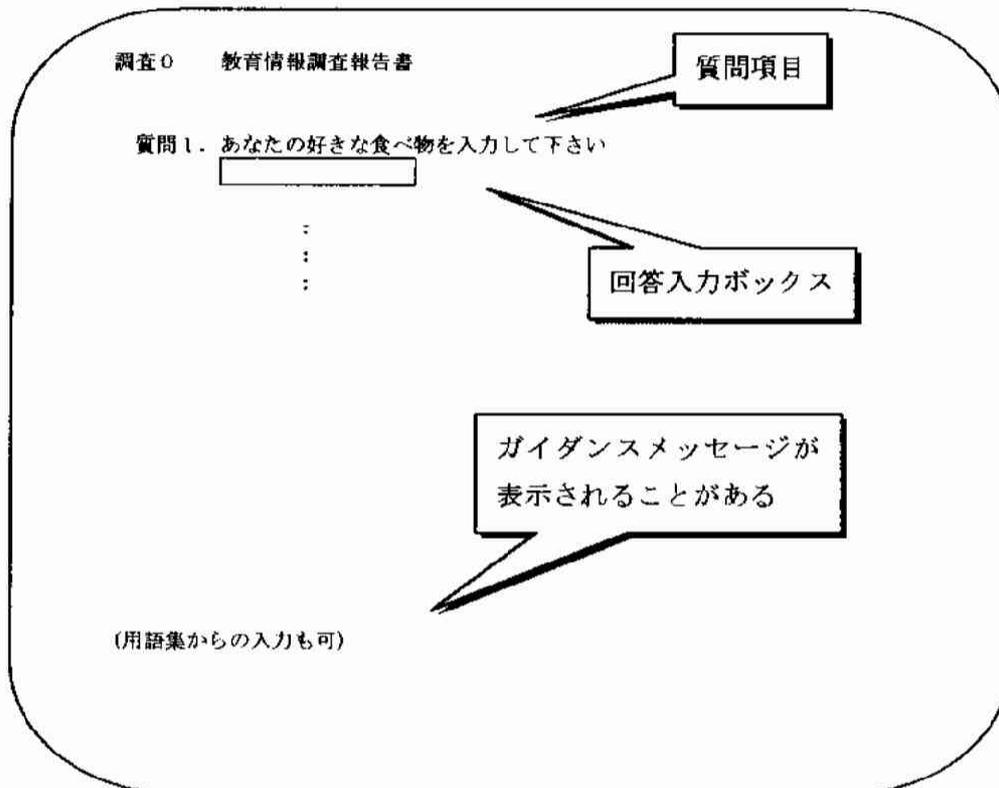


図5-11 調査票入力画面

(2) 用語集から選択入力

以下に用語集の例を挙げます。カーソル移動キーで選択、Enterキーで決定の後、回答入力ボックスに反映されます。(調査票作成者により用語集の形式は同じではないので、その時々用語集に従ってください。)

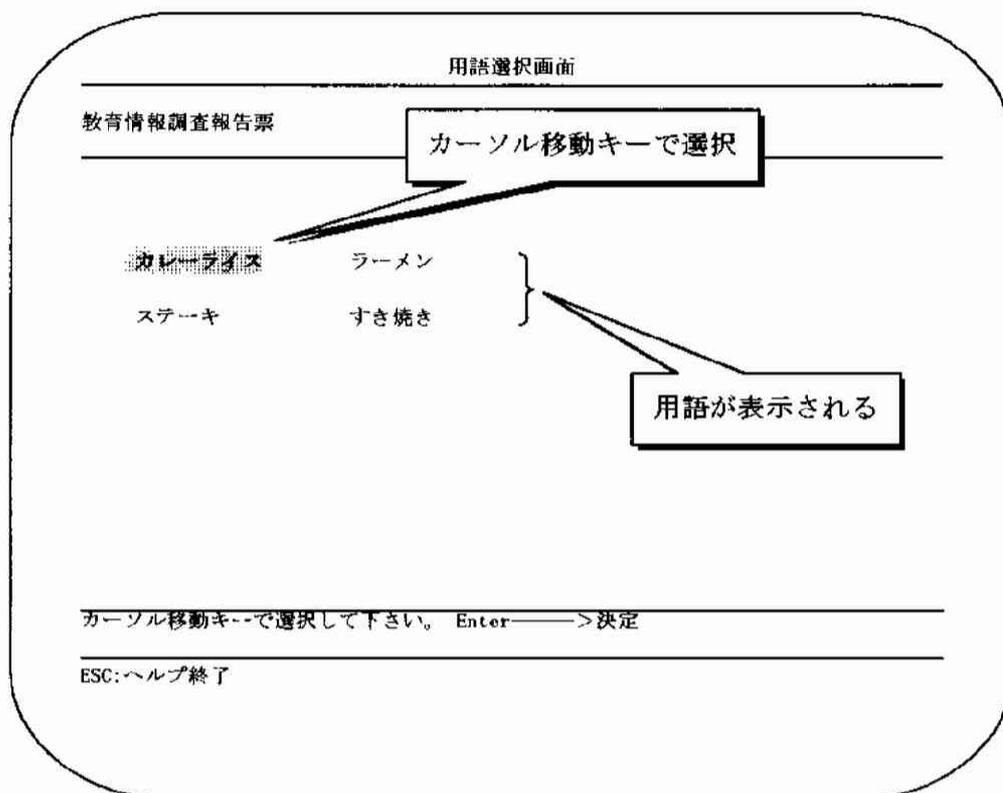


図5-12 用語集画面

(3) 単一選択入力

回答を下段の選択項目からひとつだけ選択します。カーソル移動キーで選択し、Enterキーで決定の後、回答入力ボックスに反映されます。

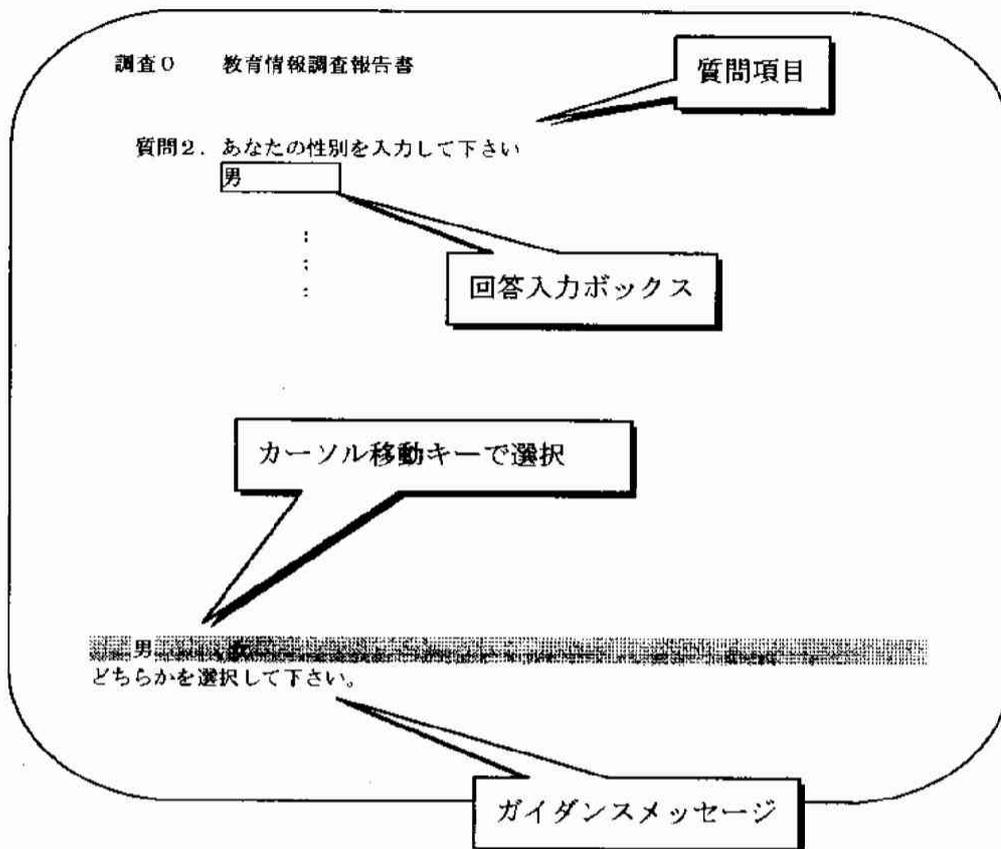


図5-13 単一選択入力画面

(4) 複数選択入力

回答を選択項目の中から複数個選択します。複数選択の場合は、スペースキーを押すことにより選択項目に“*” (アスタリスク) が付加されます。これで初めて選択されたことになり、Enterキーで決定の後、回答入力ボックスに反映されます。

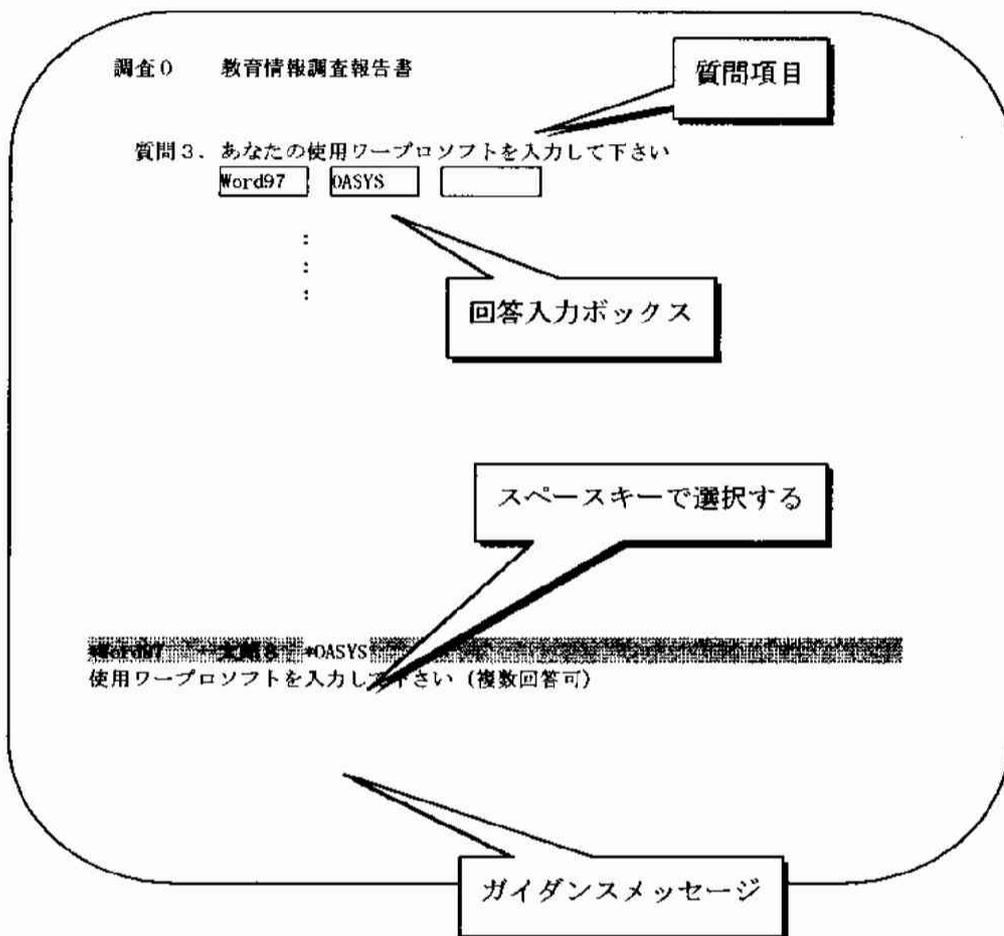


図5-14 複数選択入力画面

3) 調査票レコード管理画面

この画面は、1つの調査票で複数回の回答入力を要求していて、かつ既存の回答が存在する場合のみ自動生成されます。

カーソル移動キーでメニューから項目を選択してEnterを押すか、項目の先頭に付いている文字を入力すると選択された処理を行います。

- 新規 ———— 全ての回答をクリアして新規に回答入力します。
- 追加 ———— 回答を追加します。
- 修正 ———— 入力した回答を修正します。
- 削除 ———— 回答を削除します。
- 次頁 ———— 次頁のレコード一覧を表示します。
- 前頁 ———— 前頁のレコード一覧を表示します。
- ソート ———— 回答したデータのタイトルの表示方法を変えます。
- 終了 ———— 調査票レコード管理画面を終了します。

コンピュータシステム設置状況調査

No.	タイトル	作成日
1	NEC NEAC	971210
2	富士通 FACOM M1400 XSP	971210
3	富士通 FACOM M770/4 IV/F4 MSP	971210
4	.	
5	.	
6	.	
7	.	
8	.	
9	.	
10	.	

メニューから選択した調査票名が表示される

10件解答した場合

<input type="checkbox"/> 新 規	<input type="checkbox"/> 2: 追 加	<input type="checkbox"/> 3: 修 正	<input type="checkbox"/> 4: 削 除
<input type="checkbox"/> N: 次ページ	<input type="checkbox"/> B: 前ページ	<input type="checkbox"/> S: ソート	<input type="checkbox"/> E: 終 了

処理を選択してください。

図5-15 調査票レコード管理画面

(1) 新規回答

調査表レコード管理画面で新規を選択するとレコード新規処理画面へ遷移します。新規を選択した場合には、既存のデータはすべて破棄され、全く新しく入力されることとなりますので十分に注意してください。既存のデータはそのまま、新たにレコードを追加したい場合には、追加を選択してください。

新規レコード入力を行う時は **Y** を入力し、中止する時は **N** を入力して **Enter** キーを押します。新規レコード入力を選択すると、調査票入力画面へ遷移します。

コンピュータシステム設置状況調査

No.	タイトル	作成日
1	NEC NEAC	971210
2	富士通 FACOM M1400 XSP	971210
3	富士通 FACOM M770/4 IV/F4 MSP	971210
4	.	
5	.	
6	.	
7	.	
8	.	
9	.	
10	.	

[新 規]

調査票の内容を全て削除します。 よろしいですか? (Y or N) ——> ■

図5-16 レコード新規処理画面

(2) 回答修正

調査票レコード管理画面で修正を選択するとレコード修正処理画面へ遷移します。カーソル移動キーでバーを移動させEnterキーを押すと調査票入力画面に遷移して選択したレコードの修正ができます。

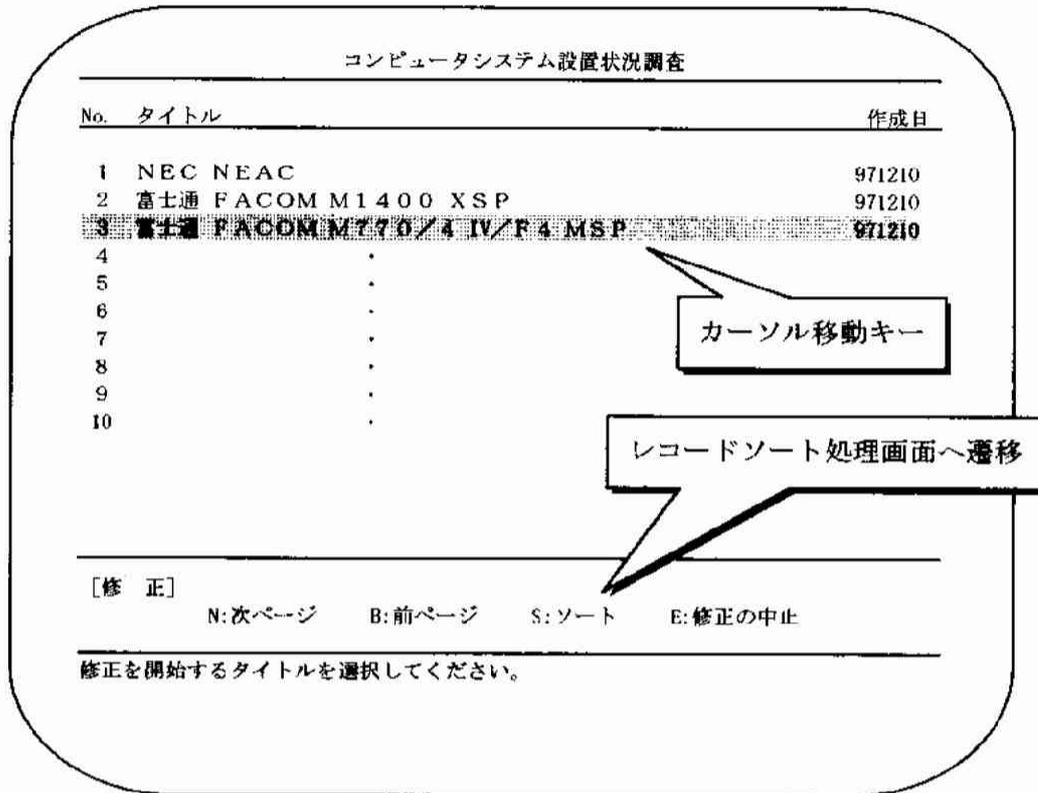


図5-17 レコード修正処理画面

(3) 回答削除

調査票レコード管理画面で削除を選択するとレコード削除処理画面に遷移します。カーソル移動キーでバーを移動させレコードスクロールを行い、Enterキーを押すと削除確認メッセージが表示されます。Yを入力すると調査票のレコードの削除を行います。

既存のレコードをすべて削除し全く新しく入力を行いたい場合には、新規を選択してください。

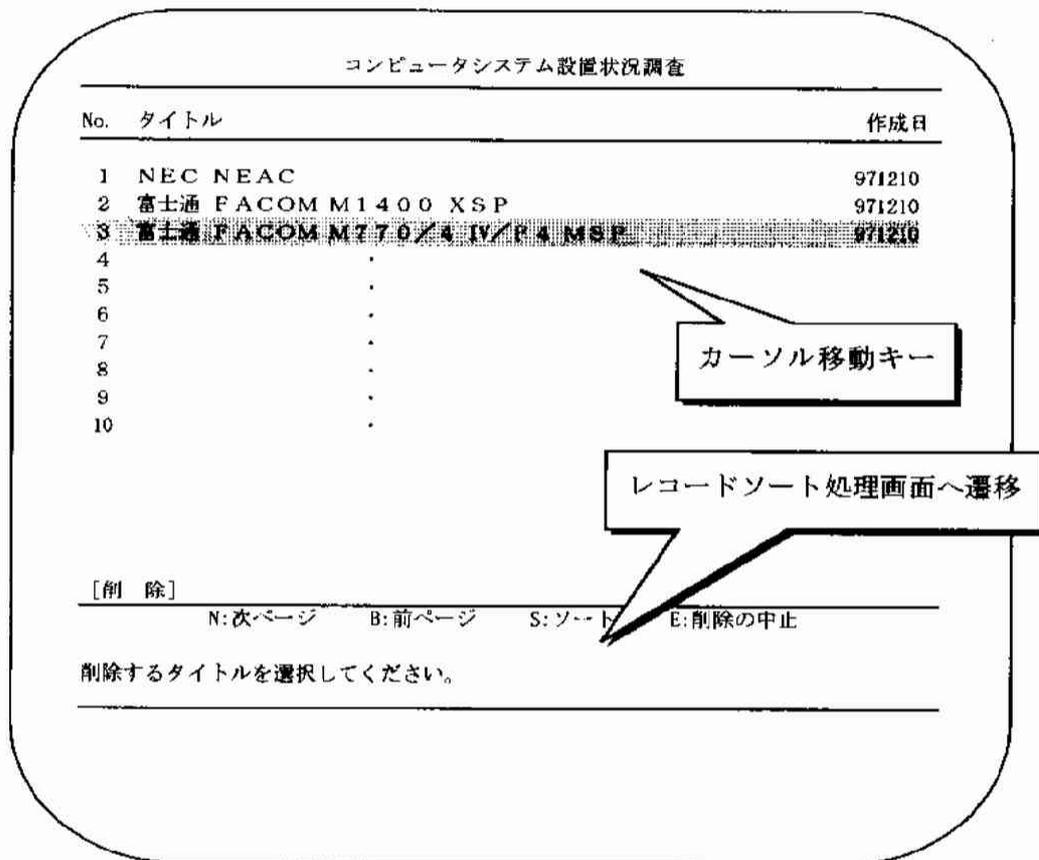


図5-18 レコード削除処理画面

(4) 回答レコードの並べ替え

調査票レコード管理画面でソートを選択するとレコードソート処理画面に遷移します。

カーソル移動キーでメニューから項目を選択してEnterを押すか、項目の先頭に付いている文字を入力すると選択された処理を行います。

ソート項目 —— <タイトル>と<作成日>を切り替えます。

ソート順 —— <昇順>と<降順>を切り替えます。

ソート開始 —— ソートを実行してソート処理を終了します。

(f・5キー同等)

ソートの中止 —— ソートを中止します。

(ESCキー同等)

コンピュータシステム設置状況調査

No.	タイトル	作成日
1	NEC NEAC	971210
2	富士通 FACOM M1400 XSP	971210
3	富士通 FACOM M770/4 IV/F4 MSP	971210
4	.	
5	.	
6	.	
7	.	
8	.	
9	.	
10	.	

[ソート] 1: ソート項目<タイトル> 2: ソート順<昇順>
 G: ソート開始 E: ソートの中止

ソートに関する処理を選択してください。

図5-19 レコードソート処理画面

5.5 補助ツール

補助ツールを使って、入力レコードの複写、印刷などができます。

1) 補助ツールの起動

調査票入力プログラムのメニュー画面から補助ツールを選択し、Enterキーを押します。

次に調査票補助ツール初期画面へ遷移します。

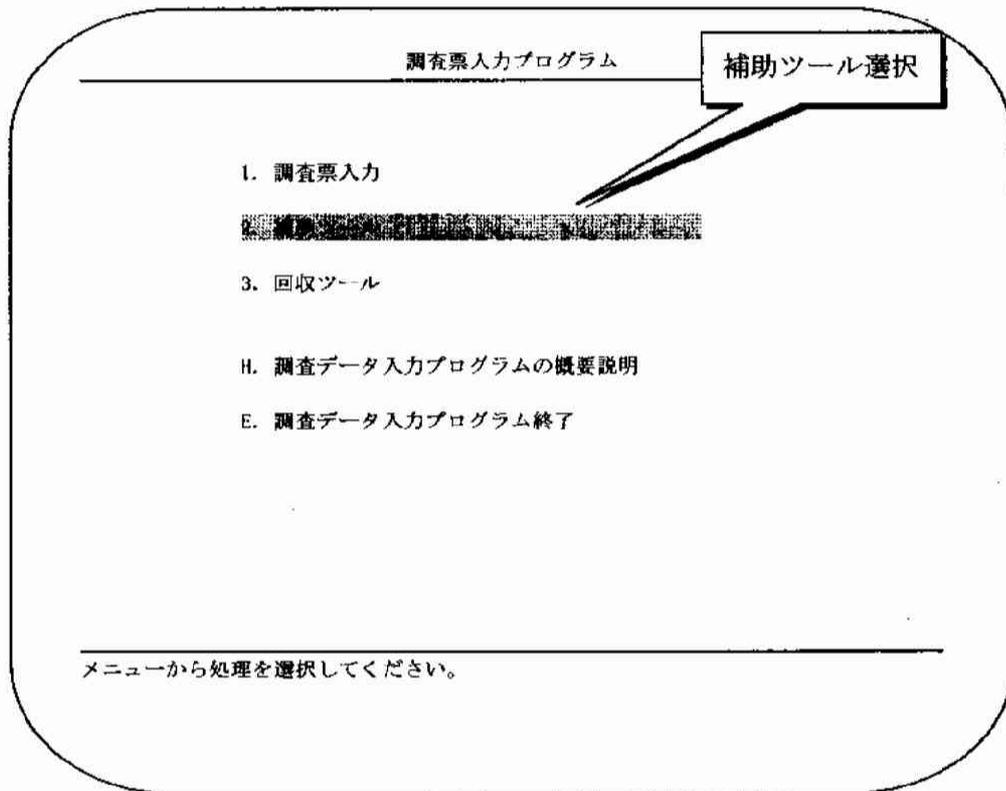


図5-20 調査票入力プログラムのメニュー画面

2) 補助ツール初期画面

ここでは補助ツールの初期画面におけるメニューの説明をします。

- 全選択 ————— 全入力レコードの選択と解除をします。
- 部分選択 ————— 入力レコードを選択します。
- 参照環境 ————— 参照環境を設定します。
- 表示 ————— 表示モードを設定します。
- 次ページ ————— 次ページのレコードの一覧を表示します。
- 前ページ ————— 前ページのレコードの一覧を表示します。
- 複写 ————— レコードの複写を行います。
- 印刷 ————— レコードの印刷を行います。
- 終了 ————— 補助ツールを終了します。

カーソル移動キーでメニューから項目を選択してEnterを押すか、項目の先頭に付いている文字を入力すると選択された処理を行います。

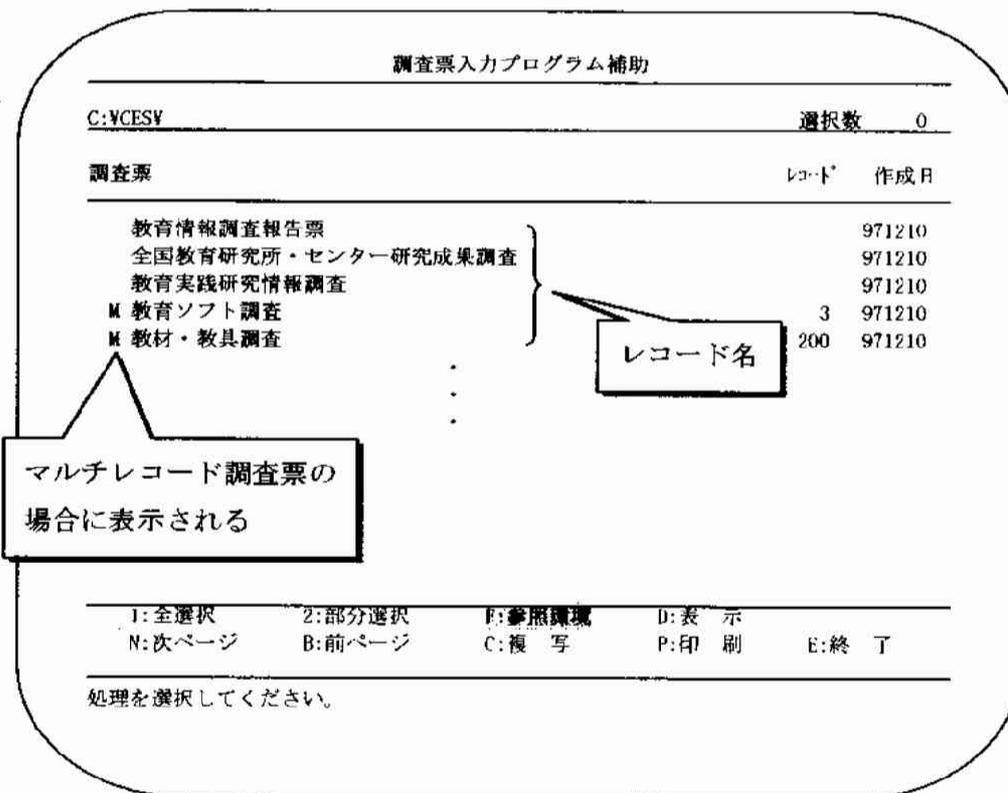


図5-21 補助ツール初期画面

※マルチレコード調査票とは1つの調査票で複数回の回答を要求する調査票様式を言います。

3) 表示モードの設定

ここではマルチレコード調査票のレコードの内容をすべて表示させる表示モードについて説明します。

カーソル移動キーでメニューから項目を選択してEnterキーを押すか、項目の先頭に付いている文字を入力すると選択された処理を行います。

ソート ————— 調査票ソート画面に遷移します。

表示タイプ ————— <マルチレコード内表示する>と<マルチレコード内表示しない>を切り替えます。

次ページ ————— 次ページの調査票の一覧を表示します。

前ページ ————— 前ページの調査票の一覧を表示します。

表示モード設定の終了 ————— 表示モード設定を終了します。

表示タイプを<マルチレコード内表示する>状態で選択するとマルチレコード形式のレコードをすべて表示します。

調査票入力プログラム補助

C:VCESY	選択数	0
---------	-----	---

調査票	レコード	作成日
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査		971210
.		
.		
.		

マルチレコード
内が表示される

[表示モード設定] S:ソート T:表示タイプ <マルチレコード内表示する>
 N:次ページ B:前ページ E:表示モード設定の終了

表示に関する処理を選択してください。

図5-22 表示モード設定画面

4) 調査票の選択

複写、印刷を行うためには先ず、全選択又は部分選択でその対象となるレコードを選択する必要があります。

選択を行うには、カーソル移動キーでバーを移動させスペースキーで選択/解除を行い、選択されたレコードタイトルの前に“*”を表示させます。複数の調査票の選択が可能です。

表示タイプがマルチレコード内表示の場合は、マルチレコードの調査票にはバーは移動しません。表示タイプがマルチレコード内表示でない場合は、マルチレコードの調査票を選択するとその中の全レコードが選択されます。

(1) 全選択

補助ツール初期画面で全選択を選ぶと、全てのレコードが選択されたことになり、全てのレコードに“*”が付加されます。

(2) 部分選択

部分選択では、カーソル移動キーによりレコードを選択し、スペースキーを押すことで“*”が付加されてレコードの選択がされたことになります。この操作を繰り返すことで複数のレコードを選択することが可能です。

調査票入力プログラム補助

調査票	レコード	作成日
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
* 教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査	200	971210

選択されると“*”が付く

選択された数

〔部分選択〕

N:次ページ B:前ページ E:部分選択の終了

調査票を選択してください。

図5-23 レコード選択画面

5) 入力レコードの並べ替え (ソート)

ここでは入力レコードのソートについて説明します。

カーソル移動キーでメニューから項目を選択してEnterキーを押すか、項目の先頭に付いている文字を入力すると選択された処理を行います。

ソート項目 ————— <名 称>と<作成日>を切り替えます。

ソート順 ————— <昇順>と<降順>を切り替えます。

ソート開始 ————— ソートを開始します。

ソートの中止 ———— ソート処理を終了します。(ESCキー同等)

調査票入力プログラム補助		
C:YCESV	選択数	0
調査票	コード	作成日
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査	200	971210
	.	
	.	
	.	
[ソート]	1:ソート項目 <名 称>	2:ソート順 <昇順>
	G:ソート開始	E:ソートの中止

ソートに関する処理を選択してください。

図5-24 ソート処理画面

6) 参照環境の設定

参照環境を設定するとドライブやディレクトリなどデータが存在する環境 (場所) を変更でき、フロッピーディスク中のレコードなどを参照することができます。

ディレクトリ指定

調査票入力プログラム補助

■■■■■
選択数
0

調査票	レコード	作成日
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査	200	971210
	.	
	.	
	.	

[参照環境設定]

ESC: 参照環境設定の終了

調査票の格納されているドライブとディレクトリを入力してください。

図5-25 参照環境設定画面

7) 調査票データの複写

たとえばマルチレコード形式の調査票に回答する場合には、複数の実行環境で手分けして調査票の入力をしたほうが一台のパソコンで入力するよりも早く済みます。

仮にA, B, C, D、4台の実行環境で調査票を入力したとします。入力後に実行環境Aにすべてのレコードをまとめるためには、B, C, Dでの入力データを一度フロッピーディスクへ複写します。そして、再度フロッピーディスクから実行環境Aへ複写すれば完了です。

ここではレコードを実行環境からフロッピー、フロッピーから実行環境へと複写する処理について説明します。(マルチレコード形式でなくても可)

カーソル移動キーでメニューから項目を選択してEnterキーを押すか、項目の先頭に付いている文字を入力すると選択された処理を行います。

- 格納方式 ————— <新日付上書>と<無条件上書>を切り替えます。
- 複写先 ————— 複写先を設定します。
- 複写開始 ————— 複写を実行画面します。
- 次ページ ————— 次ページの調査票の一覧を表示します。
- 前ページ ————— 前ページの調査票の一覧を表示します。
- 複写の中止 ————— 複写処理を中止します。

調査票入力プログラム補助

C:\YCESY	選択数	3
----------	-----	---

調査票	レコード	作成日
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
* 教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査	200	971210
	.	
	.	
	.	

複写先 : A:Y

[複写] W:格納方式 <新日付上書>
 F:複写先 G:複写開始 N:次ページ B:前ページ E:複写の中止

複写に関する処理を選択してください。

図5-26 複写処理画面

複写先のパスを指定してEnterキーを押すと複写先が変更されます。

- 複写先の初期値
 - ・参照環境が実行環境の時 : フロッピーディスク
 - ・参照環境が実行環境でない時 : 実行環境

ESCキー ————— 複写先設定を中止します。

調査票入力プログラム補助

C:\VCFSY 選択数 3

調査票	レコード*	作成日
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
* 教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査	200	971210

複写先指定

複写先: ■

[複写先設定]

ESC: 複写先設定の中止

複写先を入力してください。

図5-27 複写先設定画面

複写処理中の画面です。複写が終了すると補助ツール初期画面に戻ります。

調査票入力プログラム補助			
C:YCESY		選択数	3
調査票	レコード	作成日	
教育情報調査報告票			971210
全国教育研究所・センター研究成果調査			971210
* 教育実践研究情報調査			971210
M 教育ソフト調査	3		971210
> 教育ソフト調査		調査タイトル1	971210
* > 教育ソフト調査		調査タイトル2	971210
* > 教育ソフト調査		調査タイトル3	971210
M 教材・教具調査	200		971210
		.	
		.	
		.	
複写先: A:V			
複写中調査票: 教育ソフト調査			
複写完了数: 1			
複写中です。			

図5-28 複写実行画面

8) レコードの印刷

ここでは調査票に入力した内容を印刷する印刷処理について説明します。

印刷されるレコードは、“*”で選択されているものなので、あらかじめ選択しておく必要があります。

カーソル移動キーでメニューから項目を選択してEnterキーを押すか、項目の先頭に付いている文字を入力すると選択された処理を行います。

- 印刷開始 ————— 印刷を実行します。
- 次ページ ————— 次ページの調査票の一覧を表示します。
- 前ページ ————— 前ページの調査票の一覧を表示します。
- 印刷の中止 ————— 印刷処理を中止します。

調査票入力プログラム補助

G:YCESY	選択数	3
<hr/>		
調査票	レコード	作成日
<hr/>		
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
* 教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査	200	971210
		.
		.
		.
<hr/>		
[印刷]		
G:印刷開始 N:次ページ B:前ページ E:印刷の中止		
<hr/>		
印刷に関する処理を選択してください。		

図5-29 印刷処理画面

印刷処理中の画面です。印刷が終了すると補助ツール初期画面に戻ります。

ESCキー ———— 確認メッセージを表示した後、Yが入力されたら印刷処理を終了して調査票補助ツール初期画面に戻ります。

調査票入力プログラム補助

C:\VCES\Y 選択数 3

調査票	レポート	作成日
教育情報調査報告票		971210
全国教育研究所・センター研究成果調査		971210
* 教育実践研究情報調査		971210
M 教育ソフト調査	3	971210
> 教育ソフト調査 調査タイトル1		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル2		971210
* > 教育ソフト調査 調査タイトル3		971210
M 教材・教具調査	200	971210
	.	
	.	
	.	

印刷中調査票： 教育ソフト調査
印刷完了数 : 1

印刷中です。 ESC:印刷中止

確認メッセージ
印刷を終了しますか？ (Y or N) ■

図5-30 印刷実行画面

5.6 データ回収

ここでは調査票に入力した回答データを回収する方法について説明します。

1) 回収ツールの起動

調査票入力プログラムのメニュー画面から回収ツールを選択し、Enterキーを押します。

次に回収先の設定画面へ遷移します。

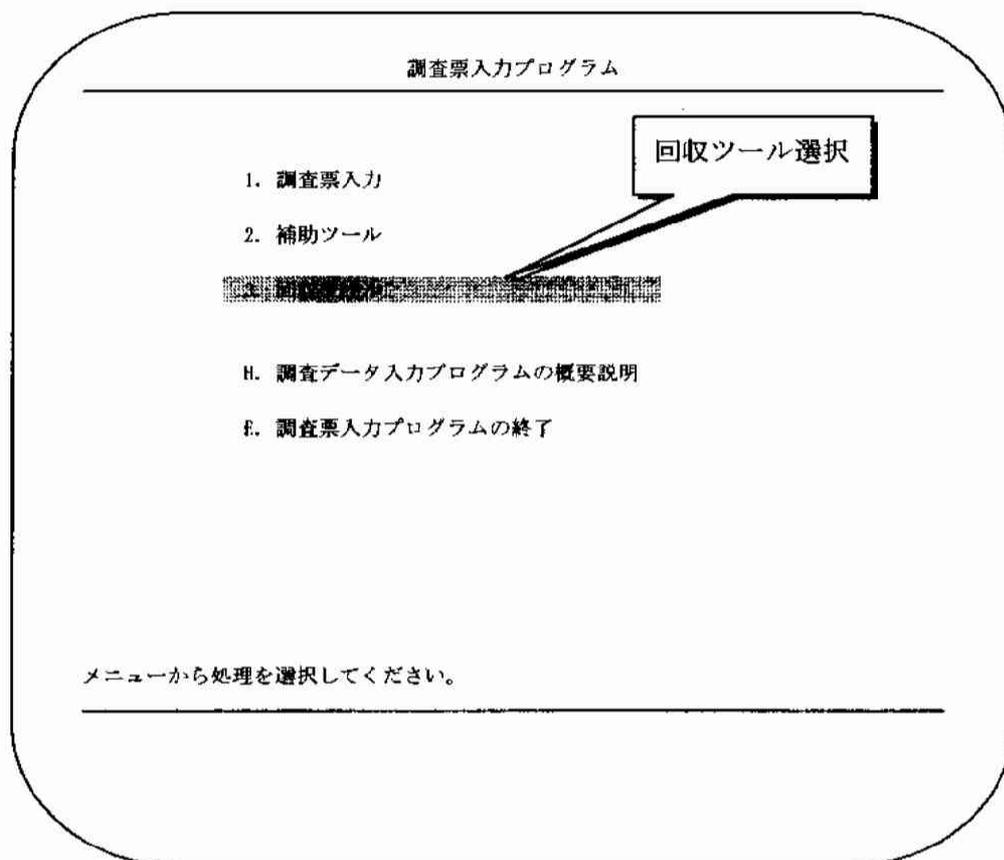


図5-31 回収ツールの選択

2) 回収先の設定

回収先のドライブを設定してEnterキーを押すと、回収開始画面へ移ります。
 ※ 回収先ドライブは、フロッピーディスクドライブのみです。

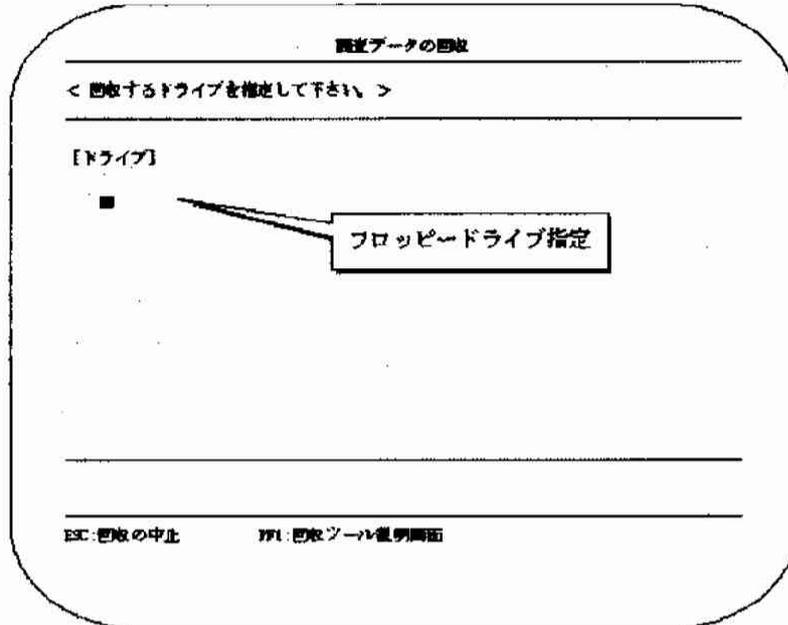


図5-32 回収先設定画面

- ① Enterキーを押すと回収を開始します。ドライブはフロッピードライブ固定です。
- ② f・1キーで調査票回収説明を表示します。
- ③ ESCキーが押されたら、回収ツールは中止します。

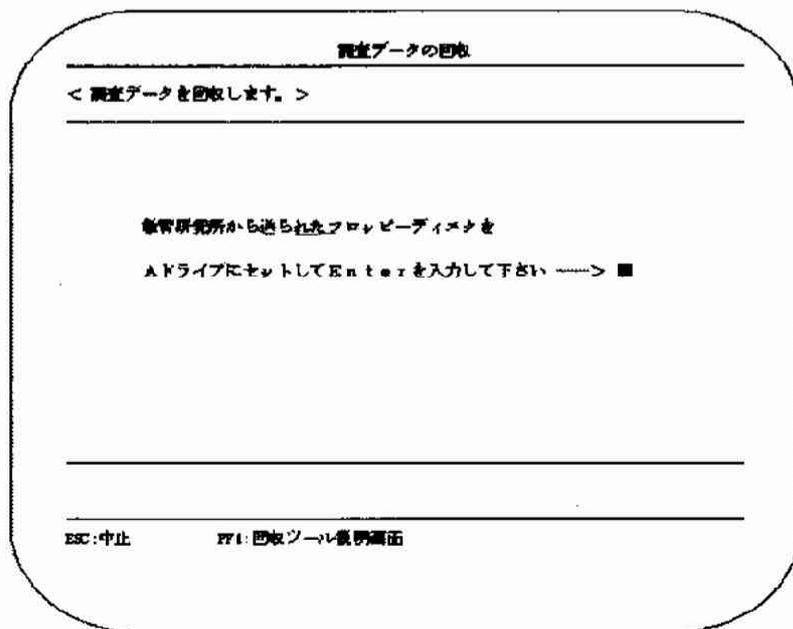


図5-33 回収開始画面

回収が終了したら、回収ツールは終了されます。回収後、実行環境を消去するかどうかの確認メッセージが表示されます。消去の指定をすると、インストールされていた実行環境が消去され、パソコンのハードディスク内は、調査票入力プログラムのインストール前の状態に戻ります。

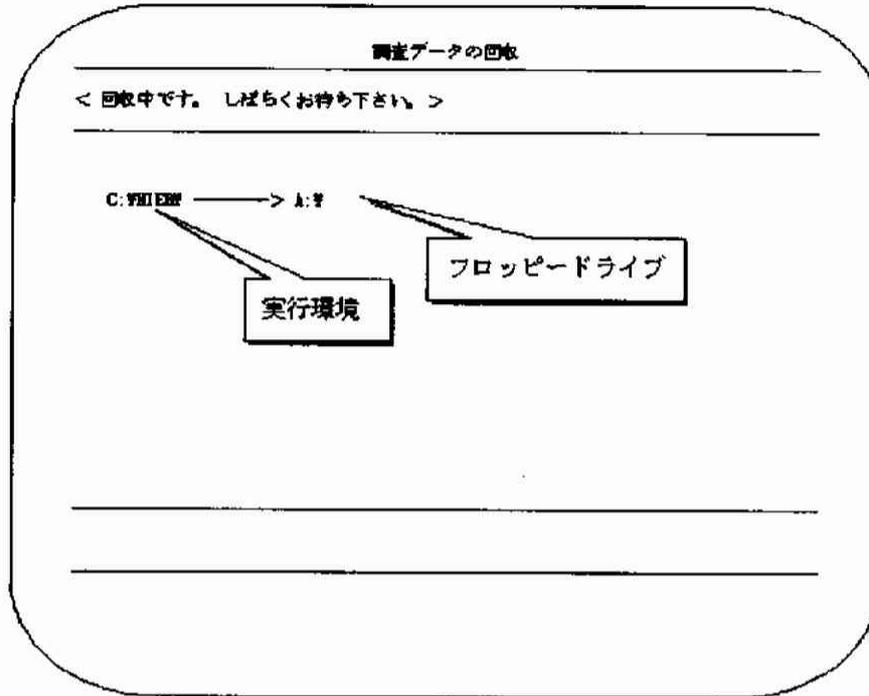


図5-34 回収中画面

第6章 調査票入力 (Windows版)

目次

6. 1 動作環境	158
6. 2 インストール	159
6. 3 起動方法と終了方法	161
6. 4 調査票の入力方法	163
6. 5 補助ツール	168
6. 6 データ回収	174

6.1 動作環境

調査票入力プログラム (Windows用) は次の環境で動作します。

1. オペレーティングシステム Windows 95
2. メモリ 16MB以上
3. 作業用ディスク容量 3MB以上

調査票入力をはじめる前に

調査票入力プログラムを用いて調査への回答を入力するためには、先ず上記の動作環境を満たすパソコンを用意します。次にそのパソコンへ調査票入力プログラムが入っているフロッピーディスク (配付フロッピー) を使って、調査票入力プログラムの実行環境を作成します。これをインストール作業といいます。インストール作業が終了した後、調査票入力プログラムを起動すると調査票のメニュー画面が表示されますので入力する調査票を選んで入力します。入力した結果は、調査票データの回収作業を行ってフロッピーディスクへデータを格納します。配付元へはデータの格納されたフロッピーディスクを返送することになります。

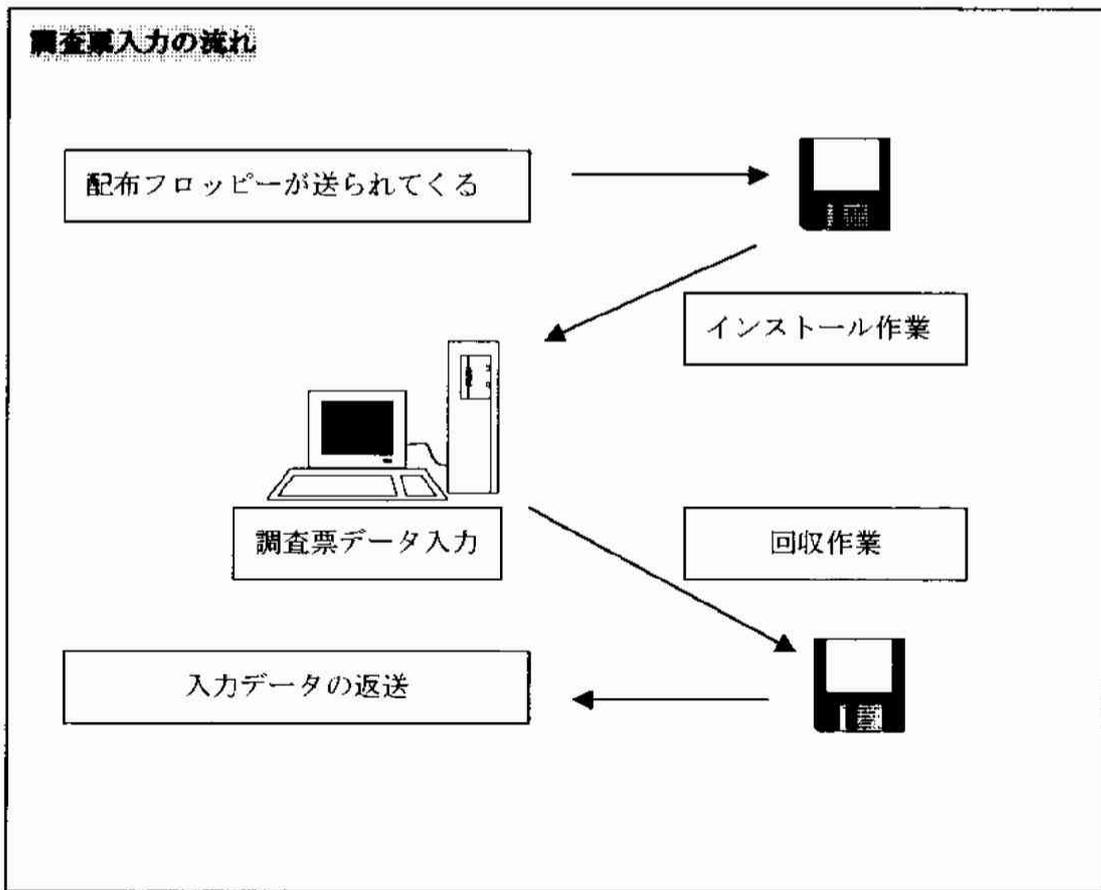


図6-1 調査票入力の流れ

6.2 インストール

ここでは、配布されたフロッピーディスク（調査票入力プログラムが入っているフロッピーディスク）から調査票入力プログラムをインストールする方法について説明します。

1) ファイルの確認

まず配付されたフロッピーディスクをディスクドライブに挿入します。次にWindows 95の「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラ」を左クリックしてエクスプローラを起動します。エクスプローラからフロッピーディスクドライブを開いて、以下の6つのファイルが入っていることを確認します。

CXXXXXXXX	.c f g
Setup	.e x e
Ktclha	.l z h
Setup	.h l p
Lha	.e x e
Lha	.d o c

※XXXXXXXXは調査票作成者が付加する任意の文字列です。

以上のファイルの確認が済んだらインストールを開始します。

2) インストーラの起動

インストールを開始するには、**Setup.exe**をダブルクリックし起動させます。インストール先設定画面が表示されますので、インストール先を設定し、「OK」ボタンを押すとインストールが開始されます。

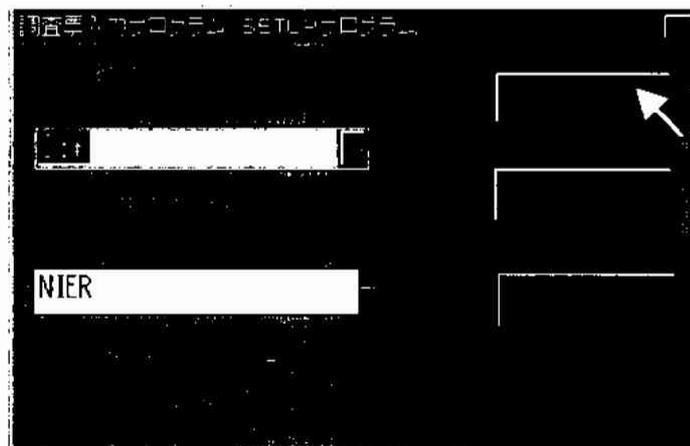


図6-2 インストール先設定画面

インストールが終了すると図6-3の画面が表示されるので、右上角の「X」ボタンをクリックしてください。

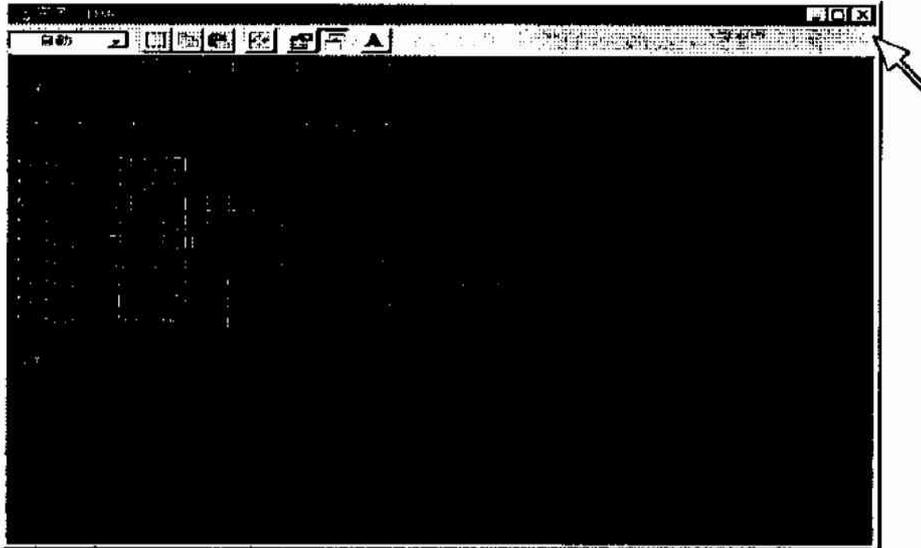


図6-3 インストール実行画面

次に、調査票入力プログラムのインストール完了の確認画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックしてください。



図6-4 インストール完了確認画面

6.3 起動方法と終了方法

ここではインストールした調査票入力プログラムの起動方法と終了方法について説明します。

1) 起動方法

インストール先に設定したフォルダ下の `Nier.exe` を起動させます。メニュー画面が立ちあがります (調査票によりメニュー画面は異なります)。次に、ボタンをダブルクリックすると調査票入力画面が立ちあがります。

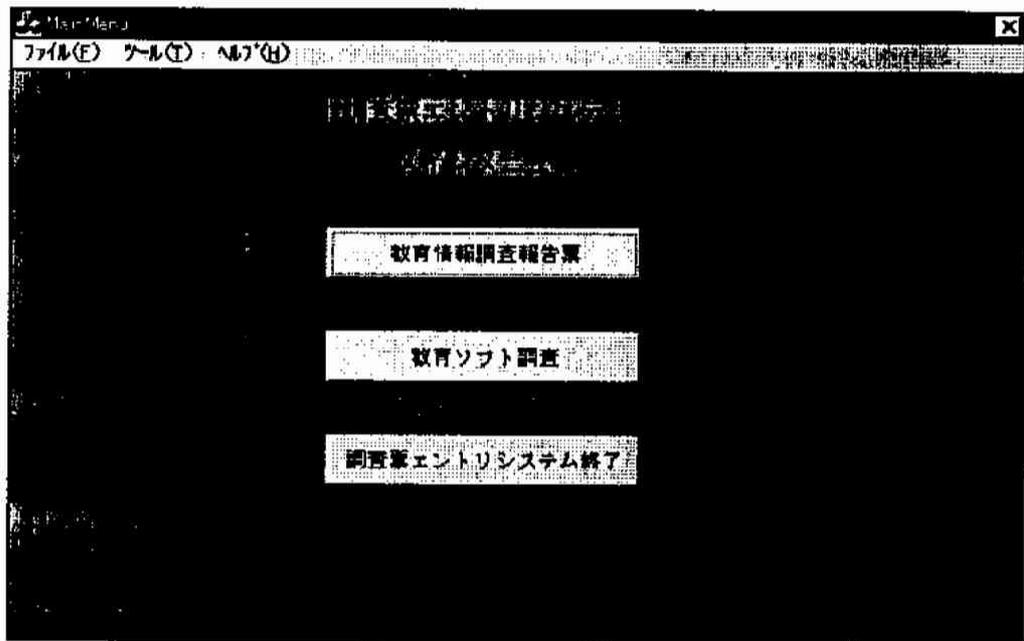


図6-5 調査票入力プログラムのメニュー画面

2) 終了方法

調査票入力プログラムを終了させる方法は次のとおりです。

調査票入力画面において、画面右上角の「×」を左クリックします。または、「ファイル」から「終了」を選び左クリックします。

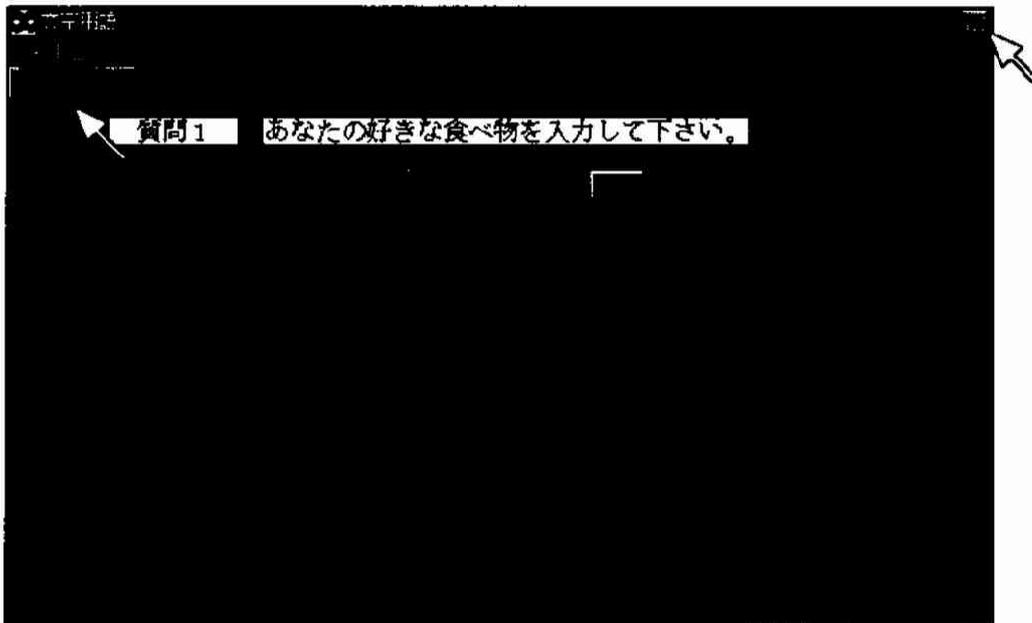


図6-6 調査票入力の終了方法

6. 4 調査票への入力方法

ここでは調査票の質問項目への入力方法について説明します。

1) 回答の入力様式

(1) 数字、文字列の入力

質問項目の回答入力ボックスに直接数字、文字列を入力します。(調査票の作成者側で入力文字数が指定されていることがあります。)

指定があれば参照ボタンを左クリックすることで調査票作成者指定の用語を用語集より入力することができます。

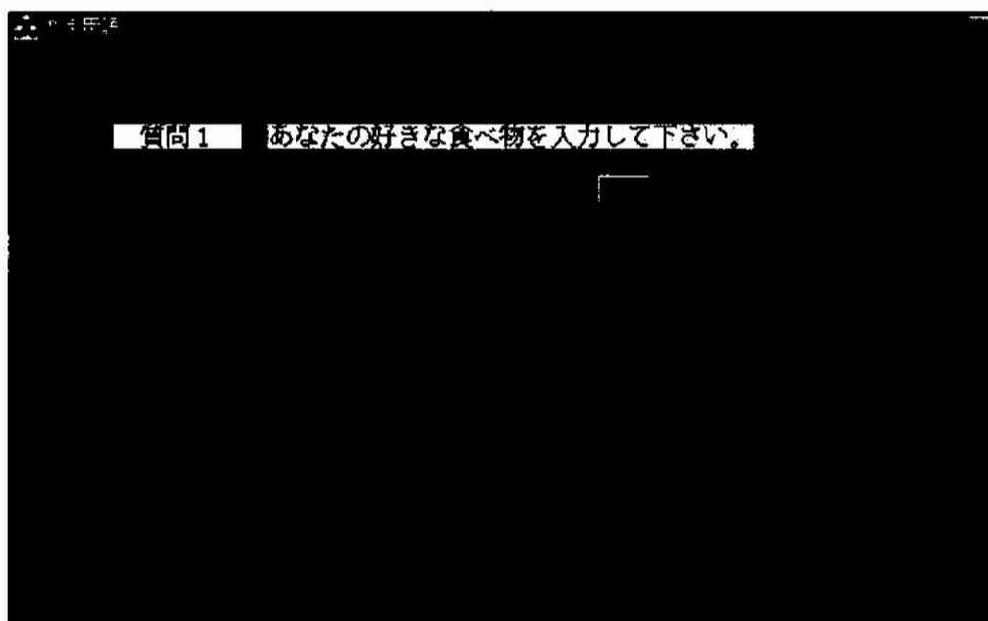


図6-7 入力画面例

※ヘルプ画面について

調査票入力画面において「ヘルプ」を左クリックすることによりヘルプ画面を参照することができます。

(2) 用語集からの選択入力

以下に用語集の例を挙げます。調査票作成者により用語集の形式は変わります。

タブキーで項目を選択後Enterキーで決定又は項目をクリックすると回答入力スペースに反映されます。

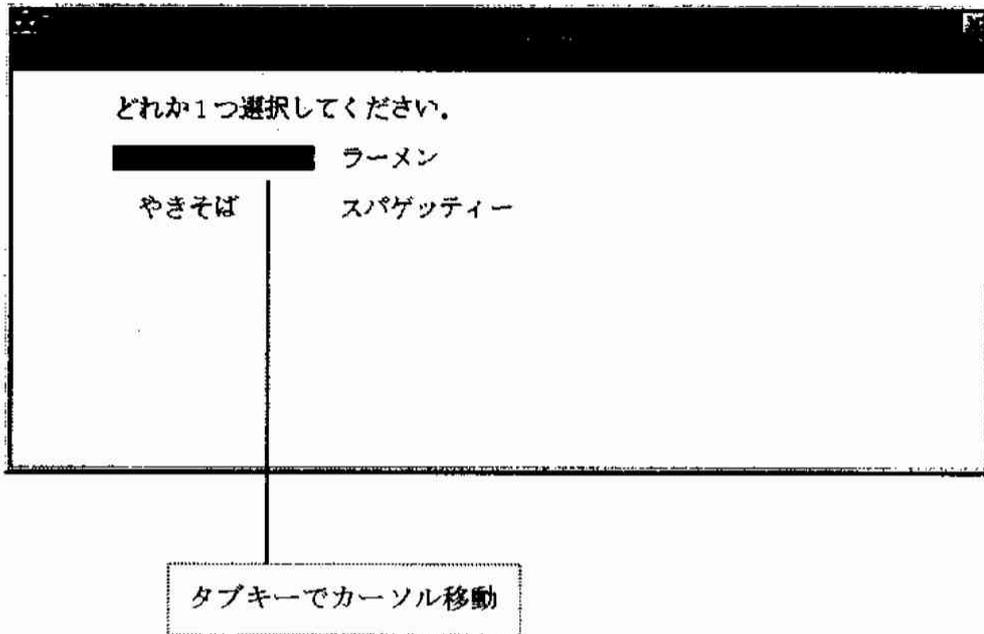


図6-8 用語集画面

(3) 単一選択入力

回答を選択項目からひとつだけ選択します。

「▼」を左クリックすると選択項目を表示するので項目をクリックして決定します。

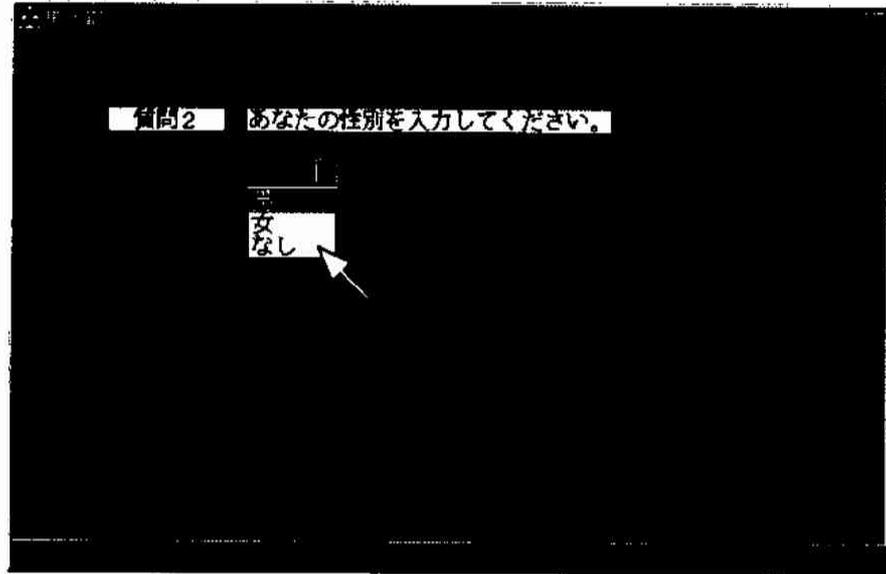
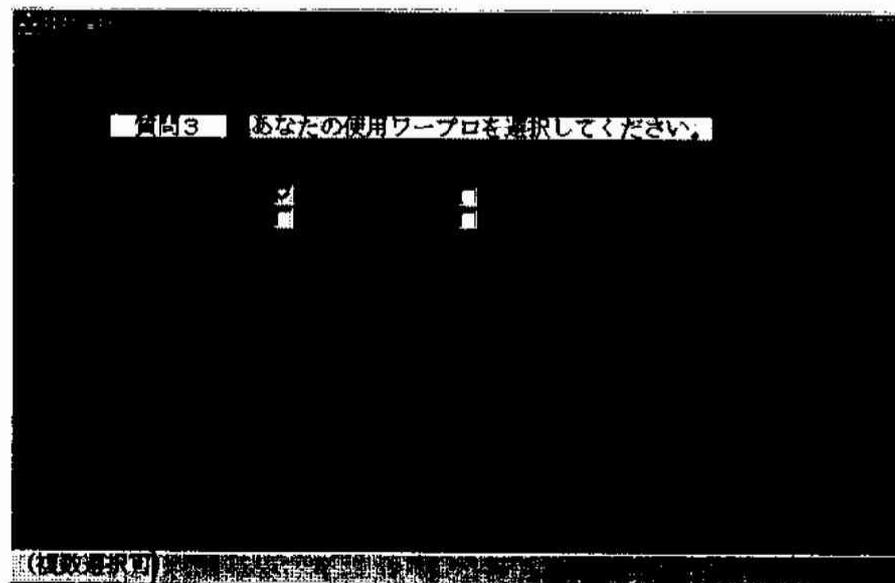


図6-9 単一選択入力

(4) 複数選択入力

回答を選択項目の中から複数個選択します。選択項目の口を左クリックしてチェックがかければ選択したことになります。



選択後チェックされ

図6-10 複数選択入力

2) 調査票レコード管理画面

この画面は、1つの調査票で複数の回答を要求しているなおかつ既存の回答が存在する場合のみ自動生成されます。

ここでレコードを選択して、「ファイル」を左クリックすると6つの項目が表示されます。

- 新規 —— すべての回答をクリアして新規に回答します。
- 追加 —— 回答を追加します。
- 修正 —— 入力した回答を修正します。
- 削除 —— 回答を削除します。
- ソート —— 回答したデータのタイトルの表示方法を変えます。
- 終了 —— 調査票レコード管理画面を終了します。

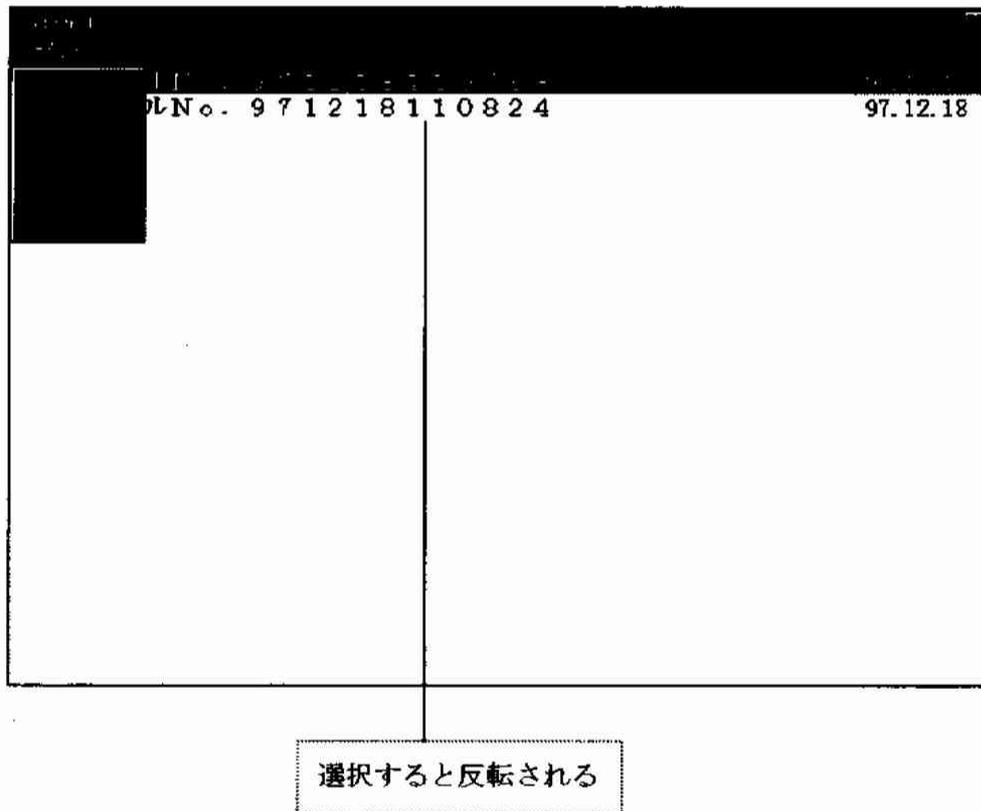


図6-11 調査票レコード管理画面

回答レコードの並び替え

「ファイル」から「ソート」を選択します。次に、ソートタイプとソート順を設定し、実行をクリックします。

ソートタイプ

- レコード名 : タイトル全体を基準にします。
 - フィールド1 : 1番目の項目を基準にします。
 - フィールド2 : 2番目の項目を基準にします。
 - フィールド3 : 3番目の項目を基準にします。
 - 作成日 : 作成日を基準にします。
- ソートタイプの項目を左クリックしてチェックします。

ソート順

- 昇順 : 昇順で表示させます。
- 降順 : 降順で表示させます。

実行

チェックされた「ソートタイプ」、「ソート順」でソートを実行します。

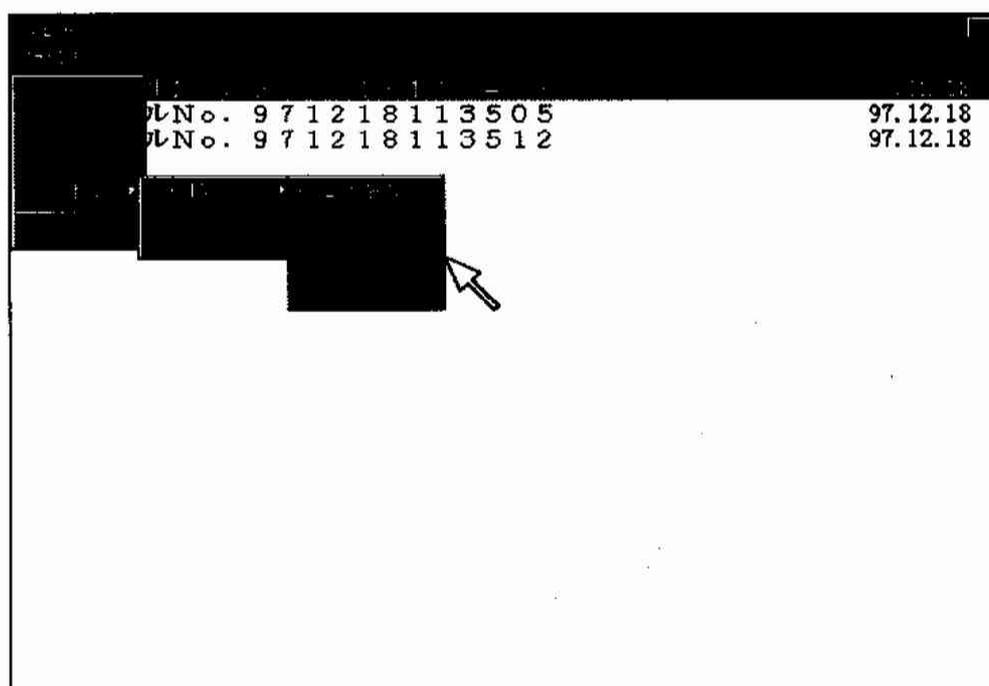


図6-12 調査票レコードの並び替え

6.5 補助ツール

補助ツールを使って、入力レコードの複写、印刷などができます。

補助ツールの起動

補助ツールの起動方法は2つあります。

- ①インストールしたフォルダ下の `Tessub.exe` を起動させます。
- ②調査票メニュー画面で「ツール」から「補助ツール」を左クリックします。

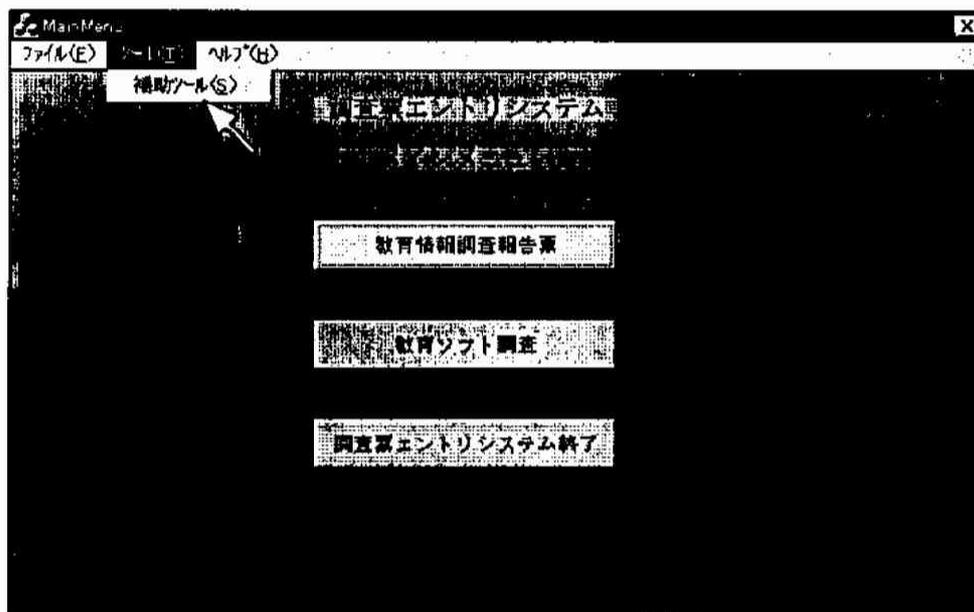


図6-13 補助ツールの起動

「ファイル」を左クリックすると以下の5つの項目が表示されます。

参照環境 —— 参照環境を設定します。

表示モード —— 「マルチレコード設定」や「ソート設定」を行います。

複写 —— レコードの複写を行います。

印刷 —— レコードの印刷を行います。

終了 —— 補助ツールを終了します。

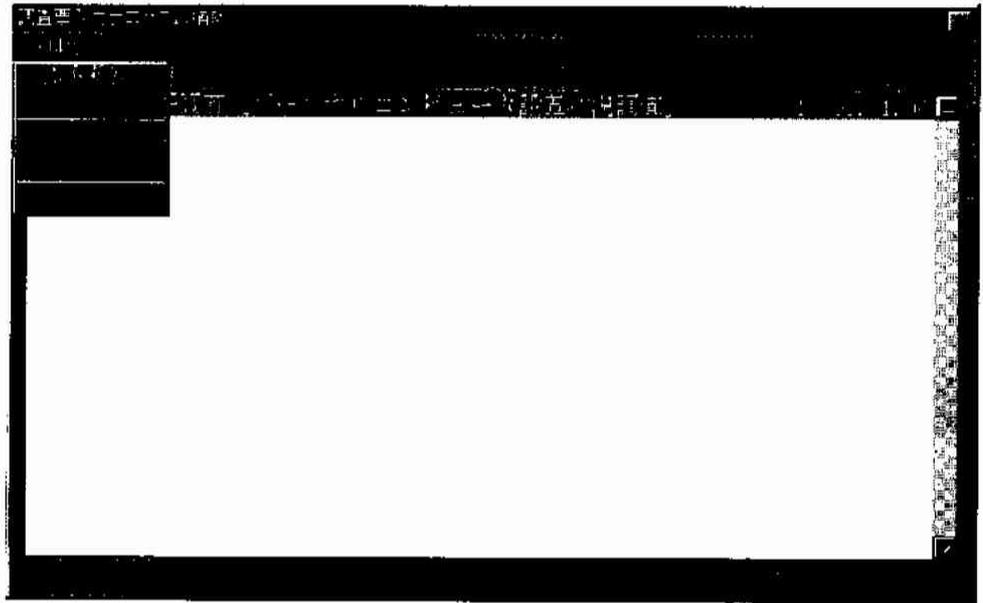


図 6-14 補助ツールの機能

1) 参照環境の設定

補助ツールメニューで「ファイル」から「参照環境」を左クリックすると参照ディレクトリの設定ができます。これによりフロッピーディスクの中にある調査票データなどが参照できます。参照ディレクトリ設定後「OK」を左クリックします。

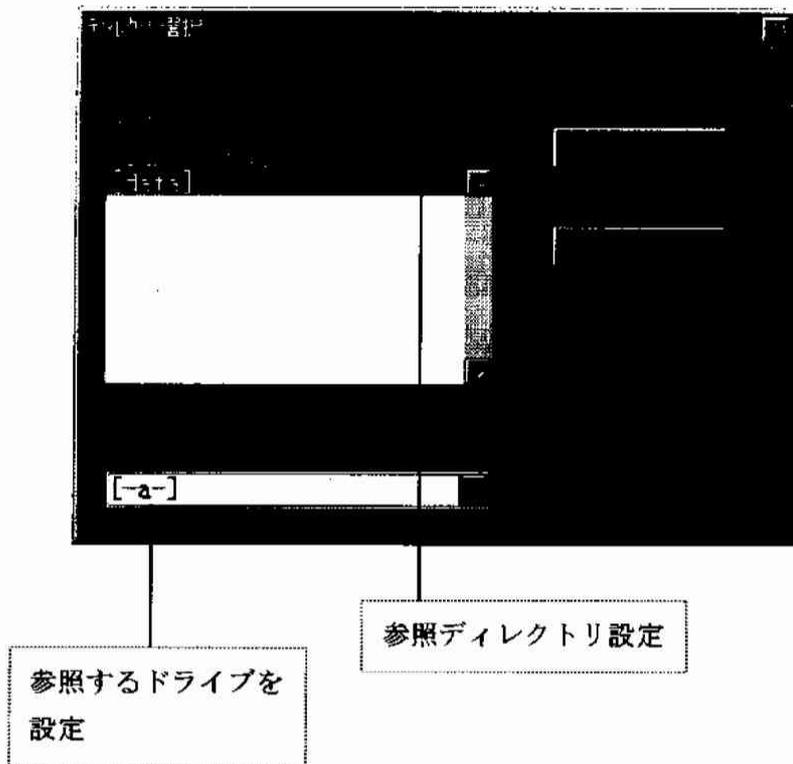


図6-15 参照環境の設定

2) マルチレコード表示

「表示モード」から「マルチレコードを表示する」をチェックするとマルチレコード調査内のレコードを表示させることができます。

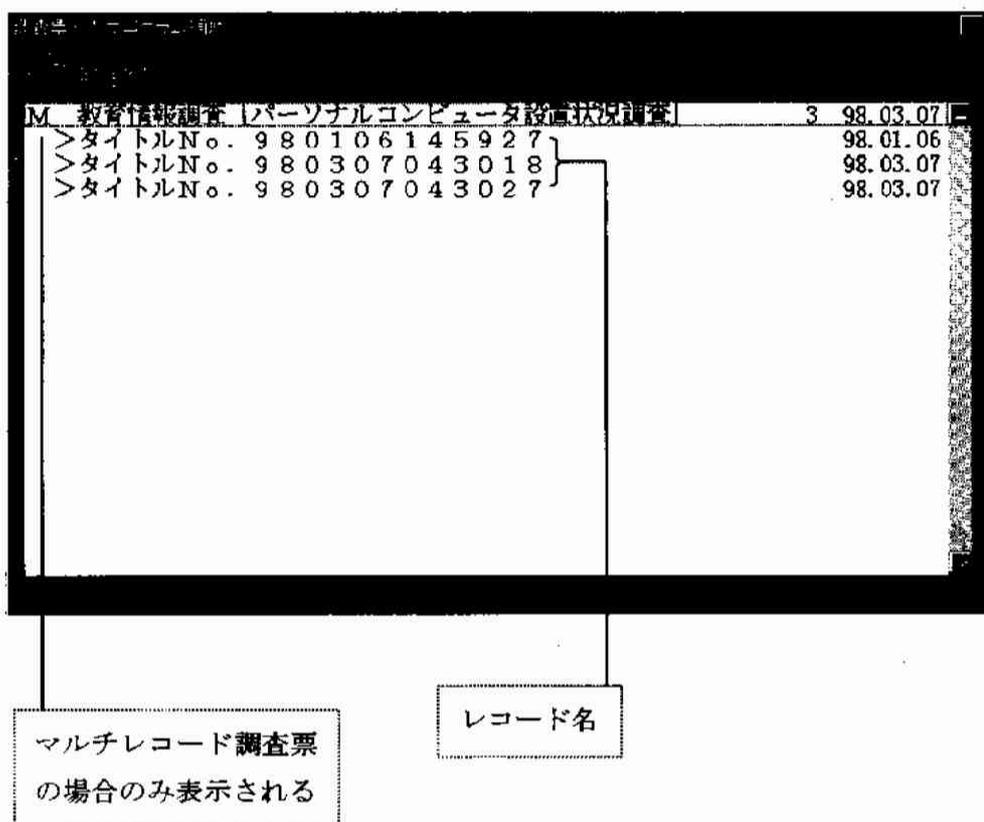


図6-16 マルチレコード表示

※マルチレコード調査票とは1つの調査票で複数の回答を要求する調査票を言います。

3) 調査票の複写

ここでは調査票入力データを実行環境からフロッピーディスクへ、またはフロッピーディスクから実行環境へ複写する場合の処理の仕方について説明します。

- ①複写したいレコードをクリックして選択します (選択行が反転します)。複数レコードを選択する場合には、順にクリックします。
- ②「複写」から「作成日確認」又は「無確認」をクリックし、複写先ディレクトリを設定します。

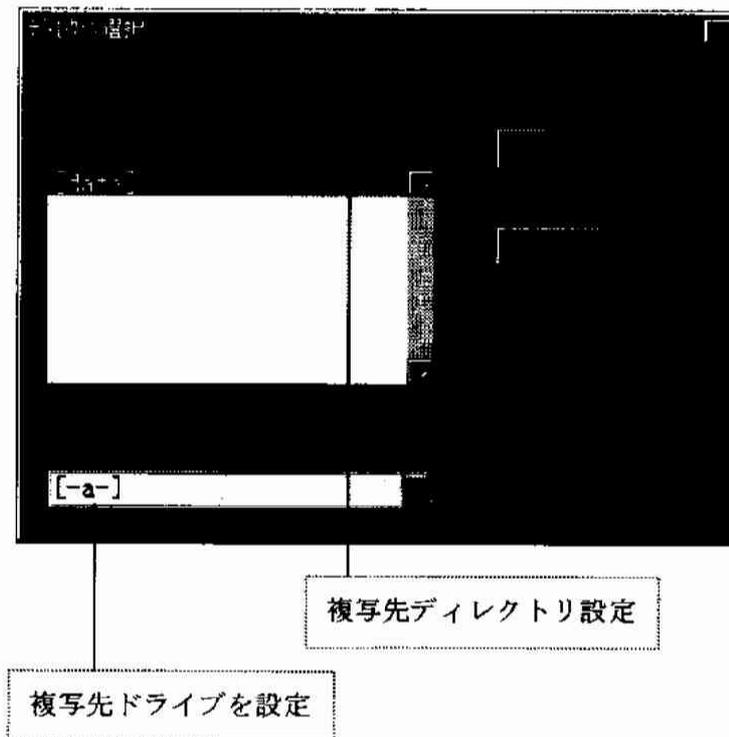


図6-17 複写先設定

※作業日確認を選択すると、複写する際に同じ作成日の調査票がある場合は複写を行いません。無確認の場合は作成日を問わず複写します。

4) 調査票の印刷

ここでは調査票レコードの入力内容を印刷する処理について説明します。

印刷するレコードを選択し、「ファイル」メニューから「印刷」をクリックすると選択されているレコードの内容を印刷します。

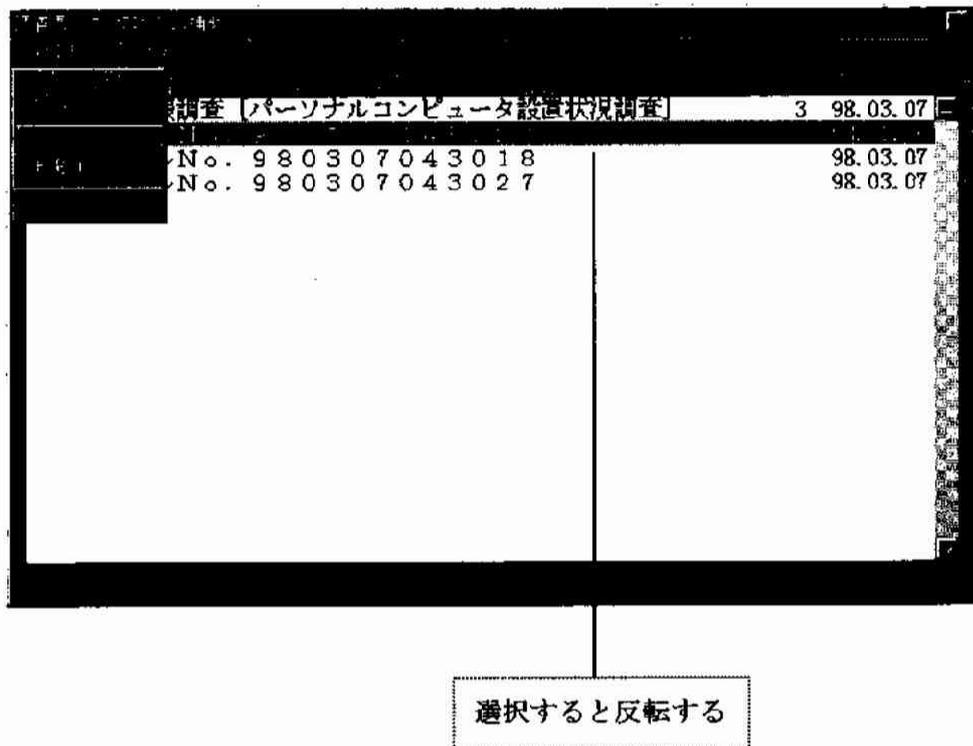


図6-18 調査票入力レコードの印刷

6.6 データ回収

ここでは調査票へ入力した回答データを回収する方法について説明します。

まずインストールしたフォルダ下の `Nierback.exe` を起動させます。回収ツールが起動したら、回収先のドライブを設定して「OK」を左クリックすると回収を開始します。

※回収先ドライブはフロッピードライブ固定です。

※「アンインストール」の口をチェックして回収すると実行環境が削除され、ハードディスクをインストール前の状態に復元します。

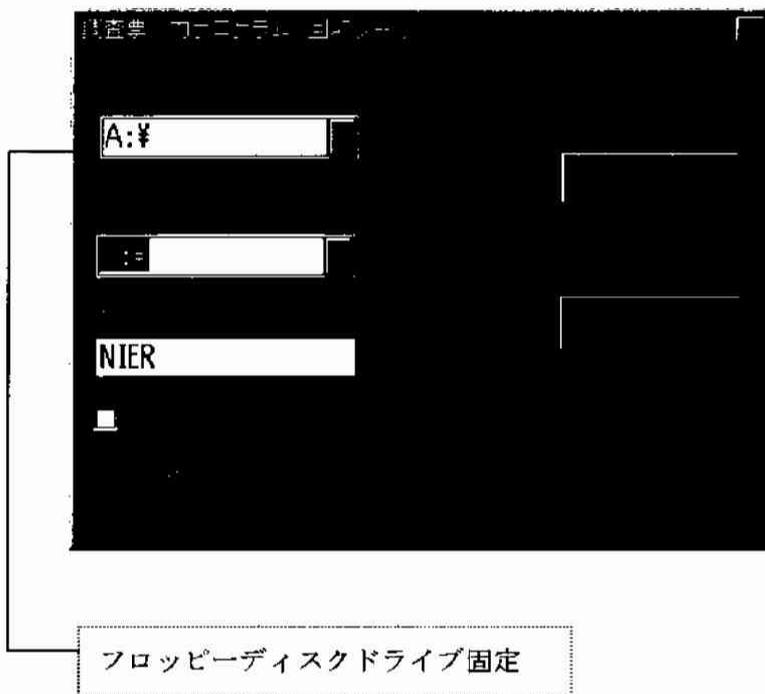


図6-19 回収先ドライブの設定

索引

<u>A</u>	AUTEXEC. BAT	P. 8
<u>C</u>	CTL	P. 25
<u>D</u>	DATE	P. 25
<u>K</u>	KNO	P. 25
	KNM	P. 25
<u>R</u>	P AMPATH	P. 8
<u>Y</u>	YOUGO	P. 26
<u>あ</u>	アンドウ	P. 114
<u>い</u>	インストール	P. 127, P. 159
	インストール作業	P. 126, P. 158
<u>か</u>	ガイダンス表示コマンド	P. 15
	環境ファイル	P. 25
	環境変数	P. 8, P24
	環境変数参照入力	P24
	管理ページ	P26
<u>き</u>	機関情報ファイル	P. 9, P. 68
	切り取り	P. 114

リ

項目定義コマンド	P. 11
項目識別子	P. 11
項目条件コマンド	P. 28
コピー	P. 114

ル

削除	P. 114
サブメニュー画面	P. 10
参照環境	P. 148, P. 170
参照キーワード	P. 26
参照ボタン	P. 163
参照ラベル	P. 103, P. 109

ル

実行用コントロールファイル	P. 54, P. 74
実行環境	P. 149
ショートカットキー文字	P. 11
処理スコープ	P. 12
シングルレコードタイプ	P. 19

ス

数値入力	P. 24
------------	-------

セ

セクションページ	P. 26
遷移キーワード	P. 26
遷移条件プロパティ	P. 92
選択肢表示領域定義コマンド	P. 23
選択条件ファイル	P. 25
選択条件リソース	P. 78, P. 96
選択条件リソース編集画面	P. 96

ソ

ソート	P. 142, P. 167
-----------	----------------

タ

タグインデックスファイル	P. 21
タグファイル	P. 19, P. 20

タグ番号	P. 20
タグ要素	P. 20
単一選択入力	P. 23

ち

調査票遷移アクションコマンド	P. 13
調査票入力画面	P. 10, P. 12, P. 86
調査票入力画面エディタ	P. 72
調査票入力画面エディタ用初期化ファイル	P. 63
調査票入力画面作成言語	P. 41
調査票入力画面終了アクションコマンド	P. 15
調査票入力画面の開始コマンド	P. 12
調査票入力画面の終了コマンド	P. 12
調査票入力画面リソース	P. 78, P. 86
調査票入力画面リソース編集画面	P. 86
調査票入力システムメニュー	P. 133
調査票入力プログラム作成支援システム	P. 2, P. 45, P. 60
調査票入力プログラム作成支援システム起動用バッチファイル	P. 45
調査票入力プログラム作成支援システムのショートカット	P. 63
調査票入力プログラム作成支援システム用初期化ファイル	P. 61
調査票レコード管理画面	P. 138, P. 166

て

データ格納アクションコマンド	P. 23
----------------------	-------

に

入力アクションコマンド	P. 22, P. 23
入力シミュレーション	P. 116
入力なし	P. 25
入力ボックス	P. 87

は

張り付け	P. 114
------------	--------

ふ

ファイル定義コマンド	P. 19
フォーム	P. 82, P. 87, P. 97

プロジェクト	P. 103, P. 109
プロパティ	P. 67, P. 78
複数選択入力	P. 82, P. 87, P. 97
部品	P. 103, P. 109
文章入力	P. 24

一

ページ	P. 13
ページスコープ	P. 13
ページの開始コマンド	P. 13
ページの終了コマンド	P. 13
ページ管理	P. 94, P. 106
	P. 112
ヘルプファイル	P. 39
ヘルプリソース	P. 78, P. 109
ヘルプリソース編集画面	P. 109

ほ

ボタン	P. 82, P. 87
補助ツール	P. 143, P. 168

ま

マスタコントロールファイル	P. 9, P. 10
マルチレコードタイプ	P. 19
マルチレコード調査票	P. 144, P. 171

め

メインメニュー画面	P. 10
メニュースコープ	P. 10
メニューリソース	P. 78, P. 81
メニューリソース編集画面	P. 81
メニュー画面	P. 10, P. 81
メニュー画面の開始コマンド	P. 10
メニュー画面の終了コマンド	P. 10
メニュー遷移アクションコマンド	P. 11

も

文字列入力	P. 24
-------------	-------

文字列表示コマンド	P. 14
<u>よ</u>	
用語辞書ファイル	P. 26
用語辞書リソース	P. 78, P. 102
用語辞書リソース編集画面	P. 102
用語辞書参照アクションコマンド	P. 26
予約セクション名	P. 40
<u>ら</u>	
ラベル	P. 82, P. 87
<u>り</u>	
リソース	P. 78
リソースコントローラ	P. 81, P. 86, P. 96 P. 102, P. 108
リドウ	P. 114
<u>れ</u>	
レコード識別番号	P. 21
レコード名	P. 21
レコード表示コマンド	P. 22
レコード番号参照	P. 25

索引

A

AUTEXEC. BAT P. 8

C

CTL P. 25

D

DATE P. 25

K

KNO P. 25

KNM P. 25

R

PAMPATH P. 8

Y

YOUGO P. 26

あ

アンドウ P. 114

い

インストール P. 127, P. 159

インストール作業 P. 126, P. 158

か

ガイダンス表示コマンド P. 15

環境ファイル P. 25

環境変数 P. 8, P24

環境変数参照入力 P24

管理ページ P26

き

機関情報ファイル P. 9, P. 68

切り取り P. 114

リ

項目定義コマンド	P. 11
項目識別子	P. 11
項目条件コマンド	P. 28
コピー	P. 114

さ

削除	P. 114
サブメニュー画面	P. 10
参照環境	P. 148, P. 170
参照キーワード	P. 26
参照ボタン	P. 163
参照ラベル	P. 103, P. 109

し

実行用コントロールファイル	P. 54, P. 74
実行環境	P. 149
ショートカットキー文字	P. 11
処理スコープ	P. 12
シングルレコードタイプ	P. 19

す

数値入力	P. 24
------------	-------

せ

セクションページ	P. 26
遷移キーワード	P. 26
遷移条件プロパティ	P. 92
選択肢表示領域定義コマンド	P. 23
選択条件ファイル	P. 25
選択条件リソース	P. 78, P. 96
選択条件リソース編集画面	P. 96

そ

ソート	P. 142, P. 167
-----------	----------------

た

タグインデックスファイル	P. 21
タグファイル	P. 19, P. 20

タグ番号	P. 20
タグ要素	P. 20
単一選択入力	P. 23
<u>ち</u>	
調査票遷移アクションコマンド	P. 13
調査票入力画面	P. 10, P. 12, P. 86
調査票入力画面エディタ	P. 72
調査票入力画面エディタ用初期化ファイル	P. 63
調査票入力画面作成言語	P. 41
調査票入力画面終了アクションコマンド	P. 15
調査票入力画面の開始コマンド	P. 12
調査票入力画面の終了コマンド	P. 12
調査票入力画面リソース	P. 78, P. 86
調査票入力画面リソース編集画面	P. 86
調査票入力システムメニュー	P. 133
調査票入力プログラム作成支援システム	P. 2, P. 45, P. 60
調査票入力プログラム作成支援システム起動用バッチファイル	P. 45
調査票入力プログラム作成支援システムのショートカット	P. 63
調査票入力プログラム作成支援システム用初期化ファイル	P. 61
調査票レコード管理画面	P. 138, P. 166
<u>て</u>	
データ格納アクションコマンド	P. 23
<u>に</u>	
入力アクションコマンド	P. 22, P. 23
入力シミュレーション	P. 116
入力なし	P. 25
入力ボックス	P. 87
<u>は</u>	
張り付け	P. 114
<u>ふ</u>	
ファイル定義コマンド	P. 19
フォーム	P. 82, P. 87, P. 97

プロジェクト	P. 103, P. 109
プロパティ	P. 67, P. 78
複数選択入力	P. 82, P. 87, P. 97
部品	P. 103, P. 109
文章入力	P. 24
文章入力	P. 114
文章入力	P. 24
こ	
ページ	P. 13
ページスコープ	P. 13
ページの開始コマンド	P. 13
ページの終了コマンド	P. 13
ページ管理	P. 94, P. 106
	P. 112
ヘルプファイル	P. 39
ヘルプリソース	P. 78, P. 109
ヘルプリソース編集画面	P. 109
こ	
ボタン	P. 82, P. 87
補助ツール	P. 143, P. 168
ま	
マスタコントロールファイル	P. 9, P. 10
マルチレコードタイプ	P. 19
マルチレコード調査票	P. 144, P. 171
め	
メインメニュー画面	P. 10
メニユースコープ	P. 10
メニューリソース	P. 78, P. 81
メニューリソース編集画面	P. 81
メニュー画面	P. 10, P. 81
メニュー画面の開始コマンド	P. 10
メニュー画面の終了コマンド	P. 10
メニュー遷移アクションコマンド	P. 11
も	
文字列入力	P. 24

文字列表示コマンド	P. 14
よ	
用語辞書ファイル	P. 26
用語辞書リソース	P. 78, P. 102
用語辞書リソース編集画面	P. 102
用語辞書参照アクションコマンド	P. 26
予約セクション名	P. 40
ら	
ラベル	P. 82, P. 87
り	
リソース	P. 78
リソースコントローラ	P. 81, P. 86, P. 96 P. 102, P. 108
リドウ	P. 114
れ	
レコード識別番号	P. 21
レコード名	P. 21
レコード表示コマンド	P. 22
レコード番号参照	P. 25